

世界が進むチカラになる。



不登校・いじめ対策等の効果的な活
用の推進に向けた調査研究
定量調査 分析結果 最終報告書

目次

1. 調査目的、分析方針の概要、調査上の留意点
2. リサーチクエスチョンについて得られた主な示唆
3. R4(2022)アウトカム間の関係（小学校/中学校）
4. R4(2022)アウトカム間の関係（教育委員会）
5. H30～R4(2018～2022)のアウトカムデータの推移の状況
6. 属性別のR4(2022)アウトカムの状況（小学校/中学校）
7. 属性別のR4(2022)アウトカムの状況（教育委員会）
8. R4(2022)の小学校・中学校・教育委員会の取組状況
9. R4(2022)取組項目同士の関係（小学校/中学校）
10. R4(2022)取組項目同士の関係（教育委員会）
11. H30～R4の推移グループ別に見たR4(2022)の取組とR4(2022)のアウトカムの状況
12. R4(2022)取組とR4(2022)アウトカムの関係（小学校/中学校）
13. R4(2022)取組とR4(2022)アウトカムの関係（教育委員会）

参考 1 : 分析に用いた変数一覧

参考 2 : 分析に用いた変数の基本統計量

1：調査目的、分析方針の概要、調査上の留意点

1. 調査の主な目的と副次的な目的

主に以下の4つの目的で調査研究を行う。1～3が定量分析に該当し、4については1～3の成果も踏まえて対応する。

	調査の主な目的	副の目的
1	各種統計データの属性情報ごとの、不登校の発生件数やいじめの認知件数について整理する	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（以下「問題行動等調査」と言う）のローデータと、各種文科省データを紐づける 問題行動等調査のローデータの活用可能性と活用上の留意点を把握する
2	全都道府県・市区町村教育委員会、2400校程度の学校の不登校・いじめ対策の取組状況（令和4年度時点）を把握する	－
3	2.の取組と、不登校の発生件数やいじめの認知件数との間の関係性を確認し、不登校・いじめ対策の取組と関係があると考えられうる取組を整理する	－
4	3.のうち、不登校の発生件数の抑制と関係のあると考えられうる取組の詳細について把握し、好事例を全国の教育委員会・学校に提供する（事例集、研修動画）	－

2. 調査の主な目的と定量分析におけるリサーチクエスチョン

取得可能なデータの活用可能性も踏まえ、相関やクロス分析とし、不登校を主な研究対象とする。
更にコロナ禍の時期も含めたパネルデータを作成し、上昇傾向に違いがあるか等も追加的に分析を行う。

	調査の主な目的	リサーチクエスチョン
1	各種統計データの属性情報ごとの、不登校の発生件数やいじめの認知件数について整理する	何らかの <u>静的リスクを抱える児童生徒の割合が多い地域や学校では、不登校の発生件数が高い</u> のではないかと 市区町村単位/学校単位で、 <u>経年の増減などの傾向には違いがある</u> のではないかと <u>いじめの認知件数と不登校の発生件数との間には関連が見られない</u> のではないかと
2	全都道府県・市区町村教育委員会、2400校程度の学校の不登校・いじめ対策の取組状況（令和4年度時点）を把握する	取組の申告データのうち、 <u>取組結果に教育委員会間/学校間で開きのある項目と、開きの少ない項目がある</u> のではないかと
3	2.の取組と、不登校の発生件数やいじめの認知件数との間の関係性を確認し、不登校・いじめ対策の取組と関係があると考えられうる取組を整理する	<u>不登校の発生件数と取組との間</u> には、教育委員会単位/学校単位の一部の取組（教育委員会間/学校間で開きのある取組項目）では <u>関連が見られる</u> のではないかと

3. 定量分析の全体像

教育委員会単位と学校単位それぞれについて、R4年度時点（分析時点で最新）とパネルデータを分析対象とする。属性項目は20項目程度、取組項目は100項目超程度について分析を行い、アウトカム項目間の関係性についても分析を行い、アウトカムと属性項目・アウトカムと取組項目との関係性や取組項目間の関係性を見た。

調査対象	対象年度	主なデータ	属性項目	アウトカム項目	教育委員会の取組項目	学校の取組項目
			勤務実態調査 学校基本調査 学力調査等	問題行動等調査	教育委員会向け新規アンケート調査 問題行動等調査	学校向け新規アンケート調査 問題行動等調査 勤務実態調査 学力調査

都道府県・市区町村教育委員会単位
(悉皆)

パネル (H30年度～R4年度)

単年度 (R4年度)

① 経年の推移からグルーピング

② 分類したグループごとのアウトカムと取組項目に関するクロス分析

③ 令和4年度のアウトカムの属性別の状況整理

③ R4年度のアウトカムと取組項目の相関分析

学校単位
(勤務実態調査対象校2400校)

パネル (H30年度～R4年度)

単年度 (R4年度)

① 経年の推移からグルーピング

② 分類したグループごとのアウトカムと取組項目に関するクロス分析

③ 令和4年度のアウトカムの属性別の状況整理

③ R4年度のアウトカムと取組項目の相関分析

4. リサーチクエスチョン別の分析内容

前ページの①～③の分析内容とリサーチクエスチョンの関係は以下のとおり。

	調査の主な目的	リサーチクエスチョン	前ページの分析内容と報告書中の該当する章
1	各種統計データの属性情報ごとの、不登校の発生件数やいじめの認知件数について整理する	何らかの <u>静的リスクを抱える児童生徒の割合が多い地域や学校では、不登校の発生件数が高い</u> のではないかと	第6、7章 ① 令和4年度のアウトカムの属性別の状況整理
		市区町村単位/学校単位で、 <u>経年の増減などの傾向には違いがある</u> のではないかと	第5章 ① 経年の推移からグループング (H30~R4)
		<u>いじめの認知件数と不登校の発生件数との間には関連が見られない</u> のではないかと	第4章
2	全都道府県・市区町村教育委員会、2400校程度の学校の不登校・いじめ対策の取組状況	取組の申告データのうち、 <u>取組結果に教育委員会間/学校間で開きのある項目と、開きの少ない項目がある</u> のではないかと	第8、9、10章
3	2.の取組と、不登校の発生件数や、いじめの認知件数との間の関係性を確認し、不登校・いじめ対策の取組と関係があると考えられる取組を整理する	<u>不登校の発生件数と取組との間</u> には、教育委員会単位/学校単位の一部の取組（教育委員会間/学校間で開きのある取組項目）では <u>関連が見られる</u> のではないかと	第11、12、13章 ② 分類したグループごとのアウトカムと取組項目に関するクロスセクション (H30~R4) ③ R4年度のアウトカムと取組項目の相関分析

5. 調査上の留意点

調査研究を実施するうえで、以下の制約条件・留意事項があった。

問題行動等調査及び全体について

- 分析時に活用できる最新の問題行動等調査データが令和4年度問題行動等調査であった。このためほかのデータについても令和4年度時点のものを基本とした。また、問題行動等調査のデータは平成30年度～令和4年度までの5年間の状況を確認できるようパネルデータを作成したが、この期間には新型コロナウイルス感染症拡大の影響のあった時期が含まれている点に留意が必要となる。

学校・教育委員会の新規アンケート調査について

- 問題行動等調査や、その他の文部科学省から貸与を受けた（※）データでは、不登校や、いじめに特化した取組状況に関する情報が不足していることから、後述のとおり全国の教育委員会（問題行動等調査の調査対象とする教育委員会と共通）と、2400校程度の小中学校にアンケート調査を実施した。（小中学校の抽出に当たっては、令和4年度文部科学省勤務実態調査の対象校（全国から確率比例抽出の方法で選定）とし、職員配置情報などは勤務実態調査の情報と接続した。）
- このアンケート調査は①令和4年度時点の情報をさかのぼった自記式の調査であること（調査時点は令和6年6月）、②調査設問数が65問程度に上ることから、解釈には留意が必要となる。

※下記の学力調査については規定に基づきCD-R媒体で貸与を受け、その他のデータはデータ送信により貸与を受けた。いずれのデータも覚書締結・誓約書等の承認後に提供を受け、業務期間終了後、削除。

全国学力・学習状況調査について

- 令和4年度全国学力・学習状況調査について、児童生徒データを学校単位のものとする等の処理を行ったうえで、分析対象とした。ただし、これらのデータはあくまで小学校では6年生、中学校では3年生のデータであり、実査当日に登校し調査を受けたもののみのデータとなっている点に留意が必要となる。

2 : リサーチクエストンについて得られた主な示唆

1. 調査目的1に関する主要な示唆

調査の主な目的	リサーチクエスト	不登校関連	いじめ関連	主要な示唆
1 各種統計データの属性情報ごとの、不登校の発生件数やいじめの認知件数について整理する	何らかの静的リスクを抱える児童生徒の割合が多い地域や学校では、不登校の発生件数が高いのではないか	<p>【学校】小学校・中学校共通で「生活保護」・「就学援助」の児童数と弱い正の相関や、「国語・算数（数学）の学力」と負の相関、「スクリーンタイム（テレビゲーム/SNS）」と正の相関がある。</p> <p>【教育委員会】特に長期欠席者数については「ひとり親家庭」と「外国人児童生徒数」との間に弱い正の相関がある（ただし「外国人児童生徒数」のデータに偏り（※177ページのとおり、中央値は0.0）がある点に留意が必要）</p>	<p>【学校】<u>小学校では相関がない。</u>中学校では、「児童生徒数」との間に弱い負の相関があり、「特別支援学級在籍者数」、「特別な支援が必要な児童生徒数」との間に弱い正の相関がある。（※児童生徒人数の少ない学校においていじめが発生している場合、1,000人当たり件数が大きくなるため、その影響があると考えられる）</p> <p>【教育委員会】（外国人児童生徒数は弱い正の相関があるが、左記のとおりデータに偏りがあり、相関に影響を与えているか）</p>	<p>不登校の発生する学校/地域について、「就学援助」や「ひとり親」など家庭に関する項目もあるが、学校では「スクリーンタイム」や「学力」についても正の相関があり、<u>学校単位での学習の理解度</u>など<u>学校が改善可能な要素</u>もあるか。</p> <p>いじめについては中学校のみが属性項目と弱い相関があり、解釈に難しさがあるか。</p> <p><詳細は6章、7章参照></p>
	市区町村単位/学校単位で、経年の増減などの傾向には違いがあるのではないか	【共通】変動パターンが多様にある中、「その他型」を除くと、「低発生持続型」が最も多い。「高発生移行型」、「高発生持続型」は、主に2020年度以降に急激に値が上昇する傾向にある。	【共通】不登校に比べると「低発生持続型」が最も多く、小学校や教育委員会は全体の半数程度になる。	<p><u>不登校の方が変動パターンは多様</u>でどの学校、教育委員会でも年度により発生多数/少数になる可能性。</p> <p>ただし高発生移行・持続などでは<u>コロナの影響への対応の難しさ</u>が考えられるか。</p> <p><詳細は5章参照></p>
	いじめの認知件数と不登校の発生件数との間には関連が見られないのではないか		アウトカム間の相関はなかった。 <u>いじめアウトカムとして、いじめの認知件数や解消件数を用いることの限界性</u> を示している可能性があるのではないか。（なお、いじめの重大事態件数は教育委員会単位でも0件が多く、統計的には扱にくい。）	<p><詳細は3章、4章参照></p>

2. 調査目的2に関する主要な示唆（学校・不登校）

	目的	リサーチクエスト	不登校関連	主要な発見
2	<p>全都道府県・市区町村教育委員会、2400校程度の学校の不登校・いじめ対策の取組状況（R4）を把握する</p>	<p>取組の申告データのうち、取組結果に教育委員会間/学校間で開きのある項目と、開きの少ない項目があるのではないか</p>	<p>【学校 取組状況】 「SC（スクールカウンセラー）の職務内容」や「SC、SSW（スクールソーシャルワーカー）の勤務年数」にはばらつきがあり、SSWは未配置が4割強となっている。「追加教員配置」や「研修状況」にはばらつきがあるが、研修の機会が全くないという状況は少ない。また「心の健康観察」や「校内教育支援センター」などは実施済み学校が限定的であった。＜詳細は8章参照＞</p> <p>【学校 取組間関連】 ▶SC,SSW関連 小中共通して、SCとSSWの「対応実績」は互いに一定程度関連している。（「会議の参加状況」も同様で、SCが会議に参加している学校では、SSWも会議に参加している。）また小中共通して、「SCの配置人数」の多い学校は「通級指導」、「学習指導員」含めた発達に応じた特別な支援への取組も合わせて整っている可能性がある。 また、「SCの職務内容の多様さ」が、小学校では、いじめ防止や対応に関わる関係者の多様さの間に関連が見られ、中学校では「不登校の連携機関」だけでなく、「いじめアンケートの活用」など、いじめに関する項目とも関連していることがうかがえた。</p> <p>▶その他の取組 「心の健康観察」と「チームティーチング等の個に応じた教育」との間に正の相関があった。この「個に応じた教育」は「不登校の連携機関」や「オンライン配信の実施」等とも正の相関があり、重要な要素の一つと考えられる。 このほか、「校則見直し検討の取組内容」（児童生徒・保護者の意見を聞くなどの取組の合計）は小中共通して、「（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）」や「生徒指導部会の開催頻度」、「個に応じた教育」等、様々な取組と関連があった。 「オンライン配信の実施」や「フリースクールの出席扱い」は互いに相関しており、学校現地での授業以外での学習機会確保に積極的な学校群があると考えられる。 「通級指導の担当人数」は、「SCの配置人数」や「不登校の連携機関」などと正の相関があり、不登校支援において、「通級指導の担当人数」がポイントになる可能性がある。 ＜詳細は9章参照＞</p>	<p>（次ページでまとめて掲載）</p>

2. 調査目的2に関する主要な示唆（学校・いじめ＆不登校）

	目的	リサーチエスチョン	いじめ関連	不登校・いじめの主要な発見
2	<p>全都道府県・市区町村教育委員会、2400校程度の学校の不登校・いじめ対策の取組状況（R4）を把握する</p>	<p>取組の申告データのうち、取組結果に教育委員会間/学校間で開きのある項目と、開きの少ない項目があるのではないか</p>	<p>【学校 取組状況】「いじめ防止対策組織の参加者」について、小学校では「SC/SSWの関与」が中学校に比べて少ない。「<u>重大事態の対応フロー</u>」は9割以上が策定されている。<詳細は8章参照></p> <p>【学校 取組間相関】<u>「いじめアンケートの活用」</u>が多様な学校は小中共通して、「<u>ケース会議の参加教職員</u>」も多様である。また、中学校で「いじめアンケートの活用」が「心の健康観察で児童生徒が利用した機能」との間にも弱い正の相関が見られ、<u>いじめ・不登校ともに早期発見に取り組まれている学校群</u>がある可能性がうかがえる。</p> <p><u>「いじめ防止対策組織の開催頻度」</u>は小学校では「（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）」や「生徒指導部会の開催頻度」、「不登校の支援シート」とも関わっている。また、中学校では「個に応じた教育」や「主権者教育」など<u>全ての児童生徒向けの教育活動</u>を行っていると考えられる。<詳細は9章参照></p>	<p>学校単位では、「いじめアンケート」や「いじめ防止対策組織」を行うことが他の不登校関連の取組とも関連しているなど、<u>いじめ・不登校ともに取組がされている学校群</u>があると考えられる。</p> <p>また、小中共通して、「SCの配置人数」の多い学校は通級、学習指導員含めた発達に応じた<u>特別な支援への取組も合わせて整っている</u>可能性があり、「通級指導の担当人数」も不登校の取組と相関していた重要なポイントと考えられる。</p> <p>新規の取組である「心の健康観察」と「個に応じた教育」など、<u>早期発見対応と通常の教育活動にも関係がある様子</u>が一部でうかがえる。</p> <p>ほかにも「<u>校則見直し検討の取り組み内容</u>」や「<u>個に応じた教育</u>」など、全ての児童生徒向けの教育活動についても、不登校やいじめの取組と関連していることが確認できた。<詳細は9章参照></p>

2. 調査目的2に関する主要な示唆（教育委員会）

	目的	リサーチクエス ション	不登校関連	いじめ関連	主要な発見
2	全都道府県・市区町村教育委員会、2400校程度の学校の不登校・いじめ対策の取組状況（R4）を把握する	取組の申告データのうち、取組結果に教育委員会間/学校間で開きのある項目と、開きの少ない項目があるのではないか	<p>【教育委員会 取組状況】 「SV（スーパーバイザー）配置」は限定的。 <u>「研修実施状況」や「教育支援センターの取組内容」、「日本語指導の取組状況」にはばらつきがあった。</u>一方、「関係機関連携」はほとんどの教育委員会が実施。 <詳細は8章参照></p> <p>【教育委員会 取組間関連】 <u>「SV配置」は「不登校に特化した研修」など多くの取組項目と正の相関が見られた。</u>また<u>「不登校研修の実施」</u>は「不登校児童生徒の状況の把握」などの教育支援センターに関する取組、「校区内での学校間連携」などの取組で関連性が見られた。 <詳細は10章参照></p>	<p>【教育委員会 取組間関連】 <u>「いじめ研修の実施」</u>は「不登校児童生徒の状況の把握」などの教育支援センターに関する取組、「校区内での学校間連携」などの取組で関連性が見られた。 <詳細は10章参照></p>	<p>教育委員会については、「SV配置」や「研修実施状況」など取組状況にばらつきがあった項目について、<u>他の不登校の取組と関連性</u>があった。<u>対応が必要な教育委員会ほど、「SV配置」や「研修」を行っている</u>とも考えられるか。 <詳細は10章参照></p>

3. 調査目的 3 に関する主要な示唆（いじめ部分）

	調査の主な目的	いじめ関連	主要な発見
3	<p>2.の取組と、不登校の発生件数やいじめの認知件数との間の関係性を確認し、不登校・いじめ対策の取組と関係があると考えられうる取組を整理する</p>	<p>【R4学校】「いじめの認知件数」については、小中ともに「<u>特別な対応の件数</u>」との間と、「<u>暴力行為の件数</u>」との間以外ではアウトカムと取組の間では関係性が見えない。なお、中学校では有意な相関ではないが、「SCが配置」されるほど、「認知件数」が低くなっているが、他の支援スタッフには逆の傾向のものもあり、「<u>配置される職員種別によって「認知件数」との関係は異なるか</u>」。<詳細は12章参照></p> <p>【R4教育委員会】 <u>いずれも相関無し</u>。<詳細は13章参照></p> <p>【パネル学校】 「低発生持続型」の学校群では、小学校では「<u>習熟度別学習</u>」について「いじめ認知件数」の低さとわずかに関わりがあり、中学校ではわずかだが「教職員等とのコミュニケーション環境構築」などの取組がいじめ認知件数の低さと関わりがある。<詳細は11章参照></p> <p>【パネル教育委員会】 いじめの認知件数の高さを踏まえ、「教育支援センターの取組」や、「SV等の専門職の配置等の体制整備」が進められている可能性が示唆される。<詳細は11章参照></p>	<p>単年度の学校/教育委員会の結果からは、いじめの<u>アウトカムとして「認知件数」を用いることについて適切ではない可能性があり</u>、かつ政策との関係でも<u>評価が難しい</u>と考えられる。</p> <p>パネルデータで見ると、「低発生持続型」の学校群ではわずかに「認知件数」の少なさにつながっている可能性のある項目もあるが、教育委員会の結果も踏まえれば、「<u>認知件数</u>」の高さを踏まえた<u>対応が取られているとも解釈</u>できるか。</p>

3. 調査目的3に関する主要な示唆（不登校部分・学校）

	目的	リサーチクエスト	不登校関連	主要な発見
3	<p>2.の取組と、不登校の発生件数やいじめの認知件数との間の関係性を確認し、不登校・いじめ対策の取組と関係があると考えられうる取組を整理する</p>	<p>不登校の発生件数と取組との間には、教育委員会単位/学校単位の一部の取組（教育委員会間/学校間で開きのある取組項目）では関連が見られるのではないか</p>	<p>【R4学校】小学校のみ「<u>PTA活動の盛んさ</u>」と「<u>長期欠席者数</u>」は負の相関がある。職員配置に関し小学校では「<u>日本語支援員の合計勤務時間</u>」、中学校では「<u>児童生徒支援専任教員の人数</u>」と、「<u>長期欠席者数</u>」は弱い正の相関がある。また小学校では「<u>不登校児童生徒数</u>」と、「<u>不登校の連携機関（こども家庭センターや医療機関、フリースクール等の合計点）</u>」との間に弱い正の相関があり、中学校では「<u>暴力行為の件数</u>」との間に弱い正の相関があった。「<u>不登校新規発生数</u>」については小中ともに相関のある項目はなかった。なお、<u>有意な相関までではないが「主体的・対話的で深い学びの取組」を実施している学校</u>ほど、小学校では「<u>不登校児童生徒数</u>」がやや低い関係が、中学校では「<u>不登校の新規発生数</u>」や「<u>不登校児童生徒数</u>」がやや低い関係が若干見られた。<詳細は12章参照></p> <p>【パネル学校】 小学校では、「<u>低発生持続型／移行型</u>」において「<u>ケース会議における学年の担当教員との連携による支援体制</u>」が、中学校の「<u>高発生持続／移行型</u>」では「<u>心の健康観察</u>」による不登校の予兆発見が、不登校を抑制することにつながる可能性が示唆される。他方、「<u>高発生持続型</u>」の学校群では<u>長期欠席者数の急激な増加に応じた体制強化が課題</u>となっている可能性もうかがえた。<詳細は11章参照></p>	<p>学校単位で見ると、小学校では「<u>PTA活動の盛んさ</u>」は不登校への抑制があるとも考えられるが、中学校ではその傾向は確認できていない。<u>むしろ職員配置が多いほど「長期欠席者数」が多いなど、不登校等の状況に応じた対応が取られている</u>と解釈できるか。</p> <p>また、パネルデータの状況を見ると、「<u>低発生持続型／移行型</u>」では<u>不登校の状況に応じた「ケース会議の支援体制」や「心の健康観察」などの対応が行われており、その対応が間に合っていない群では高発生持続になっている</u>とも考えられる。この解釈が支持される場合、高発生移行・持続型への重点的な予算・人員の支援の必要性がうかがえるか。</p>

3. 調査目的3に関する主要な示唆（不登校部分・教育委員会）

	目的	リサーチエスチョン	不登校関連	主要な発見
3	2.の取組と、不登校の発生件数や、いじめの認知件数との間の関係性を確認し、不登校・いじめ対策の取組と関係があると考えられる取組を整理する	不登校の発生件数と取組との間には、教育委員会単位/学校単位の一部の取組（教育委員会間/学校間で開きのある取組項目）では関連が見られるのではないか	<p>【R4教育委員会】 「長期欠席者数」と「<u>SVの配置</u>」や「<u>日本語指導取組</u>」との間に<u>弱い正の相関</u>がある。また、「不登校児童生徒数」については「教育支援センターの設置数」との間に弱い正の相関がある。なお、「不登校新規発生数」は相関のある項目はなかった。 <詳細は13章参照></p> <p>【パネル教育委員会】 「長期欠席者数」、「不登校者数」、「不登校新規発生数」が継続的に少ない群において、それらの発生状況に応じて「教育支援センター」、「SV等の専門職の配置」、「学区内連携」が実施されていると考えられる。<詳細は11章参照></p>	<p>教育委員会単位では、<u>負の相関が見られた項目はなく</u>、「SVの配置」など<u>長期欠席者数が多い教育委員会では積極的に配置が行われている</u>と解釈することが妥当と考えられる。</p> <p>【以下前ページと再掲】 また、パネルデータの状況を見ると、「<u>低発生持続型/移行型</u>」では不登校の状況に応じた「<u>ケース会議の支援体制</u>」や「<u>心の健康観察</u>」などの対応が行われており、その<u>対応が間に合っていない群では高発生持続になっている</u>とも考えられる。</p>

3 : R4 (2022) アウトカム間の関係 (小学校/中学校)

結果のまとめ

■ ヒストグラムの分布

- **特徴のある分布をしている項目**：いじめの解消割合、不登校の新規発生率
 - いじめの解消割合は100%となっている学校が多数を占めており、他の項目との関連が見えづらい。
 - 不登校の新規発生率は100%となっている学校が、2～3割程度存在しており、R4（2022）年に1人不登校が新たに発生した（R3（2021）年に0人）ケースが非常に多く、不登校者数が少ない学校については、新規発生率は学校のアウトカムとして適切ではない可能性が示唆される。
- **分布が0に偏っている項目**：いじめの重大事態発生件数、不登校児童生徒数のうち出席日数が0日
 - サンプルの過半数が0となっている変数については統計的に扱うのが難しい。

■ 相関分析の結果

- **アウトカム間の関係**
 - いじめと不登校のアウトカムには同類型の変数（いじめに関する変数同士、不登校に関する変数同士）間で一定以上の相関が見られるが、いじめと不登校間では顕著な関連性が見られない。

※なお、いじめの重大事態発生件数は、どのアウトカムとも相関が見られない。

⇒ 以後の分析では、主要な4アウトカム（いじめの認知件数、長期欠席者数、不登校児童生徒数、不登校の新規発生数）に焦点を当て、分析結果を記載している。

分析方法

■ ヒストグラム

- 各アウトカムの分布を確認するため、ヒストグラムを作成した。

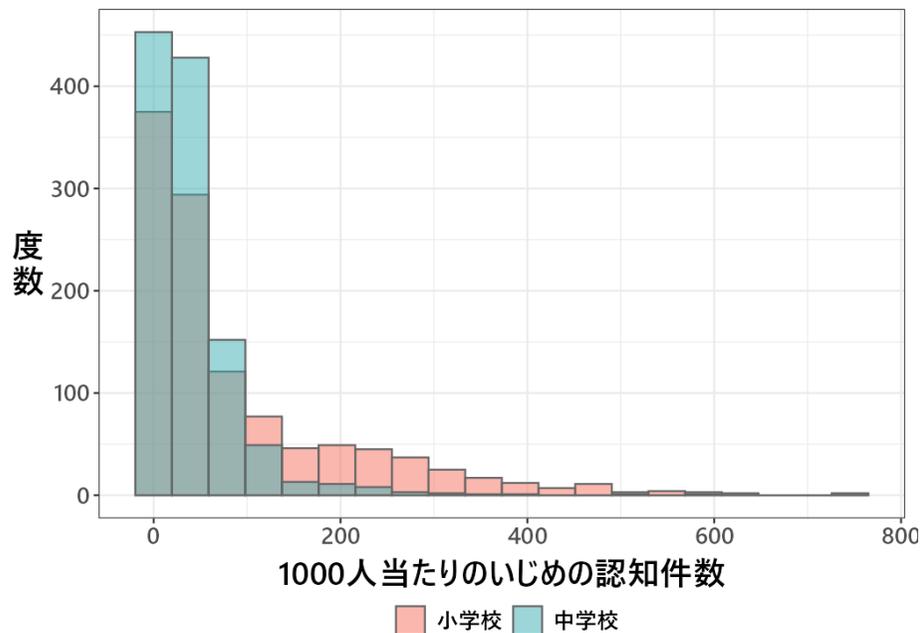
■ 相関分析

- アウトカム間での関連を確認するため、相関分析を実施した。
- 相関係数の算出に当たっては、積率相関（ペアワイズ法）を用いている。
- 主な対象は間隔尺度、比率尺度だが、順序尺度についても一部全体の傾向を見るために相関係数を便宜的に算出している。
- 以降の相関分析においても、同様の算出方法を用いている。
- ピアソンの積率相関係数が有意である場合（*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ ）、以下のように着色している。
 - 0.4以上 濃い赤
 - 0.2以上 中程度の赤
 - 0.2未満 薄いピンク
 - -0.4以上 濃い青
 - -0.2以上 中程度の青
 - -0.2未満 薄い水色
- ※相関係数の小数点第三位以下を四捨五入している都合上、実際の相関係数と表示されている相関係数は完全に一致しないため、表示上の数値と着色の範囲がずれている場合がある。

主要なアウトカムの一覧①

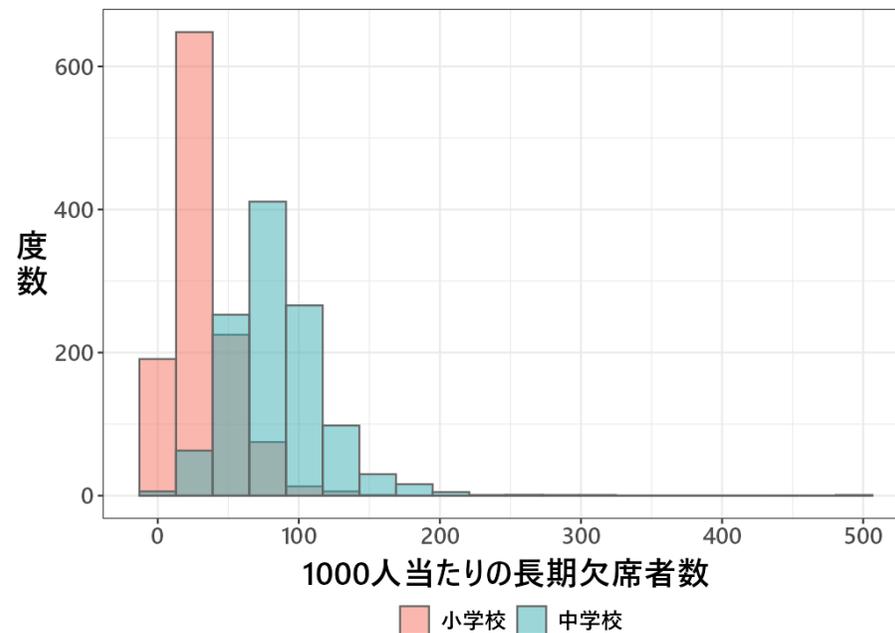
図表3-1

1000人当たりのいじめの認知件数



図表3-2

1000人当たりの長期欠席者数

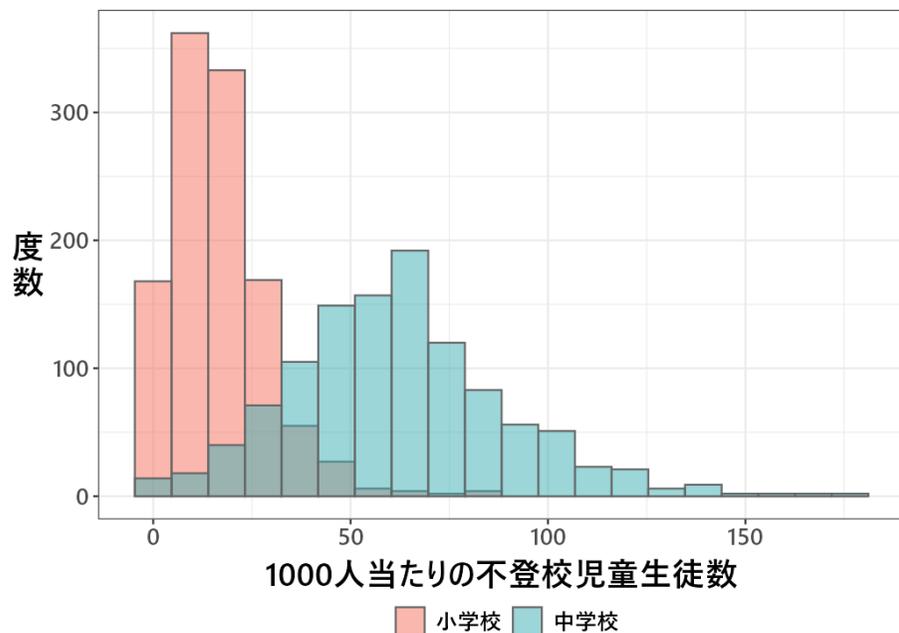


- いじめの認知件数は小学校で中学校に比べて高い傾向にあり、100件以上の割合が中学校より高くなっている。
- 長期欠席者数は小学校と中学校で分布が異なっており、小学校（31.57）と比べて中学校（84.43）で中央値が高くなっている。

主要なアウトカムของฮิสโตแกรม②

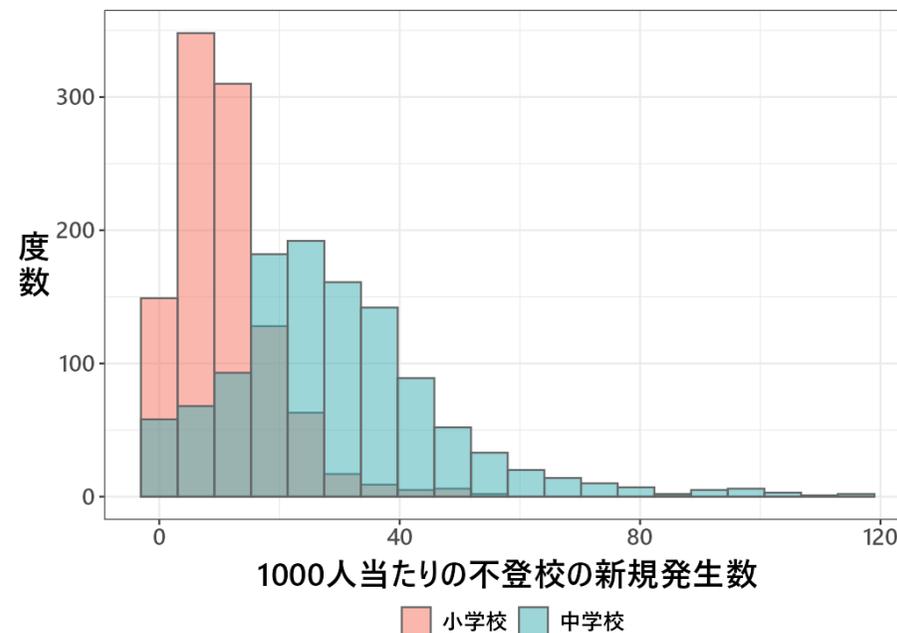
図表3-3

1000人当たりの不登校児童生徒数



図表3-4

1000人当たりの不登校の新規発生数

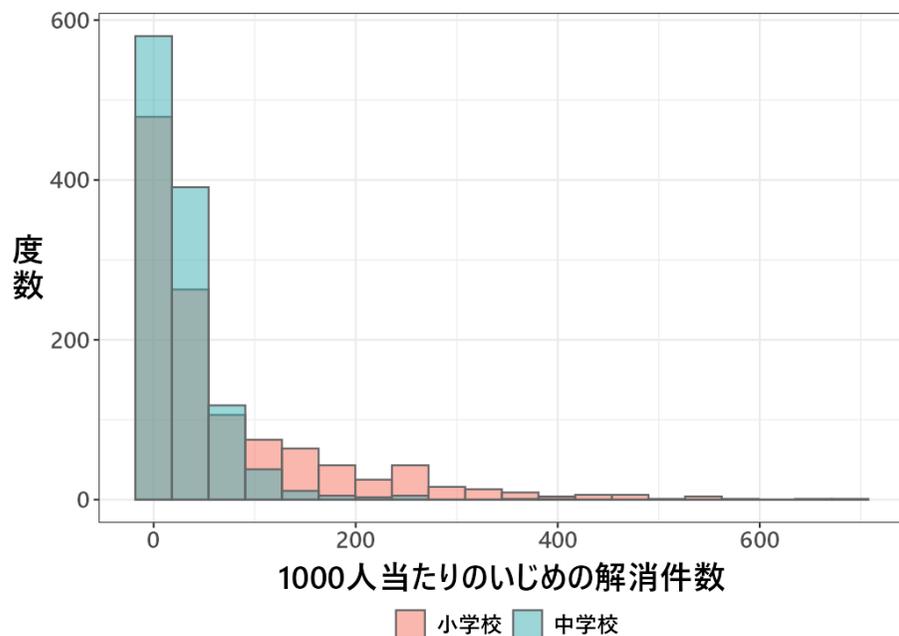


- 不登校児童生徒数は小学校と中学校で大きく分布が異なっており、小学校では中央値が20人以下であるのに対し、中学校では中央値が50人以上となっている。
- 不登校の新規発生数は不登校児童生徒数と同様、中学校で小学校と比べて高い傾向にある。

その他のアウトカムのヒストグラム①

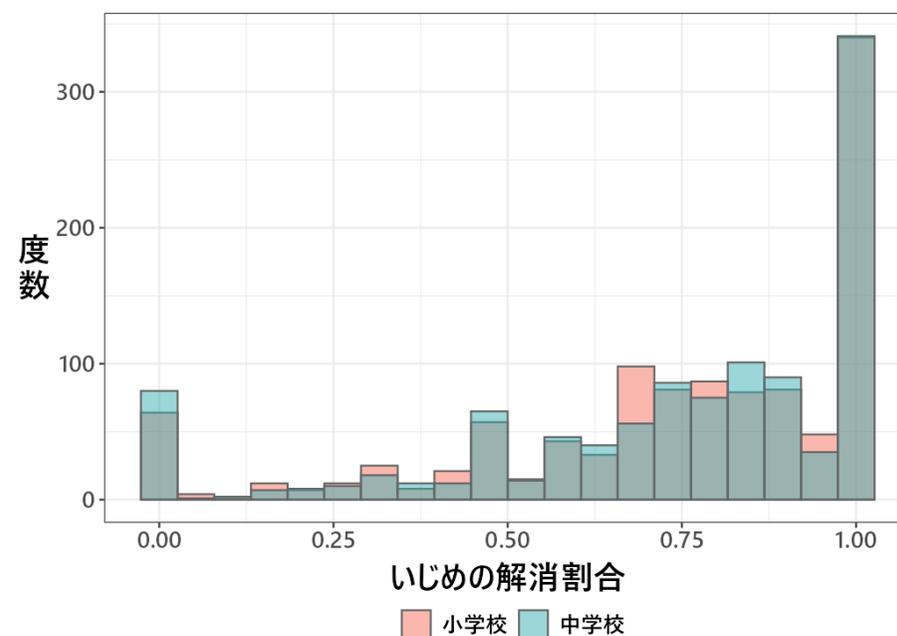
図表3-5

1000人当たりのいじめの解消件数



図表3-6

いじめの解消割合

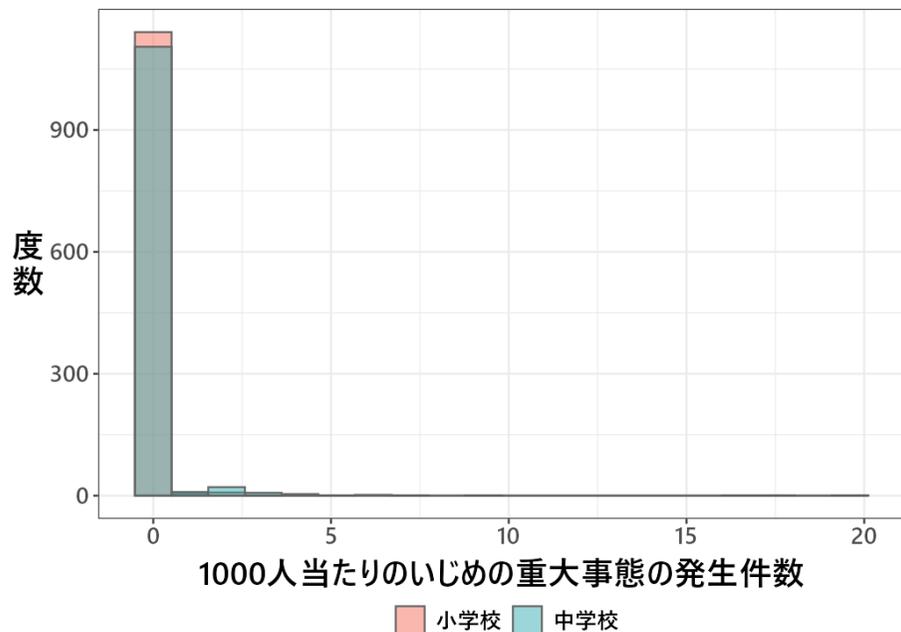


- いじめの解消件数は、いじめの認知件数とほぼ同様の分布になっており、小学校で中学校に比べて高い傾向にある。
- いじめの認知件数と、いじめの解消件数が近い値になっている学校が多いため、いじめの解消割合は1となっている学校が多数となっている。

その他のアウトカムของฮิสโตแกรม②

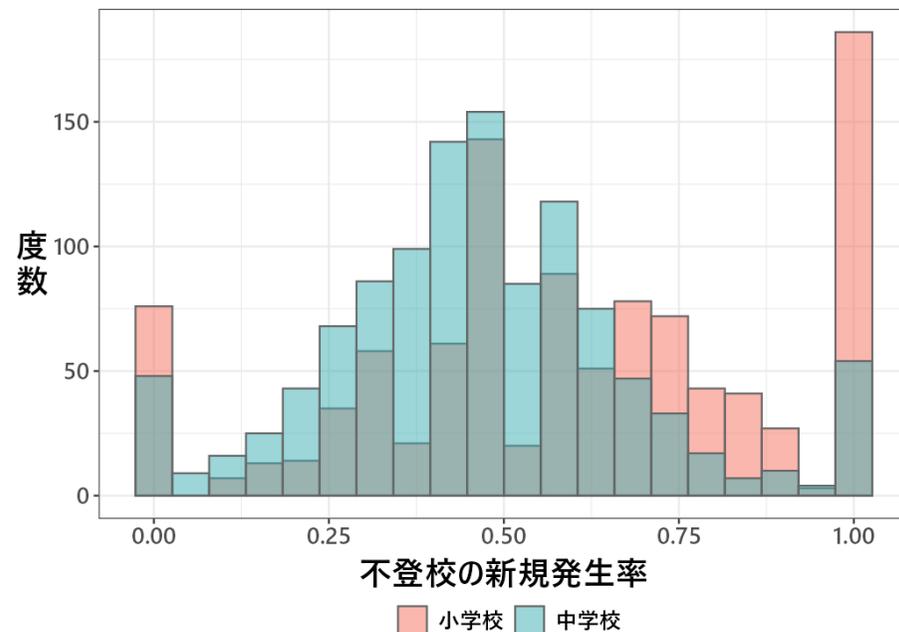
図表3-7

1000人当たりのいじめの重大事態の発生件数



図表3-8

不登校の新規発生率

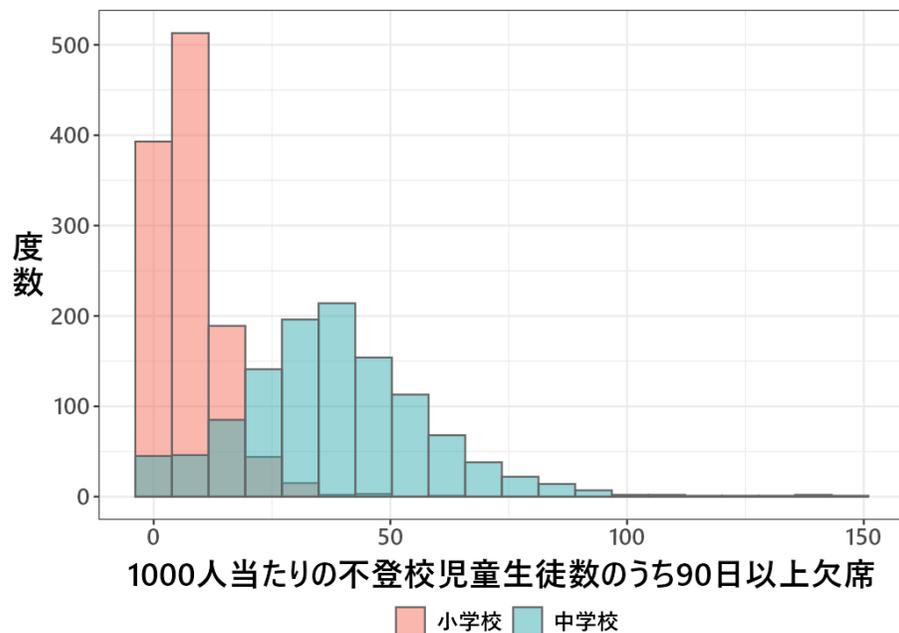


- いじめの重大事態の発生件数は、ほとんどの学校で0件となっており、重大事態が発生した学校は100校を下回っている。
- 不登校の新規発生率は、特に小学校で、2021年の不登校人数が少なく、2022年に新たに不登校が発生しているケースが多いため、1を記録している学校が多くなっている。

その他のアウトカムのヒストグラム③

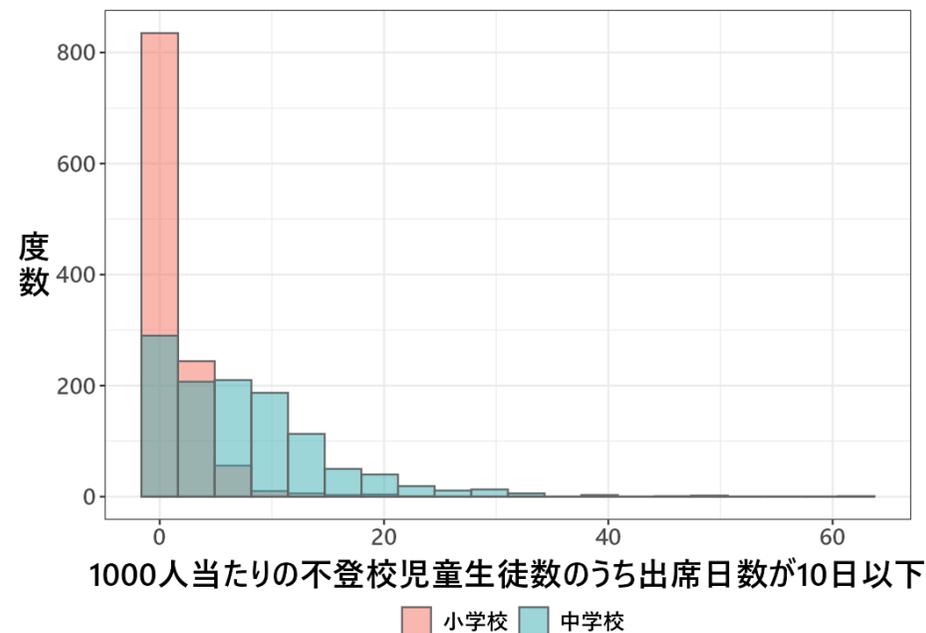
図表3-9

1000人当たりの不登校児童生徒数のうち90日以上欠席



図表3-10

1000人当たりの不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下

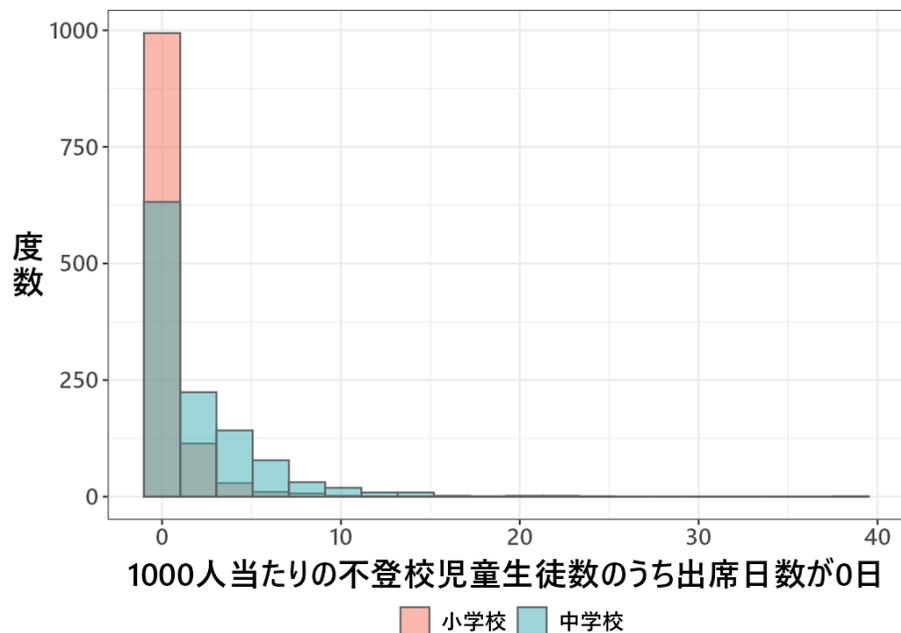


- 90日以上欠席は小学校と中学校で大きく分布が異なっており、中学校で小学校に比べて高い傾向にある。
- 出席日数が10日以下は、小学校では大多数が0であるのに対し、中学校では過半数が1人以上となっている。

その他のアウトカムのヒストグラム④

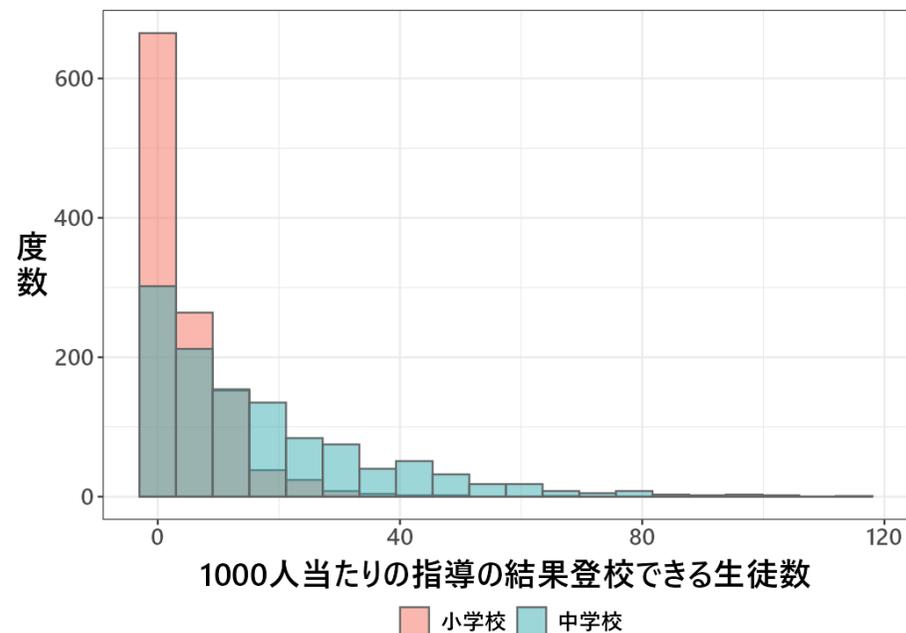
図表3-11

1000人当たりの不登校児童生徒数のうち出席日数が0日



図表3-12

1000人当たりの指導の結果登校できる生徒数



- 出席日数が0日は、小学校・中学校ともに過半数が0となっているが、中学校では、3割以上が1人以上となっている。
- 指導の結果登校できる生徒数は、中学校が小学校と比べて高い傾向にある。(ただし、不登校の発生件数も前述のとおり中学校が小学校と比べて高い傾向にある。)

相関分析（小学校・アウトカム）

- いじめのアウトカム同士、不登校のアウトカム同士で相関が見られるが、いじめと不登校のアウトカム間では相関が見られない。
- 不登校の新規発生率と、90日以上欠席、出席日数が10日以下・0日の間に負の弱い相関が見られているが、新規発生率は、不登校の件数が2022年以前に少ない学校において高くなる傾向があり、そのことを示していると考えられる。
- いじめの重大事態の発生件数についてはどのアウトカムとも相関がなく、重大事態が発生する学校が限られていることが影響していると考えられる。
- いじめの認知件数といじめの解消割合の間に弱い相関が見られており、中学校とは異なる。

図表3-13 アウトカム間の相関表 (小学校)	★いじめの 認知件数	★いじめの 解消件数	いじめの解 消割合	★いじめの 重大事態の 発生件数	★長期欠 席者数	★不登校 児童生徒 数	不登校の新 規発生率	★不登校の 新規発生 数	★不登校 児童生徒 数のうち90 日以上欠 席	★不登校 児童生徒 数のうち出 席日数が 10日以下	★不登校 児童生徒 数のうち出 席日数が0 日	★指導の結 果登校でき る生徒数
★いじめの認知件数	1.0											
★いじめの解消件数	.97 ***	1.0										
いじめの解消割合	.13 ***	.26 ***	1.0									
★いじめの重大事態の発生件数	.02	.02	-.02	1.0								
★長期欠席者数	.07	.05	-.04	.03	1.0							
★不登校児童生徒数	.0	-.02	-.05	.02	.54 ***	1.0						
不登校の新規発生率	.03	.01	-.02	-.04	.0	.0	1.0					
★不登校の新規発生数	.04	.01	-.07	-.04	.40 ***	.80 ***	.49 ***	1.0				
★不登校児童生徒数のうち90日以上欠席	-.01	-.02	.02	.06	.42 ***	.71 ***	-.24 ***	.32 ***	1.0			
★不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下	-.03	-.03	.03	-.01	.20 ***	.36 ***	-.19 ***	.08	.53 ***	1.0		
★不登校児童生徒数のうち出席日数が0日	-.01	-.03	-.02	-.02	.16 ***	.23 ***	-.13 ***	.07	.33 ***	.59 ***	1.0	
★指導の結果登校できる生徒数	.01	.01	-.04	-.02	.30 ***	.50 ***	.06	.39 ***	.27 ***	.02	.0	1.0

相関分析（中学校・アウトカム）

■ 小学校とほぼ同様の結果であるが、中学校では、いじめの解消件数と長期欠席者数の間で、ごくわずかに正の相関が見られている。

図表3-14 アウトカム間の相関表 (中学校)	★いじめの 認知件数	★いじめの 解消件数	いじめの解 消割合	★いじめの 重大事態の 発生件数	★長期欠 席者数	★不登校 児童生徒 数	不登校の新 規発生率	★不登校の 新規発生 数	★不登校 児童生徒 数のうち90 日以上欠 席	★不登校 児童生徒 数のうち出 席日数が 10日以下	★不登校 児童生徒 数のうち出 席日数が0 日	★指導の結 果登校でき る生徒数
★いじめの認知件数	1.0											
★いじめの解消件数	.91 ***	1.0										
いじめの解消割合	.01	.25 ***	1.0									
★いじめの重大事態の発生件数	.02	.0	-.05	1.0								
★長期欠席者数	.09	.10 *	.02	.01	1.0							
★不登校児童生徒数	.02	.0	-.01	.02	.68 ***	1.0						
不登校の新規発生率	.01	.01	-.03	.02	-.04	-.04	1.0					
★不登校の新規発生数	.02	.01	-.02	.04	.41 ***	.65 ***	.64 ***	1.0				
★不登校児童生徒数のうち90日以上欠席	.0	.0	.01	.0	.61 ***	.82 ***	-.20 ***	.40 ***	1.0			
★不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下	-.03	-.04	-.02	.03	.29 ***	.36 ***	-.16 ***	.14 ***	.49 ***	1.0		
★不登校児童生徒数のうち出席日数が0日	-.04	-.02	.06	.04	.19 ***	.27 ***	-.13 ***	.08	.33 ***	.60 ***	1.0	
★指導の結果登校できる生徒数	.02	.01	-.02	-.01	.23 ***	.39 ***	-.06	.21 ***	.26 ***	-.01	.01	1.0

4 : R4(2022)アウトカム間の関係 (教育委員会)

結果のまとめ：教育委員会

■ ヒストグラムの分布

- **特徴のある分布をしている項目**：いじめの解消割合
 - いじめの解消割合は75%以上の教育委員会が多数を占めており、他の項目との関連が見えづらい。
- **分布が0に偏っている項目**：いじめの重大事態発生件数、不登校児童生徒数のうち出席日数が0日
 - サンプルの過半数が0となっている変数については統計的に扱うのが難しい。

■ 相関分析の結果

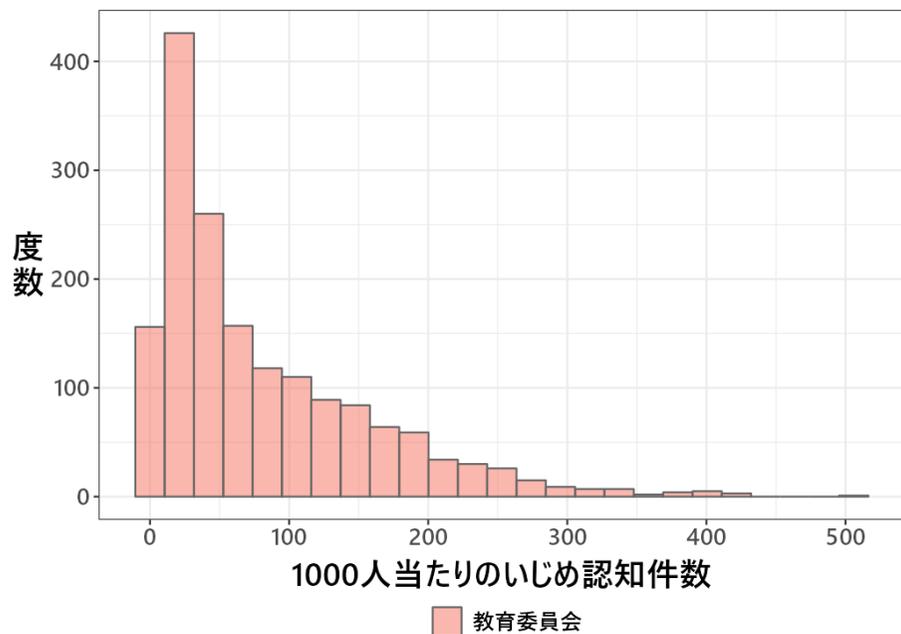
- **アウトカム間の関係**
 - いじめと不登校のアウトカムには同類型の変数（いじめに関する変数同士、不登校に関する変数同士）間で一定以上の相関が見られるが、いじめと不登校間では顕著な関連性が見られない。
- ⇒ 以後の分析では、主要な4アウトカム（いじめの認知件数、長期欠席者数、不登校児童生徒数、不登校の新規発生数）のみを結果として記載している。

※分析（ヒストグラム・相関分析）は、小学校・中学校データの分析と同様の手順で算出した。

主要なアウトカムของฮิสโตแกรม① (教育委員会)

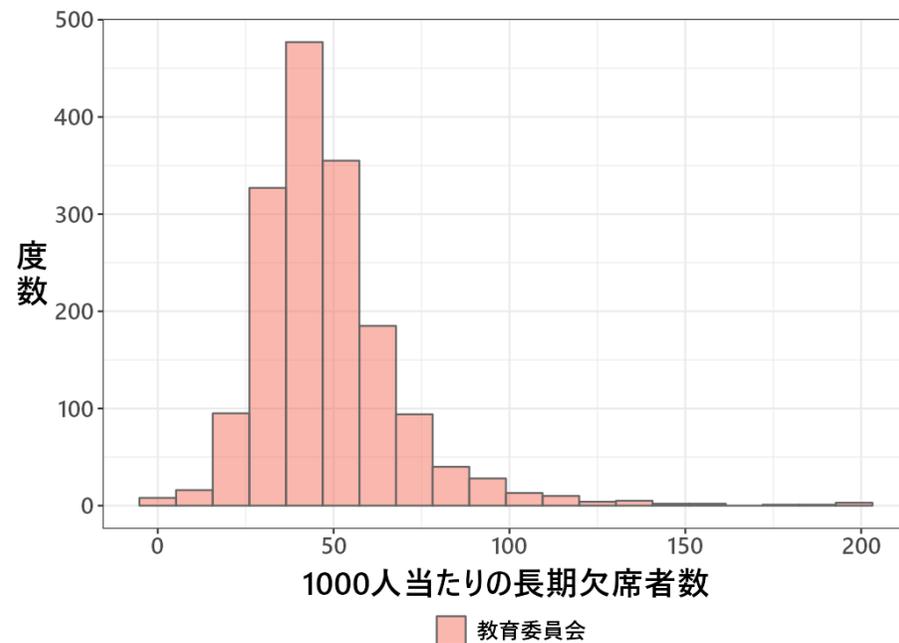
図表4-1

1000人当たりのいじめの認知件数



図表4-2

1000人当たりの長期欠席者数

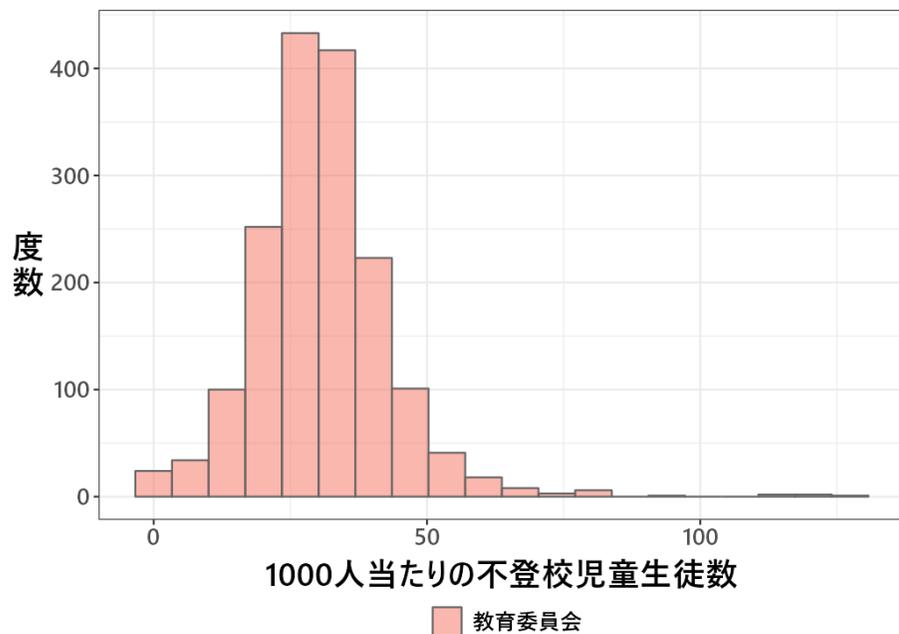


- 1000人当たりの、いじめ認知件数は、0~50件の範囲に集中している。
- 1000人当たりの長期欠席者数は、25~75人の範囲に集中している。

主要なアウトカムのヒストグラム②（教育委員会）

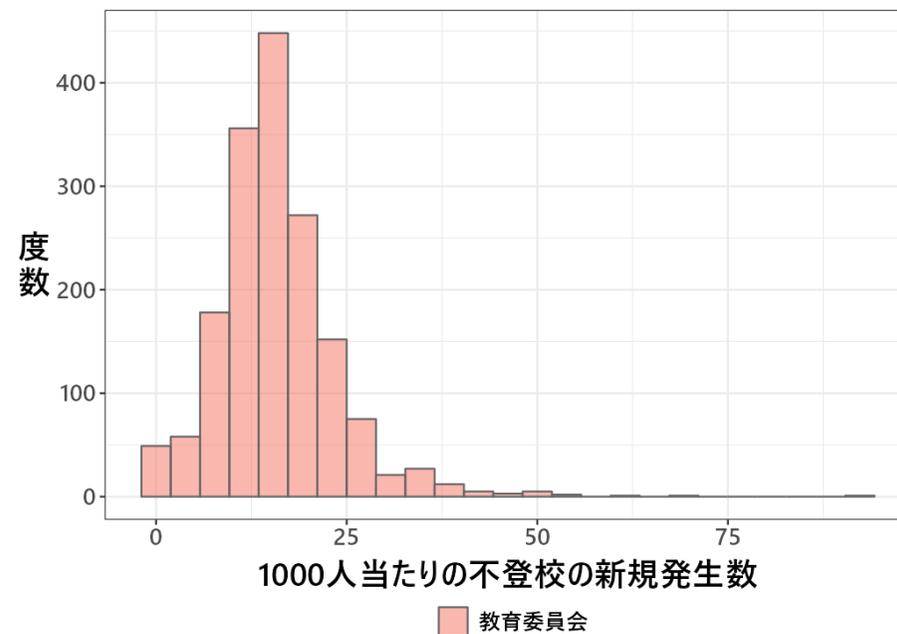
図表4-3

1000人当たりの不登校児童生徒数



図表4-4

1000人当たりの不登校の新規発生数

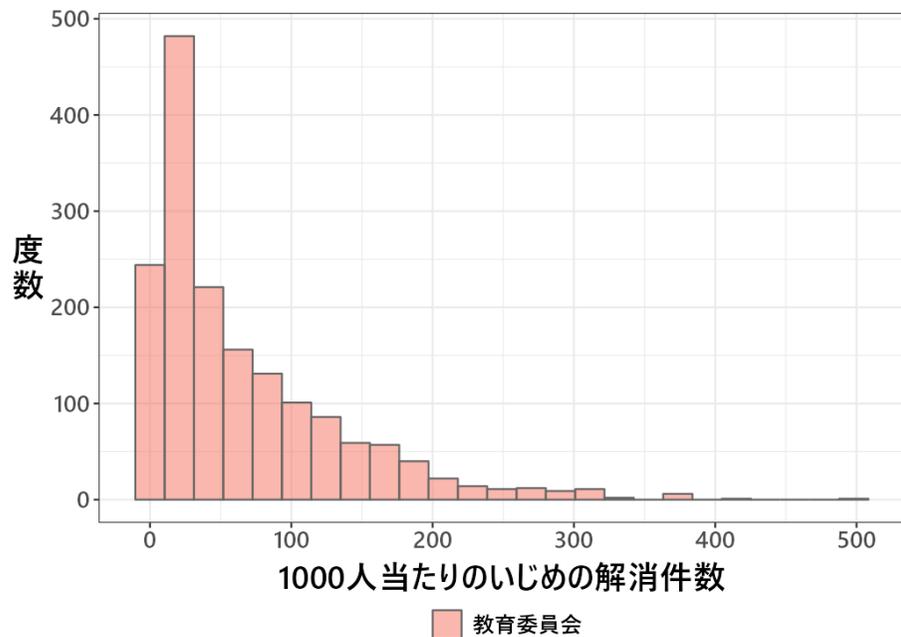


- 1000人当たりの不登校児童生徒数は、0~50人の範囲に集中している。
- 1000人当たりの不登校の新規発生数は、0~25件の範囲に集中している。

その他のアウトカムのヒストグラム①（教育委員会）

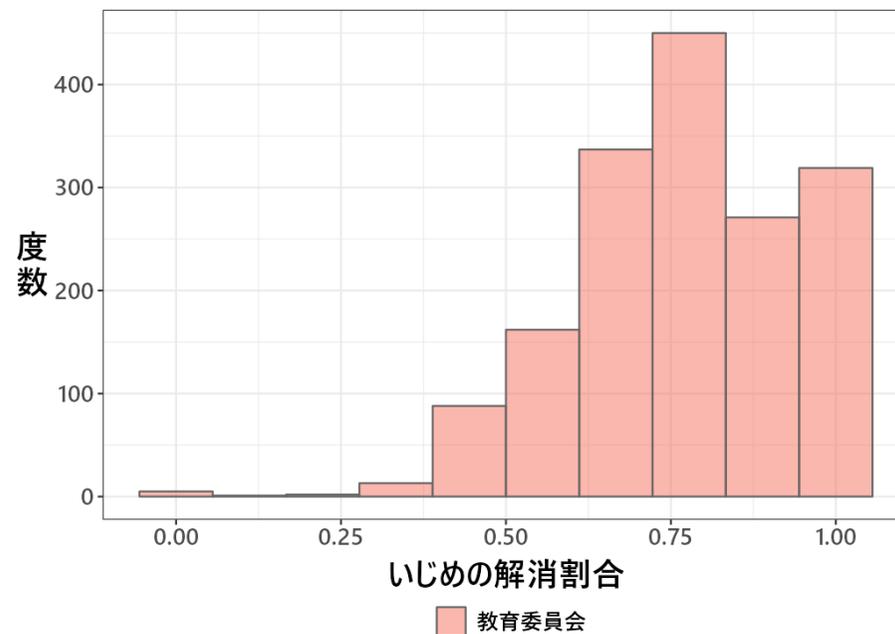
図表4-5

1000人当たりのいじめの解消件数



図表4-6

いじめの解消割合

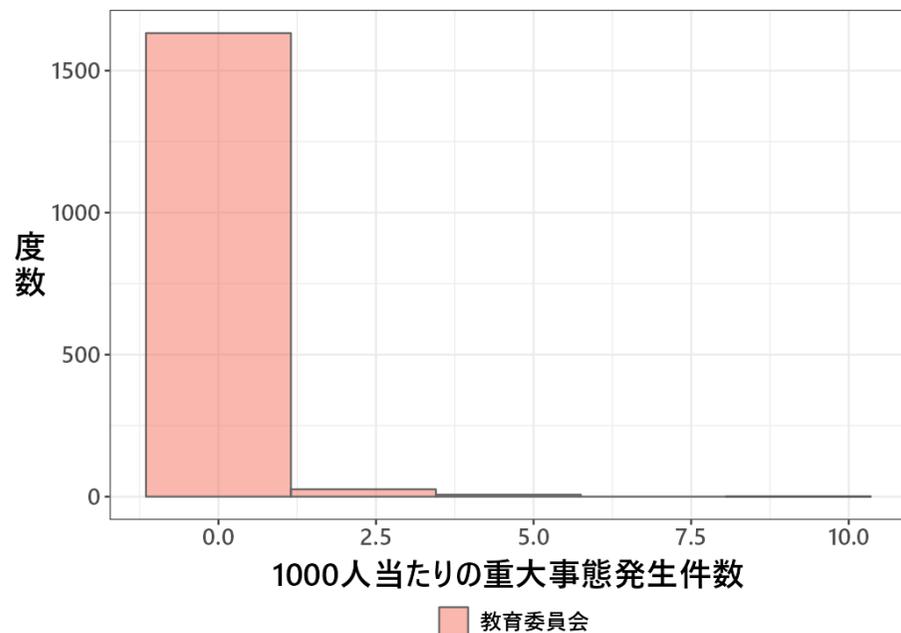


- 1000人当たりのいじめの解消件数は、0~50件の範囲に集中している。
- 1000人当たりのいじめの解消割合は、0.50~1.00の範囲に集中している。

その他のアウトカムのヒストグラム②（教育委員会）

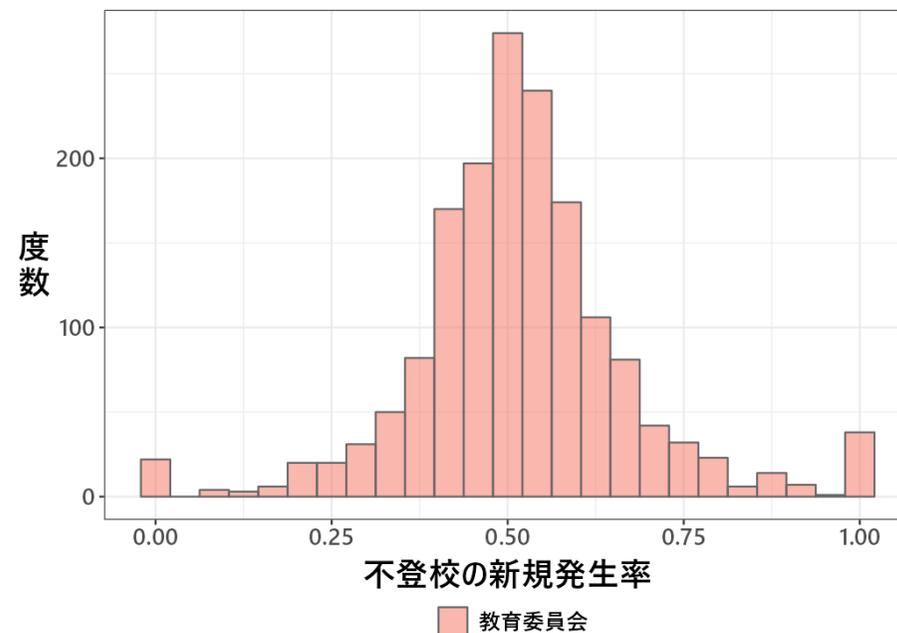
図表4-7

1000人当たりのいじめの重大事態の発生件数



図表4-8

不登校の新規発生率

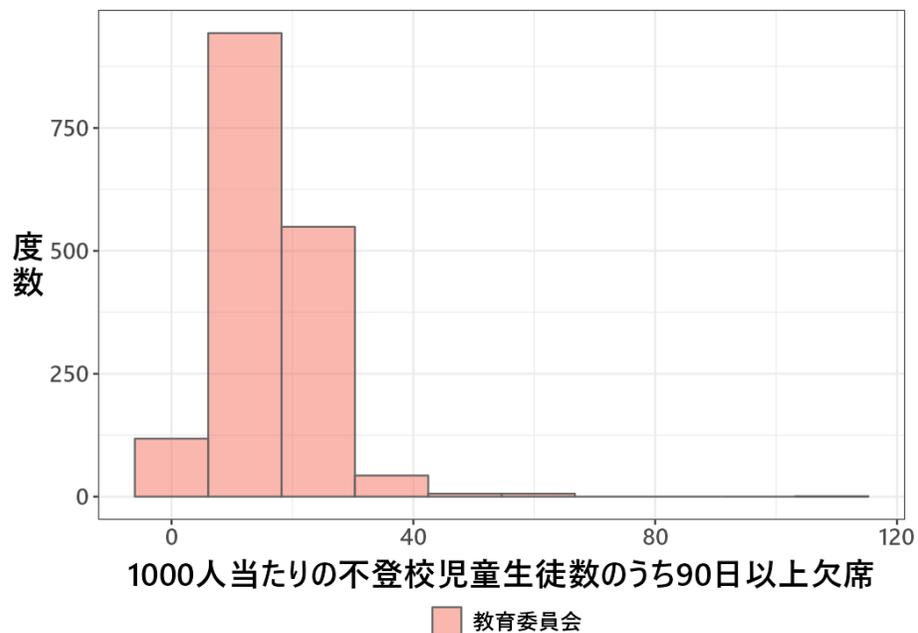


- 1000人当たりの重大事態発生件数は、ほとんどの教育委員会が0件である。
- 不登校の新規発生率は、平均値が0.52、中央値が0.51である。

その他のアウトカムのヒストグラム③（教育委員会）

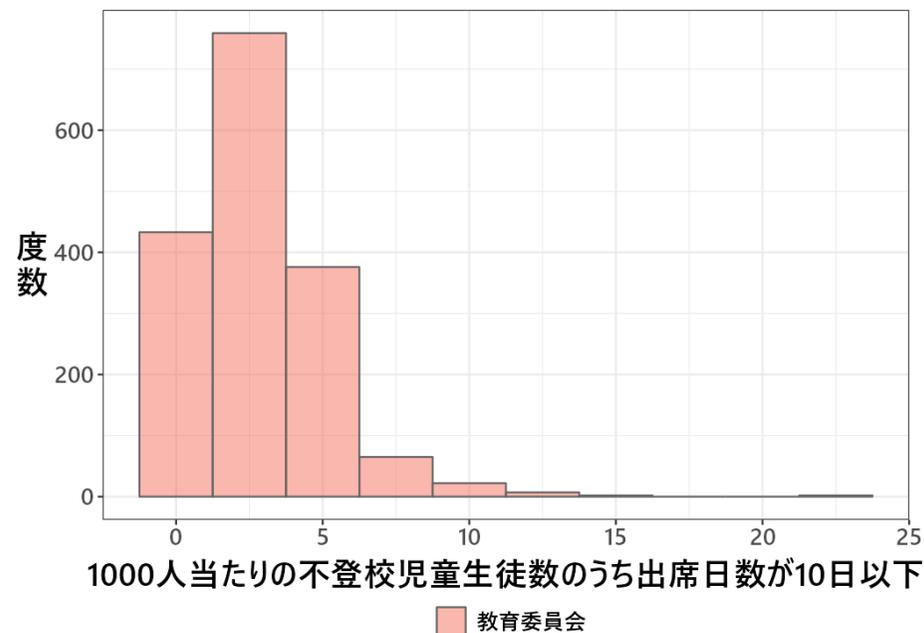
図表4-9

1000人当たりの不登校児童生徒数のうち90日以上欠席



図表4-10

1000人当たりの不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下

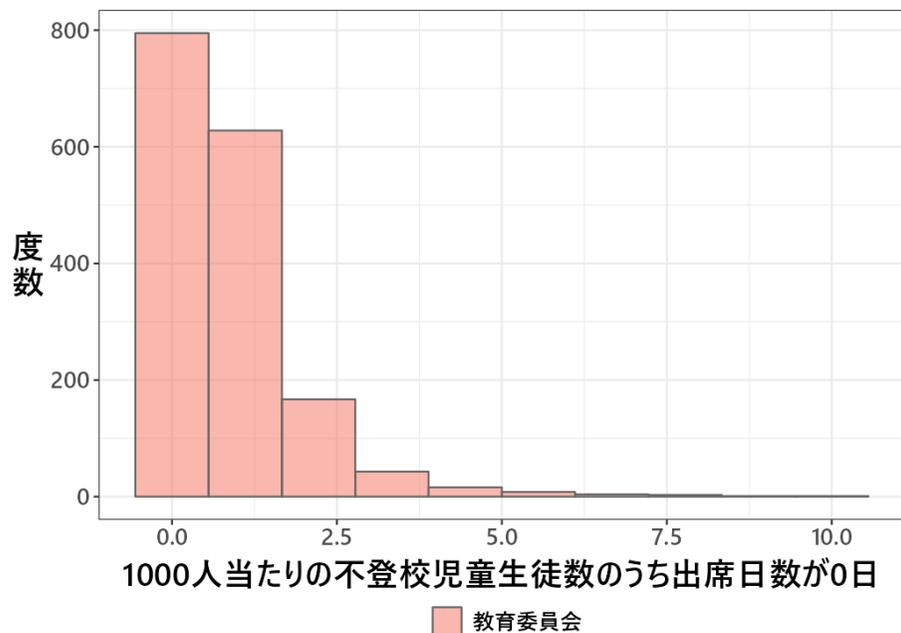


- 1000人当たりの不登校児童生徒数のうち90日以上欠席は、0~40人の範囲に集中している。
- 1000人当たりの不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下は、0~10人の範囲に集中している。

その他のアウトカムのヒストグラム④（教育委員会）

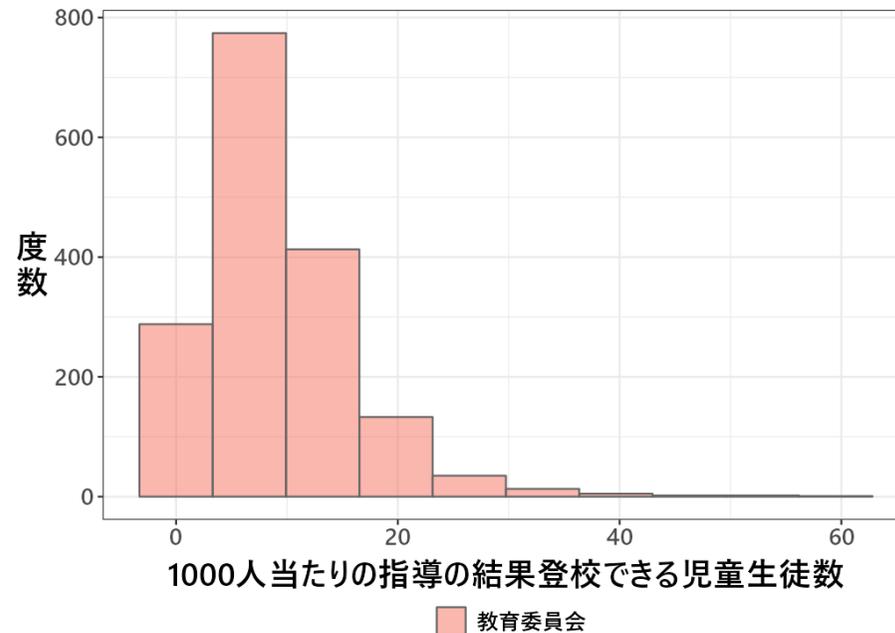
図表4-11

1000人当たりの不登校児童生徒数のうち出席日数が0日



図表4-12

1000人当たりの指導の結果登校できる児童生徒数



- 1000人当たりの不登校児童生徒数のうち出席日数が0日は、ほとんどの教育委員会が0人である。
- 1000人当たりの指導の結果登校できる児童生徒数は、0~20人の範囲に集中している。（なお、前述のとおり、1000人当たりの不登校の新規発生数は、0~25件の範囲に集中している。）

相関分析（教育委員会・アウトカム）

- いじめのアウトカム同士、不登校のアウトカム同士で正の相関が見られている。いじめの重大事態発生件数と不登校のアウトカムに弱い正の相関、いじめの解消割合と不登校のアウトカムに弱い負の相関が見られるものの、いじめと不登校のアウトカム間では、ほとんど相関が見られない。
- 不登校の新規発生率と、不登校児童生徒数、90日以上欠席、出席日数が10日以下間に負の相関が見られているが、新規発生率は、不登校の件数が元々少ない学校において高くなる傾向があるためだと考えられる。

図表4-13 アウトカム間の相関表 (教育委員会)	★いじめの 認知件数	★いじめの 解消件数	いじめの解 消割合	★いじめの 重大事態の 発生件数	★長期欠席 者数	★不登校児 童生徒数	不登校の新 規発生率	★不登校の 新規発生数	★不登校児 童生徒数の うち90日以 上欠席	★不登校児 童生徒数の うち出席日 数が10日 以下	★不登校児 童生徒数の うち出席日 数が0日	★指導の結 果登校でき る児童生徒 数
★いじめの認知件数	1.0											
★いじめの解消件数	.98 ***	1.0										
いじめの解消割合	.18 ***	.32 ***	1.0									
★いじめの重大事態の発生件数	.02	.02	-.01 ***	1.0								
★長期欠席者数	.09 **	.09	.01	.04 ***	1.0							
★不登校児童生徒数	-.01	-.01	-.03 *	.10 ***	.62 ***	1.0						
不登校の新規発生率	.06	.07	.06	.04	-.02	-.06 ***	1.0					
★不登校の新規発生数	.02	.02	.0 ***	.11 ***	.52 ***	.81 ***	.48 ***	1.0				
★不登校児童生徒数のうち90日以上欠席	-.02	-.02	-.03	.05 ***	.53 ***	.80 ***	-.25 ***	.52 ***	1.0			
★不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下	-.05	-.06	-.02	.04 ***	.26 ***	.35 ***	-.22 ***	.16 ***	.47 ***	1.0		
★不登校児童生徒数のうち出席日数が0日	-.06	-.07	-.06 ***	.12 ***	.15 ***	.16 ***	-.13	.06 ***	.23 ***	.55 ***	1.0	
★指導の結果登校できる児童生徒数	.07 *	.08	.04 *	.08 ***	.40 ***	.52	.01 ***	.45 ***	.35 **	.10	.05 ***	1.0

5 : H30～R4(2018～2022)のアウトカムデータの推移の状況

分類の試行結果について

分析対象データ・項目

- 2018年度～2022年度の「問題行動等調査」における、小学校・中学校IDで紐づけられたパネルデータに加え、小学校・中学校を教育委員会単位にまとめたデータを使用。それぞれ、「小学校パネルデータ」、「中学校パネルデータ」、「教育委員会パネルデータ」とする。

- 小学校パネルデータ：（n=1,138） 中学校パネルデータ：（n=1,137） 教育委員会パネルデータ：（n=1,648）

※分類・推移の確認においては、1,000人当たりの換算で生じうる、児童・生徒数規模の小さい学校の影響を除外するため、児童・生徒数下位2.5%を除外している。

- パネルデータにおいて、以下の項目について推移を確認（各項目について、児童・生徒数1,000人当たりの件数・人数に集計）。

- いじめ認知件数／長期欠席者数／不登校児童生徒数／不登校新規発生数（不登校数－前年度継続数）

参考：これまでに試行した集計・分類の方法について（例：いじめ認知件数）

（分類法①）平均変化率からの正負による分類

- 2018年度から2022年度にかけての、アウトカムの各年度の平均変化率を基準に分類を行う手法を採用。

① 2018年度から2022年度の各年度におけるアウトカムの平均を算出し、その値で各年度の平均変化率を算出。

② サンプルごとの平均変化率が、全体の平均変化率よりも「+（正值）」であるサンプルを「高位変動型」、「-（負値）」であるサンプルを「低位変動型」とする。

→後述のとおり、サンプルごとの多様な変動パターンの特徴を捉えるという観点からすると、有益な分類とは言えない可能性がある。

（分類法②）時系列クラスタリングによる分類

- 2018年度から2022年度にかけての、アウトカムの各年度の推移について、先行研究（※）でも実行されているクラスタリング（手法はk-means）を実行。

① 年度ごとの最適な中心点を探索するクラスタリングを実行。

② クラスタ数の適正さについては、この中心点との距離を評価するシルエット係数を利用して評価。

→クラスタ内の変動のばらつきが大きいことから、クラスタに基づいて個々のサンプルの適切な変動を評価しづらいのではないか。

※八並光俊（2005）「公的データからみる暴力行為の動向と地域差」、『月間生徒指導』、2005年12月号、pp.10-13

分類結果の概要

分類の概要

- アウトカムの推移を見るに当たり、出現パターンの類型化を目的に、先行研究（※）を参考として、以下の方法によって分類した区分を採用した。
 - ① 各年度の数値について、年度の平均値から差し引き、差分の正負（「+」、「-」）を判断。
 - ② 2018年度から2022年度にかけて、取組との相関関係を見るための、分類のサンプル数確保の観点から、以下のとおりの分類方法を採用した。
- いじめ認知件数・・・一貫して「-（負値）」であるサンプルを「低発生持続型」、それ以外を「その他」群とした。
- 長期欠席者数・不登校者数・不登校新規発生数・・・一貫して「+（正值）」であるサンプルを「高発生持続型」、「-（負値）」であるサンプルを「低発生持続型」、「-（負値）」から「+（正值）」へトレンドが変化したサンプルを「高発生移行型」、「+（正值）」から「-（負値）」へトレンドが変化したサンプルを「低発生移行型」とした。
（なお、集計に当たって、「問題行動等調査」とのデータ照合ができない、もしくは2018年度～2022年度までの5か年度分取得できないデータについては、集計対象から除外。）

※八並光俊（2018）「公的不登校調査における地域特性分析」、『東京理科大学紀要 教養篇』、50号、pp.319-331

分類結果のまとめ

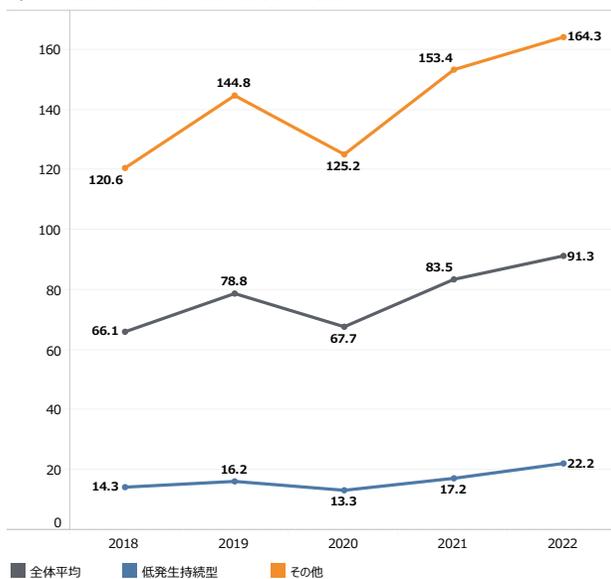
- 「いじめ認知件数」、「長期欠席者数」、「不登校者数」、「不登校新規発生数」の全てのアウトカムについて、**全体的に上昇トレンド**にある。
（なお、「その他」群については、全体平均と近い数値で推移している。）
- 変動パターンが多様にある中、「その他」を除くと、**「低発生持続型」が最も多い**。このことから、「長期欠席者数」、「不登校者数」、「不登校新規発生数」については、平均的に見て低い値で推移している群が多い傾向にある。
- 「長期欠席者数」、「不登校者数」、「不登校新規発生数」の**「高発生移行型」、「高発生持続型」は、主に2020年度以降に急激に値が上昇する**傾向にある。トレンドとして平均から高い値に推移をするようになる「高発生移行型」、「高発生持続型」の群は、新型コロナウイルス感染症の影響等の外部環境の影響により、課題を抱えている群であることが示唆される。
- 「不登校新規発生数」について、小学校・中学校では、特に「低発生移行型」は減少傾向にある。

分析①：いじめ認知件数の推移

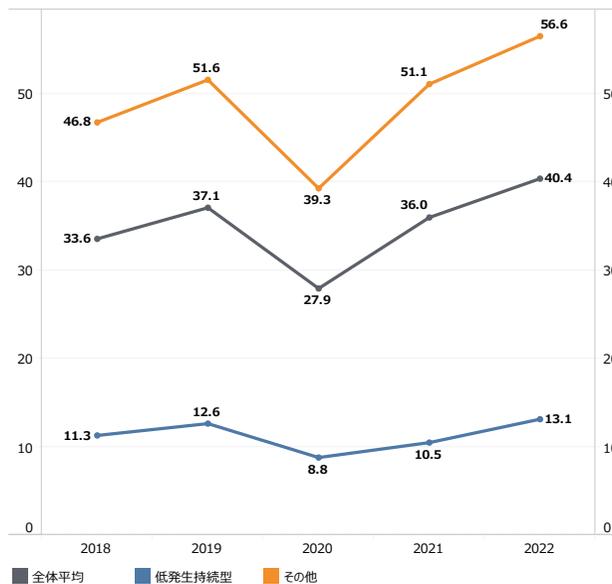
- いじめ認知件数については、「低発生持続型」において、小学校で1,000人当たり20件弱、中学校で1,000人当たり10件弱となっている。教育委員会単位では、2018年度では1,000人当たり約21件であったが、2022年度において約29件となっている。
- いずれのデータにおいても、「その他」の変動と比べると、サンプルの半数を占める「低発生持続型」のいじめ認知件数は小さい値で推移している。

縦軸（件） 横軸（年度）

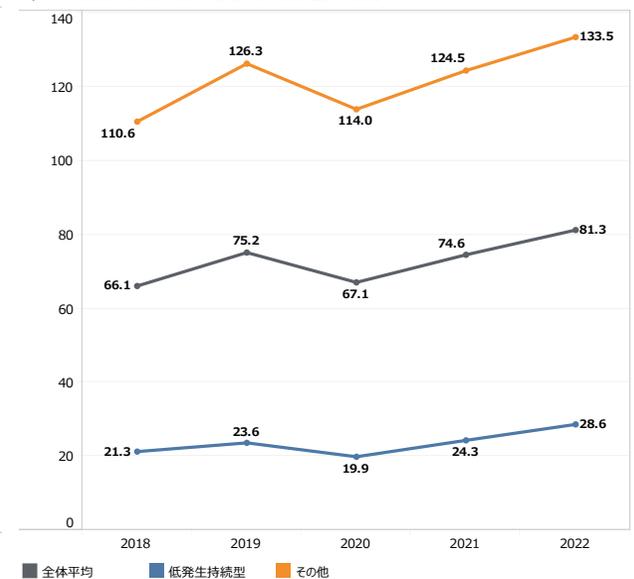
1,000人当たりいじめ認知件数の推移（小学校・平均値）



1,000人当たりいじめ認知件数の推移（中学校・平均値）



1,000人当たりいじめ認知件数の推移（教育委員会・平均値）



※以降の軸の上限・下限は、図ごとに異なる。

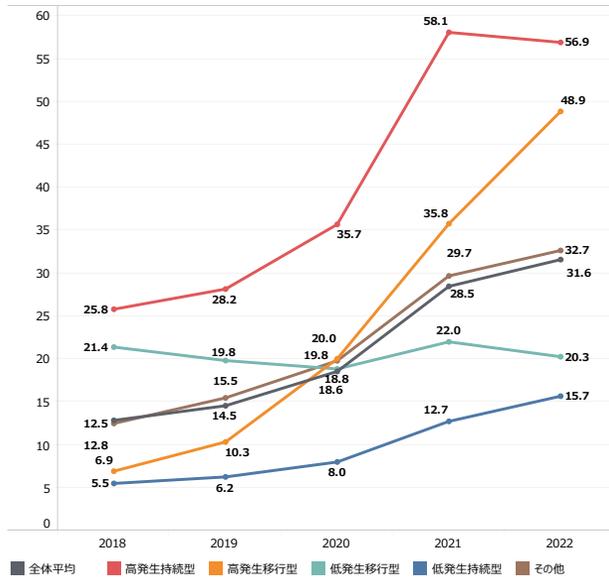
サンプル数	小学校パネル	中学校パネル	教育委員会パネル
低発生持続型	584	423	821
その他	554	714	827
全体	1,138	1,137	1,648

分析②：長期欠席者数の推移

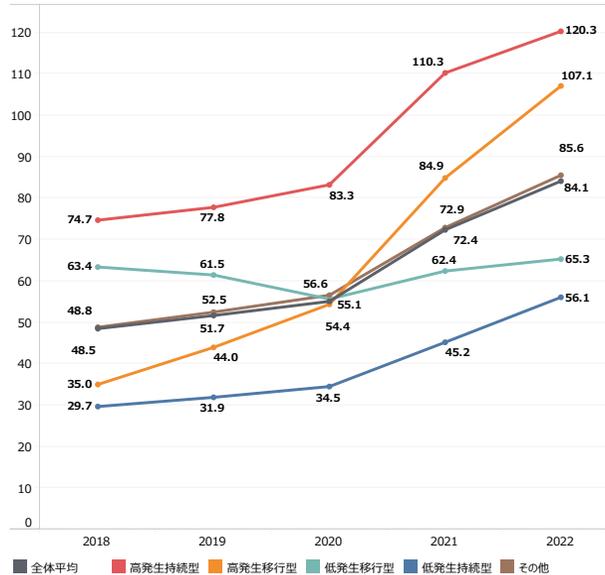
- 長期欠席者数は、「高発生持続型」で、小学校・中学校・教育委員会の全てのデータで、大幅に増加している。
- また、「高発生移行型」において、小学校では2020年度、中学校・教育委員会単位では2021年度以降で大幅に増加している。
- 「低発生持続型」においても、2020年度以降、増加傾向であるが、「高発生移行型」と比べると緩やかとなっている。

縦軸（人）横軸（年度）

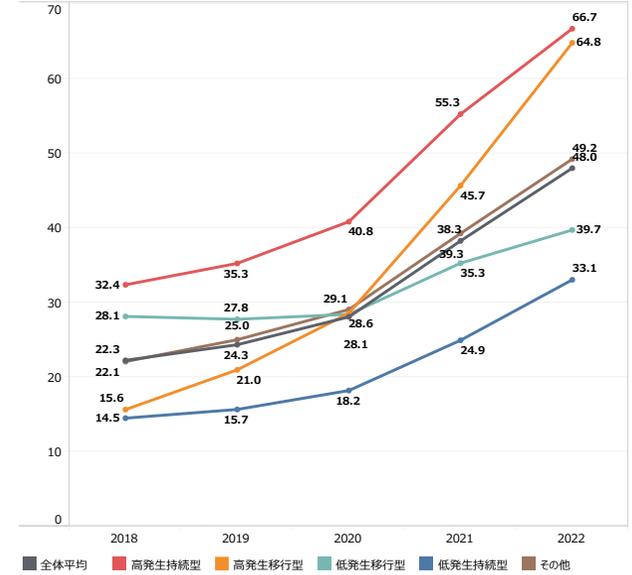
長期欠席者数の推移（小学校・平均値）



長期欠席者数の推移（中学校・平均値）



長期欠席者数の推移（教育委員会・平均値）



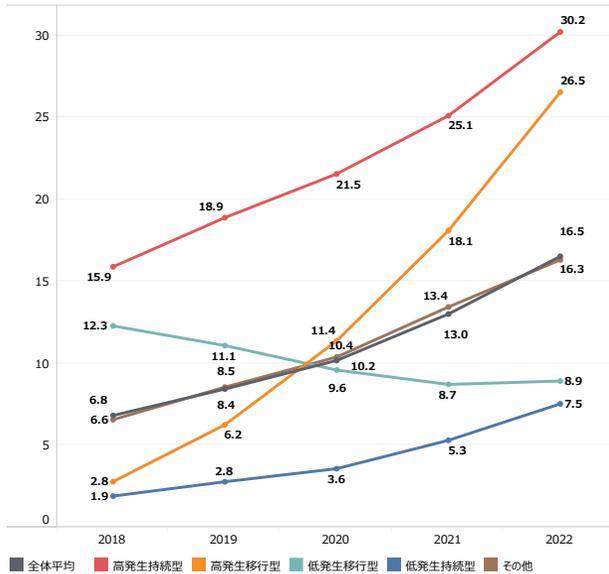
サンプル数	小学校パネル	中学校パネル	教育委員会パネル
高発生持続型	145	177	352
高発生移行型	154	158	163
低発生移行型	165	162	259
低発生持続型	305	268	509
その他	369	372	365
全体	1,138	1,137	1,648

分析③：不登校児童・生徒数の推移

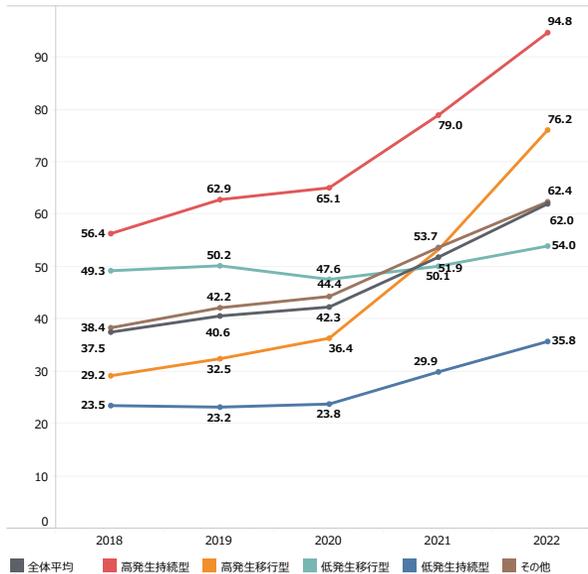
- 不登校児童・生徒数は、「高発生持続型」で顕著に増加しており、こうした傾向は、「低発生持続型」にも見られる。他方で、「低発生移行型」については、特に小学校において、不登校児童数を減少させている。
- 「高発生移行型」が、特に小学校・中学校において、2020年度以降、顕著に増加している。

縦軸（人）横軸（年度）

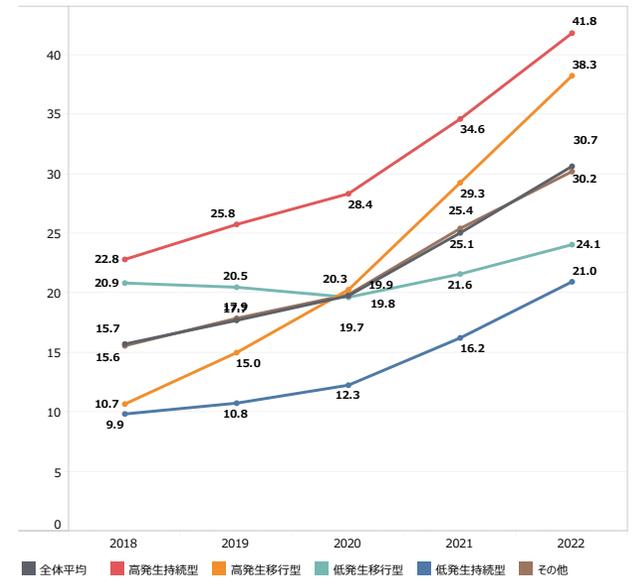
不登校者数の推移（小学校・平均値）



不登校者数の推移（中学校・平均値）



不登校者数の推移（教育委員会・平均値）



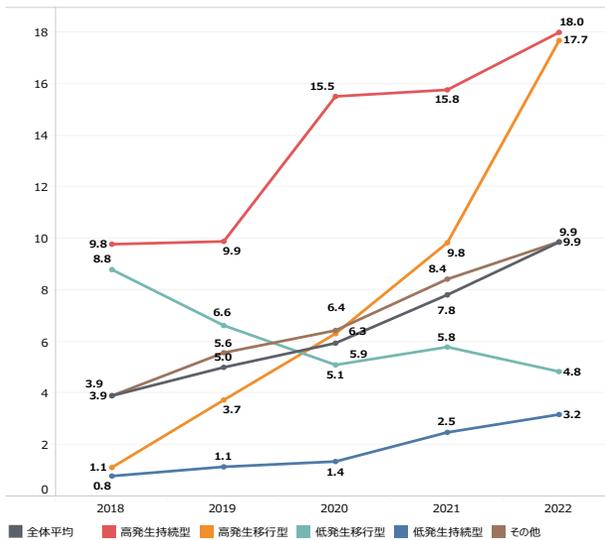
サンプル数	小学校パネル	中学校パネル	教育委員会パネル
高発生持続型	129	194	372
高発生移行型	193	182	239
低発生移行型	175	147	235
低発生持続型	254	269	441
その他	387	345	361
全体	1,138	1,137	1,648

分析④：不登校新規発生数の推移

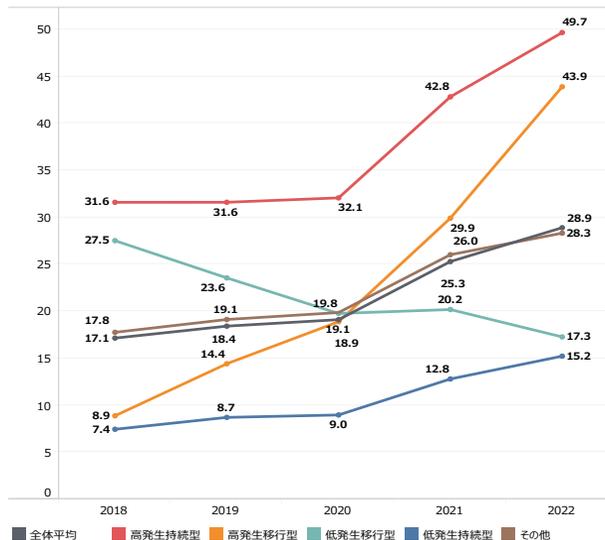
- 小学校・中学校における「高発生持続型」、「高発生移行型」は、「不登校児童・生徒数」と同様に、2020年度以降顕著に増加している。（なお、「高発生持続型」は他の分類と比べて、サンプル数が若干少ない傾向にある点に留意）また、小学校・中学校ともに、「低発生移行型」については、不登校新規発生数を減少させている。
- 教育委員会データにおいては、「長期欠席者数」、「不登校児童・生徒数」と同様に、「低発生移行型」を除く全ての群で不登校新規発生数が増加している。「低発生持続型」においても、2022年度は、2018年度と比べて2倍以上の数値となっている。

縦軸（人）横軸（年度）

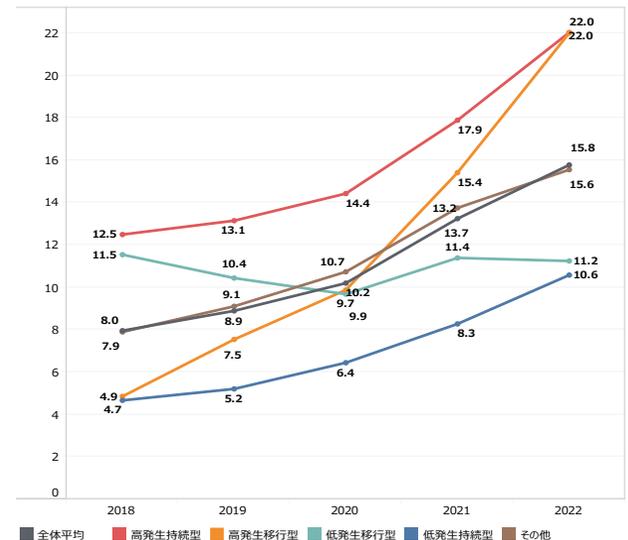
不登校新規発生数の推移（小学校・平均値）



不登校新規発生数の推移（中学校・平均値）



不登校新規発生数の推移（教育委員会・平均値）



サンプル数	小学校パネル	中学校パネル	教育委員会パネル
高発生持続型	47	62	182
高発生移行型	170	157	223
低発生移行型	138	124	217
低発生持続型	154	133	264
その他	629	661	762
全体	1,138	1,137	1,648

6 : 属性別のR4(2022)アウトカムの状況 (小学校/中学校)

結果のまとめ（小学校/中学校）

■ いじめアウトカムと属性

- 小学校では、いじめアウトカムと属性の間には相関が見られない。
- 中学校では、いじめの認知件数と特別支援学級在籍者数、特別な支援が必要な児童生徒数との間に弱い正の相関が見られている。
- 中学校では、いじめの認知件数と児童生徒数の間で弱い負の相関が見られている。
（※1,000人当たりのいじめ認知件数について、児童生徒人数の少ない学校において、いじめが発生している場合、1,000人当たり件数が大きくなるため、その影響があると考えられる。）

■ 不登校アウトカムと属性

- いくつかの不登校アウトカムと属性の間には弱い相関が見られる。具体的には、小中学校ともに、長期欠席者数、不登校児童生徒数と、学力の間に弱い負の相関が見られている。中学校では、長期欠席者数と家庭の蔵書数の間に弱い負の相関が見られている。
- 特別支援在籍者、就学援助の児童生徒数、外国人児童生徒数が多い学校では、不登校児童生徒数や長期欠席者数が高い関係になっている。
- 学力の高い学校では、不登校児童生徒数や長期欠席者数が少ない関係になっている。

■ その他属性とアウトカム

- 日本語指導児童生徒数（通常級）、要対協児童生徒数、受験意欲、授業時数、生活習慣はどのアウトカムとも相関が見られない。
（※受験意欲は学校単位の回答である点に留意が必要。）

相関分析（小中学校・アウトカム×属性）

■ **相関分析** アウトカムと属性の間での関連を確認するため、相関分析を実施した。

■ 小学校と中学校で、共通する変数間で相関が見られた。

- 長期欠席者数と、外国人児童生徒数の間、長期欠席者数・不登校児童生徒数・不登校の新規発生数それぞれと、生活保護・就学援助の児童数（要保護・準要保護）の間、長期欠席者数・不登校児童生徒数と、スクリーンタイムの間に、弱い正の相関が見られた。
- 長期欠席者数・不登校児童生徒数と、国語の学力・算数（数学）の学力の間に、弱い負の相関が見られた。

■ 以下の変数においては、小中学校で異なる結果が得られている。

- 小学校では、不登校児童生徒数と、外国人児童生徒数の間に弱い正の相関が、不登校新規発生数について、特別支援在籍者数・特別な支援が必要な児童生徒数との間に弱い正の相関が、国語の学力との間に弱い負の相関が見られた。
- 中学校では、いじめの認知件数について、児童生徒数との間に弱い正の相関が、特別支援学級在籍者数・特別な支援が必要な児童生徒数との間に弱い正の相関が見られた。長期欠席者数について、特別支援学級数・日本語指導児童生徒数との間に弱い正の相関が、家庭の蔵書数との間に弱い負の相関が見られた。

図表6-1 アウトカム間の相関表（小・中学校）

	児童生徒数	★外国人児童生徒の人数	特別支援学級数	★特別支援学級在籍者数	★生活保護、就学援助の児童生徒数_要保護	★生活保護、就学援助の児童生徒数_準要保護	★通常学級で特別な支援が必要な児童生徒数	★日本語指導児童生徒数（特別課程）	★日本語指導児童生徒数（通常級）	★要対協児童生徒数	授業時数実績	受験意欲	国語の学力	算数・数学の学力	家庭の蔵書数	生活習慣_朝食習慣	生活習慣_就寝リズム	生活習慣_起床リズム	スクリーンタイム
小学校																			
★いじめの認知件数	-0.09	.02	-.08	.08	.08	.01	.08	-.02	.0	.05	-.02	.02	-.06	-.07	-.06	.02	.0	.01	.05
★長期欠席者数	.01	.16 ***	.10	.06	.23 ***	.26 ***	.06	.11	.09	.04	.02	-.01	-.20 ***	-.16 ***	-.04	.0	.0	.0	.20 ***
★不登校児童生徒数	.07	.14 *	.08	.08	.15 ***	.19 ***	.08	.08	.08	.04	.02	-.01	-.14 ***	-.12 *	-.02	.0	.01	.0	.16 ***
★不登校の新規発生数	-.09	.12	-.03	.13 **	.14 ***	.17 ***	.13 **	.10	.07	.02	.03	.07	-.15 ***	-.11	-.06	-.05	-.01	-.03	.10
中学校																			
★いじめの認知件数	-.12 *	.04	-.02	.12 *	.03	.06	.12 *	.04	.0	.07	.06	.08	-.08	-.08	-.07	-.07	-.02	-.05	.03
★長期欠席者数	.01	.14 *	.13 **	.09	.18 ***	.29 ***	.09	.11 *	.04	.07	.01	-.07	-.24 ***	-.24 ***	-.13 *	.0	.04	.04	.19 ***
★不登校児童生徒数	.04	.10	.10	.06	.19 ***	.21 ***	.06	.09	.0	.08	-.01	-.03	-.20 ***	-.17 ***	-.10	-.01	.0	.0	.16 ***
★不登校の新規発生数	-.02	.12	.01	.01	.11 *	.16 ***	.01	.06	-.01	.04	.01	-.02	-.09	-.10	-.10	-.03	-.01	-.03	.06

7 : 属性別のR4(2022)アウトカムの状況 (教育委員会)

結果のまとめ（教育委員会）

■ いじめアウトカムと属性

- ひとり親家庭の割合の間には相関が見られない。外国人児童生徒の割合の間には弱い負の相関が見られるものの、外国人児童生徒の割合は7割程度の教育委員会が0%であることを踏まえると、解釈に留意が必要。

■ 不登校アウトカムと属性

- ひとり親家庭の割合と、長期欠席者数、不登校児童生徒数の間には弱い正の相関が見られている。
- 外国人児童生徒数の割合と、長期欠席者数、不登校児童生徒数、不登校の新規発生数の間には弱い正の相関が見られる。ただし、外国人児童生徒の割合は7割程度の教育委員会が0%であることを踏まえると解釈に留意が必要。

相関分析（教育委員会・アウトカム×属性）

- **相関分析** アウトカムと属性の間での関連を確認するため、相関分析を実施した。
- 教育委員会のアウトカムと属性に関する変数の相関は、以下の結果が得られている。
 - ひとり親家庭の割合は、長期欠席者数と不登校児童生徒数の間に弱い正の相関が見られる。
 - 外国人児童生徒の割合は、長期欠席者数、不登校児童生徒数、不登校の新規発生数で弱い正の相関が見られる。いじめの認知件数との間には、弱い負の相関が見られている。しかし、外国人児童生徒の割合は、7割程度の教育委員会が0%であることを考慮すると、一部の教育委員会での影響を示していると考えられる。

図表7-1 アウトカム間の相関表（教育委員会）

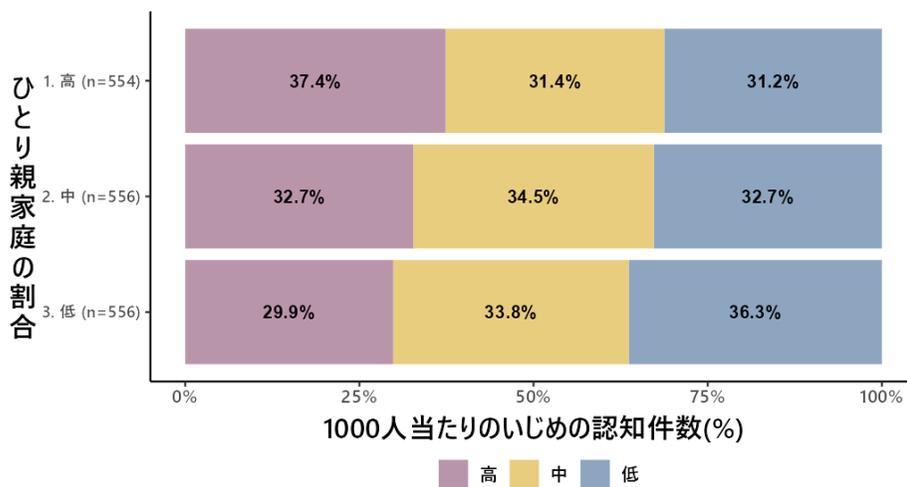
	ひとり親家庭の割合	外国人児童生徒の割合
★いじめの認知件数	.06	-.05 ***
★長期欠席者数	.18 ***	.11 ***
★不登校児童生徒数	.09 ***	.10 ***
★不登校の新規発生数	.08	.05 ***

※★は、児童生徒数1,000人当たりの件数・人数に集計 ***p < .001, **p < .01, *p < .05

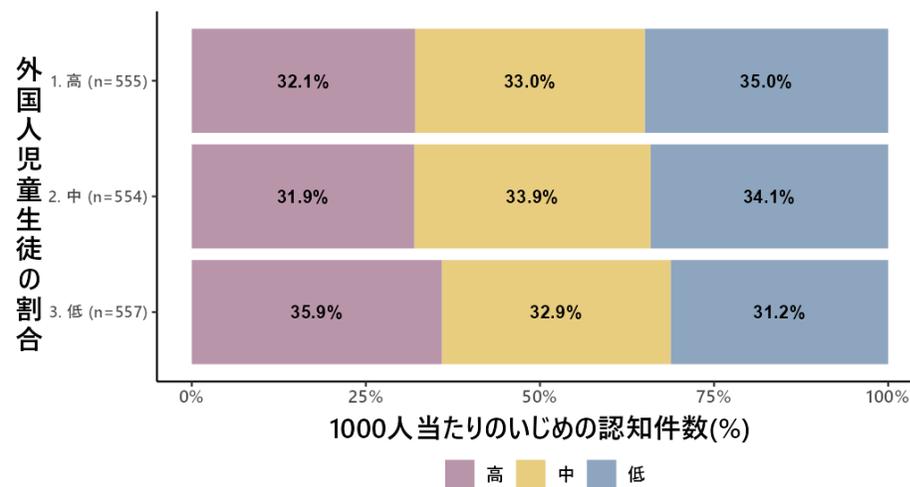
参考：クロス分析の結果①いじめの認知件数（教育委員会）

- 特に外国人児童生徒の割合についてサンプルに偏りがあるため、以降ではクロス分析の結果を示す。
- ひとり親家庭の割合が高い教育委員会ほど、いじめの認知件数も高い状況である。
- 外国人児童生徒の割合は、明確な関係は見られない。

図表7-2 いじめ認知件数の状況別に見たひとり親家庭の割合



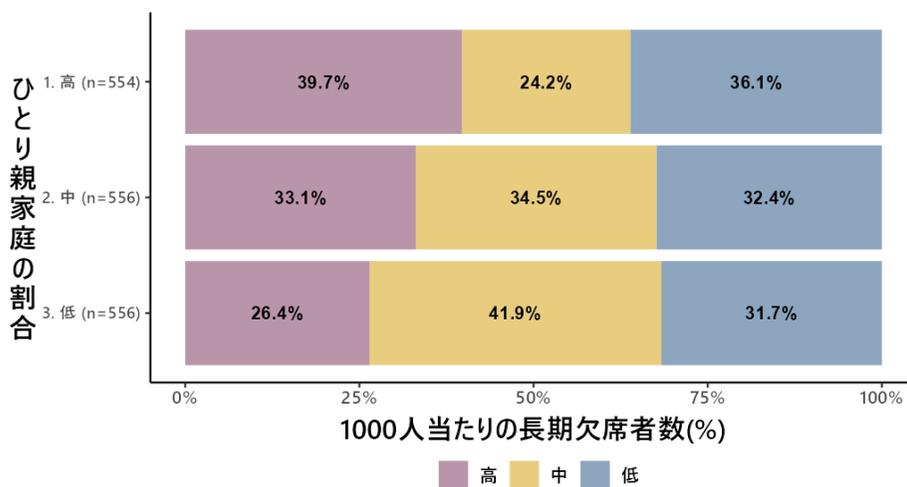
図表7-3 いじめ認知件数の状況別に見た外国人児童生徒の割合



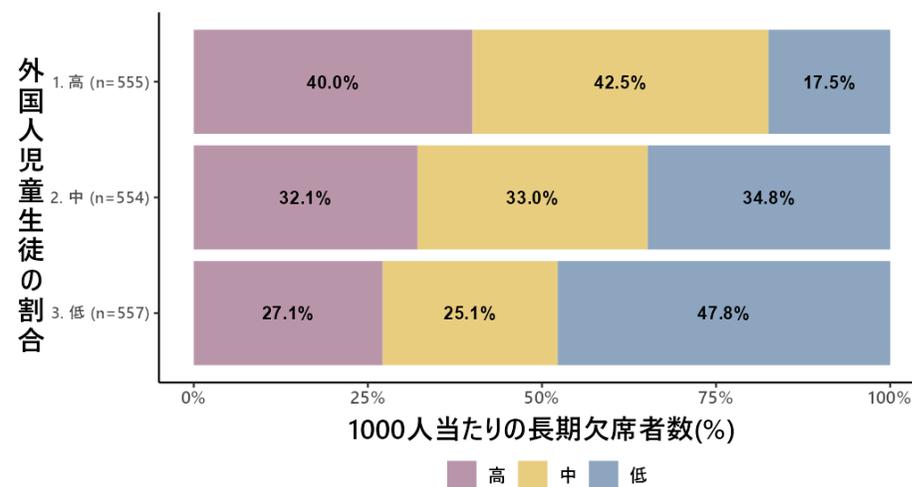
参考：クロス分析の結果②長期欠席者数（教育委員会）

- ひとり親家庭の割合が高い教育委員会ほど、長期欠席者数も多い状況である。
- 同様に、外国人児童生徒の割合が高い教育委員会ほど、長期欠席者数も多く、顕著な結果が見られる。

図表7-4 長期欠席者数の状況別に見たひとり親家庭の割合



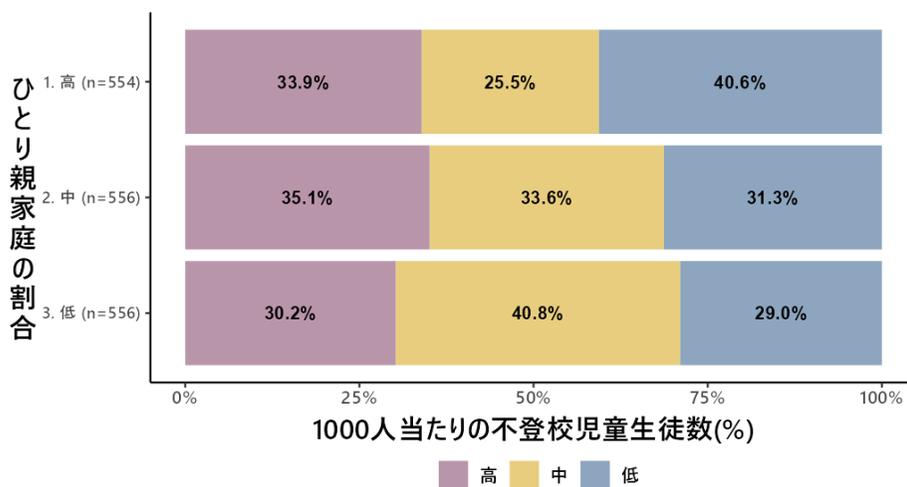
図表7-5 長期欠席者数の状況別に見た外国人児童生徒の割合



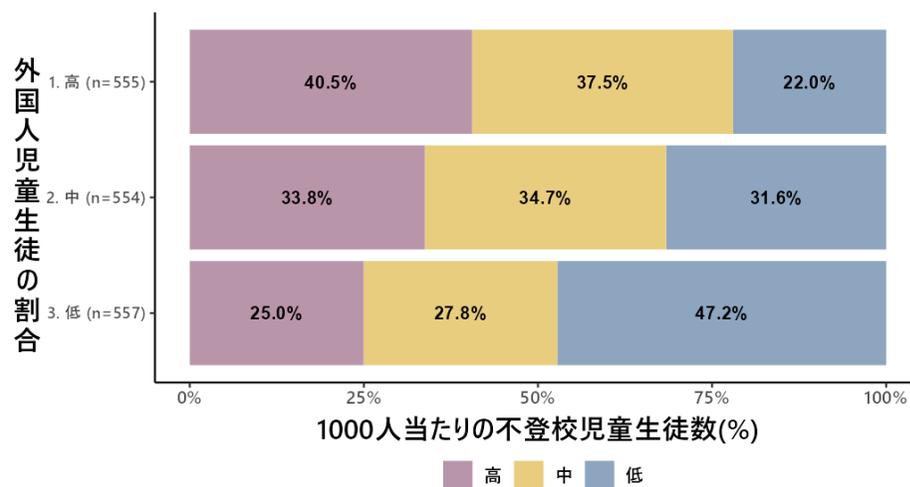
参考：クロス分析の結果③不登校児童生徒数（教育委員会）

- ひとり親家庭の割合と不登校児童生徒数には、明確な関係は見られない。
- 一方で、外国人児童生徒の割合が高い教育委員会ほど、不登校児童生徒数も多く、顕著な結果が見られる。

図表7-6 不登校児童生徒数の状況別に見たひとり親家庭の割合



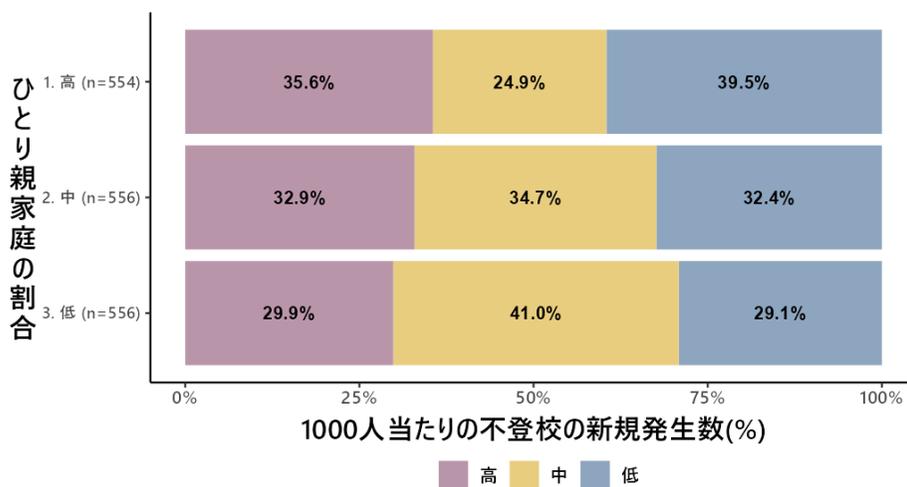
図表7-7 不登校児童生徒数の状況別に見た外国人児童生徒の割合



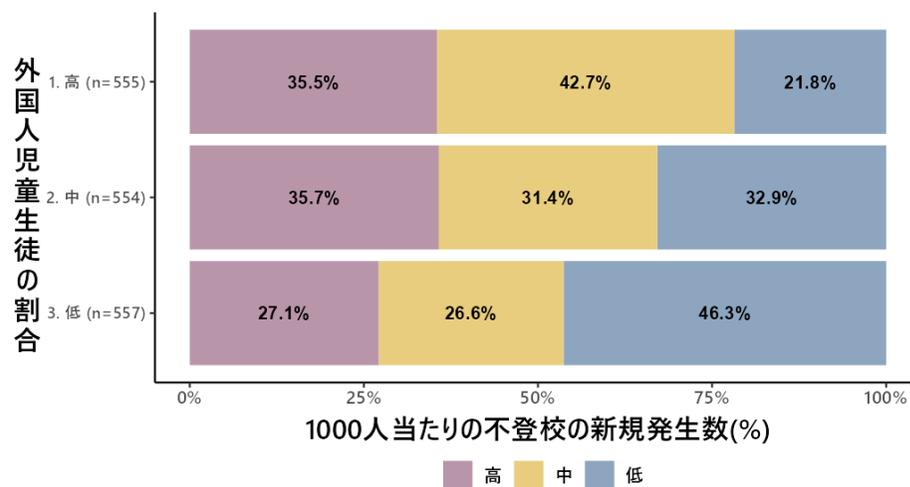
参考：クロス分析の結果④不登校の新規発生数（教育委員会）

- ひとり親家庭の割合と不登校の新規発生数には、明確な関係は見られない。
- 一方で、外国人児童生徒の割合が低い教育委員会では、不登校の新規発生数は顕著に少ない結果が見られる。

図表7-8 不登校の新規件数の状況別に見たひとり親家庭の割合



図表7-9 不登校の新規件数の状況別に見た外国人児童生徒の割合



8 : R4(2022)の小学校・中学校・教育委員会の取組状況 (新規アンケート調査の結果)

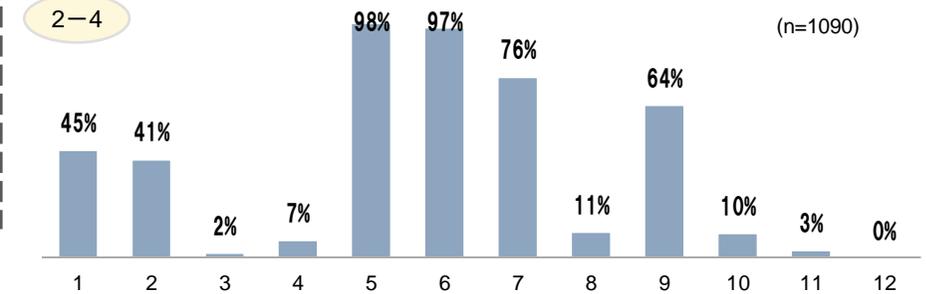
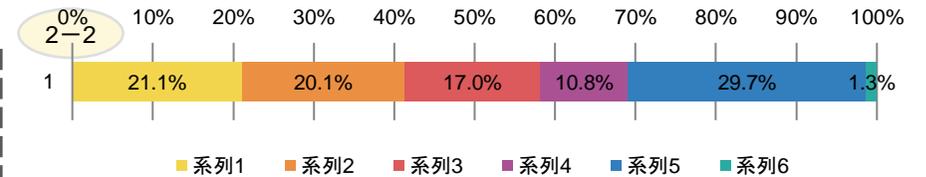
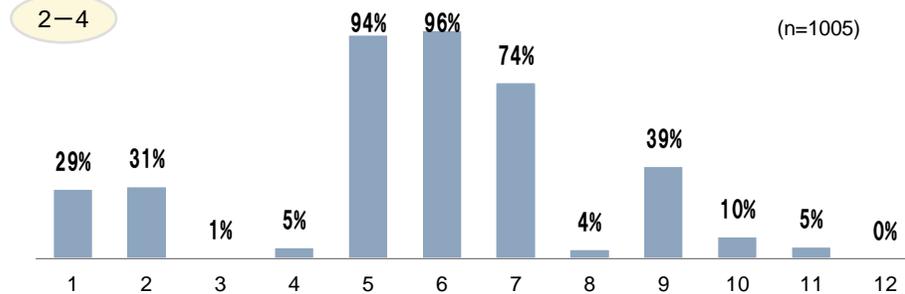
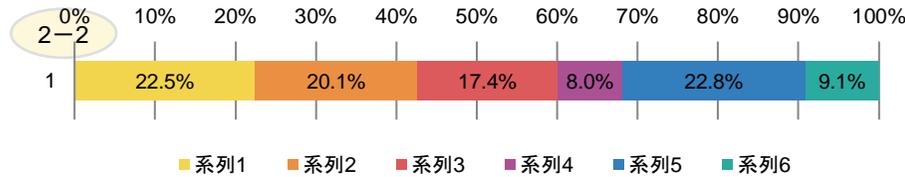
※詳細の調査結果は8章別添の報告書（3種）を参照されたい。

【新規アンケート調査概要】小学校/中学校

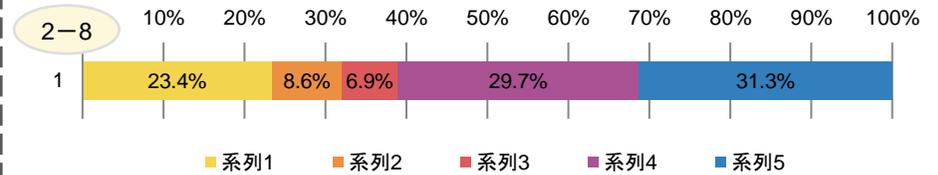
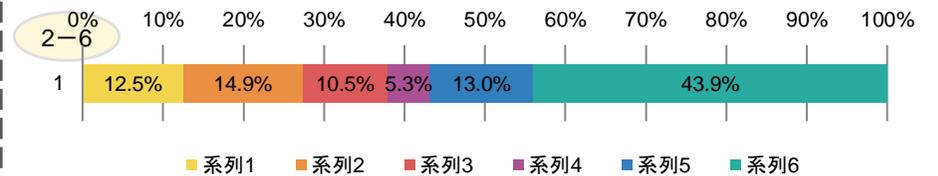
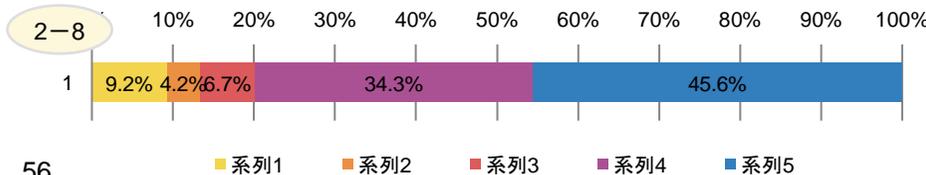
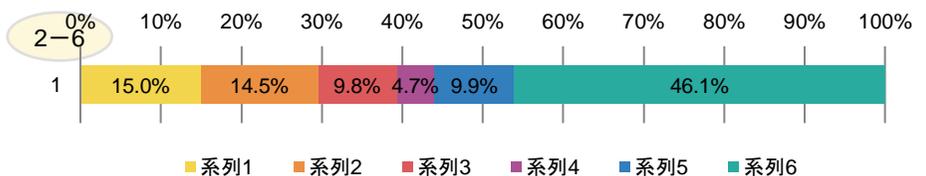
- 調査対象：令和4年度勤務実態調査の対象校
 - 小学校 1,191校
 - 中学校 1,186校
- 調査方法：WEBアンケート調査
 - 文部科学省より都道府県教育委員会を通じ（※政令指定都市は文部科学省より直接送付）、市区町村教育委員会にメールにてアンケート調査への協力依頼及び調査対象校への転送依頼を行った。依頼状に記載されたWEB回答フォームのURLより調査対象校から回答を得た。
- 調査期間：令和6（2024）年6月10日（月）～令和6（2024）年7月1日（月）
（※7月9日（火）まで回答延長）
- 回収状況
 - 小学校 有効回答数 1,136件、回収率 95.4%
 - 中学校 有効回答数 1,135件、回収率 95.7%
- 分析対象：有効回答のうち、学校規模が下位2.5%に当てはまる学校を除いた学校
 - 小学校 1,107校
 - 中学校 1,104校

SCの勤務年数と職務内容 / SSWの勤務年数と生徒指導に関する会議への参加状況

- **SC**の勤務年数は「4年以上（5年目以降）」（小22.8%、中29.7%）が最も多いがばらつきが見られる。（※以降、小は小学校、中は中学校を指す。）
- **SC**の職務内容は「児童生徒・保護者との個別面談」（小94%・96%、中98%・97%）が多いが、ケース会議参加や教職員研修などはばらつきが見られる。



- **SSW**の勤務年数は「配置されていなかった」（小46.1%、中43.9%）が最も多く、SCと状況が異なる。
- **SSW**の生徒指導に関する会議への参加状況は「全く参加していなかった」（小45.6%、中31.3%）が最も多い。この点SCの場合の「全く参加していなかった」は小52.8%、中24.7%で、特に小学校では生徒指導に関する会議にSC、SSWが十分関与できていない様子が見える。



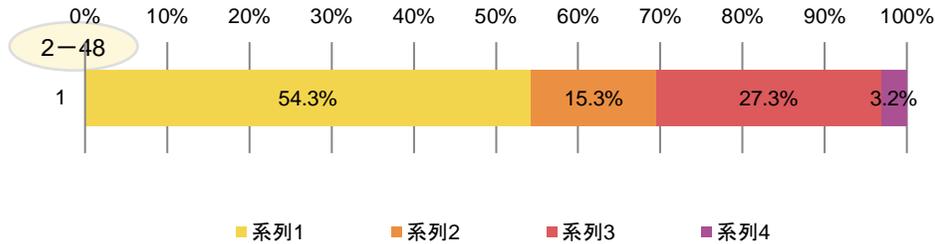
小学校

中学校

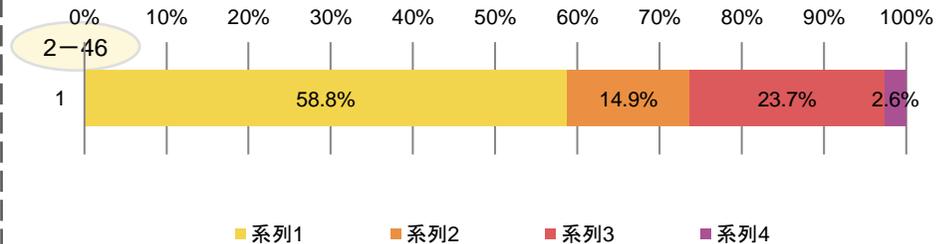
いじめ防止対策組織 / 重大事態が発生した場合の対応フローの策定

- **いじめ防止対策組織**の開催頻度は「学期ごとに1回以上」(小54.3%、中58.8%)が最も多い。
- 参加者について、小学校では「教員以外は参加していなかった」が55%、「スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー」が38%であり、中学校では「スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー」が59%、「教員以外は参加していなかった」が35%であり、こちらでも小学校ではSC・SSWの関与が中学校に比して少ない。(小1,072校、中1,075校の複数回答)

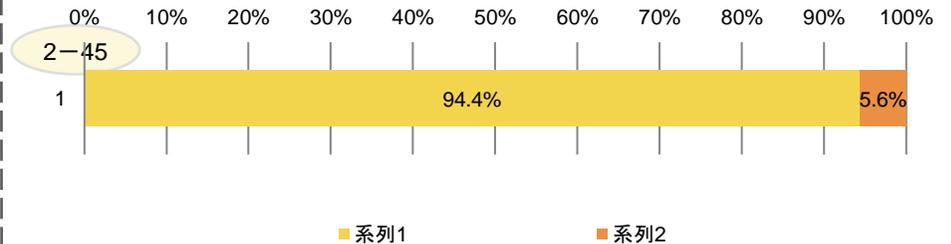
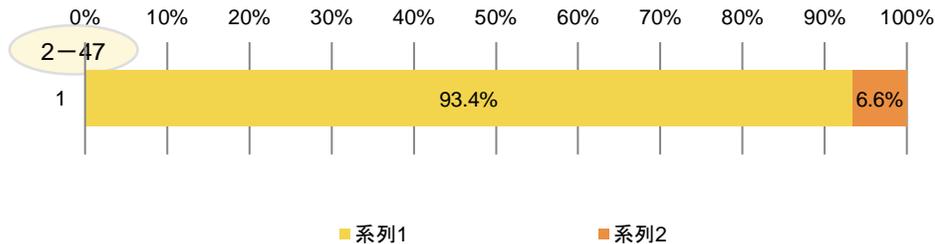
小学校



中学校



- **重大事態が発生した場合の対応フロー**について、9割以上の学校が「策定していた」(小93.4%、中94.4%)と回答した。

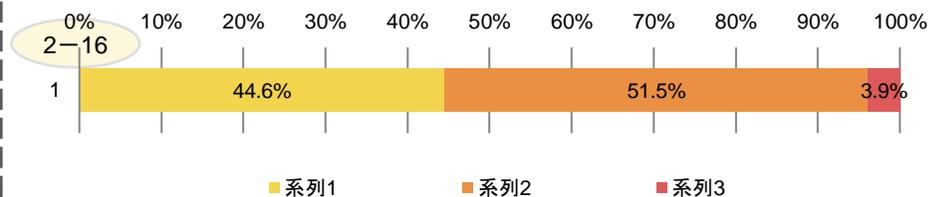
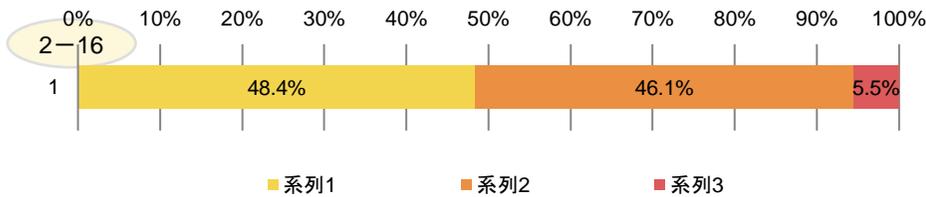
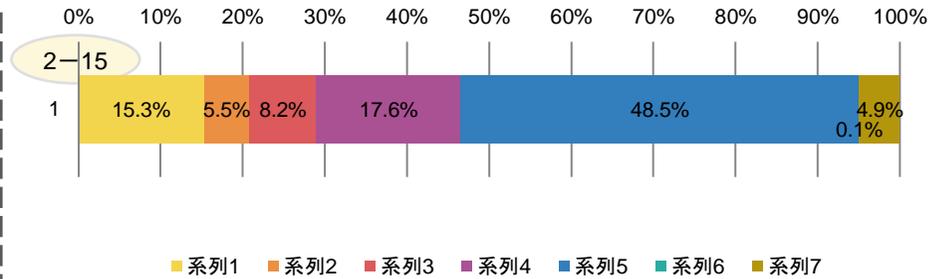
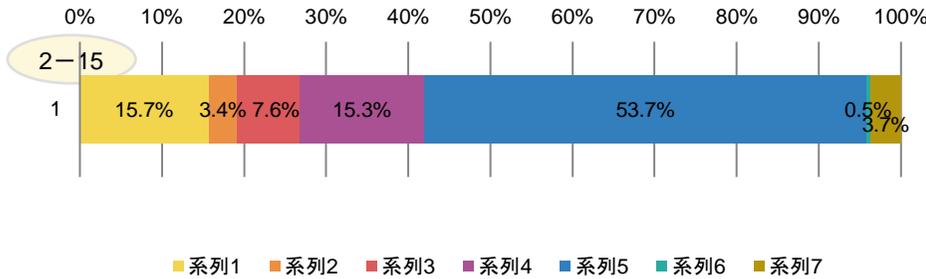


生徒指導（不登校・いじめ等）の研修/ 生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）が生じた場合のケース会議

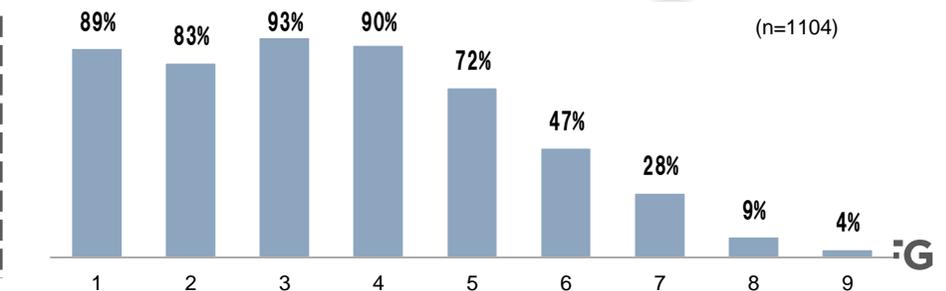
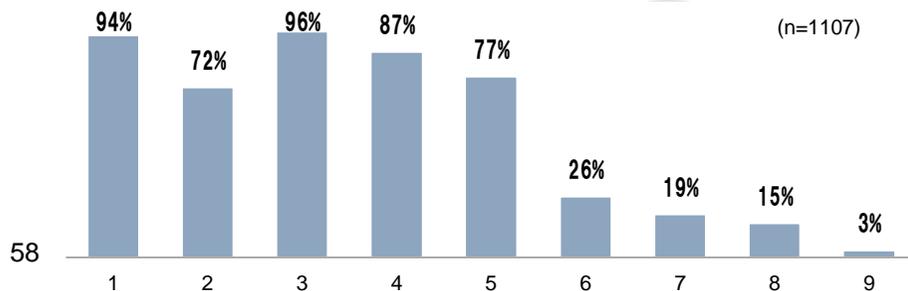
- 教育委員会が主催する生徒指導の研修について、教員の受講割合は「1割程度」（小53.7%、中48.5%）が最も多い。
- （全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）の開催頻度は、小学校では「学期ごとに1回以上」（48.4%）、中学校では「年1回～学期ごとに1回未満」（51.5%）が最も多く、研修の機会が全くないという状況は少ないと考えられる。

小学校

中学校



- ケース会議の参加者について、「校長・副校長・教頭」（小96%、中93%）が最も多いが、学級担任（小94%、中89%）や「生徒指導担当」（小87%、中90%）も多く、参加者は多様である。

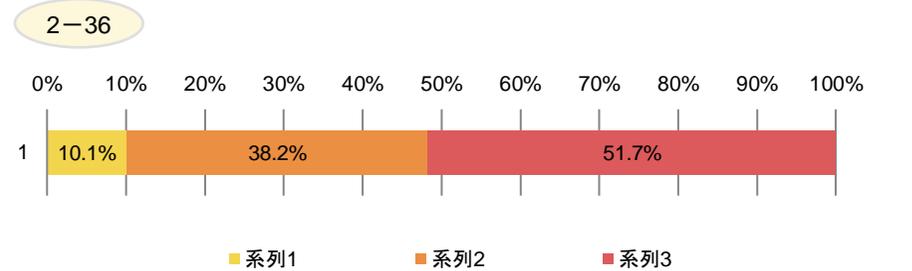
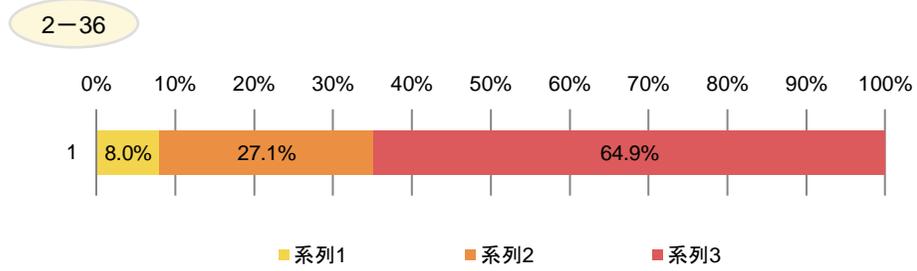


心の健康観察 / 校内教育支援センター

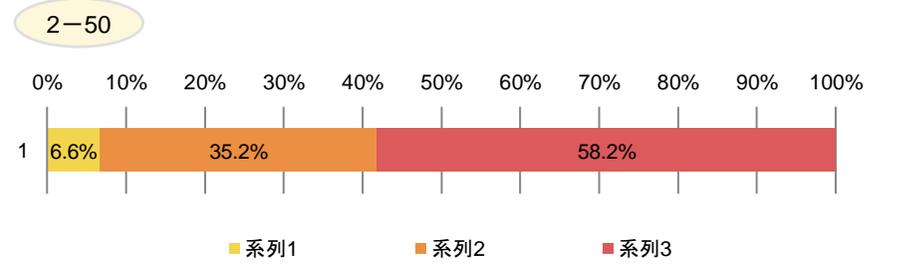
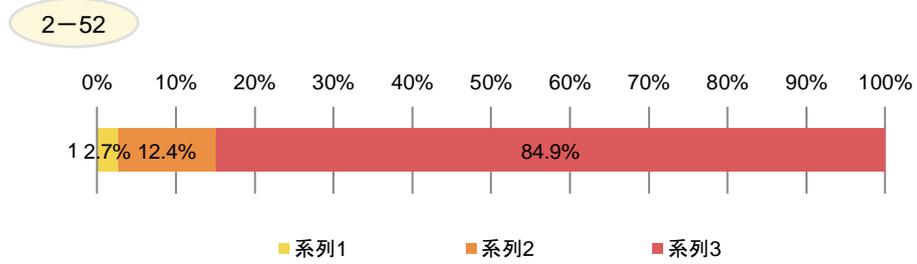
- **心の健康観察**の実施状況は、3～5割の学校が「実施していた」(小35.1%、中48.3%)。
- 利用した機能は「児童生徒が心身の状況について記録した」(小68%、中74%)が最も多い。
- 心の健康観察によって個別に生徒相談を実施した人数は「31人以上」(小38%、中42.4%)が最も多い。

小学校

中学校



- **校内教育支援センター**は1～4割の学校が「設置していた」(小15.1%、中41.8%)

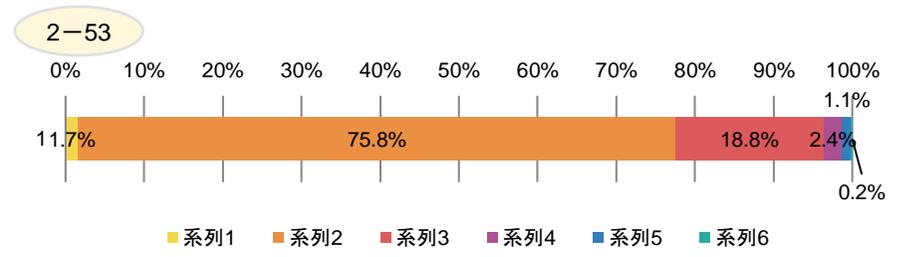
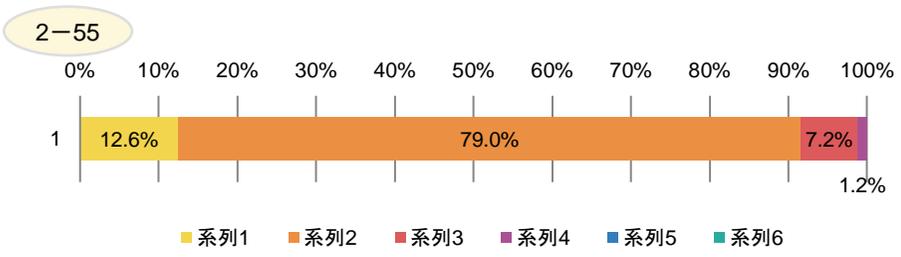
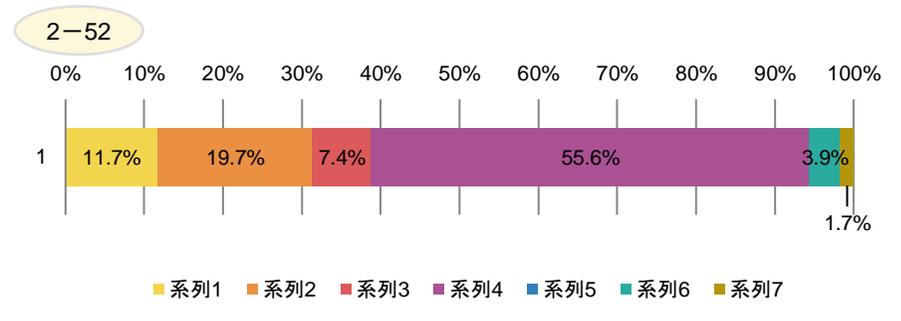
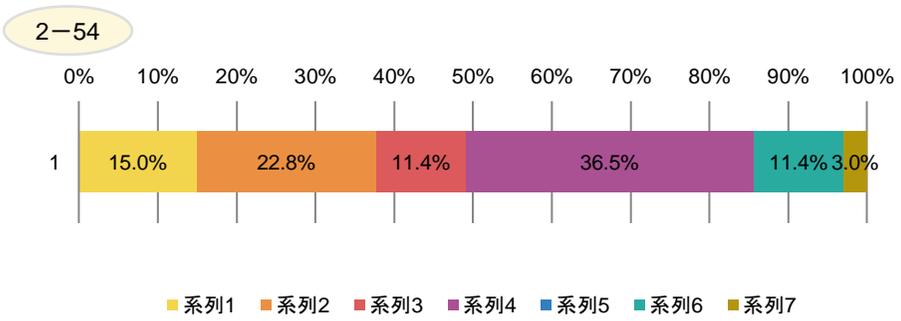
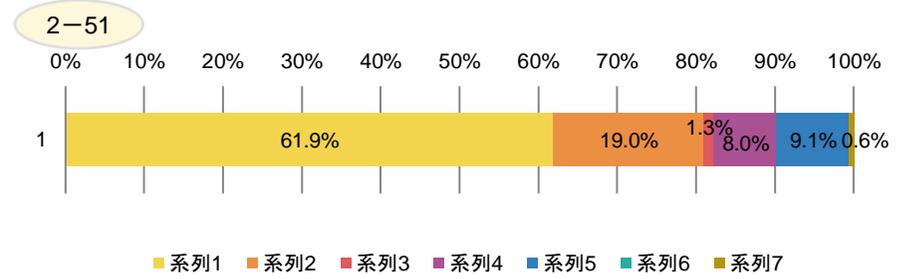
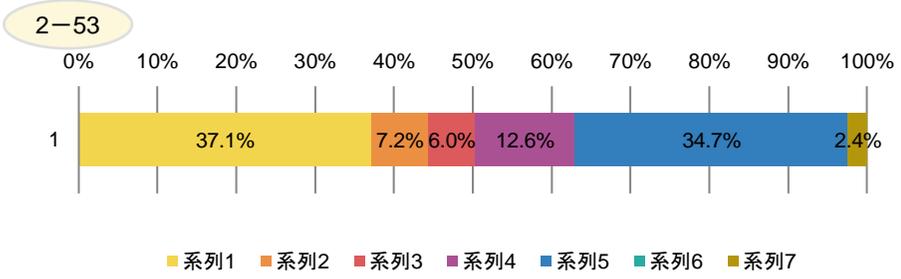


校内教育支援センターの開室日時 / 人員 / 児童生徒利用数

- **校内教育支援センター**は前ページのとおり開設している学校は限定的だが、開室日時は「毎日、常時開室していた」(小37.1%、61.9%)が最も多い。
- 人員については「教員と支援スタッフ(学習指導員等)で対応していた」(小36.5%、中55.6%)が最も多い。
- 1日当たりの平均的な児童生徒利用数は「1~5人」(小79%、中75.8%)が最も多い。

小学校

中学校

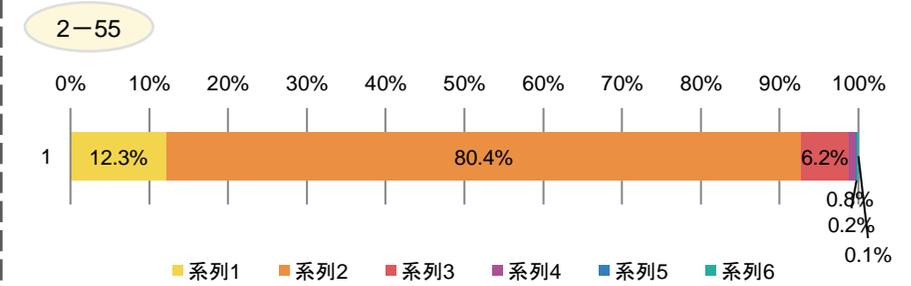
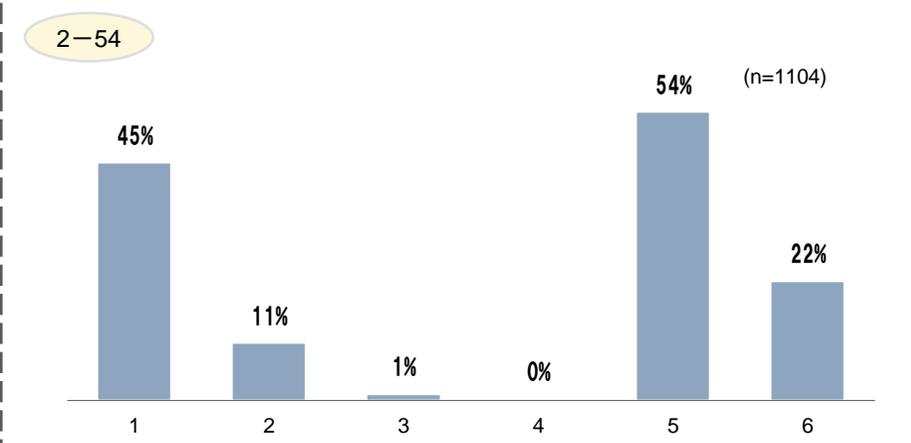
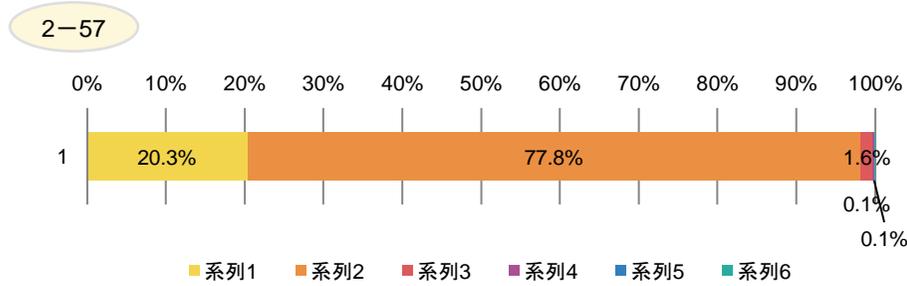
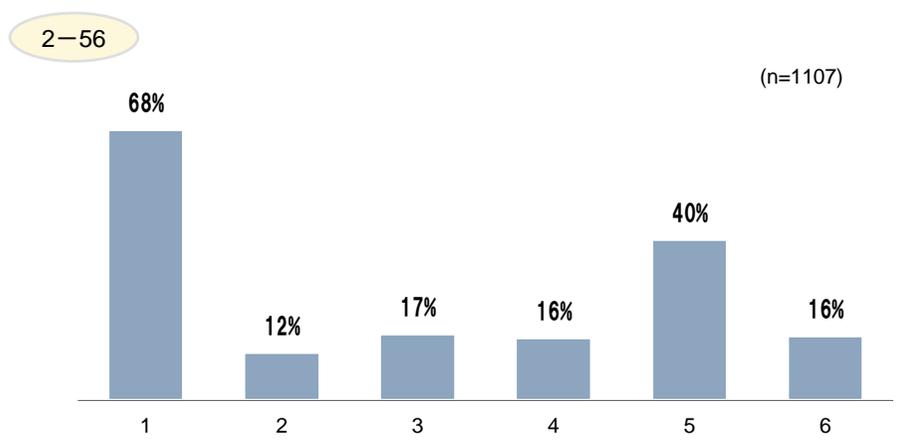


教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所

- 不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、小学校では「保健室」(68%)、中学校では「その他の教室」(54%) が最も多い。
- 1日当たりの平均的な児童生徒数は、7～8割の学校で「1～5人」(小77.8%、中80.4%) である。

小学校

中学校

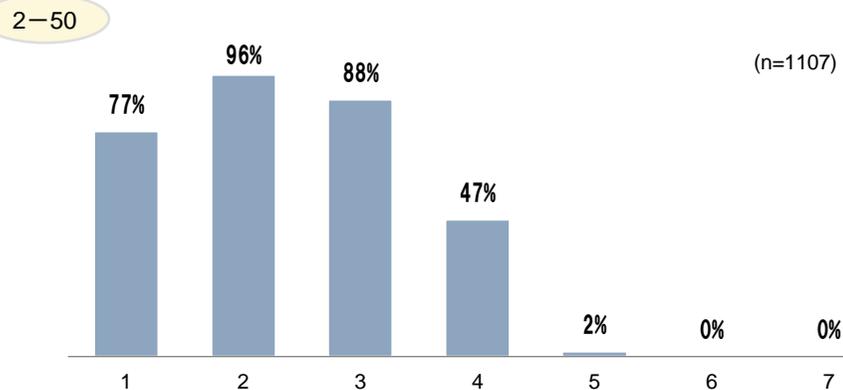


いじめに関するアンケート /

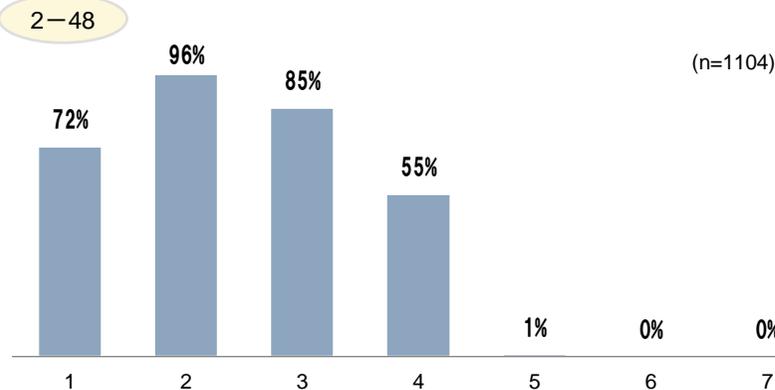
不登校や長期欠席の児童生徒の情報共有のための資料作成(児童生徒理解・支援シート等)

- **いじめに関するアンケート**の活用状況は、「聞き取りなどの追加調査」(小中ともに96%)が最も多く、多くの学校でアンケートで児童生徒から得た情報を活用している。

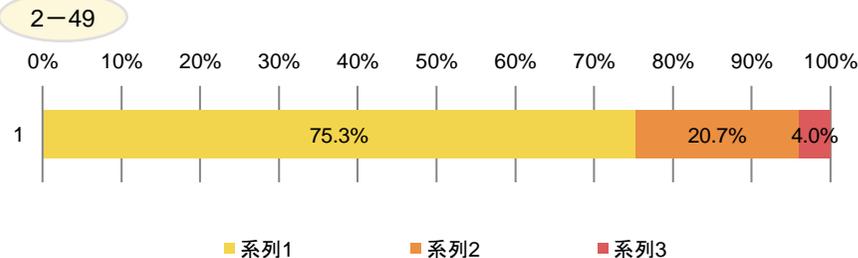
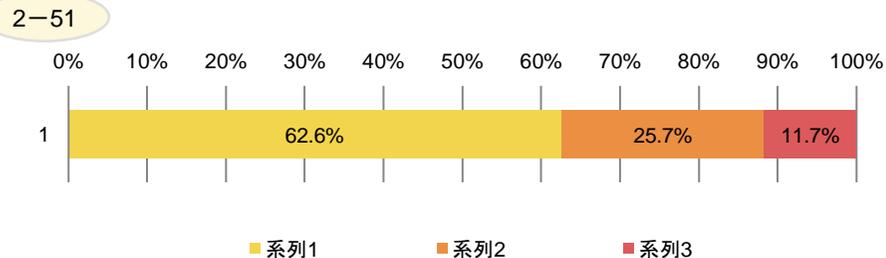
小学校



中学校



- **不登校や長期欠席の児童生徒の情報共有のための資料作成(児童生徒理解・支援シート等)**は「不登校や長期欠席の児童生徒の全員を対象に作成していた」(小62.6%、中75.3%)学校が多い。



人権教育 / 児童生徒の主体的な意見表明を目的とした授業 / SEL教育 / 障害への理解 / 異文化等の国際理解 / 体験活動への組織的な取組

- **人権教育**は約3~4割の学校で「全ての学年で年複数回取り組んでいた」(小39.3%、中44.2%)が、**それ以外の項目**は取組状況にばらつきがある。

小学校



中学校



【新規アンケート調査概要】教育委員会

- 調査対象：全ての都道府県・指定都市・市区町村教育委員会
 - 1,801教育委員会

- 調査方法：WEBアンケート調査
 - WEBアンケート調査を実施した。各教育委員会に（市区町村は都道府県教育委員会経由で）メールにてアンケート調査への協力依頼を行った。依頼状に記載されたWEB回答フォームのURLより各教育委員会から回答を得た。

- 調査期間：令和6（2024）年6月10日（月）～令和6（2024）年7月1日（月）
（※7月9日（火）まで回答延長）

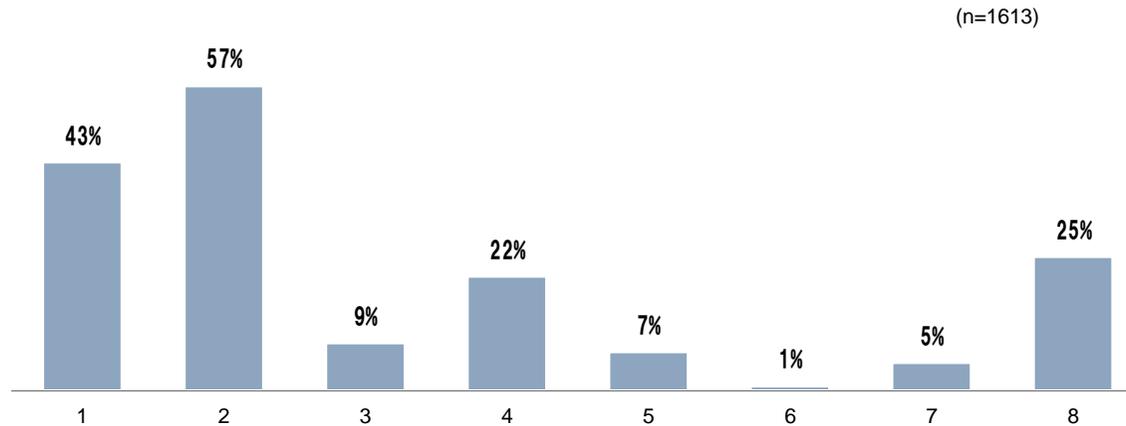
- 回収状況
 - 有効回答数 1,741件、回収率 96.7%

- 分析対象：有効回答のうち、児童生徒数が下位2.5%に当てはまる教育委員会を除いた教育委員会
 - 1,613教育委員会

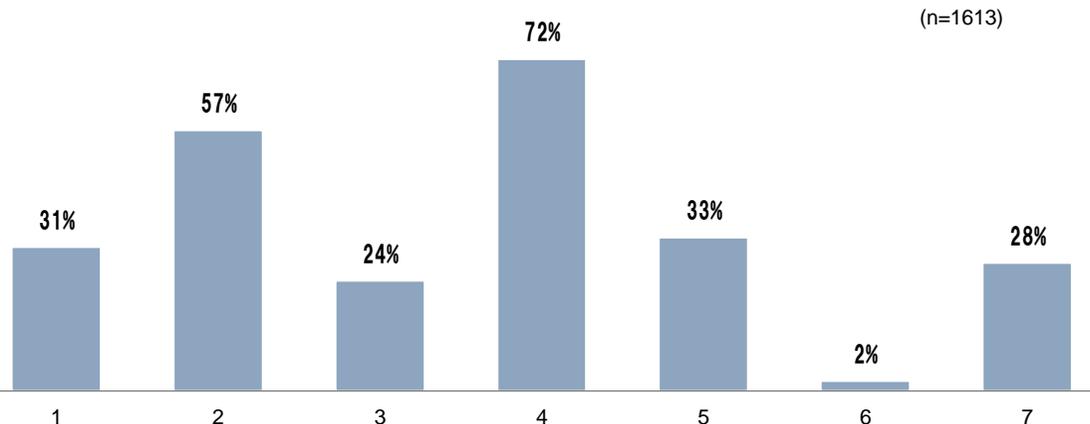
教育支援センターにおいて配置していた指導員の属性 / 行っていた取組

- **教育支援センターにおいて配置していた指導員の属性**について、「退職教職員」(57%) や「教育系職員」(43%) など、約4～5割の教育委員会で児童生徒の教育・指導に関わりのある教職員を配置していたことがうかがえる。
- 行っていた取組は、「保護者への相談や支援」(72%) が最も多く、次に「域内の不登校児童生徒の状況の把握」(57%) であり、困難を抱える保護者と児童生徒両方をサポートするような取組がなされていたことが分かる。他方で、オンラインで学習できる環境整備 (31%) や相談・指導等につながない児童生徒への訪問支援・訪問相談 (24%) については実施する教育委員会は限られている取組と言える。

2-11

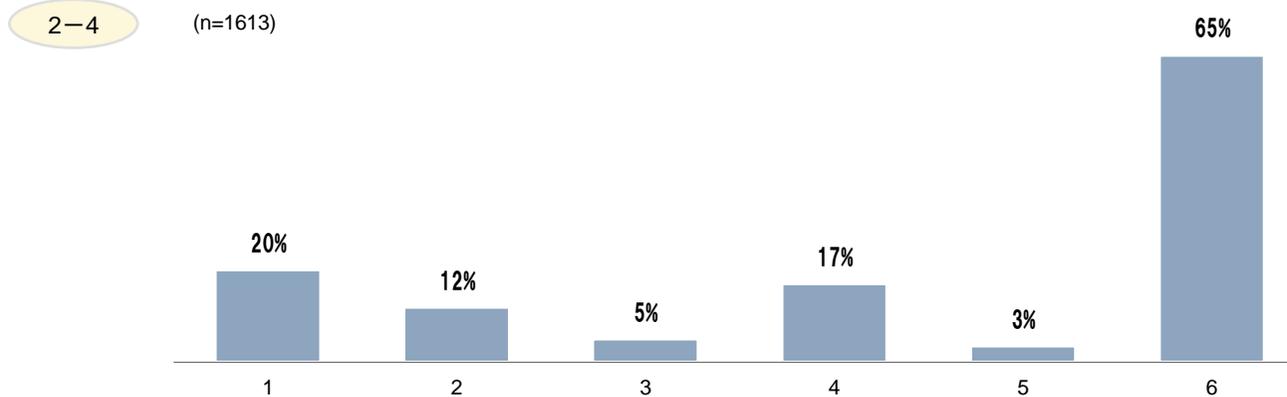


2-12

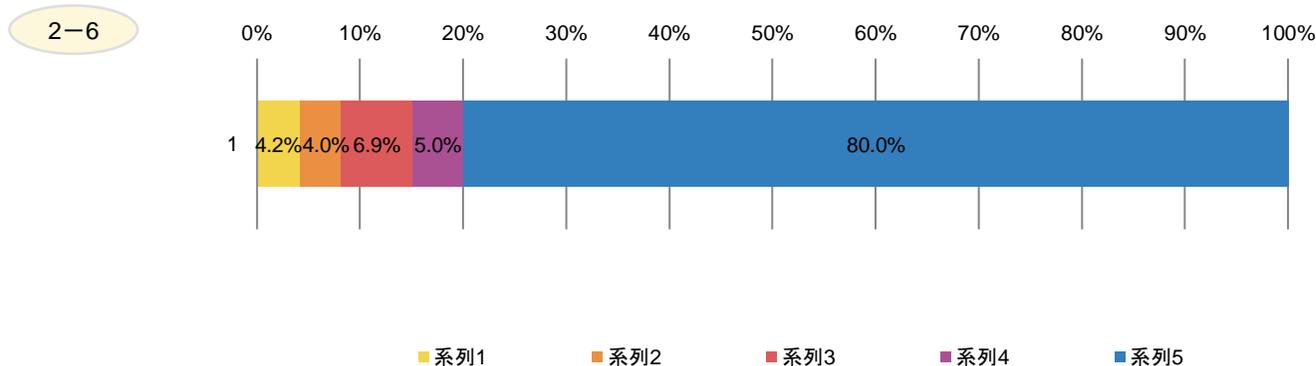


学習指導員（不登校支援に当たる学校生活適応支援に限る）配置の考え方 / SVの配置

- **学習指導員の配置**について、約6割の教育委員会で配置していなかった。
- 配置していた教育委員会では、「不登校や問題行動の発生状況に応じて」（20%）、「市町村や学校の要望や計画に応じて」（17%）配置していたと回答している。



- SCやSSWに特化した**SVの配置**について、8割の教育委員会で未配置であった。

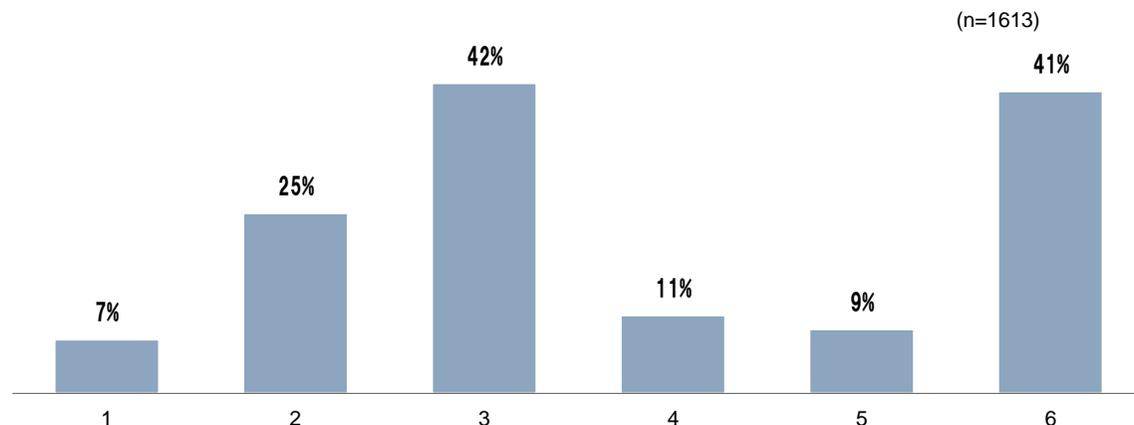


教育委員会（教員研修機関を含む）として

いじめ対策に特化した研修 / 不登校対策に特化した研修の実施

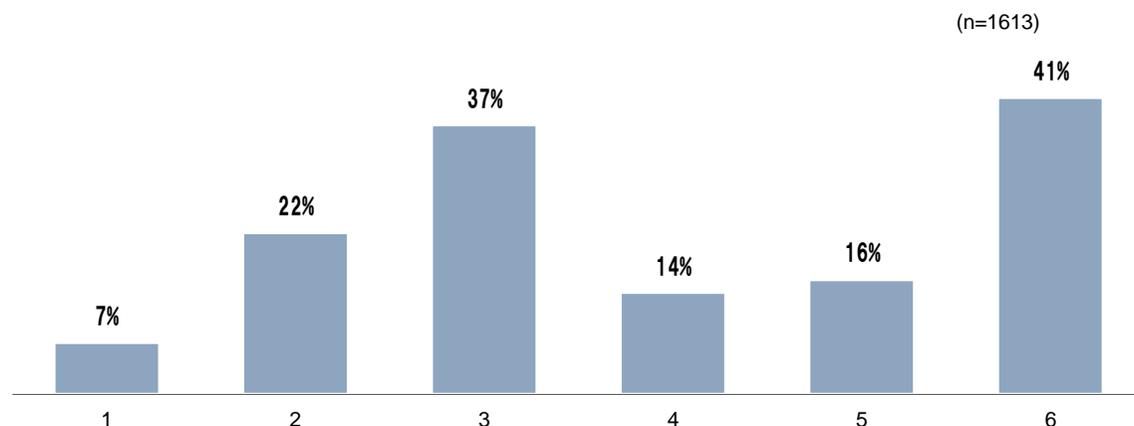
- **いじめ対策に特化した研修**について、「生徒指導担当教職員を対象とした研修」（42%）が最も多く、次いで「管理職を対象とした研修」（25%）であった。一方、約4割の教育委員会で実施していなかったと回答している。

2-8



- **不登校対策に特化した研修**について、「生徒指導担当教職員を対象とした研修」（37%）が最も多く、次いで「管理職を対象とした研修」（22%）であった。一方、約4割の教育委員会で実施していなかったと回答している。

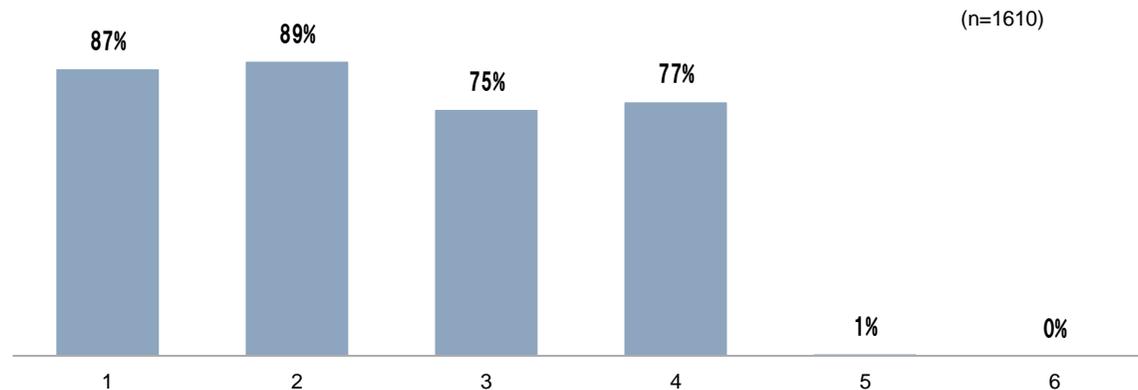
2-9



関係機関との連携 / 日本語指導が必要な児童生徒への支援

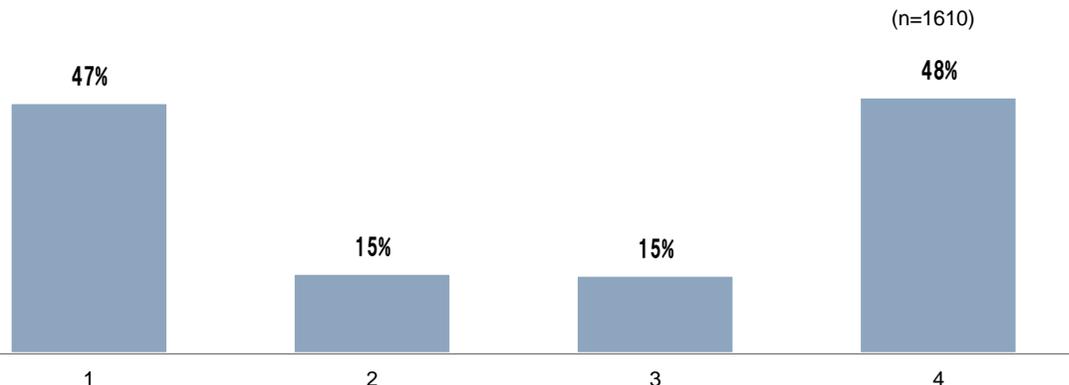
- **関係機関との連携**について、ほとんどの教育委員会でされており、特別な支援が必要な児童生徒の情報共有（87%）、要保護児童対策地域協議会への出席（89%）、福祉部局との児童生徒のデータ共有（75%）や個々の事例への対応検討（77%）など、様々な形で連携していたことがうかがえる。

2-15



- **日本語指導が必要な児童生徒への支援**について、「教育委員会内で外国人児童生徒の受け入れや日本語指導に関する担当者を設ける等により体制を整備していた」（47%）としており、半数近くの教育委員会で支援体制整備が進められていた一方で、48%の教育委員会で「取り組んでいなかった」と回答している。
※ただし、教育委員会毎に日本語指導の必要な児童生徒の数についてはばらつきがある。

2-16



9 : R4(2022)取組項目同士の関係 (小学校/中学校)

分析方法

■ 相関分析

- 取組間での関連を確認するため、相関分析を実施した。

■ 留意点

- 全ての項目で相関分析を実施したが、全ての項目を記述することは紙幅の関係上難しいため、関係の見られた特筆すべき項目の関係のみを掲載している。
- 相関表については、全ての項目について一覧として掲載しているが、有意な相関が見られたもののみ抜粋している。掲載していない項目においては有意な関連が見られていない。

取組項目間の相関の主なまとめ①：SCの取組

変数	特徴	要点
SCの対応実績	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SCの会議参加状況との間に弱い正の相関（小 .26、中 .23）があり、会議に積極的に参加していること、実際の対応実績との間には関係があることが分かる。 ■ SSWの対応実績との間に弱い正の相関（小 .23、中 .25）があり、SCとSSWで対応実績が一定程度関連していることがうかがえる。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ これらの点は、不登校数が多いために対応実績も多く、会議参加の必要性やSSW配置の必要性が高い、とも捉えられるため解釈に留意が必要。（12章クロス分析①②参照） ■ 中学校では、不登校児童生徒数が多いほど、SSWの対応実績が多くなっている。
SCの配置人数	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 通級指導の担当人数の合計との間に弱い正の相関（小 .24、中 .23）がある。 <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SSWの配置人数との間に弱い正の相関（.18）がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 特別支援教育支援員の人数（.17）、学習指導員の人数（.14）との間に弱い正の相関がある。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SCの配置人数の多い学校は発達に応じた特別な支援への取組も合わせて整っている可能性がある。
SCの職務内容	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ いじめ防止対策組織の参加者（参加職員区分の合計）（.20）、ケース会議の参加教職員（参加職員区分の合計）（.21）との間に弱い正の相関がある。 ■ 小中連携・小中一貫教育の内容（.15）、小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）（.16）、小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況（.18）との間に弱い正の相関がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 不登校の連携機関との間に弱い正の相関（.19）がある。 ■ いじめアンケートの活用方法（.17）や心の健康観察を用いた児童生徒の相談の実施人数（.20）、個に応じた教育（.18）との間に弱い正の相関がある。 	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SCの職務の多様さと、いじめ防止や対応に関わる関係者の多様さの間に関連が見られる。 ■ SCの職務の多様さが小中連携・小中一貫教育ともわずかに関わっていることが分かる。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SCの職務内容が多様なことと不登校の連携機関の充実との間に関係性がうかがえる。 ■ 直接的な不登校や、いじめに関連する取組のほか、全ての児童生徒向けの教育活動とも関連性が見られる。
SCの会議参加状況	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SSWの会議参加状況との間に、小学校では高い正の相関（.51）、中学校では中程度の正の相関（.36）がある。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SCが会議に参加している学校では、SSWも会議に参加しており、対応の必要性がある、あるいは、参加環境が整っている可能性がある。

取組項目間の相関の主なまとめ②：職員配置関連、中間アウトカム

変数	特徴	要点
児童生徒支援専任教員の人数	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>追加スタッフの配置有無</u>との間に弱い正の相関（.21）がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>警察に相談・通報した件数</u>（.16）、<u>いじめられた児童生徒への特別な対応</u>（.14）との間に弱い正の相関がある。 ■ <u>通級指導の担当人数の合計</u>（.19）と<u>特別支援教育コーディネーター専任</u>（.18）との間に弱い正の相関がある。 	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 児童生徒支援専任教員の人数と、生徒指導上の諸課題へ対応するための追加スタッフの配置有無に関連性がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ いじめの対応と児童生徒支援専任教員の配置が関連している可能性がある。 ■ <u>課題に対応すべく職員の配置が行われている可能性がうかがえる。</u>
通級指導の担当人数	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>SCの配置人数</u>（小 .24、中 .23）・<u>合計勤務時間</u>（小 .33、中 .21）・<u>対応実績</u>（小 .25、中 .28）、<u>いじめる児童生徒への特別な対応</u>（小 .26、中 .30）、<u>不登校の連携機関</u>（小 .24、中 .20）との間に弱い正の相関がある。 ■ <u>職場の人が配慮してくれる</u>（小 -.16、中 -.18）、<u>管理職のリーダーシップによる働き方改革</u>（小 -.20、中 -.27）との間に弱い負の相関がある。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 不登校支援において、<u>通級指導の担当人数がポイントになる可能性がある</u>（他の支援スタッフについては、SCの配置人数・合計勤務時間・対応実績との間に有意な相関はない） ■ <u>児童生徒の生徒指導上の対応が必要な学校では、教員の勤務環境に課題がある</u>可能性が示唆される。
個に応じた教育	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>オンライン配信の有無</u>（小 .15、中 .18）、<u>不登校の連携機関</u>（小 .20、中 .18）、<u>心の健康観察の実施の有無</u>（小 .40、中 .48）、<u>校則見直し検討の取組内容</u>（小 .15、中 .15）との間に弱い正の相関がある。 <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>教育委員会研修の参加割合</u>（.16）、<u>学校運営協議会での不登校・いじめの協議</u>（.23）との間に弱い正の相関がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）</u>（.20）、<u>ケース会議の参加教職員</u>（.15）、<u>いじめアンケートの活用方法</u>（.18）、<u>小中連携の教育内容・小中一貫教育の内容</u>（.16）、<u>小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況</u>（.17）との間に弱い正の相関がある。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 個に応じた教育を実施している学校においては、不登校への取組、全ての児童生徒向けの教育活動、個別の対応などが充実しているなど、校内の体制が整っている可能性がある。 ■ ただし学校・教室の安定した状態ゆえに、個に応じた教育が実施できている可能性もある点に留意が必要である。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 個に応じた教育を実施している学校においては、会議や研修が充実しており、小中連携が積極的に行われている可能性がある。
暴力行為の件数	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>いじめる児童生徒への特別な対応</u>との間に弱い正の相関（小 .16、中 .16）がある。 <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>警察に相談・通報した件数</u>との間に弱い正の相関（.16）がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>児童生徒支援専任教員の人数</u>との間に弱い正の相関（.18）がある。 	<p>【小中共通・小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学校内への課題への対応の間に<u>関連があることがうかがえる</u>。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>課題に応じて職員の配置が行われていることが考えられる</u>。

取組項目間の相関の主なまとめ③：困難課題対応的生徒指導の観点

変数	特徴	要点
いじめる／いじめられた児童生徒への特別な対応の合計件数	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめる児童生徒への特別な対応と通級指導の担当人数（職員数）の合計との間に弱い正の相関（小 .26、中 .30）、いじめられた児童生徒への特別な対応と特別支援学級の担当人数（職員数）の合計との間に弱い正の相関（小 .22、中 .24）がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめる児童生徒への特別な対応と特別支援学級の担当人数（職員数）の合計との間に弱い正の相関（.23）、いじめられた児童生徒への特別な対応と通級指導の担当人数（職員数）の合計との間に弱い正の相関（.22）がある。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育等の職員配置が整っている学校では、いじめへの特別な対応も行っている可能性があることがうかがえる。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ認知件数と、特別支援学級や通級指導の担当人数との間には相関が確認されないため、いじめ認知件数が高いことが必ずしも配置に関係するわけではないと考えられる。
いじめ防止対策組織の開催頻度	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> （全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）（.23）、生徒指導部会の開催頻度（.17）、不登校の支援シートの作成（.17）、いじめアンケートの活用方法（.14）との間に弱い正の相関がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた教育（.20）や主権者教育（.16）、障害者理解のための教育（.15）との間に弱い正の相関がある。 	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策組織の開催は、生徒指導研修などの取組だけでなく、いじめアンケート等の早期発見と関連していることがうかがえる。また、集団への支援の取組だけでなく、不登校支援シートなど個別の取組とも関連している。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策組織の開催をしている学校ほど、全ての児童生徒向けの教育活動を行っていると考えられる。
不登校児童生徒の学習機会	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン配信の出席扱い、オンライン配信の成績評価、フリースクールの出席扱い、フリースクールの成績評価の4項目は相互に正の相関（小 .23～.54、中 .26～.52）が見られる。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校現地での授業以外での学習機会確保に積極的な学校群があると考えられる。
校内教育支援センターの利用人数	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校内の居場所（※校内教育支援センター以外）の利用人数との間に正の相関（.37）がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通級指導の担当人数の合計との間に正の相関（.29）がある。 	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内教育支援センターの利用とは別に、利用されている学校内の居場所があることがうかがえる。 有意な相関まではないが長期欠席者数が多いほど校内教育支援センターは設置されている傾向にあるため、状況に応じた居場所構築が行われていると考える方が妥当か。（12章 クロス分析⑦参照） <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校内で特別な支援への連携ができていない可能性がある。 通級指導の担当人数と不登校児童生徒数との間には顕著な関係性はなく、校内教育支援センターの有無や頻度と不登校児童生徒数にはごくわずかな関係性があるため、解釈には留保が必要か。（12章 クロス分析⑧参照）

取組項目間の相関の主なまとめ④：課題早期発見対応、全ての児童生徒向けの教育活動の取組

変数	特徴	要点
いじめアンケートの活用方法	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策組織の開催頻度 (.14)、ケース会議の参加教職員 (.15)、小中連携・小中一貫教育の内容 (.16)、小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況 (.15) と弱い正の相関がある。 学校内の居場所の多様さ (.18)、不登校の支援シートの作成 (.14)、不登校の連携機関 (.22) との間に弱い正の相関がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケース会議の参加教職員 (.22)、心の健康観察で児童生徒が利用した機能 (.24)、心の健康観察を用いた児童生徒の相談の実施人数 (.24) との間に弱い正の相関がある。 	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの活用方法が多様である学校では、いじめ・不登校など多岐にわたる学校全体での取組体制において関連があることがうかがえる。 いじめの対策と不登校の対策が関連していることがうかがえる。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早期発見に積極的な学校において、相談対応実績があり、また、学校全体での課題対応体制が充実していることが関係していると考えられる。
心の健康観察の実施の有無	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた教育との間に中程度の正の相関 (小 .40、中 .45) がある。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の健康観察の取組を行う学校では、全ての児童生徒向けの教育活動を行っていることがうかがえる。
校則見直し検討の取組内容 (児童生徒・保護者の意見を聞くなどの取組の合計)	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策組織の参加者 (小 .15、中 .18)、(全教職員を対象とした) 生徒指導研修の実施頻度 (学校) (小 .14、中 .16)、生徒指導部会の開催頻度 (小 .14、中 .14)、不登校の連携機関 (小 .15、中 .14)、個に応じた教育 (小 .15、中 .15) との間に弱い正の相関がある。 <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の健康観察の実施の有無 (.14)、学校運営協議会での不登校・いじめの協議 (.18) との間に弱い正の相関がある。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの活用との間に弱い正の相関 (.17) がある。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒や保護者の意見を聞くなどの取組に積極的な学校ほど、生徒指導研修、生徒指導部会などの生徒指導に関する取組や、個に応じた教育などの様々な取組を実施している可能性がうかがえる。
主体的、対話的で深い学びの取組	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業での思考を深める発問、授業でのグループ活動などの実施、学習過程を見通した指導方法の改善と、児童生徒の私語の少なさ、問題を抱えている教員のサポート、実践的な研修の実践との間に弱い正の相関 (.14～.32) が見られた。 <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習過程を見通した指導方法の改善について、PTA活動の盛んさ (.14) や地域交流の盛んさ (.15) と弱い正の相関が見られる。 	<p>【小中共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びの取組が学級の雰囲気に影響をもたらす、あるいは学級雰囲気が安定していることが主体的、対話的で深い学びの取組を進めていると考えられるか。 <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導方法の改善を積極的に行っている学校では、地域や保護者の積極的な関わりがある可能性がある。(PTA・地域交流の盛んさは4択学校設問のため解釈に留意が必要)

相関分析①中間アウトカム1（小学校・取組）

- 個に応じた教育は、オンライン配信の有無、不登校の連携機関、心の健康観察の実施など、多くの取組項目との間に正の相関が見られた。
- 教員の支持的態度と、学校内の環境の項目（学級雰囲気項目、チームでの課題解決、意欲的学校環境）との間に弱い正の相関が見られた。
- 暴力行為の件数と、いじめの警察に相談・通報した件数、いじめる児童への特別な対応に弱い正の相関が見られ、学校内への課題への対応に関連があることがうかがえる。
- 児童生徒の意識や態度の項目（先生が良いところを認めてくれる～理科の授業の理解）については、その他の取組項目との間に有意な関係が見られなかった。

	学級雰 気項目_学 年の児童 の授業中 の私語が少 ない	チームでの 課題解決 問題を抱え ている教員 のサポート	意欲的学 校環境_授 業研究・事 例研究等 の実践的 な研修の 実施	警察に相 談・通報し た件数	いじめる児 童生徒への 特別な対 応_件数合 計	オンライン 配信の有 無	教育委員 会研修の 参加割合	心の健康 観察の実 施の有無	校則見直 し検討の取 組内容	学校運営 協議会での 不登校・い じめの協議	不登校の 連携機関
先生との関係性_先生が良いところを認めてくれる	-0.01	.0	-0.07	.03	.03	.06	.02	.0	.03	.05	.02
学級内サポート_人が困っているとき進んで助けている	-0.02	-0.01	-0.07	.02	.01	.06	.01	-0.01	.04	.06	.01
いじめの規範意識_いじめはいけないことだと思う	-0.02	.04	-0.04	-0.02	.01	.04	-0.01	-0.01	.01	.02	-0.01
先生との関係性_先生や学校にいる大人に困りごとなどを相談できる	.0	.0	-0.07	.03	.01	.05	.02	-0.02	.03	.03	-0.02
社会的態度項目_人の役に立つ人間になりたい	-0.03	.04	-0.05	-0.01	.01	.04	.0	.0	.03	.03	.0
学校への愛着_学校に行くのは楽しい	-0.02	.01	-0.08	.01	.03	.06	.0	-0.01	.03	.05	.0
社会的態度項目_自分と違う意見について考えるのは楽しい	.01	-0.02	-0.07	.04	-0.01	.04	.02	-0.03	.03	.05	.01
社会的態度項目_友達と協力するのは楽しい	-0.02	.03	-0.06	-0.01	.02	.04	-0.01	-0.01	.02	.02	.0
学級雰囲気項目_学級会での話し合い	.01	-0.03	-0.06	.05	.0	.06	.04	-0.02	.04	.06	.02
教師支援項目_国語の授業の理解	-0.01	-0.01	-0.07	.01	.02	.04	.01	-0.02	.05	.03	.0
教師支援項目_算数・数学の授業の理解	-0.01	.01	-0.07	.01	.01	.04	.01	-0.01	.03	.03	.01
教師支援項目_理科の授業の理解	-0.01	.03	-0.07	.01	.01	.03	.0	-0.02	.04	.02	.0
学級雰囲気項目_学年の児童の授業中の私語が少ない	1.0	-0.03	.16 ***	-0.03	.02	-0.04	.04	.0	-0.02	-0.04	-0.01
暴力行為の件数	-0.03	-0.06	.01	.15 **	.16 ***	-0.06	.05	-0.03	-0.02	-0.03	-0.05
個に応じた教育	-0.05	.05	-0.01	.02	.07	.15 *	.16 **	.40 ***	.15 *	.23 ***	.20 ***
支持的態度_児童の良い点を評価する	.27 ***	.15 **	.20 ***	-0.02	.0	.01	.01	.01	-0.02	-0.02	.0

相関分析①中間アウトカム1（中学校・取組）

- **個に応じた教育について、心の健康観察の実施の有無**との間で高い正の相関が見られ、また、多くの取組変数との弱い正の相関が見られた。
- 小学校と同様に、**教員の支持的態度と、学校内の環境の項目**（学級雰囲気項目、意欲的学校環境）との間に弱い正の相関が見られた。
- **暴力行為の件数と児童生徒支援専任教員の人数**の間に弱い正の相関が見られ、課題に応じて配置がなされていることがうかがえる。

	学級雰囲気項目_学年の児童の授業中の私語が少ない	意欲的学校環境_授業研究・事例研究等の実践的な研修の実施	SCの職務内容	いじめる児童生徒への特別な対応_件数合計	いじめ防止対策組織の開催頻度	オンライン配信の有無	生徒指導研修の実施頻度	ケース会議の参加教員	いじめアンケートの活用方法	心の健康観察の実施の有無	校則見直し検討の取組内容	小中連携・小中一貫教育の内容	小中連携・小中一貫教育の内容(年間複数実施)	小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況	不登校の連携機関	児童生徒支援専任教員の人数
先生との関係性_先生がよいところを認めてくれる	-0.02	.03	.0	-0.01	.02	-0.01	.03	.01	-0.02	-0.02	.0	.0	.0	.02	.02	.03
学級内サポート_人が困っているとき進んで助けている	-0.03	.03	-0.01	.0	.03	-0.03	.03	.01	-0.05	-0.03	-0.02	.0	-0.01	.02	.01	.03
いじめの規範意識_いじめはいけないことだと思う	-0.02	.04	.01	-0.01	-0.02	-0.04	.04	.03	.01	-0.02	.0	-0.05	-0.02	-0.04	.06	.0
先生との関係性_先生や学校にいる大人に困りごとなどを相談できる	-0.03	.02	-0.01	-0.03	-0.02	-0.01	.04	-0.01	-0.05	-0.05	.01	.0	-0.02	-0.01	-0.01	.02
社会的態度項目_人の役に立つ人間になりたい	-0.02	.04	.01	-0.02	-0.02	-0.04	.03	.02	.0	-0.02	.0	-0.04	-0.02	-0.03	.05	.0
学校への愛着_学校に行くのは楽しい	-0.01	.03	.01	-0.01	.01	-0.02	.03	.0	-0.04	-0.03	.0	-0.02	.0	.01	.03	.02
社会的態度項目_自分と違う意見について考えるのは楽しい	-0.04	.03	-0.01	-0.01	.01	-0.01	.03	.01	-0.05	-0.03	-0.02	.01	.01	.03	.0	.04
社会的態度項目_友達と協力するのは楽しい	-0.02	.04	.01	.0	-0.01	-0.03	.03	.02	-0.01	-0.02	.0	-0.04	-0.02	-0.02	.06	.01
学級雰囲気項目_学級会での話し合い	-0.04	.02	-0.01	-0.02	.02	-0.01	.01	-0.02	-0.05	-0.04	.0	.02	.03	.04	.0	.05
教師支援項目_国語の授業の理解	-0.04	.0	-0.02	-0.01	.02	.0	.03	.0	-0.04	-0.03	.0	.0	.02	.03	.01	.05
教師支援項目_算数・数学の授業の理解	-0.05	.03	.0	-0.02	.01	-0.02	.04	-0.01	-0.04	-0.03	.0	.0	.0	.02	.02	.02
教師支援項目_理科の授業の理解	-0.04	.03	-0.01	-0.01	.04	.01	.03	-0.02	-0.04	-0.03	-0.01	.01	.02	.03	.01	.03
学級雰囲気項目_学年の児童の授業中の私語が少ない	1.0	.08	.05	-0.03	-0.02	.03	-0.02	.01	.0	.07	-0.01	.06	.03	.01	-0.02	-0.05
暴力行為の件数	-0.12	-0.01	.03	.16 ***	.03	-0.03	-0.03	.07	-0.03	-0.01	.05	.02	.02	.03	.07	.18 ***
個に応じた教育	.06	-0.01	.18 ***	.01	.20 ***	.18 ***	.20 ***	.15 *	.18 ***	.48 ***	.15 *	.16 **	.18 ***	.17 **	.18 ***	.05
支持的態度_児童の良い点を評価する	.16 ***	.21 ***	.0	-0.03	-0.04	-0.01	.06	.01	.04	.02	-0.01	.08	.12	.09	-0.05	-0.01

相関分析②中間アウトカム2（小学校・取組）

- 主体的、対話的で深い学びの取組のうち、授業での思考を深める発問、授業でのグループ活動などの実施、学習過程を見通した指導方法の改善と、私語の少なさ、問題を抱えている教員のサポート、実践的な研修の実践との間に弱い正の相関が見られた。（これは主体的、対話的で深い学びの取組が影響をもたらしている、あるいは、学級雰囲気などが安定していることが主体的、対話的で深い学びの取組を進めていると考えられるか。）
- 学習過程を見通した指導方法の改善は、PTA活動の盛んさや地域交流の盛んさと弱い正の相関が見られ、指導方法の改善を積極的に行っている学校では、地域や保護者の積極的な関わりがある可能性がある。（ただし、PTA活動の盛んさや地域交流の盛んさは学校質問の4択の項目であるため、解釈に留意が必要。）

	学級雰囲気項目_学 年の児童の授業中の 私語が少ない	チームでの課題解決 問題を抱えている教 員のサポート	意欲的学校環境_授 業研究・事例研究等 の実践的な研修の実 施	PTA活動の盛んさ	地域交流の盛んさ
主・対・深の取組_発表の工夫	.03	-.03	-.06	-.03	-.01
主・対・深の取組_課題解決に向けて考えて取り組む	-.01	-.04	-.07	-.03	-.01
主・対・深の取組_考えをまとめる	.0	-.03	-.06	-.01	.02
主・対・深の取組_創作活動	.01	.0	-.06	-.04	-.01
主・対・深の取組_自分に合った学習内容	.0	-.01	-.07	-.05	-.01
主・対・深の取組_社会的態度項目_友達との話で自分の考えを深める	.01	-.02	-.07	-.02	.0
主・対・深の取組_学習内容の見直し	.0	-.01	-.07	-.02	.01
主・対・深の取組_授業での思考を深める発問	.23 ***	.11	.24 ***	.11	.12
主・対・深の取組_授業でのグループ活動などの実施	.23 ***	.15 **	.19 ***	.08	.11
主・対・深の取組_学習過程を見通した指導方法の改善	.18 ***	.15 **	.24 ***	.14 *	.15 **

相関分析②中間アウトカム2（中学校・取組）

- 小学校とほとんど同様の結果が得られており、主体的、対話的で深い学びの取組のうち、授業での思考を深める発問、授業でのグループ活動などの実施、学習過程を見通した指導方法の改善と、私語の少なさ、問題を抱えている教員のサポート、実践的な研修の実践との間に弱い正の相関が見られた。

	学級雰囲気項目_学年の児童の授業中の私語が少ない	チームでの課題解決_問題を抱えている教員のサポート	意欲的学校環境_授業研究・事例研究等の実践的な研修の実施
主・対・深の取組_発表の工夫	-0.03	-0.02	.02
主・対・深の取組_課題解決に向けて考えて取り組む	-0.03	-0.01	.02
主・対・深の取組_考えをまとめる	-0.03	.0	.02
主・対・深の取組_創作活動	-0.02	.0	.02
主・対・深の取組_自分に合った学習内容	-0.03	.01	.01
主・対・深の取組_社会的態度項目_友達との話で自分の考えを深める	-0.04	.01	.03
主・対・深の取組_学習内容の見直し	-0.03	.01	.03
主・対・深の取組_授業での思考を深める発問	.21 ***	.11	.32 ***
主・対・深の取組_授業でのグループ活動などの実施	.18 ***	.14 *	.24 ***
主・対・深の取組_学習過程を見通した指導方法の改善	.15 **	.14 *	.34 ***

相関分析③SC・SSW（小学校・取組）

- SCの取組項目間（配置人数、対応実績、職務内容、会議の参加状況）では相互に正の相関が見られており、SCの職務について学校ごとに共通性があると考えられる。
- SCとSSWのそれぞれの取組項目（配置人数、対応実績、勤務年数など）の間では相互に正の相関が見られており、SCの配置とSSWの配置に関係性があると考えられる。（不登校数が多いために対応実績も多く、SSW配置の必要性が高い、とも捉えられるため解釈に留意が必要。）
- SCの対応実績は、ケース会議の参加教職員、通級指導の担当人数と弱い正の相関が見られ、SCの対応が充実している学校では、課題に対する対応が充実していると考えられる。
- SCの職務内容は、ケース会議の参加教職員、いじめ防止対策組織の参加者との間に弱い正の相関が見られ、SCの職務の多様さと、いじめ防止や対応に関わる関係者の多様さの間に関連があると考えられる。

	SCの配置人数	SCの一週間の合計勤務時間	SCの勤務年数	SCの対応実績	SCの職務内容	SCの会議参加状況	SSWの配置人数	SSWの一週間の合計勤務時間	SSWの勤務年数	SSWの対応実績	SSWの会議参加状況	いじめ防止対策組織の参加者	ケース会議の参加教職員	学校運営協議会の開催回数	通級指導の担当人数の合計	小中連携・小中一貫教育の内容	小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）	小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況
SCの配置人数	1.0	.57 ***	.13	.32 ***	.15 *	.17 ***	.18 ***	.05	-.04	.11	.01	.06	.08	.15	.24 ***	-.04	-.02	-.01
SCの一週間の合計勤務時間	.57 ***	1.0	.13	.45 ***	.15 *	.24 ***	.06	.13	.0	.10	.02	.06	.12	.20 ***	.33 ***	-.03	.01	.01
SCの勤務年数	.13	.13	1.0	.13	.09	.05	-.03	-.03	.19 *	.04	-.01	-.02	.05	.06	.09	.02	.01	.0
SCの対応実績	.32 ***	.45 ***	.13	1.0	.30 ***	.26 ***	-.01	.02	-.04	.23 ***	.05	.09	.17 ***	.18 *	.25 ***	.0	.04	.06
SCの職務内容	.15 *	.15 *	.09	.30 ***	1.0	.28 ***	.06	.06	-.05	.10	.15	.20 ***	.21 ***	.07	.11	.15 *	.16 **	.18 ***
SCの会議参加状況	.17 ***	.24 ***	.05	.26 ***	.28 ***	1.0	.09	.09	.05	.09	.51 ***	.19 ***	.23 ***	.13	.03	.09	.12	.13
SSWの配置人数	.18 ***	.06	-.03	-.01	.06	.09	1.0	.53 ***	.09	.22 ***	.26 ***	.09	.19 ***	-.01	.08	.08	.02	.06
SSWの一週間の合計勤務時間	.05	.13	-.03	.02	.06	.09	.53 ***	1.0	.06	.32 ***	.27 ***	.13	.18 ***	-.03	.09	.03	-.01	.01
SSWの勤務年数	-.04	.0	.19 *	-.04	-.05	.05	.09	.06	1.0	.09	.09	-.05	.04	-.01	.01	.10	.03	.04
SSWの対応実績	.11	.10	.04	.23 ***	.10	.09	.22 ***	.32 ***	.09	1.0	.11	.09	.17	-.05	.16	.0	-.04	-.03
SSWの会議参加状況	.01	.02	-.01	.05	.15	.51 ***	.26 ***	.27 ***	.09	.11	1.0	.20 **	.27 ***	.10	.0	.06	.16	.16

相関分析③SC・SSW（中学校・取組）

- 小学校と同様に、SCの取組項目間（配置人数、対応実績、職務内容、会議の参加状況）では相互に正の相関が見られており、SCの職務について学校ごとに共通性があると考えられる。
- SCとSSWのそれぞれの取組項目（配置人数、対応実績、勤務年数など）の間では相互に正の相関が見られており、SCの配置とSSWの配置に関係性があると考えられる。（不登校数が多いために対応実績も多く、SSW配置の必要性が高い、とも捉えられるため解釈に留意が必要。）
- 小学校と同様に、SCの対応実績は、通級指導の担当人数と弱い正の相関が見られ、SCの対応が充実している学校では、課題に対する対応が充実していると考えられる。
- SCの職務内容について、不登校の連携機関との間に弱い正の相関が見られ、SCの職務内容が多様なことと不登校の連携機関の充実との間に関係性がうかがえるほか、校則見直しの検討や個に応じた教育などの間にも弱い正の相関が見られ、直接的な不登校やいじめに関連する取組のほか、全ての児童生徒向けの教育活動とも関連性が見られる。

	SCの一週間の合計勤務時間	SCの勤務年数	SCの対応実績	SCの会議参加状況	SSWの配置人数	SSWの一週間の合計勤務時間	いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	いじめ防止対策組織の参加者	自宅におけるICT活用学習活動を出発した児童生徒数のうち、機関等においても出席扱いを受けた児童生徒数	生徒指導部会の開催頻度	ケース会議の参加教職員	いじめアンケートの活用方法	心の健康観察を用いた生徒相談の実施人数	校則見直し検討の取組内容	通級指導の担当人数の合計	特別支援教育支援員の人数	日本語支援員・母語支援員の週間の合計勤務時間	不登校の連携機関	学習指導員の人数	追加スタッフの配置有無	個に応じた教育
SCの配置人数	.26 ***	.13	.18 ***	.11	.11	.10	.02	.05	.03	.10	.05	-.01	.01	.06	.23 ***	.17 ***	.10	.08	.14 **	-.01	.02
SCの一週間の合計勤務時間	1.0	.03	.15 **	.15 **	-.02	.07	.07	.09	.06	.06	.02	.01	.06	.03	.21 ***	.04	.29 ***	.08	.03	-.03	.0
SCの勤務年数	.03	1.0	.08	.05	-.03	-.02	-.03	.01	-.01	-.01	.01	-.04	.01	-.04	.03	.05	.04	.02	.03	.01	-.02
SCの対応実績	.15 **	.08	1.0	.23 ***	.05	.10	.15 **	.03	.04	.12	.10	.01	.13	.06	.28 ***	.07	.0	.12	.07	.08	.01
SCの職務内容	.09	.02	.15 **	.26 ***	.04	.04	.10	.17 ***	.01	.07	.23 ***	.17 ***	.20 *	.16 ***	.11	.03	.01	.19 ***	-.03	.12	.18 ***
SCの会議参加状況	.15 **	.05	.23 ***	1.0	-.01	.07	.07	.22 ***	.05	.23 ***	.21 ***	.06	.06	.10	.16	.03	.02	.12	.10	-.01	.09
SSWの配置人数	-.02	-.03	.05	-.01	1.0	.58 ***	.03	.07	.05	.02	.10	.01	.06	.09	.09	.06	.02	.03	.05	.14 *	.01
SSWの一週間の合計勤務時間	.07	-.02	.10	.07	.58 ***	1.0	.03	.07	.17 ***	.07	.09	.01	.04	.07	.17 *	.05	.01	-.01	.02	.11	-.01
SSWの勤務年数	.01	.20 **	-.06	-.08	.05	.05	.0	.06	-.06	.0	.05	.0	-.02	.04	-.09	.01	.06	.01	.03	.06	.03
SSWの対応実績	.02	.04	.25 ***	.07	.07	.14	.06	.03	.02	.09	.08	-.03	.10	-.01	.12	.07	.04	.04	.04	-.01	-.03
SSWの会議参加状況	.01	.03	.08	.36 ***	.24 ***	.29 ***	.06	.14	.06	.16	.18 *	.03	.11	.08	.14	.08	.04	.10	.06	.04	.06

相関分析④いじめアンケート・心の健康観察（小学校・取組）

- いじめアンケートの活用方法について、いじめ防止対策組織の開催頻度や、小中連携、不登校の連携機関など幅広い取組項目との間に正の相関が見られ、いじめへの対応が行われている学校では、いじめだけでなく、不登校に関する校内の取組や、小中連携教育など全ての児童生徒向けの教育活動についても充実していることが示唆される。
- 心の健康観察の実施の有無は、校則見直しや個に応じた教育など全ての児童生徒向けの教育活動との間に正の相関が見られた。

	いじめ防止対策組織の開催頻度	不登校の支援シート	学校内の居場所	ケース会議の参加教職員	校則見直し検討の取組内容	小中連携・小中一貫教育の内容	小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況	不登校の連携機関	個に応じた教育
いじめアンケートの活用方法	.14 *	.14 *	.18 ***	.15 **	.12	.16 ***	.15 *	.22 ***	.08
心の健康観察の実施の有無	.07	.02	-.01	.06	.14 *	.05	.04	.06	.40 ***
心の健康観察の利用した機能	.06	.16	.04	.15	.15	.11	.08	.09	.01
心の健康観察を用いた生徒相談の実施人数	-.01	-.03	-.04	.0	.0	-.05	-.01	.01	-.09

相関分析④いじめアンケート・心の健康観察（中学校・取組）

- 小学校と同様、いじめアンケートの活用方法について、いじめ防止対策組織の開催頻度や、不登校の連携機関など幅広い取組項目との間に正の相関が見られている。小学校と異なる点として、心の健康観察の取組（実施の有無、利用した機能、生徒相談の実施人数）との間に正の相関が見られた。
- 心の健康観察を用いた生徒相談の実施人数について、SCの職務内容との間に弱い正の相関が見られた。
- ※ #N/Aとなっている部分について、生徒相談の実施人数は、心の健康観察実施有の群のみが回答をする項目であり、相関係数が算出できないため、このような表記となっている。

	SCの職務内容	いじめ防止対策組織の開催頻度	いじめ防止対策組織の参加者	フリースクールの成績評価	生徒指導研修の実施頻度	ケース会議の参加教職員	いじめアンケートの活用方法	心の健康観察を用いた生徒相談の実施人数	校則見直し検討の取組内容	不登校の連携機関	個に応じた教育
いじめアンケートの活用方法	.17 ***	.18 ***	.15 **	.16 **	.17 ***	.22 ***	1.0	.24 ***	.17 ***	.21 ***	.18 ***
心の健康観察の実施の有無	.07	.08	.09	.11	.12	.08	.14 *	#N/A	.10	.09	.48 ***
心の健康観察の利用した機能	.17	.05	.10	.0	.05	.07	.24 ***	.28 ***	.08	.11	.04
心の健康観察を用いた生徒相談の実施人数	.20 *	.09	.04	.08	.06	.15	.24 ***	1.0	.05	.18	.03

相関分析⑤いじめの対応（小学校・取組）

- いじめ防止対策組織の開催頻度について、（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）や生徒指導部会の開催頻度、また不登校の支援シート、いじめアンケートの活用方法との間に弱い正の相関が見られ、会議や研修の頻度や、不登校やいじめの個別の対応との関係が見られた。
- いじめ防止対策組織の参加者について、SC・SSWの会議参加状況、ケース会議の参加教職員との間に正の相関が見られ、取組に多職種の関与があることが分かる。また、校則見直し検討の取組や小中連携などとの間に弱い正の相関が見られ、いじめへの対応と全ての児童生徒向けの教育活動の項目への関係が見られた。
- いじめる・いじめられた児童生徒への特別な対応は、特別支援学級の担当人数、通級指導の担当人数の合計との間に弱い正の相関が見られ、課題に応じた配置がなされていることがうかがえる。
- 重大事態対応フローはほとんどの項目と関連が見られなかったが、ほとんどの学校において、重大事態対応フローが策定されていたことが背景にあると考えられる。

	暴力行為の件数	SCの職務内容	SCの会議参加状況	SSWの会議参加状況	警察に相談・通報した件数	いじめる児童生徒への特別な対応_病院	いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	いじめられた児童生徒への特別な対応_別室の提供	オンライン配信の有無	不登校の支援シート	生徒指導研修の実施頻度	生徒指導部会の開催頻度	ケース会議の参加教職員	いじめアンケートの活用方法	校則見直し検討の取組内容	特別支援学級の担当人数の合計	通級指導の担当人数の合計	小中連携・小中一貫教育の内容	小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）	小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況
警察に相談・通報した件数	.15 **	.01	.02	.03	1.0	.01	.09	.03	.03	.0	.03	.06	.04	.03	.06	.05	.05	-.02	-.01	.0
いじめる児童生徒への特別な対応_件数合計	.16 ***	.05	.01	.02	.03	.05	.18 ***	.07	.06	.04	.0	.06	.08	.07	.08	.13	.26 ***	.02	.02	-.02
いじめる児童生徒への特別な対応_警察・刑事司法	.10	.0	.02	.02	.51 ***	.03	.04	.01	-.01	.03	.0	.04	.0	.01	.05	.04	.04	-.03	.0	.0
いじめる児童生徒への特別な対応_児童相談所	.13	-.01	.02	.03	.11	.15 **	.06	.17 ***	-.01	-.02	.03	-.04	.03	.03	.0	-.03	.01	.06	.02	.03
いじめる児童生徒への特別な対応_病院	.01	-.04	-.04	-.03	.01	1.0	.04	.09	-.01	-.03	-.03	-.02	.01	.03	-.01	-.01	.01	-.01	.0	-.02
いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	.09	-.01	.04	.09	.09	.04	1.0	.31 ***	.0	.02	.01	.03	.10	.06	.02	.22 ***	.07	.03	.0	.0
いじめられた児童生徒への特別な対応_別室の提供	.10	-.06	.04	.07	.03	.09	.31 ***	1.0	-.01	.01	.0	.04	.02	.03	.01	.04	.08	-.01	.0	.0
重大事態対応フローの有無	.02	.0	.03	.07	.04	-.06	.05	.03	.07	.14 *	.06	.06	.02	.02	.04	.0	-.01	.06	.01	.01
いじめ防止対策組織の開催頻度	.01	.04	.10	.05	.02	-.02	.06	.02	.03	.17 ***	.23 ***	.17 ***	.08	.14 *	.11	.09	.07	.09	.02	.06
いじめ防止対策組織の参加者	.0	.20 ***	.19 ***	.20 **	.02	.05	.01	.01	.15 **	.09	.06	.12	.20 ***	.11	.15 **	-.03	.03	.18 ***	.15 *	.15 **

相関分析⑤いじめの対応（中学校・取組）

- いじめ防止対策組織の開催頻度について、いじめアンケートの活用方法や個に応じた教育、不登校の連携機関との間に弱い正の相関が見られ、不登校やいじめの個別の対応との関係が見られた。
- 小学校と同様、いじめ防止対策組織の参加者について、SCの会議参加状況、ケース会議の参加教職員との間に正の相関が見られ、取組に多職種の関与があることが分かる。また、校則見直し検討の取組や小中連携などとの間に弱い正の相関が見られ、いじめへの対応と全ての児童生徒向けの教育活動の項目への関係が見られた。
- 重大事態の対応フローの策定は取組項目との関係が見られなかった。
- 小学校と同様、いじめる・いじめられた児童生徒への特別な対応は、特別支援学級の担当人数、通級指導の担当人数の合計との間に弱い正の相関が見られるほか、追加スタッフや児童生徒支援専任教員の人数との間に弱い正の相関が見られ、課題に応じた配置がなされていることがうかがえる。

	暴力行為 の件数	SCの対 応実績	SCの職 務内容	SCの会 議参加状 況	いじめる 児童生徒 への特別 な対応_件 数合計	いじめる 児童生徒 への特別 な対応_警 察・刑事 司法	いじめる 児童生徒 への特別 な対応_児 童相談所	いじめられ た児童生 徒への特 別な対応 _件数合計	自宅にお けるICT 活用学習 活動を出 席扱いと した児童 生徒数	不登校の 支援シー ト	教育委員 会研修の 参加割合	生徒指導 研修の実 施頻度	ケース会 議の参加 教職員	いじめア ンケート の活用方 法	校則見直 し検討の 取組内容	学校運営 協議会 の不参加 校・いじ め	特別支援 学級の担 当人数の 合計	通級指導 の担当人 数の合計	小中連 携・小中 一貫教育 の内容	不登校の 連携機関	児童生徒 支援専任 教員の人 数	追加スタッ フの配置 の有無	個に応じ た教育
警察に相談・通報した件数	.13	.0	.02	.0	.16 ***	.30 ***	.20 ***	.16 ***	.05	.01	.06	-.02	.03	.06	.09	.06	.10	.10	.02	.07	.16 ***	.10	-.02
いじめる児童生徒への特別な対応_件数合計	.16 ***	.12	.08	.07	1.0	.20 ***	.14 *	.56 ***	.08	.01	.07	.05	.10	.01	.06	.04	.23 ***	.30 ***	-.04	.11	.12	.20 ***	.01
いじめる児童生徒への特別な対応_警察・刑事司法	.07	.03	.02	.03	.20 ***	1.0	.59 ***	.12	.02	.03	.03	-.02	.07	-.02	.06	.0	.07	.10	-.03	.06	.06	.04	-.01
いじめる児童生徒への特別な対応_児童相談所	.09	.0	.0	.03	.14 *	.59 ***	1.0	.08	.06	.02	.05	-.04	.03	-.03	.02	.02	.09	.0	-.03	.02	.04	.01	-.02
いじめる児童生徒への特別な対応_病院	.05	-.02	.0	.0	.15 **	.36 ***	.40 ***	.06	.13 *	.0	-.02	-.01	.02	-.05	-.04	.06	-.01	.01	-.04	.05	.03	.04	.01
いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	.10	.15 **	.10	.07	.56 ***	.12	.08	1.0	.06	-.01	.06	.05	.06	.03	.11	.01	.24 ***	.22 ***	.0	.10	.14 *	.12	.05
いじめられた児童生徒への特別な対応_別室の提供	.11	.04	.07	.09	.17 ***	.01	.05	.36 ***	.12	.02	.0	.04	.06	.0	.04	-.02	.08	.15	.01	.06	.06	.08	.03
重大事態対応フローの有無	.05	.01	.04	.02	.03	.02	-.01	.03	-.02	.0	.05	.04	.01	.11	.07	.11	.05	-.01	.04	.04	.02	-.01	.04
いじめ防止対策組織の開催頻度	.03	.09	.11	.13	.10	.03	-.01	.07	-.01	.10	.15 **	.21 ***	.14 *	.18 ***	.12	.19 **	.05	.08	.12	.15 **	.03	.02	.20 ***
いじめ防止対策組織の参加者	.06	.03	.17 ***	.22 ***	.03	.01	-.03	.05	.07	.14 *	.0	.12	.18 ***	.15 **	.18 ***	.15	.03	.07	.14 *	.18 ***	.01	.05	.13

相関分析⑥教室外の教育活動（小学校・取組）

- オンライン配信、フリースクールの項目（出席扱い、成績評価）について相互に正の相関が見られており、教室外での教育活動に積極的に取り組んでいる学校群があることが示唆される。
- フリースクールの出席扱いと、不登校の連携機関の間に弱い正の相関が見られ、不登校への対応の取組が関連していることが分かる。
- ※ #N/Aとなっている部分について、オンライン配信の出席扱い・オンライン配信の成績評価は、オンライン配信有の群のみが回答をする項目であり、相関係数が算出できないため、このような表記となっている。

	いじめ防止対策 組織の参加者	自宅におけるICT 活用学習活動を 出席扱いとした児 童生徒数	自宅におけるICT 活用学習活動を 出席扱いとした児 童生徒数のうち、 機関等においても 出席扱いを受け た児童生徒数	オンライン配信の 有無	オンライン配信の 出席扱い	オンライン配信の 成績評価	フリースクールの出 席扱い	フリースクールの成 績評価	不登校の支援 シート	不登校の連携機 関	個に応じた教育
自宅におけるICT活用学習活動を出席扱いとした児童生徒数	.12	1.0	.28 ***	.14 **	.15	.07	.10	.06	.03	.13	.05
自宅におけるICT活用学習活動を出席扱いとした児童生徒数のうち、機関等においても出席扱いを受けた児童生徒数	.04	.28 ***	1.0	.10	.06	.07	.05	-.02	-.04	.06	.08
オンライン配信の有無	.15 **	.14 **	.10	1.0	#N/A	#N/A	.04	.0	.15 **	.13	.15 *
オンライン配信の出席扱い	.11	.15	.06	#N/A	1.0	.54 ***	.38 ***	.26 ***	.01	.10	.07
オンライン配信の成績評価	.10	.07	.07	#N/A	.54 ***	1.0	.23 **	.39 ***	.06	.01	.09
フリースクールの出席扱い	.04	.10	.05	.04	.38 ***	.23 **	1.0	.48 ***	.03	.18 ***	.04
フリースクールの成績評価	.01	.06	-.02	.0	.26 ***	.39 ***	.48 ***	1.0	-.01	.06	.03

相関分析⑥教室外の教育活動（中学校・取組）

- 小学校と同様、オンライン配信、フリースクールの項目（出席扱い、成績評価）といった教室外での教育活動に相互に正の相関が見られ、また、フリースクールの出席扱いと、不登校の連携機関の間に弱い正の相関が見られた。
- ※ #N/Aとなっている部分について、オンライン配信の出席扱い・オンライン配信の成績評価は、オンライン配信有の群のみが回答をする項目であり、相関係数が算出できないため、このような表記となっている。

	いじめ防止 対策組織の 参加者	自宅におけ るICT活用 学習活動を 出席扱いと した児童生 徒数	自宅における ICT活用学習 活動を出席扱 いとした児童生 徒数のうち、機 関等において も出席扱いを 受けた児童生 徒数	オンライン配 信の有無	オンライン配 信の出席扱 い	オンライン配 信の成績評 価	フリースクー ルの出席扱 い	フリースクー ルの成績評 価	不登校の支 援シート	不登校の連 携機関	個に応じた 教育
自宅におけるICT活用学習活動を出席扱いとした児童生徒数	.12	1.0	.28 ***	.14 **	.15	.07	.10	.06	.03	.13	.05
自宅におけるICT活用学習活動を出席扱いとした児童生徒数のうち、機関等においても出席扱いを受けた児童生徒数	.04	.28 ***	1.0	.10	.06	.07	.05	-.02	-.04	.06	.08
オンライン配信の有無	.15 **	.14 **	.10	1.0	#N/A	#N/A	.04	.0	.15 **	.13	.15 *
オンライン配信の出席扱い	.11	.15	.06	#N/A	1.0	.54 ***	.38 ***	.26 ***	.01	.10	.07
オンライン配信の成績評価	.10	.07	.07	#N/A	.54 ***	1.0	.23 **	.39 ***	.06	.01	.09
フリースクールの出席扱い	.04	.10	.05	.04	.38 ***	.23 **	1.0	.48 ***	.03	.18 ***	.04
フリースクールの成績評価	.01	.06	-.02	.0	.26 ***	.39 ***	.48 ***	1.0	-.01	.06	.03

相関分析⑦学校内の居場所（小学校・取組）

- 校内教育支援センターの有無と、その他スタッフの配置人数で弱い負の相関で見られている。（※小学校では、校内教育支援センターの設置校はサンプル全体の1/5以下であるため、解釈には留意が必要である。）
- 学校内の居場所の有無や利用人数と、通級指導の担当人数や不登校の連携機関との間に弱い正の相関が見られている。

	学校内の居場所の利用人数	いじめアンケートの活用方法	通級指導の担当人数の合計	不登校の連携機関	その他スタッフの配置人数（学校）
校内教育支援センターの有無	.0	.0	.14	.12	-.14 *
校内教育支援センターの開所頻度	.02	.05	.37	.10	-.06
校内教育支援センターの人員体制	.16	.04	-.15	.04	-.08
校内教育支援センターの利用人数	.37 *	.11	.27	.14	-.18
学校内の居場所	.13	.18 ***	.12	.19 ***	-.06
学校内の居場所の利用人数	1.0	.05	.24 ***	.15 *	-.08

相関分析⑦学校内の居場所（中学校・取組）

- 校内教育支援センターの有無と学校内の居場所の数の中で弱い負の相関が見られており、校内教育支援センターを設置していない学校において、居場所を設けていることが考えられる。
- 校内教育支援センターの有無や利用人数と、通級指導の担当人数や追加スタッフの配置との間に弱い正の相関が見られ、課題の多い学校に支援センターの設置や追加の配置が行われている可能性が考えられる。

	学校内の居場所	通級指導の担当人数の合計	小中連携・小中一貫教育の内容	追加スタッフの配置有無
校内教育支援センターの有無	-0.24 ***	.25 ***	-0.02	.18 ***
校内教育支援センターの開所頻度	.08	.04	-0.02	.11
校内教育支援センターの人員体制	-0.01	-0.05	.04	.02
校内教育支援センターの利用人数	-0.01	.29 **	-0.06	-0.02
学校内の居場所	1.0	-0.14	.14 *	-0.02
学校内の居場所の利用人数	.06	.12	-0.02	.03

相関分析⑧研修・ケース会議・支援シートの活用等（小学校・取組）

- ケース会議の参加教職員の種類の多様さは、SC・SSWの取組（対応実績や職務内容など）との間に弱い正の相関が見られ、ケース会議に多くのメンバーが関わっている学校においては、SC・SSWの取組が充実していることが考えられる。
- 不登校の支援シートについては、いじめ防止対策組織の開催頻度、いじめアンケートの活用方法と、また不登校の連携機関と弱い正の相関が見られる。不登校の支援シートという個に応じた対応が、いじめへの取組と関連があることや、不登校への対応の取組間に関連があることが分かる。
- 不登校の連携機関については、特別支援学級や通級指導の担当人数、また、学校内の居場所などとの間に弱い正の相関が見られ、不登校の体制づくりについて、職員の体制や、不登校対応の居場所づくりの取組と関連があることが分かる。

	SCの対 応実績	SCの職 務内容	SCの会 議参加 状況	SSWの 配置人 数	SSWの 一週間 の合計 勤務時 間	SSWの 会議参 加状況	重大事 態対応 フローの 有無	いじめ 防止対 策組織 の開催 頻度	いじめ 防止対 策組織 の参加 者	オンライ ン配信 の有無	フリース クールの 出席扱 い	学校内 の居場 所	学校内 の居場 所の利 用人数	生徒指 導研修 の実施 頻度	生徒指 導部会 の開催 頻度	いじめア ンケート の活用 方法	校則見 直し検 討の取 組内容	学校運 営協議 会での 不登校・い じめの協 議	特別支 援学級 の担当 人数の 合計	通級指 導の担 当人数 の合計	小中連 携・小 中一貫 教育の 取組の 実施状 況	小中連 携・小 中一貫 教育の 取組の 実施状 況	不登校 の連携 機関	個に応 じた教 育
不登校の支援シート	.0	.03	.08	-.01	.0	.11	.14 *	.17 ***	.09	.15 **	.03	.09	.08	.15 **	.11	.14 *	.10	.08	.04	.09	.10	.07	.18 ***	.09
教育委員会研修の参加割合	.03	.08	.14	.01	-.04	.07	.02	.05	.05	.06	.03	.06	.03	.14 *	.14 *	.06	.10	.13	.09	.04	.09	.06	.13	.16 **
生徒指導研修の実施頻度	.02	.06	.09	.0	-.04	.04	.06	.23 ***	.06	.03	.0	.01	.04	1.0	.11	.13	.14 *	.19 ***	.0	-.03	.17 ***	.15 **	.07	.13
生徒指導部会の開催頻度	.07	.08	.12	.06	.03	.03	.06	.17 ***	.12	.02	.07	.04	.0	.11	1.0	.08	.14 *	.03	.03	.10	.11	.08	.11	.10
ケース会議の参加教職員	.17 ***	.21 ***	.23 ***	.19 ***	.18 ***	.27 ***	.02	.08	.20 ***	.09	.01	.10	.08	.10	.11	.15 **	.06	.01	.13	.14	.16 ***	.19 ***	.19 ***	.10
不登校の連携機関	.08	.14	.05	.0	.05	.02	.05	.07	.11	.13	.18 ***	.19 ***	.15 *	.07	.11	.22 ***	.15 **	.07	.16 *	.24 ***	.13 *	.12	1.0	.20 ***

相関分析⑧研修・ケース会議・支援シートの活用等（中学校・取組）

- 小学校と同様に、ケース会議の参加教職員は、SC・SSWの取組（対応実績や職務内容など）との間に弱い正の相関が見られ、ケース会議に多くのメンバーが関わっている学校においては、SC・SSWの取組が充実していることが考えられる。
- 不登校の連携機関は、いじめアンケートの活用や、通級指導の担当人数、個に応じた教育など、多くの取組項目と関連が見られる。
- 不登校の支援シートの活用は、小学校と異なり、いじめ防止対策組織の参加者のみとの間に弱い正の相関が見られた。（※これは、中学校において全体のサンプルの9割以上が活用していると回答しているため、差が見えにくくなっていることが要因の一つと考えられる。）

	SCの職務内容	SCの会議参加状況	SSWの会議参加状況	いじめ防止対策組織の開催頻度	いじめ防止対策組織の参加者	フリースクールの出席扱い	いじめアンケートの活用方法	校則見直し検討の取組内容	学校運営協議会での不登校・いじめの協議	通級指導の担当人数の合計	小中連携・小中一貫教育の内容	不登校の連携機関	追加スタッフの配置有無	個に応じた教育
不登校の支援シート	.07	.05	-.02	.10	.14 *	.07	.11	.08	.05	.04	.05	.09	.0	.10
教育委員会研修の参加割合	.08	.06	.04	.15 **	.0	.06	.10	.04	.12	.04	.06	.07	.02	.11
生徒指導研修の実施頻度	.13	.08	.03	.21 ***	.12	.04	.17 ***	.16 ***	.18 *	.04	.13 *	.17 ***	.02	.20 ***
生徒指導部会の開催頻度	.07	.23 ***	.16	.09	.12	.09	.10	.14 *	.08	.22 ***	.02	.16 ***	.07	.03
ケース会議の参加教職員	.23 ***	.21 ***	.18 *	.14 *	.18 ***	.05	.22 ***	.13	.04	.08	.09	.15 **	.10	.15 *
不登校の連携機関	.19 ***	.12	.10	.15 **	.18 ***	.21 ***	.21 ***	.14 *	.13	.20 ***	.10	1.0	.14 **	.18 ***

相関分析⑨学校運営協議会・地域との関わり（小学校・取組）

- PTA活動の盛んさと地域交流の盛んさの間に正の相関が見られた。また、それぞれ学習過程を見通した指導方法の改善との間に弱い正の相関が見られた。
- 学校運営協議会の開催回数について、SCの勤務時間や対応実績、小中連携との間に弱い正の相関が見られ、学校運営協議会の取組を行っている学校では、SCの配置や、SCの対応が充実している傾向があり、小中連携を積極的に行っていることが分かる。
- 学校運営協議会の不登校・いじめの協議内容の充実（学校全体の状況報告、個別事案の報告、課題解決の協議）について、（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）、校則見直し検討の取組、個に応じた教育など、全ての児童生徒向けの教育活動との間に弱い正の相関が見られた。

	SCの一週間の合計勤務時間	SCの対応実績	生徒指導研修の実施頻度	地域交流の盛んさ	校則見直し検討の取組内容	学校運営協議会の委員人数	小中連携・小中一貫教育の内容	小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況	個に応じた教育	主・対・深の取組_学習過程を見通した指導方法の改善
PTA活動の盛んさ	-.04	.01	.0	.48 ***	.07	.10	.08	.03	.06	.14 *
地域交流の盛んさ	-.06	-.08	.0	1.0	.08	.09	.07	.03	.02	.15 **
学校運営協議会の開催回数	.20 ***	.18 *	.11	.05	-.02	.14	.17 *	.19 **	.05	.11
学校運営協議会の委員人数	.02	.02	.03	.09	-.07	1.0	.15	.12	-.06	.01
学校運営協議会の委員のうち教員人数	.0	.01	.01	-.01	-.07	.59 ***	.02	.02	-.07	-.04
学校運営協議会の構成員	.04	-.05	.06	.06	.06	.23 ***	.14 *	.11	.03	.09
学校運営協議会での不登校・いじめの協議	.03	-.05	.19 ***	.01	.18 **	-.12	.02	.04	.23 ***	.04
地域主導の学校・地域交流行事の実施回数	.03	.01	.06	.20 ***	.03	.02	.02	.03	.02	-.01

相関分析⑨学校運営協議会・地域との関わり（中学校・取組）

- 小学校と同様、PTA活動の盛んさと地域交流の盛んさの間に正の相関が見られた。地域交流の盛んさについて、小中連携との間に弱い正の相関が見られた。
- 学校運営協議会の構成員について、地域交流の盛んさ、小中連携との間に弱い正の相関が見られ、学校運営協議会に多様なメンバーが参加している学校では、地域との交流や小中連携を積極的に行っていることが分かる。
- 学校運営協議会の不登校・いじめの協議内容の充実（学校全体の状況報告、個別事案の報告、課題解決の協議）について、いじめ防止対策組織の開催頻度、（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）など、いじめの取組や、全ての児童生徒向けの教育活動との間に弱い正の相関が見られた。

	いじめ防止対策組織の開催頻度	生徒指導研修の実施頻度	地域交流の盛んさ	学校運営協議会の委員人数	小中連携・小中一貫教育の内容	学習指導員の一週間の合計勤務時間
PTA活動の盛んさ	.01	.01	.45 ***	.03	.01	-.07
地域交流の盛んさ	.04	.01	1.0	.12	.17 ***	-.03
学校運営協議会の開催回数	.07	.09	.13	.10	.12	-.02
学校運営協議会の委員人数	-.03	-.03	.12	1.0	.09	.08
学校運営協議会の委員のうち教員人数	.01	-.02	.06	.57 ***	.04	.17 *
学校運営協議会の構成員	.10	.03	.13 *	.19 **	.17 ***	.02
学校運営協議会での不登校・いじめの協議	.19 **	.18 *	.06	-.06	.12	.04
地域主導の学校・地域交流行事の実施回数	.06	.08	.14 **	.08	.07	.01

相関分析⑩支援スタッフの配置（小学校・取組）

- 通級指導の担当人数と、SCの配置人数・合計勤務時間・対応実績、学校内の居場所の利用人数や、不登校の連携機関など多くの取組項目と弱い正の相関が見られている。不登校支援において、通級指導の担当人数がポイントになる可能性がある。（なお、SCの配置人数・合計勤務時間・対応実績と他の支援スタッフの間には有意な相関はない。）一方で、教員の勤務環境の項目と弱い負の相関が見られており、児童生徒の生徒指導上の対応が必要な学校では、教員の勤務環境に課題がある可能性が示唆される。
- 追加スタッフの配置の有無は、児童生徒支援専任教員の人数や特別支援学級の担当人数の合計と弱い正の相関があり、対応が必要な学校では様々な専門スタッフの配置の工夫がされている可能性がある。

	教員_人間関係_職場の人が配慮してくれる	教員_人間関係_気軽に話ができる	教員_チームでの課題解決_管理職のリーダーシップによる働き方改革	SCの配置人数	SCの一週間の合計勤務時間	SCの対応実績	いじめた児童生徒への特別な対応_件数合計	いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	校内教育_支援センターの有無	学校内の居場所の利用人数	特別支援学級の担当人数の合計	特別支援教育支援員の一週間の合計勤務時間	日本語指導の担当人数の合計	日本語支援員・母語支援員の一週間の合計勤務時間	不登校の連携機関	学習指導員の一週間の合計勤務時間	追加スタッフの配置有無
特別支援学級の担当人数の合計	-0.06	-0.08	-0.10	-0.05	-0.03	-0.03	.13	.22 ***	.04	.12	1.0	.23 ***	.11	.07	.16 *	.06	.17 *
通級指導の担当人数の合計	-.16 *	-.18 *	-.20 ***	.24 ***	.33 ***	.25 ***	.26 ***	.07	.14	.24 ***	.40 ***	.09	.19 ***	.08	.24 ***	.07	.03
特別支援教育コーディネーター専任	-0.02	-0.06	-0.04	.02	.02	-0.02	.12	.08	.08	.05	.15	-0.03	.0	-0.03	.08	-0.04	.09
特別支援教育支援員の人数	-0.03	-0.01	-0.03	.02	-0.02	-0.03	.03	.02	.0	.06	.30 ***	.73 ***	.12	.13	.07	-0.02	.08
特別支援教育支援員の一週間の合計勤務時間	.0	.02	.0	-0.01	-0.02	-0.03	.02	.0	-0.01	.03	.23 ***	1.0	.08	.18 ***	.04	.05	.06
日本語指導の担当人数の合計	-0.01	-0.02	-0.04	.06	.08	.10	.01	-0.01	.06	.0	.11	.08	1.0	.28 ***	.12	.02	.05
日本語支援員・母語支援員の人数	-0.04	-0.05	-0.07	.07	.04	.0	.0	-0.04	-0.02	.0	.10	.10	.21 ***	.39 ***	-0.01	.04	-0.01
日本語支援員・母語支援員の一週間の合計勤務時間	.02	.01	.0	.06	-0.01	.0	.0	-0.03	.02	-0.05	.07	.18 ***	.28 ***	1.0	.02	.04	.05
児童生徒支援専任教員の人数	.04	.02	-0.09	.01	-0.01	.04	.04	.05	.08	.06	.12	-0.01	.07	.03	.07	-0.03	.21 ***
学習指導員の人数	-0.05	.0	-0.03	.08	.03	.0	.05	-0.04	.04	.06	.06	.02	.03	.04	.11	.75 ***	.04
学習指導員の一週間の合計勤務時間	-0.03	.02	.01	.06	.05	-0.04	.02	-0.02	.04	.03	.06	.05	.02	.04	.07	1.0	.03
追加スタッフの配置有無	.04	.02	-0.01	-0.02	-0.05	-0.02	.06	.13	.06	.08	.17 *	.06	.05	.05	.09	.03	1.0
追加スタッフへの軽減措置	-0.01	-0.03	-0.01	-0.03	.01	.02	.12	.11	.13	-0.11	-0.04	.10	.18	.24	.0	-0.04	.17
その他スタッフの配置人数（学校）	.01	.02	.04	-0.03	.0	-0.01	-0.03	-0.04	-.14 *	-0.08	-0.13	-0.09	-0.03	-0.03	-0.11	-0.02	-0.13

相関分析⑩支援スタッフの配置（中学校・取組）

- 小学校と同様、**通級指導の担当人数と、SCの配置人数・合計勤務時間・対応実績**やその他の幅広い取組項目と弱い正の相関が見られ、不登校支援において、**通級指導の担当人数がポイントになる可能性がある**（SCの配置人数・合計勤務時間・対応実績と他の支援スタッフとの間には有意な相関はない）また、**教員の勤務環境の項目**と弱い負の相関が見られており、**児童生徒の生徒指導上の対応が必要な学校では、教員の勤務環境に課題がある**可能性が示唆される。
- 追加スタッフの配置の有無は、**SSWの配置人数、児童生徒支援専任教員の人数や特別支援学級の担当人数の合計**との間に弱い正の相関があり、小学校と同様、**対応が必要な学校では様々な専門スタッフの配置の工夫がされている**可能性がある。

	教員_人間関係_意思疎通がよいっていない	教員_人間関係_苦手な人がいる	教員_人間関係_職場の人が配慮してくれる	教員_人間関係_合計得点	教員_チームでの課題解決_管理職のリーダーシップによる働き方改革	SCの配置人数	SCの一週間の合計勤務時間	SCの対応実績	SSWの一週間の合計勤務時間	いじめ児童生徒への特別な対応_件数合計	いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	自宅におけるICT活用_学習活動を出席扱いとした児童生徒数	自宅におけるICT活用_学習活動を出席扱いとした児童生徒数	校内教育_支援センターの有無	校内教育_支援センターの利用人数	生徒指導部会の開催頻度	特別支援学級の担当人数の合計	通級指導の担当人数の合計	特別支援教育支援員の人数	日本語指導の担当人数の合計	日本語支援員・母不登校の連携支援員	児童生徒支援専任教員の人数	
特別支援学級の担当人数の合計	.12	.09	-.12	-.13	-.15	.09	.0	.03	.07	.23 ***	.24 ***	-.01	.01	.14	.06	.10	1.0	.35 ***	.27 ***	.01	.05	.12	.13
通級指導の担当人数の合計	.17 *	.20 ***	-.18 *	-.20 ***	-.27 ***	.23 ***	.21 ***	.28 ***	.17 *	.30 ***	.22 ***	.17 *	.18 **	.25 ***	.29 **	.22 ***	.35 ***	1.0	.26 ***	.09	.15	.20 ***	.19 **
特別支援教育コーディネーター専任	.03	.01	-.02	-.02	-.06	.07	.04	.01	.0	.02	.0	.03	.04	.05	.02	.06	.04	.09	.06	.15	.03	.03	.18 ***
特別支援教育支援員の人数	.10	.10	-.06	-.09	-.12	.17 ***	.04	.07	.05	.10	.10	-.03	.0	.11	.03	.06	.27 ***	.26 ***	1.0	-.01	.10	.09	.08
特別支援教育支援員の一週間の合計勤務時間	.04	.05	-.01	-.02	-.07	.11	.03	.03	.06	.08	.07	-.02	.01	.08	.02	.05	.24 ***	.18 **	.63 ***	.01	.02	.0	.06
日本語指導の担当人数の合計	.03	.08	.01	-.02	-.10	.07	.04	.04	.0	.01	-.02	.02	-.01	.10	.09	.05	.01	.09	-.01	1.0	.22 ***	.02	.08
日本語支援員・母語支援員の人数	-.01	.05	.01	.01	.01	.11	.06	.03	.0	.03	.01	.02	.03	.06	.14	.06	.05	.15	.10	.22 ***	1.0	.06	.06
日本語支援員・母語支援員の一週間の合計勤務時間	-.01	.0	.04	.04	.01	.10	.29 ***	.0	.01	.01	.02	-.03	-.01	.02	.11	.0	.03	.09	.10	.42 ***	.55 ***	.02	.04
						暴力行為の件数	SCの配置人数	SSWの配置人数	警察に相談・通報した件数	いじめ児童生徒への特別な対応_件数合計	いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	校内教育支援センターの有無	学校運営協議会の委員のうち教員人数			通級指導の担当人数の合計	不登校の連携機関	児童生徒支援専任教員の人数	学習指導員の人数				
児童生徒支援専任教員の人数						.18 ***	.01	.11	.16 ***	.12	.14 *	.10	-.01			.19 **	.07	1.0				.0	
学習指導員の人数						.02	.14 **	.05	-.01	.08	.05	-.03	.11			.11	.05	.0				1.0	
学習指導員の一週間の合計勤務時間						.01	.12	.07	-.02	.08	.07	-.02	.17 *			.06	.03	-.01				.69 ***	
追加スタッフの配置有無						.11	-.01	.14 *	.10	.20 ***	.12	.18 ***	-.04			.21 ***	.14 **	.22 ***				.0	
追加スタッフへの軽減措置						.01	.08	.03	.05	.13	.15	.10	-.01			.10	.09	.13				-.02	
その他スタッフの配置人数（学校）						-.01	-.08	-.01	-.06	-.09	-.04	-.13	.04			-.11	-.09	-.04				-.02	

相関分析⑪学校の教育活動における工夫（小学校・取組）

- 校則見直しの実施の有無については、他の取組項目と関連が見られなかったが、校則見直し検討の取組内容の充実（校則等のホームページへの掲載、校則見直しに当たって児童生徒・保護者・学校関係者への意見を聞いていた等）は、心の健康観察の実施、いじめ防止対策組織の参加者、学校運営協議会での協議などの項目との弱い正の相関が見られ、児童や保護者の意見を聞いている学校では、個に応じた取組が実施されており、対応に関わる関係者が多様になっていると考えられる。
- 小中連携の取組は、SCの職務内容、いじめ防止対策組織の参加者、（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）、ケース会議の参加教職員、学校運営協議会の構成員等、幅広い取組項目と弱い正の相関が見られ、小中連携が行われている学校では、対応に関わる関係者が多様になっていると考えられる。

	SCの職務内容	いじめ防止対策組織の参加者	生徒指導研修の実施頻度	生徒指導部会の開催頻度	ケース会議の参加教職員	いじめアンケートの活用方法	心の健康観察の実施の有無	校則見直しの実施	学校運営協議会の開催回数	学校運営協議会の構成員	学校運営協議会での不登校・いじめの協議	小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）	小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況	不登校の連携機関	個に応じた教育
校則見直しの実施	.08	.08	.09	.08	.06	.04	.03	1.0	.05	-.01	.03	.07	.12	.02	.06
校則見直し検討の取組内容	.08	.15 **	.14 *	.14 *	.06	.12	.14 *	.27 ***	-.02	.06	.18 **	.10	.11	.15 **	.15 *
小中連携・小中一貫教育の内容	.15 *	.18 ***	.17 ***	.11	.16 ***	.16 ***	.05	.11	.17 *	.14 *	.02	.55 ***	.65 ***	.13 *	.08
小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）	.16 **	.15 *	.12	.07	.13	.12	.07	.07	.15	.06	.04	1.0	.91 ***	.09	.10
小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況	.18 ***	.15 **	.15 **	.08	.19 ***	.15 *	.04	.12	.19 **	.11	.04	.91 ***	1.0	.12	.11

相関分析⑪学校の教育活動における工夫（中学校・取組）

- 校則見直しの実施の有無については、他の取組項目と関連が見られなかったが、校則見直し検討の取組内容の充実（校則等のホームページへの掲載、校則見直しに当たって児童生徒・保護者・学校関係者への意見を聞いていた等）は、いじめ防止対策組織の参加者、生徒指導研修の実施頻度、不登校の連携機関との弱い正の相関が見られ、児童や保護者の意見を聞いている学校では、対応に関わる関係者が多様になっていると考えられる。
- 小中連携の取組は、いじめ防止対策組織の参加者、（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）、学校運営協議会の構成員等の項目と弱い正の相関が見られ、小中連携が行われている学校では、対応に関わる関係者が多様になっていると考えられる。

	SCの職務内容	いじめ防止対策組織の参加者	自宅におけるICT活用学習活動出席扱いとした児童生徒数	オンライン配信の有無	学校内の居場所	生徒指導研修の実施頻度	生徒指導部会の開催頻度	いじめアンケートの活用方法	地域交流の盛んさ	校則見直しの実施	学校運営協議会の構成員	小中連携・小中一貫教育の内容	小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）	不登校の連携機関	個に応じた教育
校則見直しの実施	.07	.09	.06	.07	.03	.13	.09	.09	.01	1.0	.05	.02	.0	.10	.13
校則見直し検討の取組内容	.16 ***	.18 ***	.15 **	.15 **	.02	.16 ***	.14 *	.17 ***	.01	.36 ***	.07	.08	.08	.14 *	.15 *
小中連携・小中一貫教育の内容	.11	.14 *	-.02	.08	.14 *	.13 *	.02	.13	.17 ***	.02	.17 ***	1.0	.55 ***	.10	.16 **
小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）	.08	.12	-.04	.07	.10	.12	.01	.10	.10	.0	.08	.55 ***	1.0	.10	.18 ***
小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況	.11	.13	-.06	.03	.12	.12	.03	.09	.12	.0	.12	.64 ***	.91 ***	.14	.17 **

10 : R4(2022)取組項目同士の関係 (教育委員会)

取組項目間の相関の主なまとめ（教育委員会）

【SV配置との関連性】

- 多くの取組項目と小程度以上の正の相関が確認された。 不登校に特化した研修の実施（.20）や日本語指導（.24）などの取組との間では、中程度以上の正の相関が確認された。
- SVを配置している教育委員会ほど他の取組も実施している、あるいは取組が必要な教育委員会ほどSVを配置していると考えられるか。

【日本語指導の取組との関連性】

- 多くの取組項目と中程度以上の正の相関が確認された。 特に相関が確認された項目としては、いじめに特化した研修の実施（.35）や不登校に特化した研修の実施（.38）などの研修に関する取組、オンラインの学習環境（.24）や教育支援センターでの不登校児童生徒の状況の把握（.24）などの教育支援センターに関する取組、校区内での学校間連携（.21）といった取組で関連性が見られた。
- なお、外国人児童生徒数と不登校児童生徒数との間に弱い正の相関があることに留意が必要。

【研修に関する取組との関連性】

- いじめ研修の実施と他取組項目との相関と、不登校研修の実施と他取組項目との相関には、比較的近い傾向が確認された。 特に、両項目（いじめ研修の実施、不登校研修の実施）とも中程度以上の正の相関が確認された取組としては、不登校児童生徒の状況の把握などの教育支援センターに関する取組、校区内での学校間連携などの取組で関連性が見られた。
- 研修の実施と併せて、他機関での取組や連携を進めている教育委員会が多いと考えられるか。

【その他の項目の関連性】

- 教育支援センターに関する取組同士で正の相関が見られた。
- 幼小連携と校区内での学校間連携の取組には、強い正の相関（.49）が見られた。

※分析（相関分析）は、小学校・中学校データの分析と同様の手順で算出した。

相関分析（教育委員会・取組×取組）

- 教育支援センターに関する取組同士で正の相関が見られた。
- 日本語指導に関する取組、SVの配置、いじめや不登校に関する取組は、ほとんどの取組と正の相関が見られた。
- 幼小連携と校区内での学校間連携は、強い正の相関（.49）が見られた。

図表10
取組間の相関表
(教育委員会)

	教育支援センターの設置数	教育相談を行っている機関数	教育相談員数	教育相談件数	学習指導員配置の考え方	SVの配置	その他スタッフの配置	いじめに特化した研修の実施	不登校に特化した研修の実施	教育支援センターの平均利用人数	教育支援センターの取組_オンラインの学習環境	教育支援センターの取組_不登校児童生徒の状況の把握	教育支援センターの取組_児童生徒への訪問支援・相談	教育支援センターの取組_ケース会議等の開催	幼小連携	校区内での学校間連携	関係機関との連携	日本語指導
教育支援センターの設置数	1.0																	
教育相談を行っている機関数	.22 ***	1.0																
教育相談員数	.36 ***	.40 ***	1.0															
教育相談件数	.23 ***	.12 ***	.47 ***	1.0														
学習指導員配置の考え方	.12 ***	.10 **	.05	-.01	1.0													
SVの配置	.23 ***	.12 ***	.20 ***	.12 ***	.14 ***	1.0												
その他スタッフの配置	.16 ***	.14 ***	.15 ***	.09	.17 ***	.09	1.0											
いじめに特化した研修の実施	.28 ***	.18 ***	.29 ***	.20 ***	.16 ***	.19 ***	.15 ***	1.0										
不登校に特化した研修の実施	.29 ***	.21 ***	.27 ***	.18 ***	.15 ***	.20 ***	.20 ***	.79 ***	1.0									
教育支援センターの平均利用人数	.36 ***	.23 ***	.43 ***	.30 ***	.06	.22 ***	.12 ***	.29 ***	.28 ***	1.0								
教育支援センターの取組_オンラインの学習環境	.32 ***	.19 ***	.22 ***	.13 ***	.10 *	.14 ***	.10 **	.19 ***	.20 ***	.24 ***	1.0							
教育支援センターの取組_不登校児童生徒の状況の把握	.26 ***	.22 ***	.18 ***	.13 ***	.17 ***	.10 **	.07	.22 ***	.25 ***	.18 ***	.21 ***	1.0						
教育支援センターの取組_児童生徒への訪問支援・相談	.08	.11 **	.13 ***	.13 ***	.12 ***	.06	.04	.14 ***	.14 ***	.14 ***	.13 ***	.33 ***	1.0					
教育支援センターの取組_ケース会議等の開催	.15 ***	.12 ***	.20 ***	.16 ***	.14 ***	.14 ***	.08	.16 ***	.17 ***	.22 ***	.21 ***	.38 ***	.33 ***	1.0				
幼小連携	.13 ***	.05	.13 ***	.11 ***	.07	.11 **	.11 ***	.20 ***	.22 ***	.10 **	.14 ***	.04	.09	.10 *	1.0			
校区内での学校間連携	.13 ***	.10 **	.16 ***	.14 ***	.04	.11 ***	.09	.21 ***	.24 ***	.15 ***	.16 ***	.13 ***	.17 ***	.17 ***	.49 ***	1.0		
関係機関との連携	.0	.08	.06	.07	.07	.06	.06	.10 **	.12 ***	.06	.08	.11 **	.11 **	.14 ***	.25 ***	.27 ***	1.0	
日本語指導	.35 ***	.30 ***	.36 ***	.23 ***	.14 ***	.24 ***	.18 ***	.35 ***	.38 ***	.36 ***	.24 ***	.24 ***	.16 ***	.21 ***	.18 ***	.21 ***	.13 ***	1.0

11 : H30～R4の推移グループ別に見た

R4(2022)の取組とR4(2022)のアウトカム¹の状況

分析結果：まとめ①

- 【いじめ】低発生持続型の学校群では、小学校では外部専門職のケース会議関与、習熟度別学習、中学校ではわずかだが教職員等とのコミュニケーション環境構築などの取組が、いじめ認知件数の少なさにつながっている可能性がある。教育委員会単位では、いじめの認知件数の高さを踏まえ、教育支援センターや、SV等の専門職の配置等の体制整備が進められている可能性が示唆される。
- 【長期欠席・不登校】小学校では、低発生持続型／移行型においてケース会議における学年の担当教員との連携による支援体制が、中学校の高発生持続／移行型では心の健康観察による不登校の予兆発見が、不登校を抑制することにつながる可能性が示唆される。他方「高発生持続型」の学校群では長期欠席者数の急激な増加に応じた体制強化が課題となっている可能性もうかがえた。また、教育委員会レベルでは、長期欠席者数、不登校者数や不登校新規発生数が継続的に少ない群において、それらの発生状況に応じて教育支援センター、SV等の専門職の配置、学区内連携が実施されていると考えられる。
- 特に長期欠席・不登校では、高発生持続／移行型と低発生持続／移行型で異なる結果が見られたことを踏まえると、可能性として以下のような点も考えられる。（因果について論じることは出来ず推測の域を超えない点に留意が必要。また、今回の経年の推移の状況のデータには新型コロナウイルス感染症の感染拡大時期を含む点にも留意が必要。）つまり、低発生持続／移行型の教育委員会・学校では、不登校の増加に応じた追加的な取組が迅速に行われるものの、もともと1,000人あたりの不登校児童生徒数といったアウトカムの数値自体が低く、すぐに数値の減少には至らない可能性もある。他方で、高発生持続／移行型の教育委員会・学校では、取組を行うことでアウトカムの数値は減少しているようにも見えるが、対応が追い付かず取り組めていない団体でのアウトカムの数値が高いために差が大きく見えている可能性もある。

分析結果：まとめ②

主要な知見

いじめ認知件数

小学校

- 「低発生持続型」では、いじめ認知件数が多い場合に外部専門職がケース会議等に関与している傾向。
- 「低発生持続型」では、習熟度別指導を行っている学校で、いじめ認知件数がぐくわずかに少ない傾向。

中学校

- 多くの取組で、明確な関連性は見られないが、「低発生持続型」では教職員等に困りごとを相談できる場合、いじめ認知件数がぐくわずかに少ない傾向。

教育委員会

- 「低発生持続型」では、いじめ認知件数が多い教育委員会で、教育支援センターの設置、SV配置を実施している傾向。
- 地域のいじめの認知件数の高さを踏まえた手厚い体制整備が行われている可能性。

長期欠席者数

- 「高発生持続型」では福祉部門との連携や、SCの職務におけるケース会議への参加など、状況に応じた体制強化が追い付いていない可能性。

- 小学校と同様に、「高発生持続型」の学校で、特にSCの職務におけるケース会議参加、福祉部門との連携など、状況に応じた体制強化が追い付いていない可能性。

- 「高発生持続型」では小中と同様、状況に応じた体制強化が追い付いていない可能性。「低発生持続型」では、長期欠席者が比較的多い場合に、教育支援センター、SVの設置、学区内の学校間連携が実施されており、状況に応じた対応が進んでいる可能性。（「低発生移行型」については、教育支援センター、SVの設置で同様の傾向）

不登校者数／不登校新規発生数

- 「低発生持続型」や「低発生移行型」では、学年の担当教員ケース会議の関与が見られる学校で、不登校者数・不登校新規発生数がわずかに多く、不登校児童数の増加に応じて、ケース会議で担任以外の学年の担当教員との密な連携が行われている可能性。

- 「低発生持続型」や「低発生移行型」では不登校の発生状況に応じ、ケース会議における担任以外の学年の担当教員との密な連携や、心の健康観察の対応がなされている可能性。

- 「高発生持続型」や「高発生移行型」では、特に心の健康観察の取組実施校で、不登校新規発生数が少ない。

- 「高発生持続型」や「高発生移行型」では、教育支援センターが設置、学区内の学校間連携が実施されている場合、不登校の数が少ない傾向にある。他方で、「低発生持続型」では同様のトレンドにないことを踏まえると、「低発生持続型」では不登校者数や新規発生数の増加に応じた迅速な取組が進められているとも考えられるか。



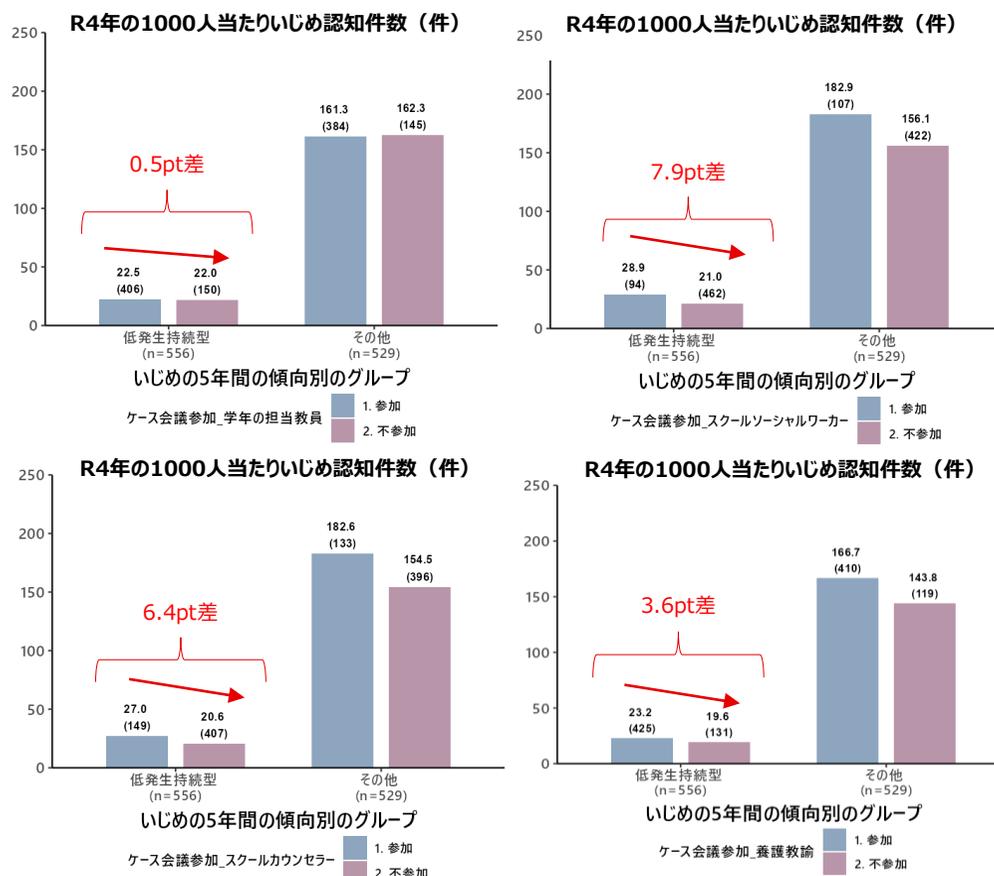
分析結果：いじめ認知件数（小学校）

※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

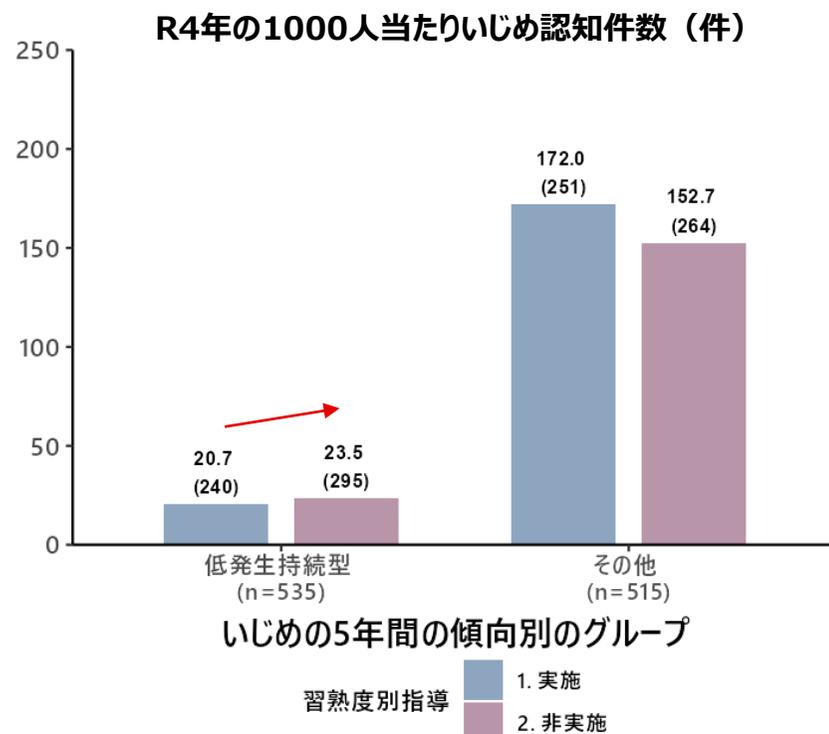
※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

- 全体を通じて、「低発生持続型」において、取組の有無間での認知件数の差の開きは大きくないが、学年の担当教員よりも、外部専門職がケース会議等に関与している場合に、いじめ認知件数が多い傾向にあることから、いじめ認知件数が低水準で維持している学校では、いじめ認知件数の多さに応じて、外部専門職がケース会議に参加していることが示唆される。
- 「低発生持続型」では、習熟度別指導が行われている学校の場合、いじめ認知件数は少ないことから、非常に小さな差であり一概には言えないものの、個々の進道に沿った学びの取組が、いじめ認知件数を抑制している可能性が示唆される。

ケース会議への教員・外部専門職の参加状況別に見た、いじめ認知件数



習熟度別指導の状況別に見た、いじめ認知件数



分析結果：いじめ認知件数（中学校）

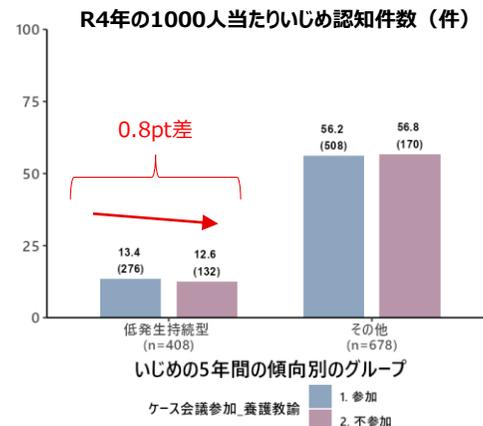
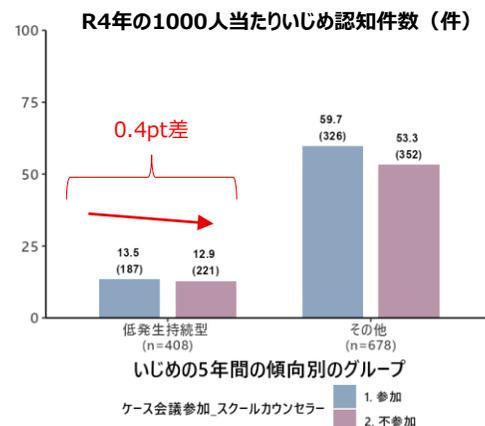
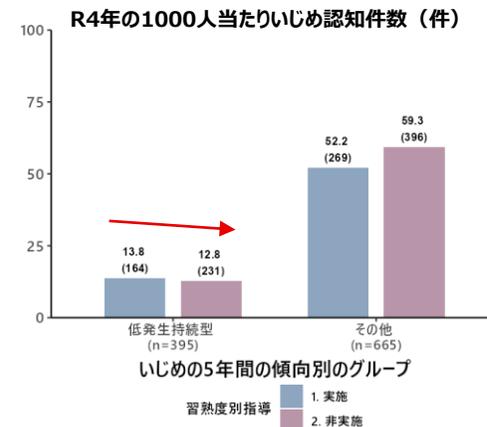
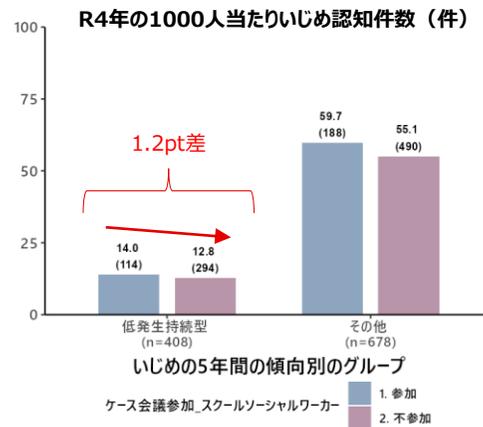
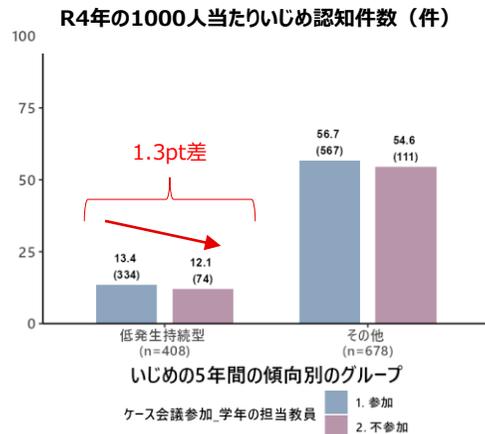
※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

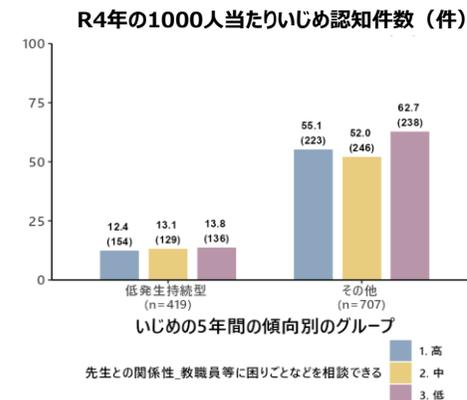
- 全体を通じ、小学校と比べ中学校では取組の有無間での認知件数の差は他の群も含め、大きくない。
- 中学校は、小学校と異なり、ケース会議の参加が外部専門職か学年の担当教員かによって、明確ないじめ認知件数の差はない。
- 「低発生持続型」では、多くの取組で明確な関連性はなく、習熟度別指導においても、実施校が非実施校と比べて、わずかにいじめ認知件数が多い結果となっており、小学校とは異なる傾向にある。「教職員等に困りごとを相談できる」度合いが高いほどいじめ認知件数がごくわずかに少ない傾向。

ケース会議への教員・外部専門職の参加状況別に見た、いじめ認知件数

習熟度別指導の状況別に見た、いじめ認知件数



教職員等に困りごとを相談できる状況別に見た、いじめ認知件数



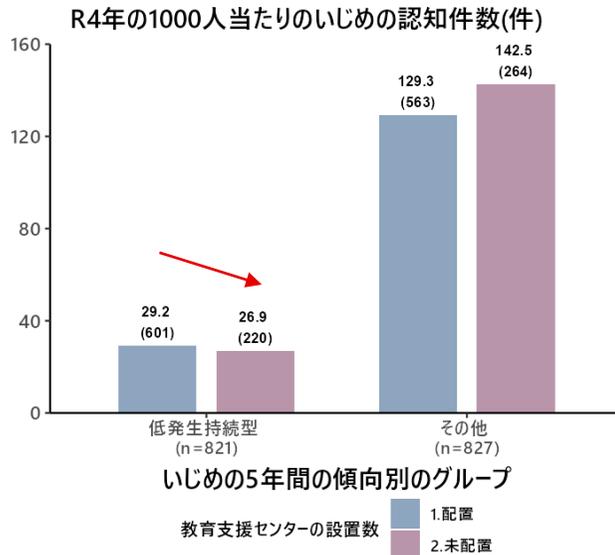
※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

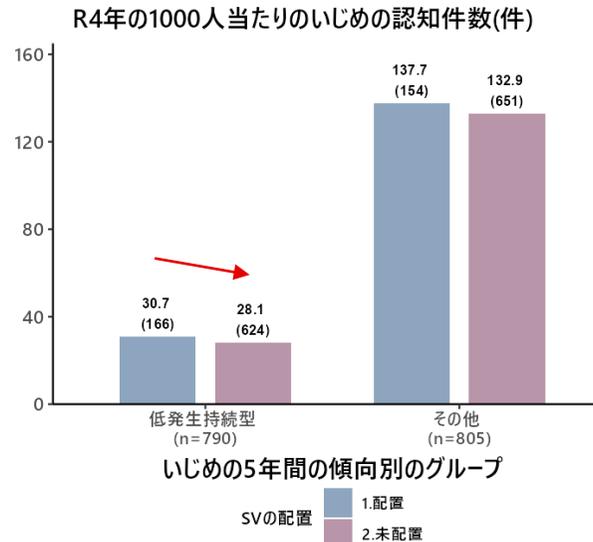
分析結果：いじめ認知件数（教育委員会）

- 「低発生持続型」の教育委員会では、教育支援センターの設置がされている、又はSVの配置がある場合で、そうでない場合と比べて、いじめ認知件数は多い。
- 学区内の学校間連携について、高い水準で実施されている教育委員会ほど、いじめ認知件数はわずかに多い。
- 比較的いじめ認知件数が少ないトレンドにある地域では、域内のいじめの認知件数の高さを踏まえた手厚い体制整備が行われている可能性がある。

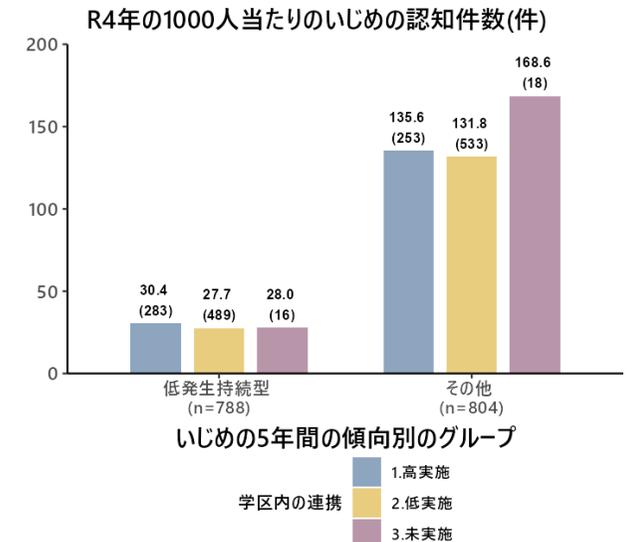
教育支援センターの設置状況別に見た、
いじめ認知件数



SVの設置状況別に見た、いじめ認知件数



学区内の学校間連携状況別に見た、
いじめ認知件数



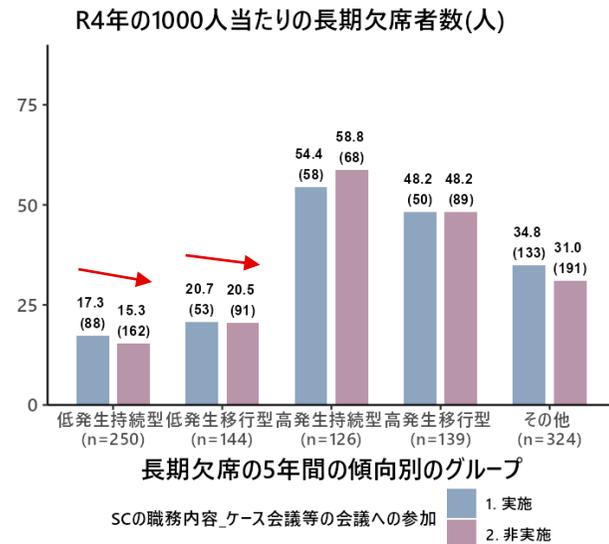
※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

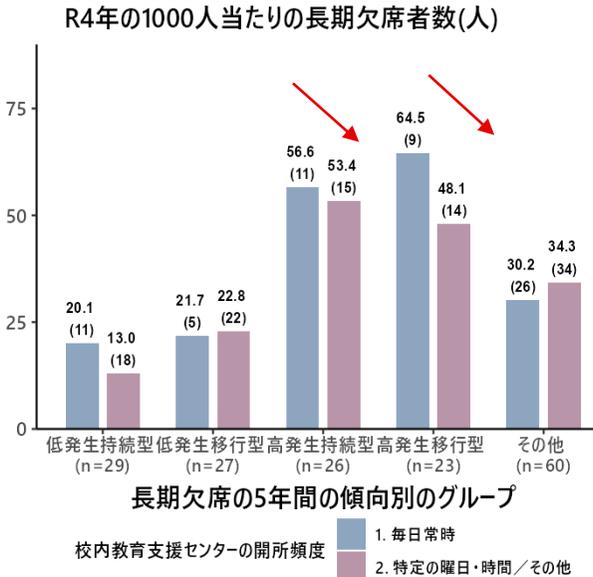
分析結果：長期欠席者数（小学校）

- 外部専門職として、スクールカウンセラー（SC）に着目すると、職務内容にケース会議がある場合、そうでない場合と比べて「低発生持続型」では長期欠席者数が多くなり、「高発生移行型」では長期欠席者数が少なくなる傾向。
- 校内教育支援センターの開所頻度が、毎日常時の場合、特定の曜日に開設している場合と比べて、「低発生持続型」や「高発生持続型」では長期欠席者数の値の差が大きく、「高発生移行型」では小さい。（ただし、サンプル数が少ないため、解釈に留意が必要。）
- こども家庭センターとの連携について、「低発生持続型」や「高発生移行型」では連携ありの方が長期欠席者数がやや多いものの、「高発生持続型」では非連携の方が長期欠席者数が多い。
- 校内教育支援センターの開所頻度についてはサンプル数が小さいため判断は難しいが、「高発生持続型」では福祉部門との連携や、SCの会議参加について、長期欠席発生増加に応じた体制強化が追いついていない可能性があるのではないかと推察される。

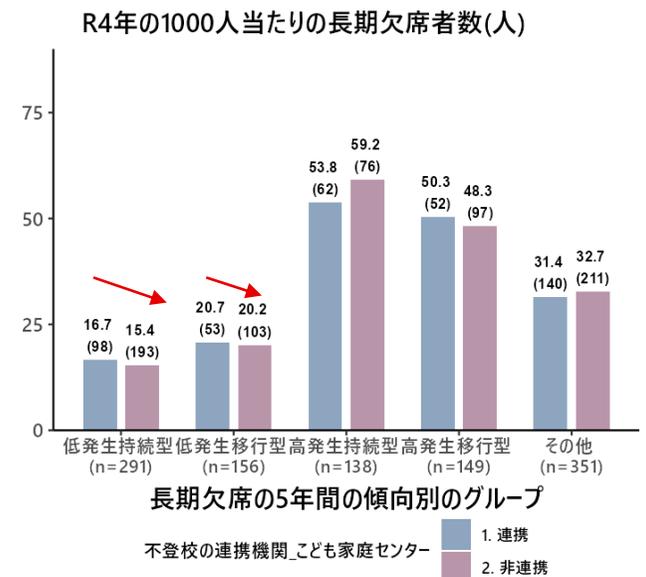
SCの職務におけるケース会議への参加有無別に見た、長期欠席者数



校内教育支援センターの開所頻度別に見た、長期欠席者数



こども家庭センターとの連携有無別に見た、長期欠席者数



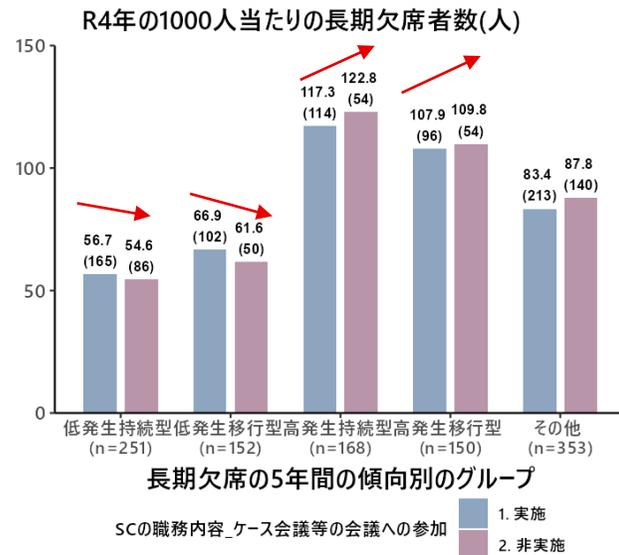
分析結果：長期欠席者数（中学校）

※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

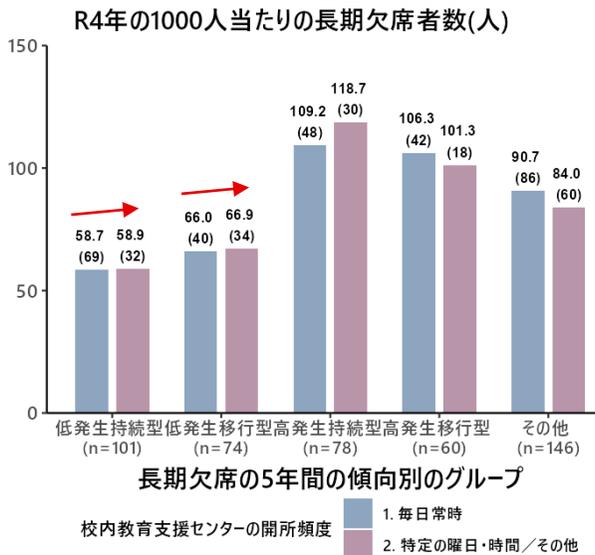
※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

- 中学校の長期欠席者数に着目した場合、スクールカウンセラー（SC）に着目すると、職務内容にケース会議がある場合、そうでない場合と比べて「低発生持続型」や「低発生移行型」では長期欠席者数が多くなり、「高発生持続型」や「高発生移行型」では長期欠席者数が少なくなる傾向。
- 校内教育支援センターの開所頻度は、毎日常時の場合と特定の曜日に開設している場合とを比べて、「高発生移行型」や「高発生持続型」の間では数値の差が比較的大きく、「低発生持続型」や「低発生移行型」の間では小さく、「低発生持続型」や「低発生移行型」では開所頻度が高いほど、ごくわずかに長期欠席者数が低い状態にある。ただし、他項目に比べサンプル数が少ない点に留意が必要。
- こども家庭センターとの連携について、「低発生持続型」では連携ありの方が長期欠席者数がやや多いものの、「高発生持続型」では非連携の方が長期欠席者数が多い。
- 小学校と同様に、中学校でも、特に「高発生持続型」では特に校内教育支援センターの開所頻度について、長期欠席発生の増加に応じた体制強化が追い付いていない可能性がある。

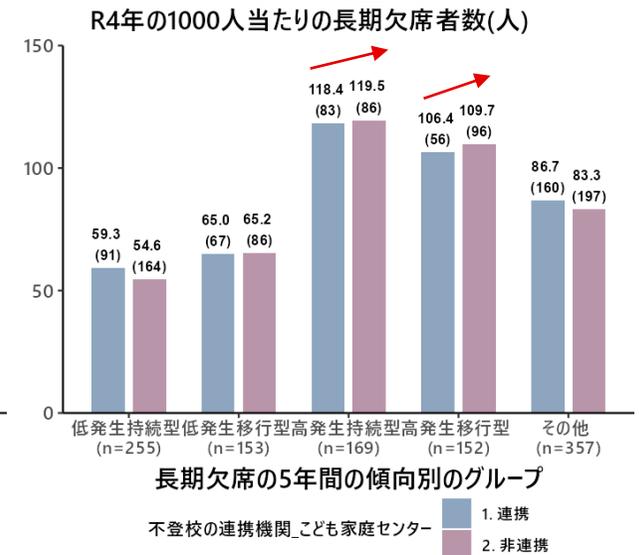
SCの職務におけるケース会議への参加有無別に見た、長期欠席者数



校内教育支援センターの開所頻度別に見た、長期欠席者数



こども家庭センターとの連携有無別に見た、長期欠席者数



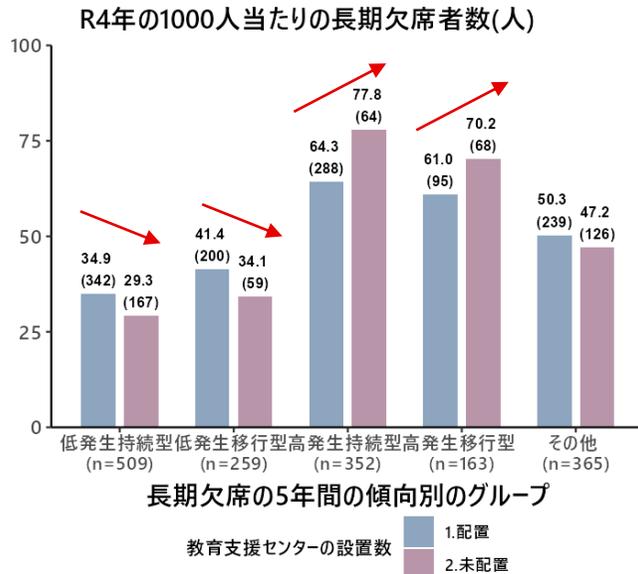
※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

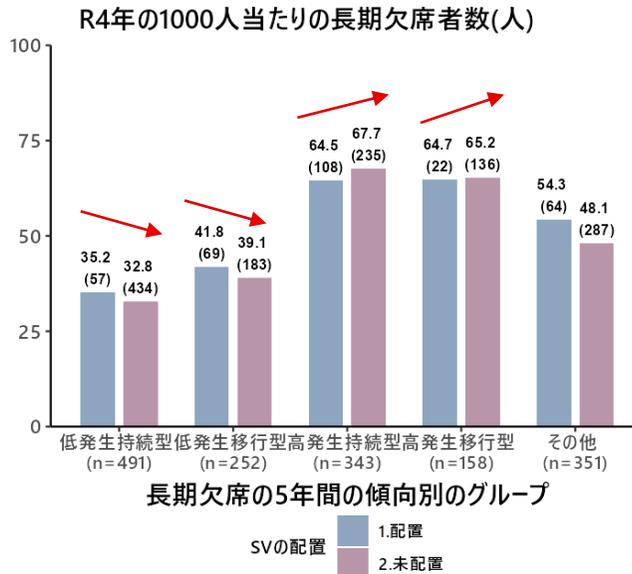
分析結果：長期欠席者数（教育委員会）

- 「低発生持続型」では、教育支援センター、SVの設置、学区内の学校間連携が実施されている場合、長期欠席者数が多い傾向にある（「低発生移行型」については、教育支援センター、SVの設置で同様の傾向）。他方で、「高発生持続型」では、教育支援センターやSVの配置、学区内の学校間連携が実施されている場合、長期欠席者数が少ない傾向にある。
- 学校でのデータの解釈も勘案すれば、「低発生持続型」では長期欠席者数が増える状況を踏まえて対応が強化される一方で、「高発生持続型」の学区内連携の傾向など長期欠席の増加に応じた対応が追いついていない可能性がある。

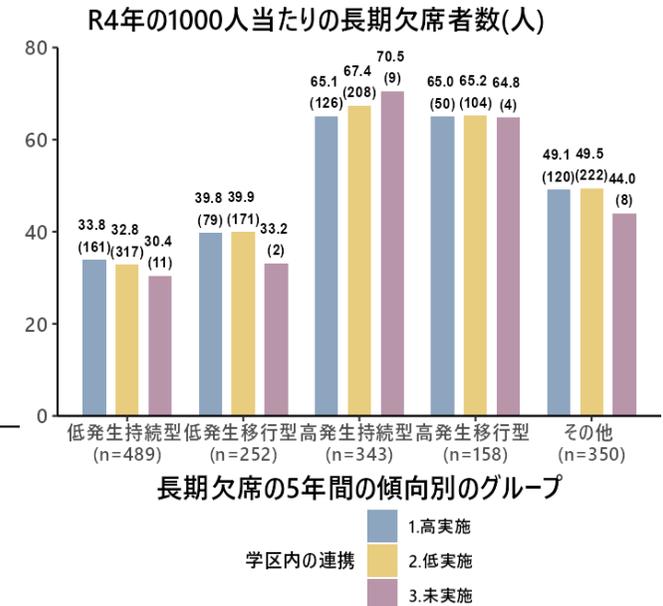
教育支援センターの設置状況別に見た、長期欠席者数



SVの設置状況別に見た、長期欠席者数



学区内の学校間連携状況別に見た、長期欠席者数



分析結果：不登校者数／不登校新規発生数（小学校）

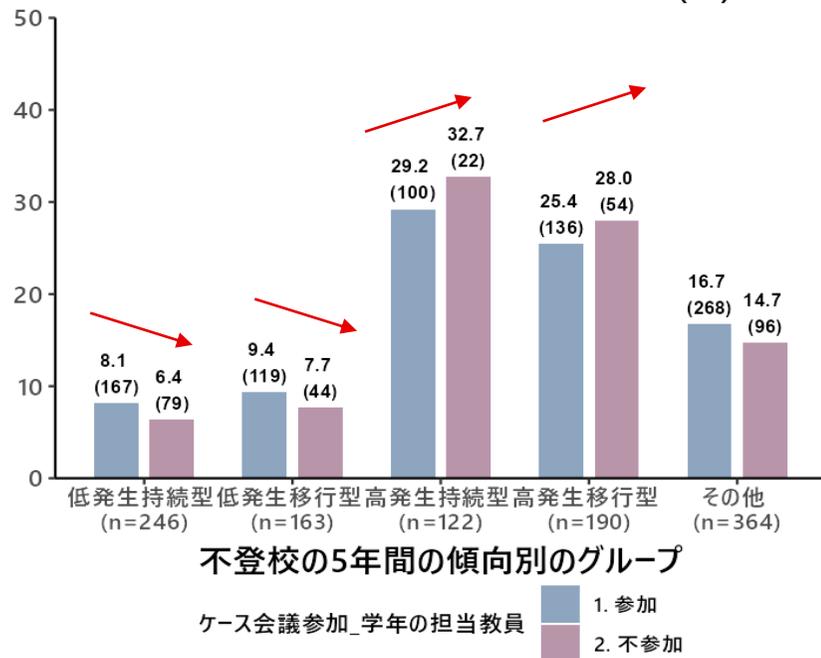
※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

- 「高発生持続型」や「高発生移行型」において、学年の担当教員がケース会議に参加している学校で、不登校者数、並びに新規不登校発生数が少ない傾向にある。他方で「低発生持続型」や「低発生移行型」では、異なる傾向にあり、不登校者数の増加に応じて、ケース会議において担任以外の学年の担当教員との密な連携が行われている可能性が示唆される。（※別選択肢として関係する児童生徒の学級担任があるが、こちらは全体の9割以上が該当。また、「低発生移行型」における不登校新規発生数の取組別の差は小さい点に留意。）

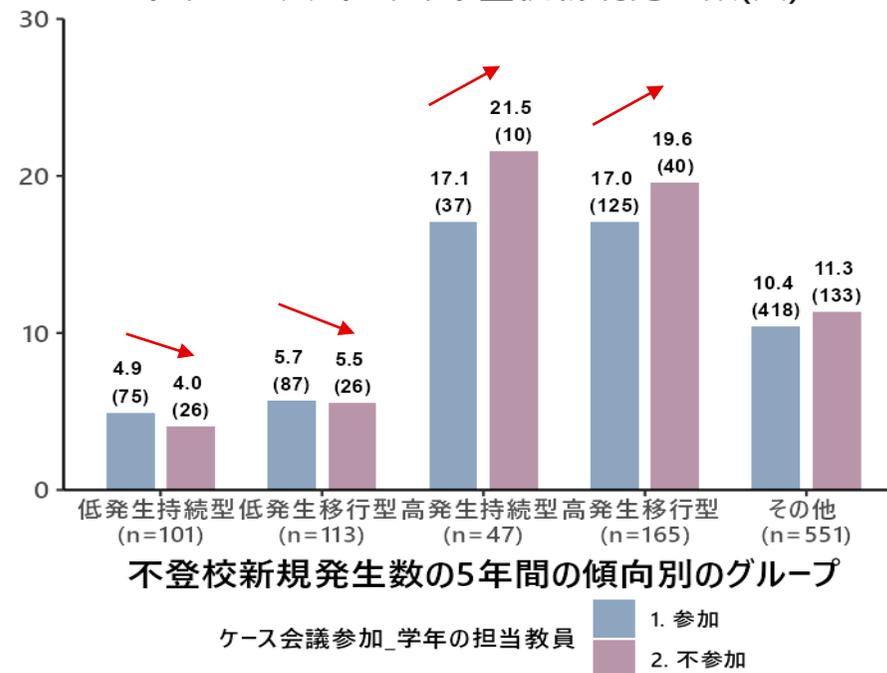
学年の担当教員のケース会議参加状況別に見た、
不登校者数

R4年の1000人当たりの不登校児童生徒数(人)



学年の担当教員のケース会議参加状況別に見た、
不登校新規発生数

R4年の1000人当たりの不登校新規発生数(人)



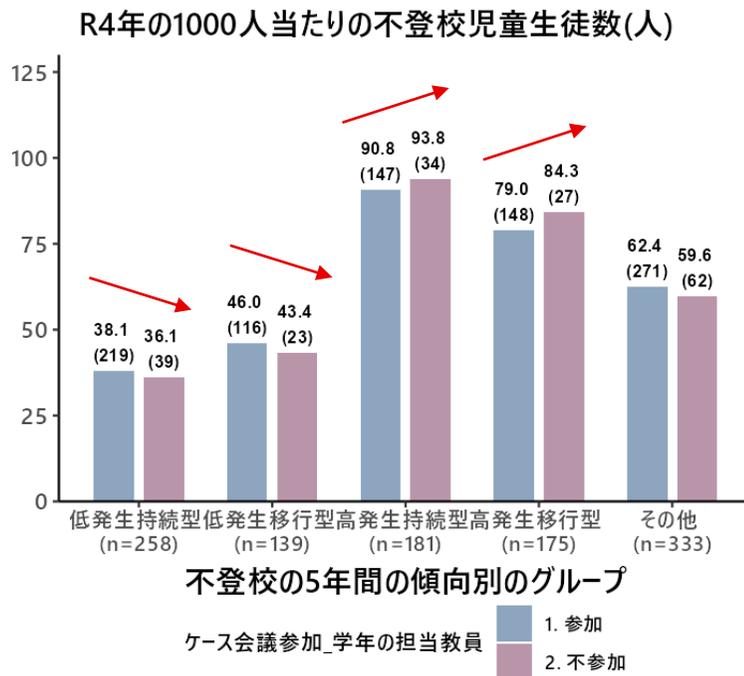
分析結果：不登校者数／不登校新規発生数（中学校）

※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

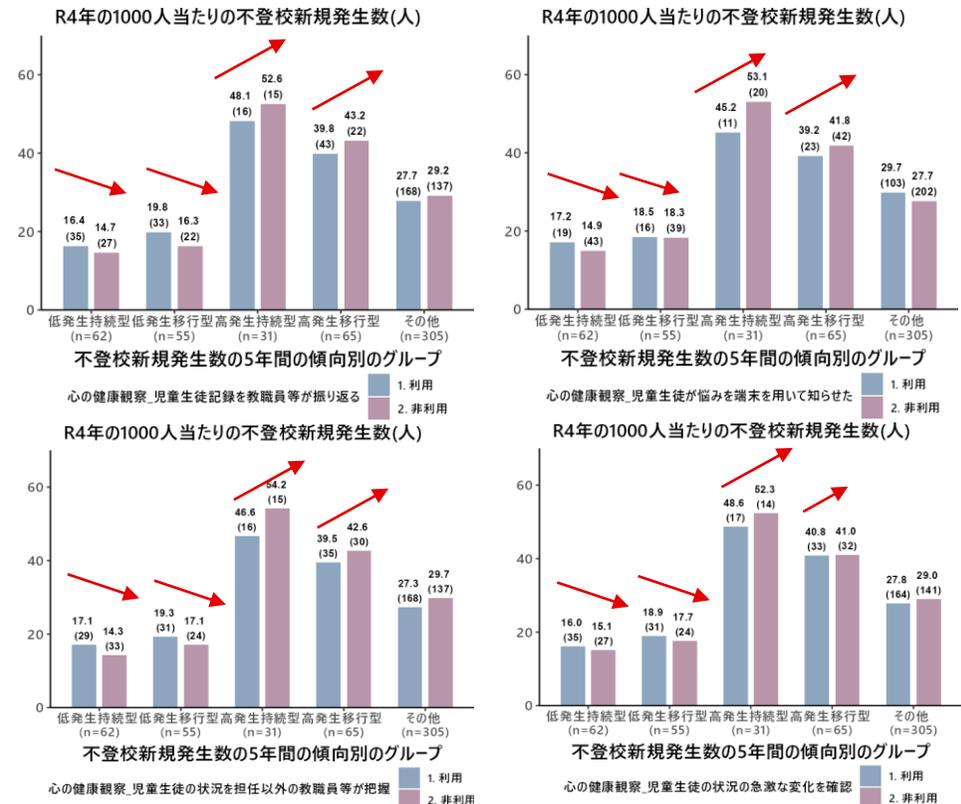
※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

- 「高発生持続型」や「高発生移行型」において、学年の担当教員のケース会議への参加が見られる学校で、不登校者数が少ない傾向にある。小学校と同様に、「低発生移行型」や「低発生持続型」では不登校の発生状況に応じて、ケース会議において担任以外の学年の担当教員との密な連携が行われている可能性が示唆される。
- 「高発生移行型」や「高発生持続型」において、心の健康観察に関する取組を実施している場合、そうでない場合と比べて不登校新規発生数が少ない傾向にある。他方で、「低発生持続型」や「低発生移行型」では逆の傾向にあり、不登校新規発生数の少ない学校群では、不登校者数の増加に応じて、対応がされていると解釈できる。

学年の担当教員のケース会議参加状況別に見た、不登校者数



心の健康観察の取組状況別に見た、不登校新規発生数



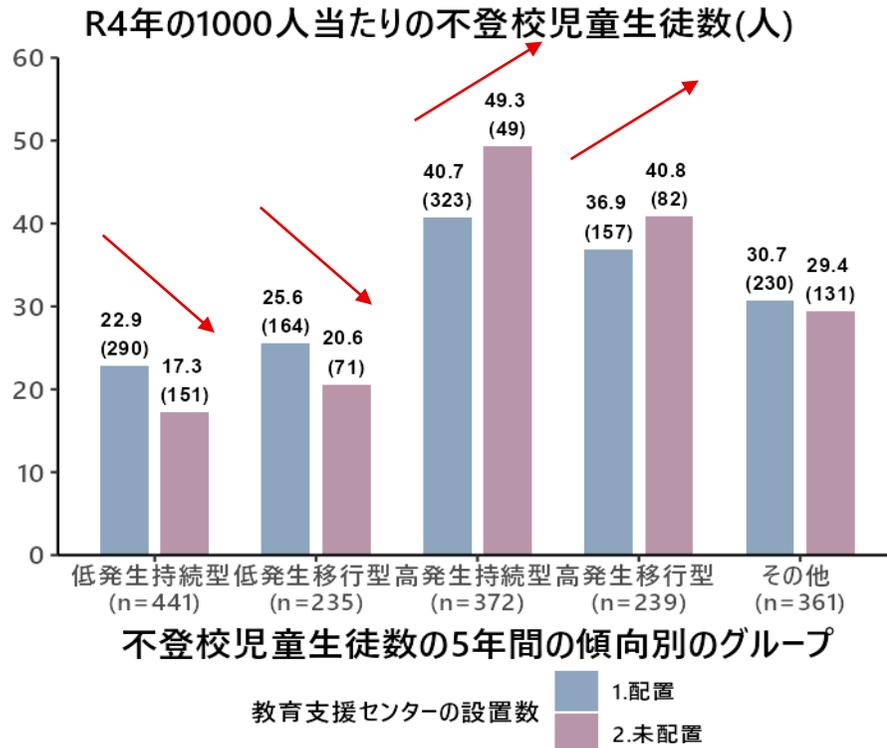
※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

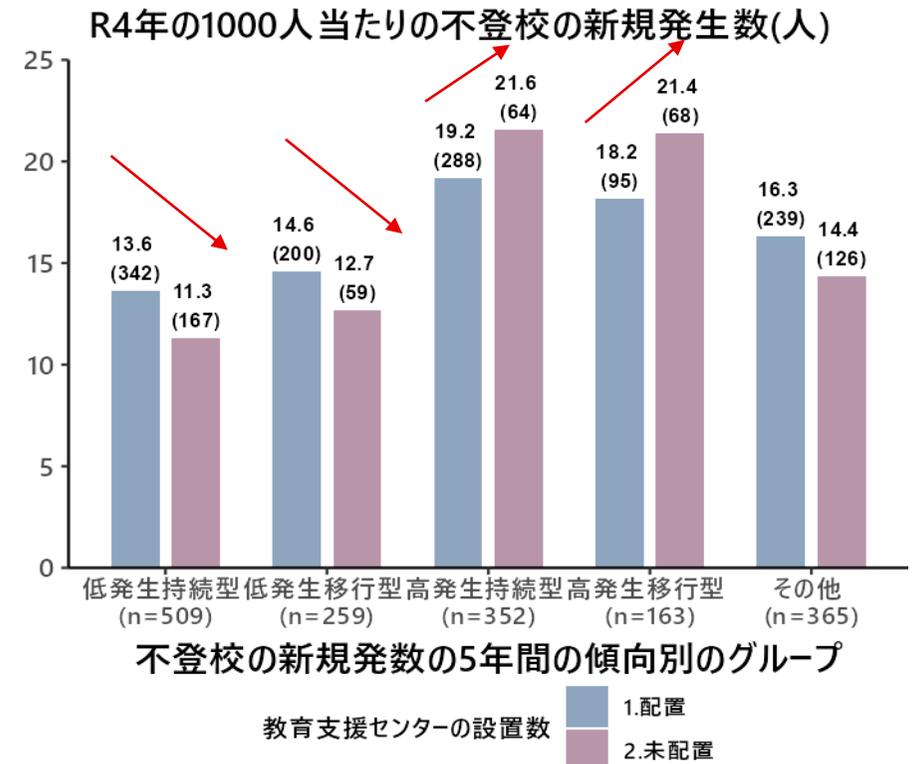
分析結果：不登校者数／不登校新規発生数（教育委員会）（1／3）

- 不登校者数・不登校新規発生数いずれも、「低発生持続型」や「低発生移行型」では、教育支援センターが設置されている場合に不登校者数・不登校新規発生数が多い。他方で、不登校者数や不登校新規発生数が高水準で推移している「高発生持続型」や「高発生移行型」の教育委員会では、教育支援センターが設置されている地区ほど、不登校者数や不登校新規発生数が低い傾向が見られる。

教育支援センターの設置状況別に見た、不登校者数



教育支援センターの設置状況別に見た、不登校新規発生数



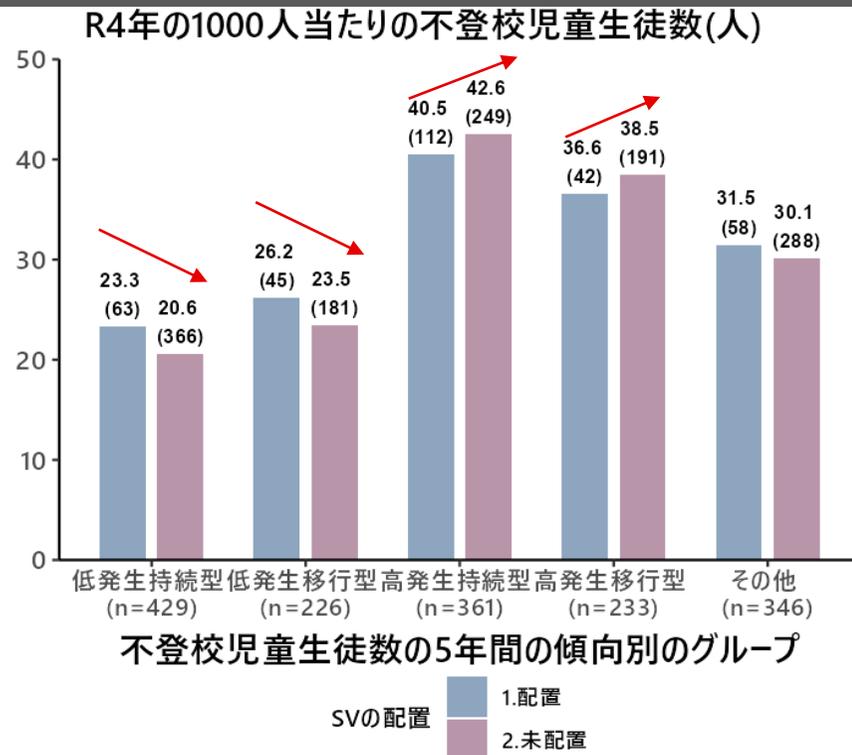
※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

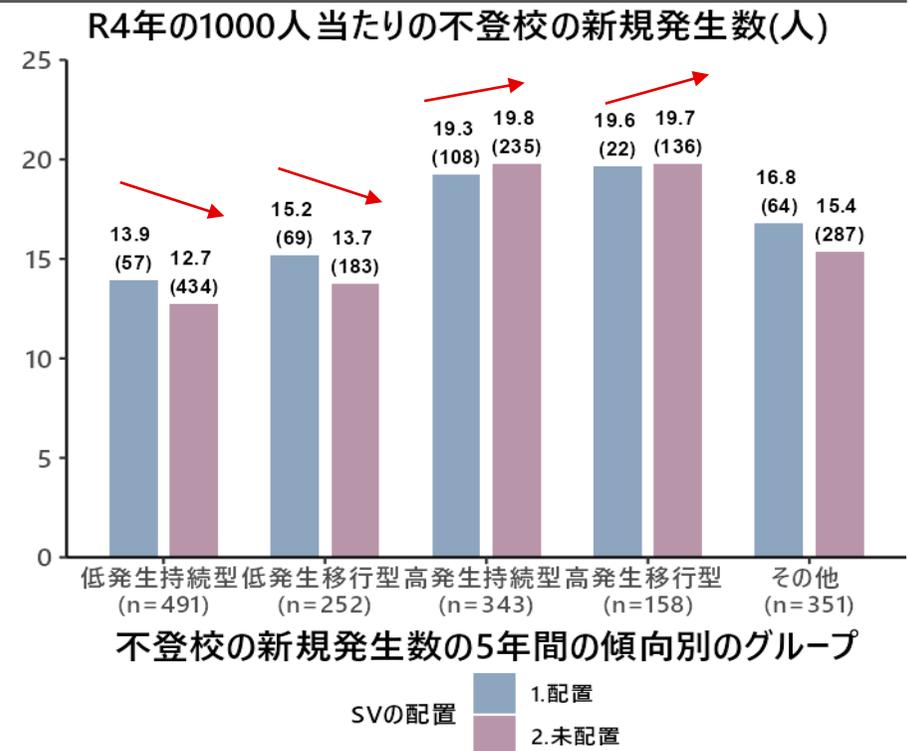
分析結果：不登校者数／不登校新規発生数（教育委員会）（2／3）

- 不登校や不登校新規発生数が高水準で推移している「高発生持続型」や「高発生移行型」の教育委員会では、SV配置が見られる場合、そうでない場合と比べて不登校者数や不登校新規発生数が低い傾向が見られ、「低発生持続型」や「低発生移行型」では逆の傾向が見られる。

SVの設置状況別に見た、不登校者数



SVの設置状況別に見た、不登校新規発生数



※低発生群、高発生群で一貫して見られる傾向に「→」を表示。

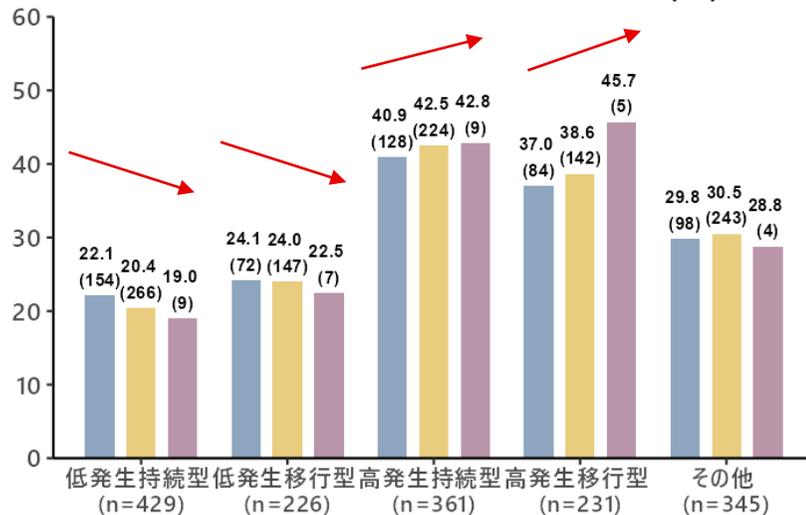
※数値は各群の平均値、()内はサンプル数を表す。

分析結果：不登校者数／不登校新規発生数（教育委員会）（3／3）

- 不登校や不登校新規発生数が高水準で推移している「高発生持続型」や「高発生移行型」の教育委員会では、学区内の学校間連携が実施されている教育委員会群ほど、不登校者数や不登校新規発生数が低い傾向が見られる。
- 教育委員会単位の分析結果を踏まえると、不登校者数・不登校新規発生数では一貫して「高発生移行型」や「高発生持続型」では取組を実施していないほど数が多いのに対し、「低発生持続型」や「低発生移行型」では同様の傾向にない。このことから、「低発生持続型」や「低発生移行型」では不登校者数や新規発生数の増加に応じた取組が進められているとも解釈できるか。

学区内の学校間連携状況別に見た、不登校者数

R4年の1000人当たりの不登校児童生徒数(人)

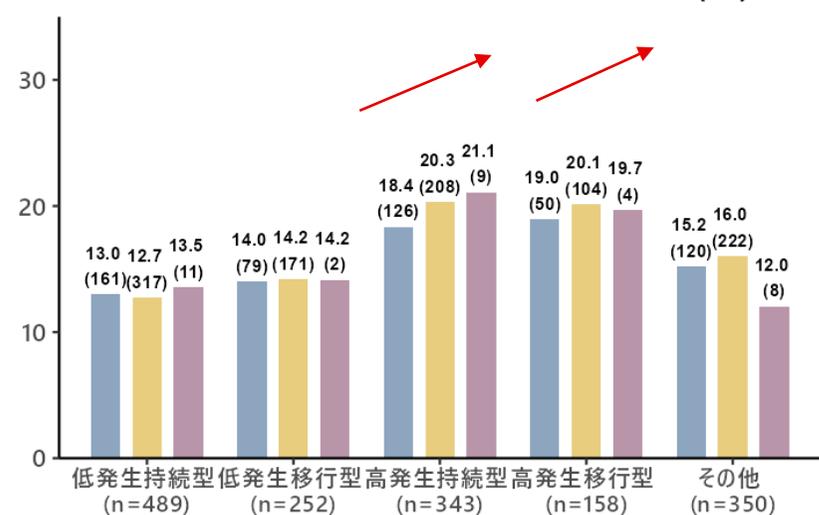


不登校児童生徒数の5年間の傾向別のグループ



学区内の学校間連携状況別に見た、不登校新規発生数

R4年の1000人当たりの不登校の新規発生数(人)



不登校の新規発生数の5年間の傾向別のグループ



12 : R4(2022)取組とR4(2022)アウトカムの関係 (小学校/中学校)

主要4アウトカムと中間アウトカム・取組項目との相関の主なまとめ（小学校）

■ 1000人当たりのいじめの認知件数

- 暴力行為の件数との間に弱い正の相関（.19）があり、暴力が生じやすい学校ほど、いじめの認知件数が高い。（このことは学校・教室の環境を表していると解釈することが妥当か。）
- いじめる児童生徒への特別な対応の件数合計との間に強い正の相関（.51）がある。（このことは認知件数が多いほど対応件数が多くなるという状態を示していると解釈することが妥当か。）

■ 1000人当たりの長期欠席者数

- PTA活動の盛んさとの間に弱い負の相関（-.13）があり、PTA活動があることと長期欠席者数の低さには弱い関係性があると考えられる。（ただしPTA活動の盛んさは勤務実態調査の学校調査票の4件法の項目である点に留意が必要。）
- 日本語支援員・母語支援員の1週間の合計勤務時間との間に弱い正の相関（.13）がある。（このことは長期欠席者数が多い学校に積極的に追加配置が行われていると解釈することが妥当か。クロス分析④参照）

■ 1000人当たりの不登校児童生徒数

- 不登校の連携機関（こども家庭センターや医療機関、フリースクール等の合計点）との間に弱い正の相関（.15）がある。このことは不登校児童生徒数が多い学校で積極的に関係機関との連携が行われていると解釈することが妥当か。）

■ 1000人当たりの不登校の新規発生数

- 相関無し

主要4アウトカムと中間アウトカム・取組項目との相関の主なまとめ（中学校）

■ 1000人当たりのいじめの認知件数

- 暴力行為の件数との間に弱い正の相関（.24）があり、このことは学校・教室の環境を表していると考えられるか。
- いじめる児童生徒への特別な対応の件数合計との間に中程度の正の相関（.47）があり、またいじめられた児童生徒への特別な対応の件数合計との間に弱い正の相関（.23）がある。（このことは認知件数が多いほど対応件数が多くなるという状態を示しているとして解釈することが妥当か。）
- なお、有意な相関ではないが、SCが配置されているほど、いじめの認知件数が低くなっている。（ただし小学校ではこの傾向は見られない。）同様に通級指導の担当職員や日本語指導の担当者が配置されている場合、そうでない学校と比較していじめの認知件数が低くなっている一方、生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加の教員が配置されている場合、いじめの認知件数は高くなっている。配置される職員種別によって認知件数との関係は異なるか。

■ 1000人当たりの長期欠席者数

- 暴力行為の件数との間に弱い正の相関（.15）があり、このことは学校・教室の環境を表していると考えられるか。
- 児童生徒支援専任教員の人数との間に弱い正の相関（.16）がある。（このことは長期欠席者数が多い学校に積極的に追加配置が行われていると解釈することが妥当か。）

■ 1000人当たりの不登校児童生徒数

- 相関無し

■ 1000人当たりの不登校の新規発生数

- 相関無し

分析方法

■ 相関分析

- アウトカムと取組の間での関連を確認するため、相関分析を実施した。

■ クロス分析

- 分布に偏りのある項目において、アウトカムと取組の間での関連を確認するため、クロス分析を実施した。

■ 留意点

- 主要なアウトカムと全ての取組項目で相関分析を実施したが、全ての取組項目との関係を記述することは紙幅の関係上難しいため、有意な相関が見られた特筆すべき項目の関係のみを結果として掲載している。
- 相関表については、全ての項目について一覧として掲載しているが、有意な相関が見られたもののみ抜粋している。掲載していない項目においては有意な関連が見られていない。
- クロス分析については、特に重要と考えられる結果のみ抜粋して、補足として掲載している。

相関分析（小中学校・アウトカム×取組）

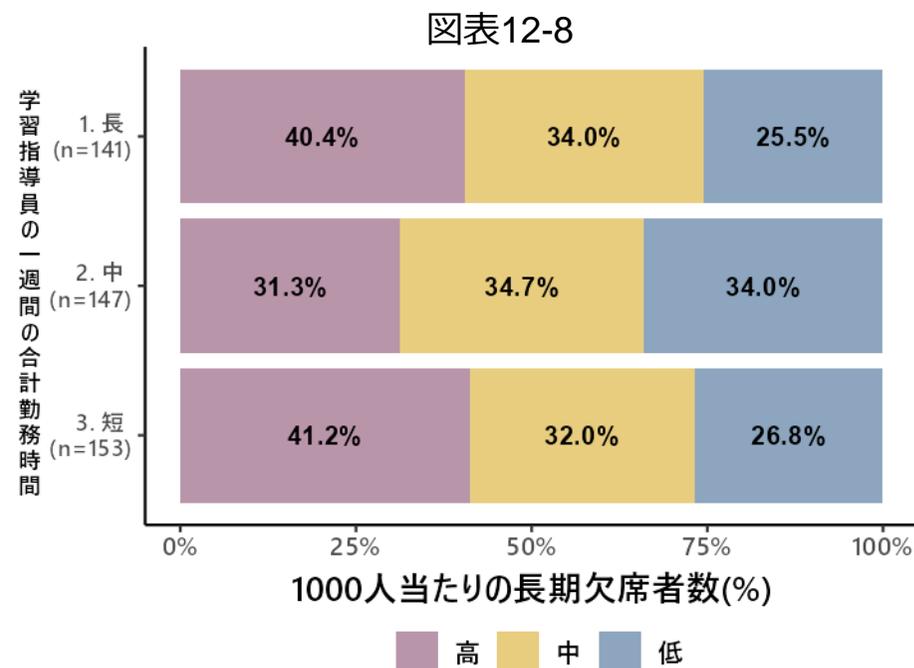
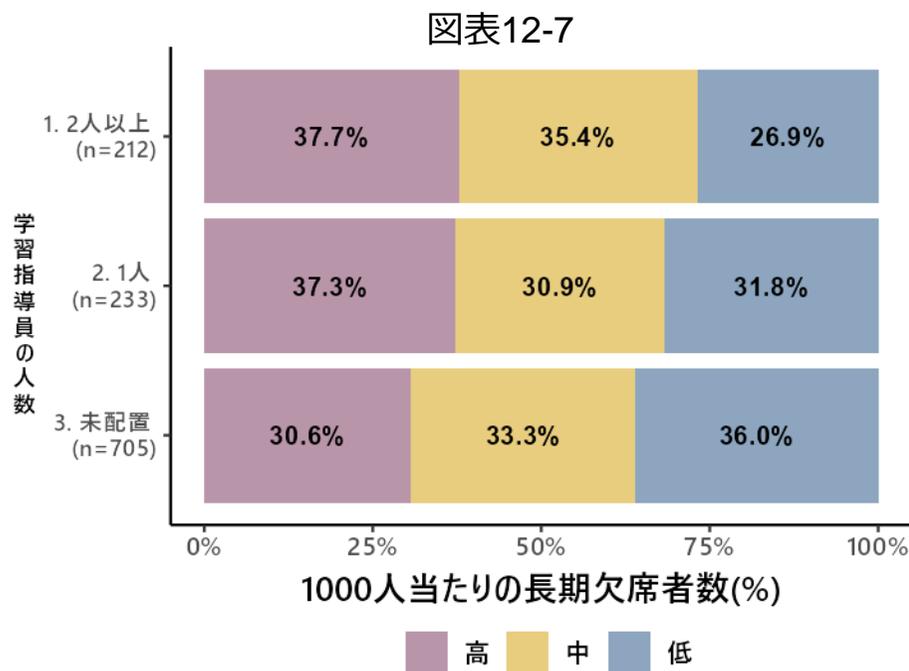
- 相関分析の対象とした取組・中間アウトカム変数は90近くあったが、アウトカム変数と相関が見られた変数は、7つのみであった。このことは、単年度で取組項目とアウトカム項目の関係性を見ることの難しさが現れた結果であると考えられる。
- 小学校においては、PTA活動の盛んな学校では、長期欠席者数が少なくなっている。

図表12-1 アウトカム×取組の相関表（小・中学校）

	暴力行為の件数	いじめる児童生徒への特別な対応_件数合計	いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	PTA活動の盛んさ	日本語支援員・母語支援員の一週間の合計勤務時間	不登校の連携機関	児童生徒支援専任教員の人数
小学校							
★いじめの認知件数	.19 ***	.51 ***	.07	-.02	-.04	-.05	.0
★長期欠席者数	.09	.04	.04	-.13 *	.13 *	.08	.04
★不登校児童生徒数	.05	.0	.03	-.10	.07	.15 **	.07
★不登校の新規発生数	.08	-.04	-.01	-.11	.02	.02	.06
中学校							
★いじめの認知件数	.24 ***	.47 ***	.23 ***	-.04	.0	-.02	.07
★長期欠席者数	.15 **	.07	.08	-.05	.06	.07	.16 ***
★不登校児童生徒数	.11	.02	.01	-.02	.04	.07	.09
★不登校の新規発生数	.09	-.01	-.01	.0	.04	.04	.05

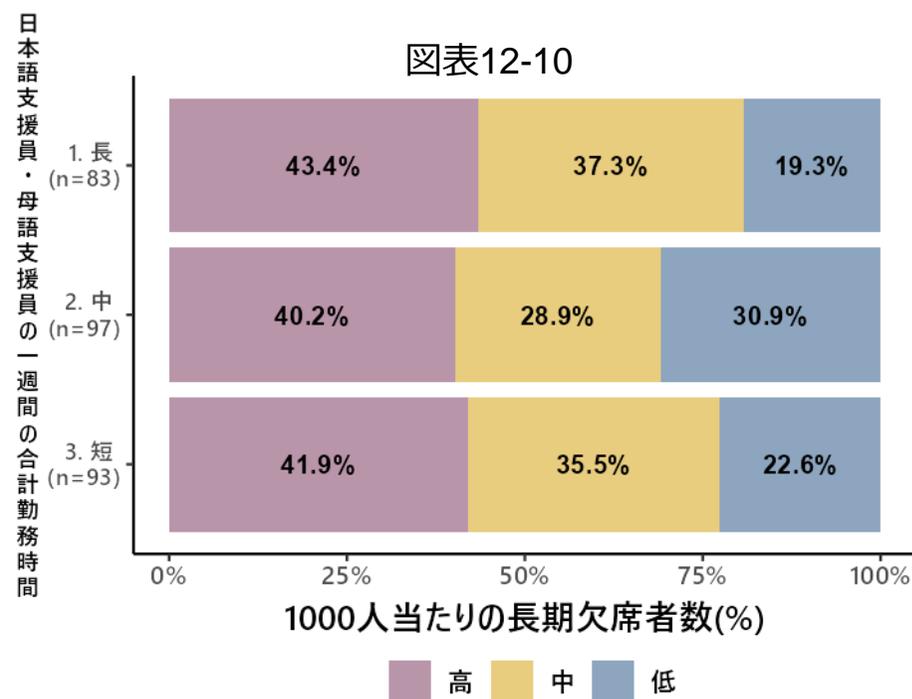
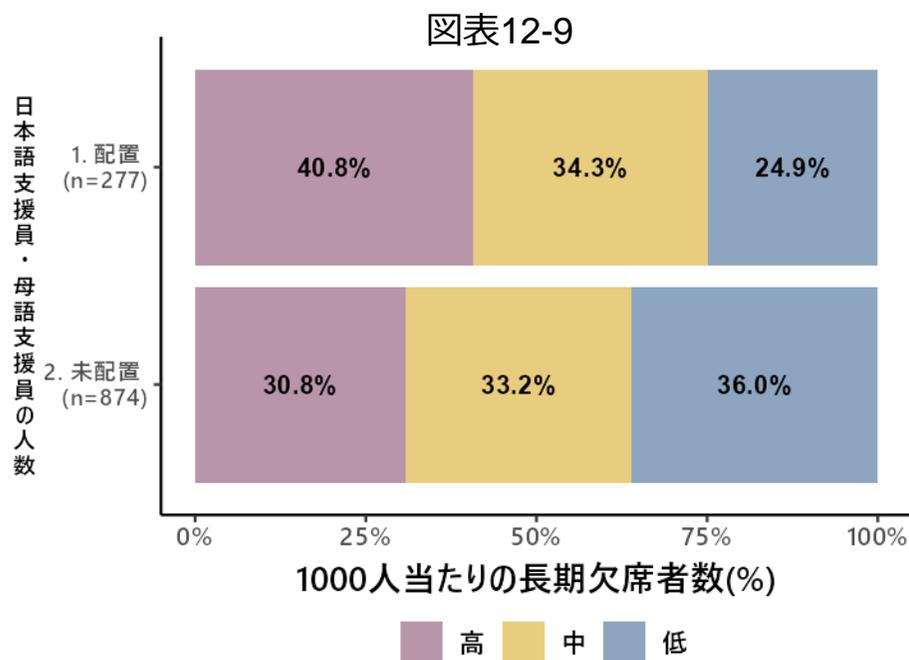
参考：クロス分析の結果③ 学習指導員の配置から見た長期欠席者数（小学校）

- 小学校では、学習指導員が配置されている場合に長期欠席者が多い傾向が見られるが、1人以上配置されている小学校（未配置校除く）においては、学習指導員の合計勤務時間と長期欠席者の関係は顕著には見られない。



参考：クロス分析の結果④ 日本語支援員・母語支援員の配置から見た長期欠席者数（小学校）

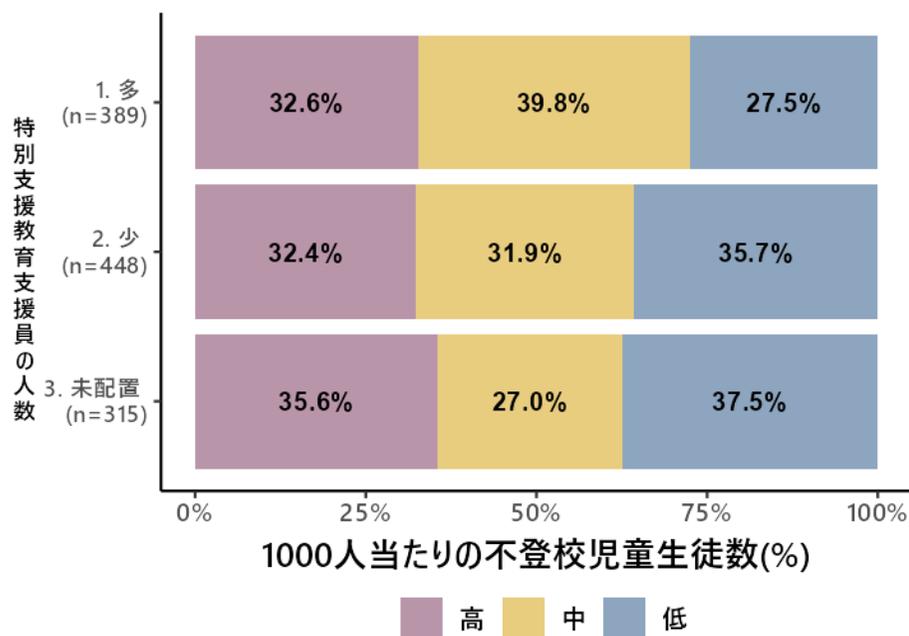
- 小学校では、日本語指導員・母語支援員が配置されている場合に長期欠席者が多い傾向が見られる。
- 日本語指導員・母語支援員の勤務時間と長期欠席者数の間に、相関分析では弱い正の相関が見られたものの、1人以上配置されている小学校の割合は全体の25%ほどであり、1人以上配置されている小学校（未配置校除く）においては、関係は顕著には見られなかった。
※相関分析においては未配置校も含んで分析しているため、配置の効果が見られたものと考えられる。



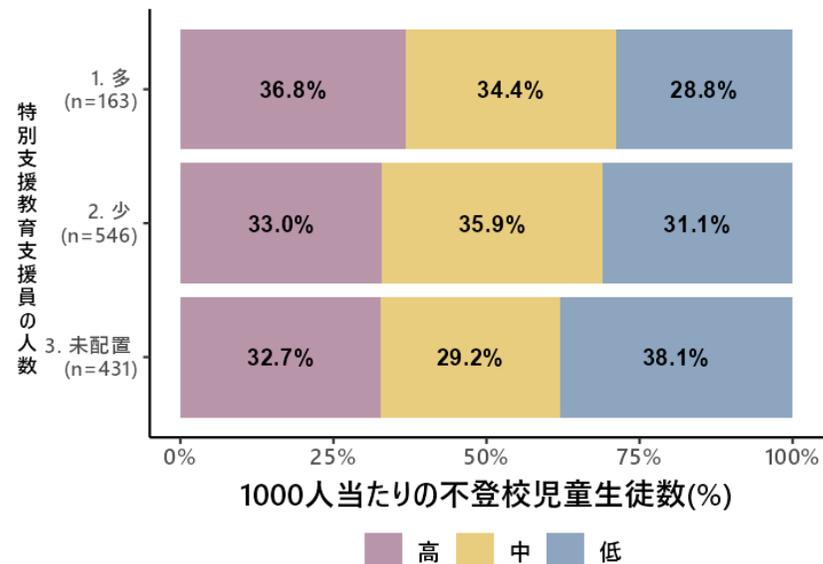
参考：クロス分析の結果⑤ 不登校児童生徒数×特別支援教育支援員（小学校・中学校）

- 小学校では特別支援教育支援員と不登校児童数の顕著な関係は見られないが、中学校では、不登校児童生徒数の高さと特別支援教育支援員の配置人数の多さが関係している。（ただし中学校では配置人数ごとのサンプル数には偏りがあり、また中学校の長期欠席者数との間では関係がないように見える。）

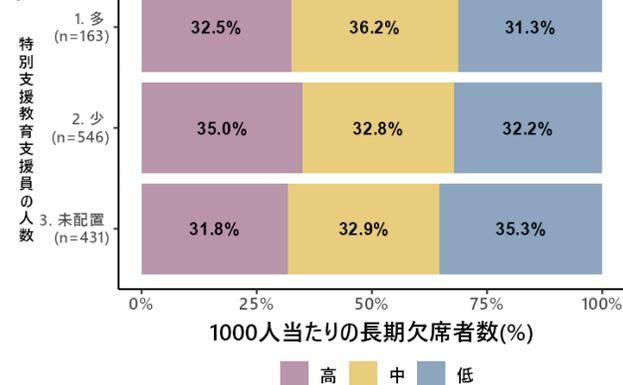
図表12-11 小学校



図表12-12 中学校

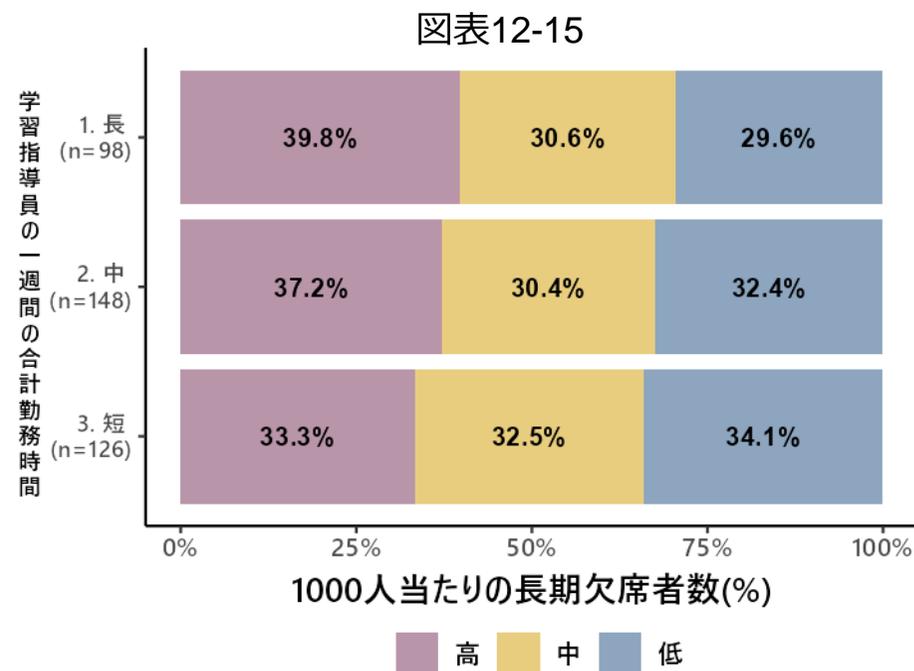
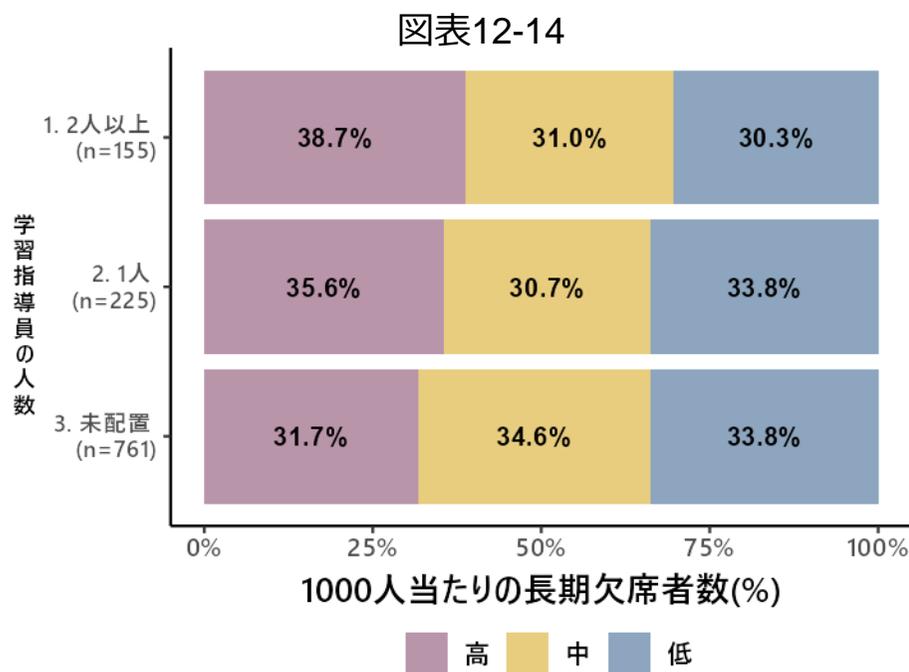


図表12-13



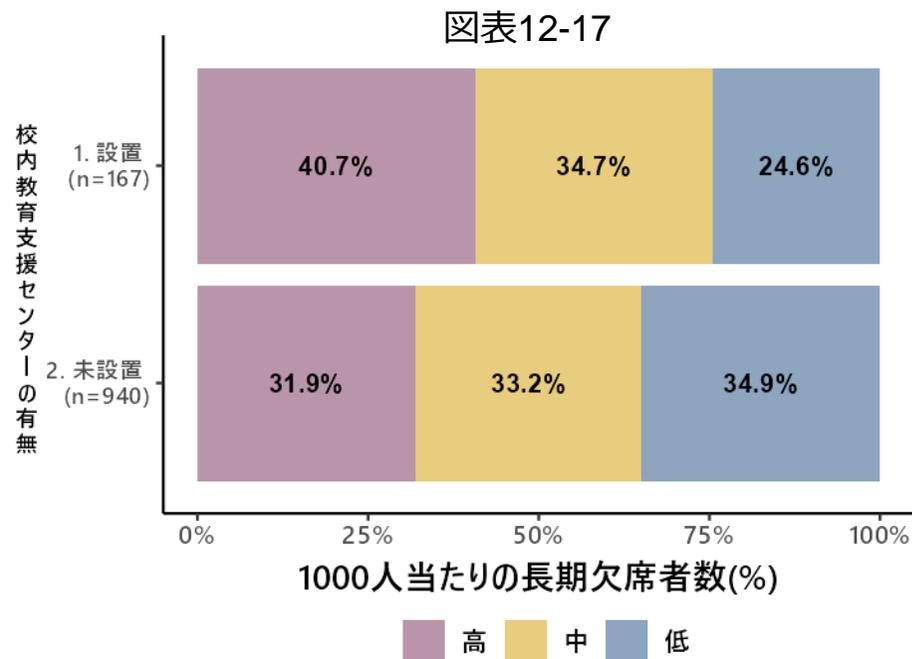
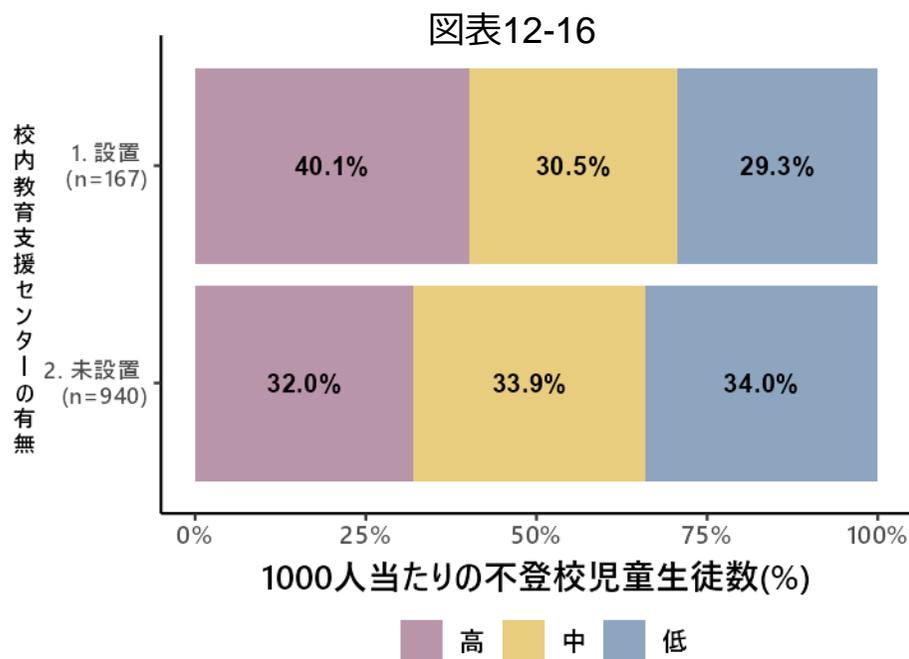
参考：クロス分析の結果⑥ 長期欠席者数×学習指導員の配置（中学校）

- 中学校では、学習指導員の配置人数の多さと長期欠席者数の高さに関係が見られ、1人以上配置されている中学校（未配置校除く）においても、学習指導員の合計勤務時間と長期欠席者の関係が見られた。これは、長期欠席者数が高い状況に対応すべく学習指導員が配置されたと考えられるか。



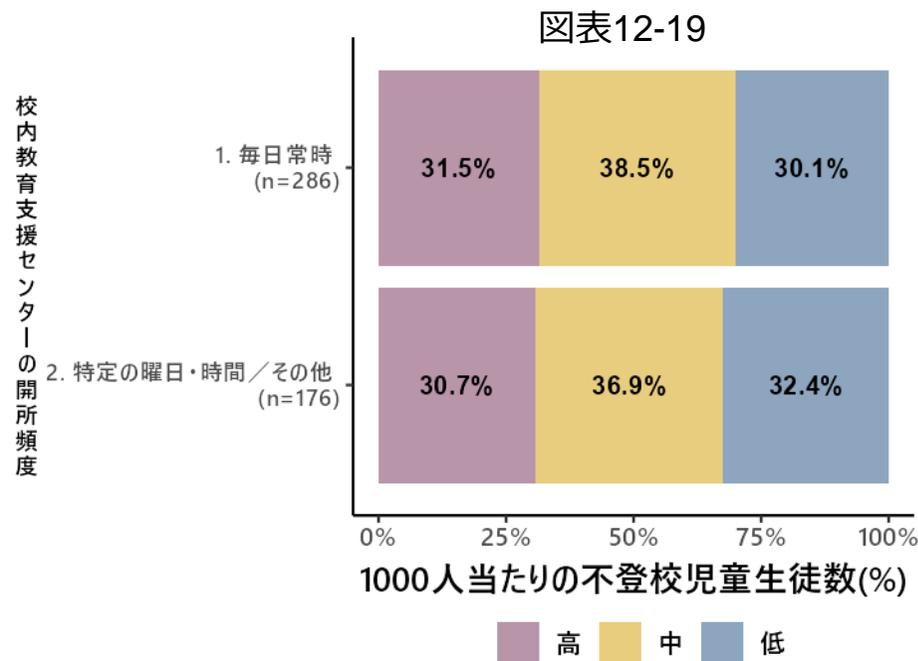
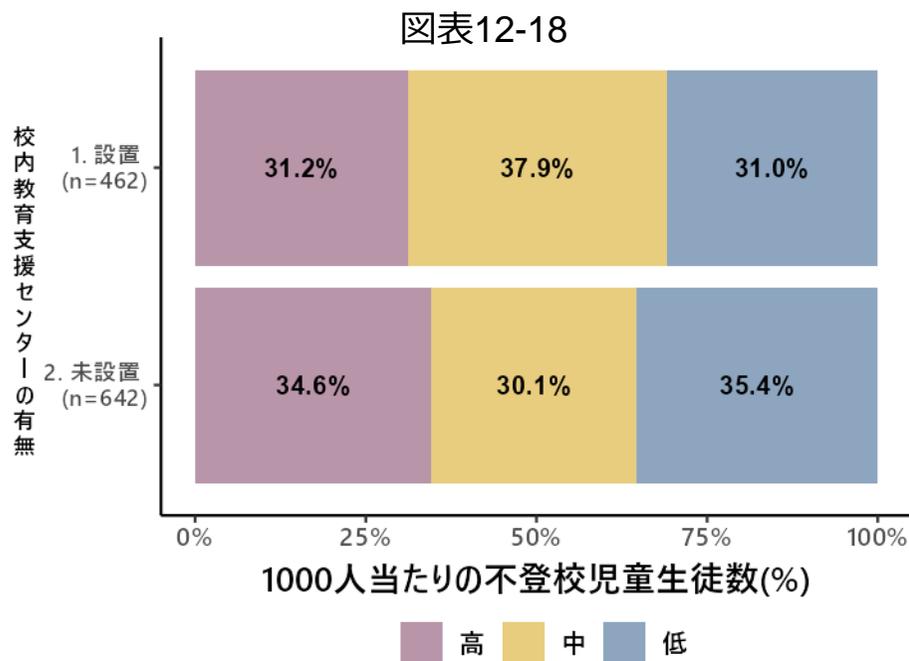
参考：クロス分析の結果⑦ 校内教育支援センターの有無と不登校児童生徒・長期欠席者の関係性（小学校）

- 小学校では長期欠席者数や不登校児童生徒数が多いほど、校内教育支援センターが設置されている。これは、不登校児童生徒数が高い状況に対応すべく、校内教育支援センターが設置されたとも考えられるか。（ただし設置と未設置のサンプルには偏りがある点に留意が必要。）



参考：クロス分析の結果⑧ 校内教育支援センターの有無や利用頻度と不登校児童生徒の関係性（中学校）

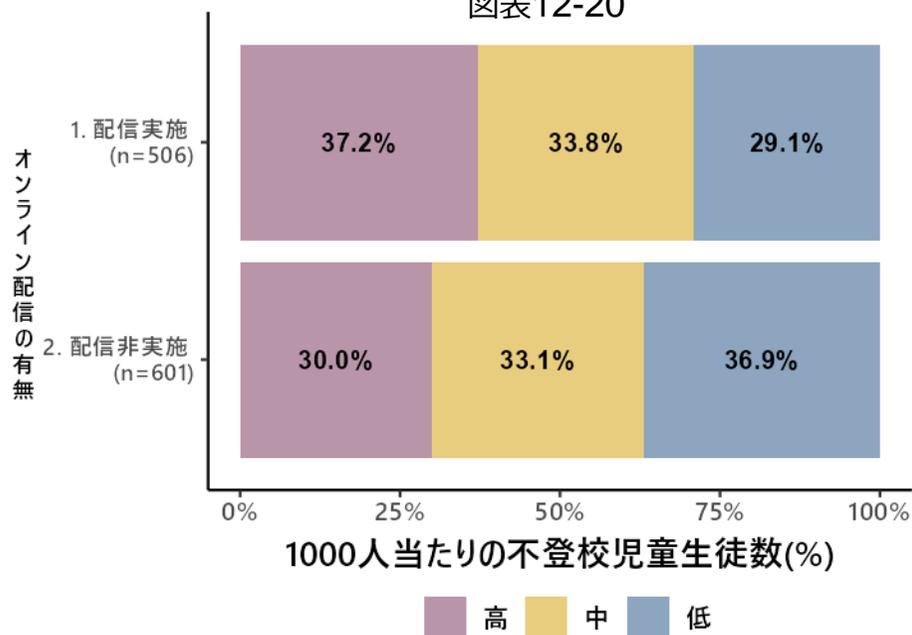
- 中学校では、不登校児童生徒数と校内教育支援センターの有無や開所頻度には顕著な関係性はないと考えられ、前ページの小学校と異なる。（なお、中学校は小学校に比べ校内教育支援センターの設置の割合が高い。）



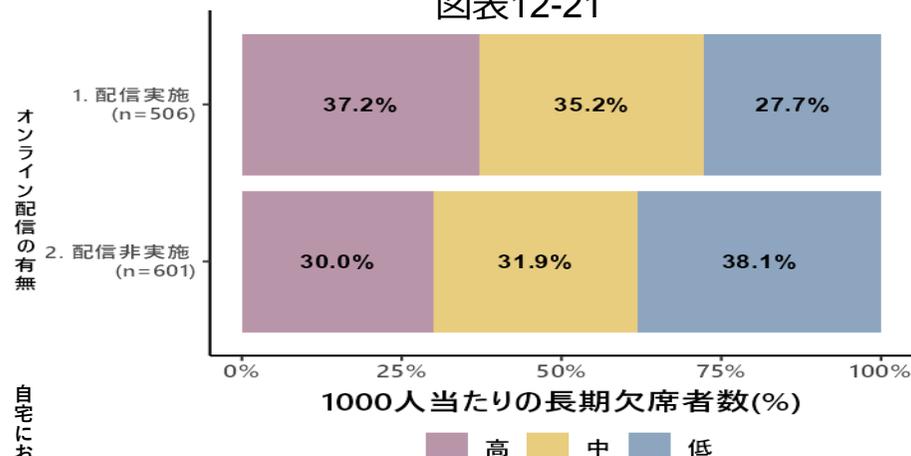
参考：クロス分析の結果⑨ オンライン配信・ICT活用活動の出席扱いと不登校児童生徒・長期欠席者の関係性（小学校）

- 小学校では、オンライン配信を実施している場合、不登校児童生徒数が多く、長期欠席でも同様の傾向が見られる。これもSC等の配置と同様で、対応の必要性がある学校で、オンラインへの対応を柔軟に行っていると考えられる。（ICT学習活動の出席扱いについても同様）
- ただし中学校では不登校も長期欠席もオンライン配信や、ICT活用活動の出席扱いとの関連は見られない。
- ※自宅におけるICT活動を出席扱いとしている児童生徒数については、実施と非実施でサンプルには偏りがある点に留意が必要。

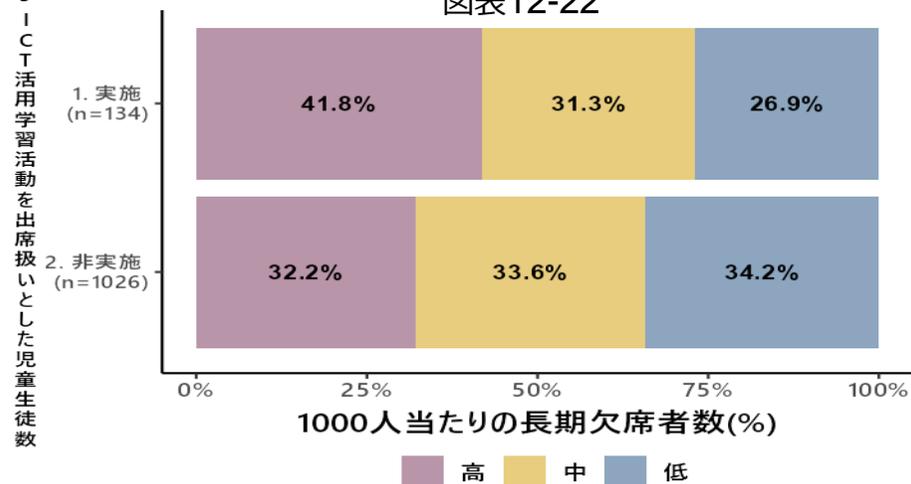
図表12-20



図表12-21



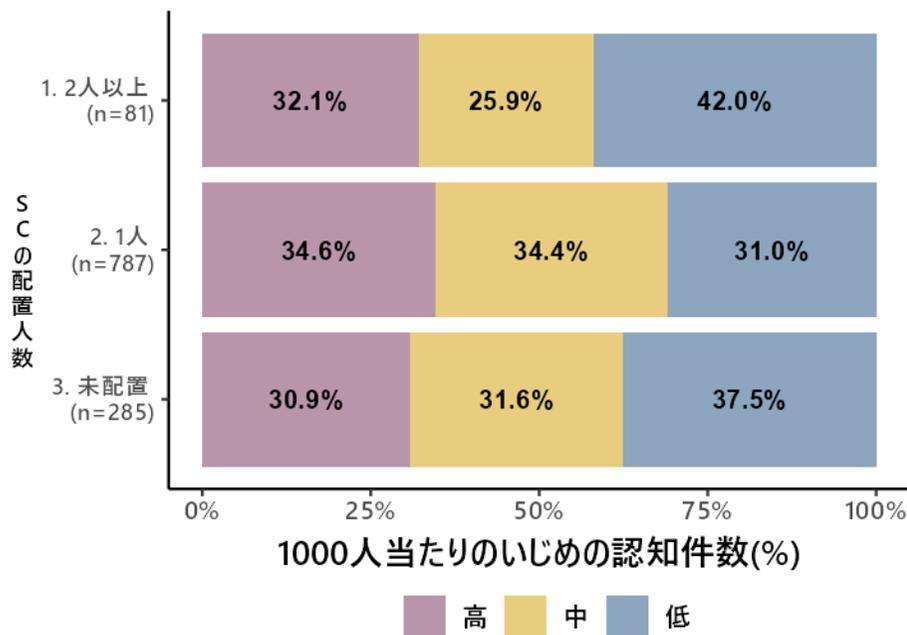
図表12-22



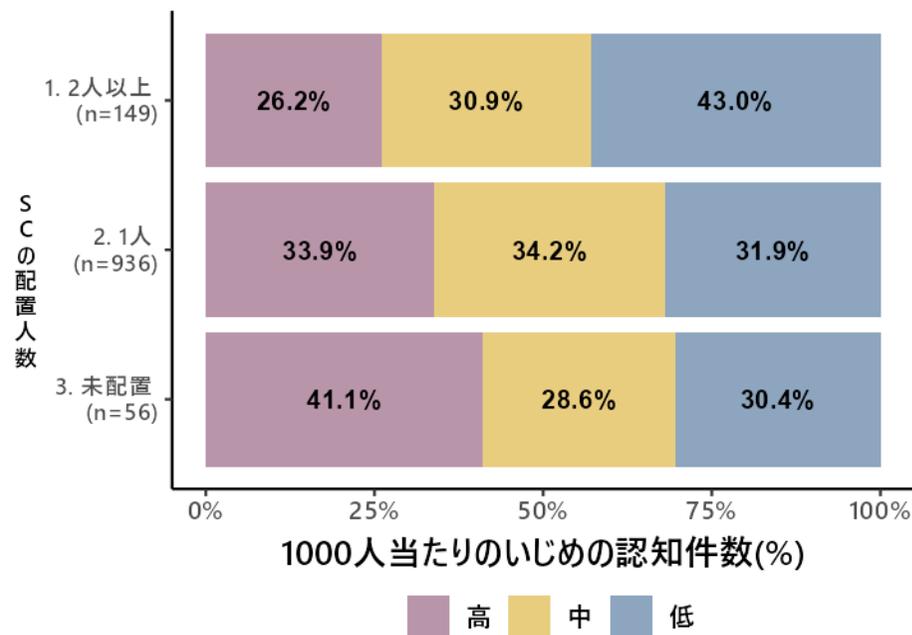
参考：クロス分析の結果⑩ いじめの認知件数×SCの配置人数（小学校・中学校）

- 小学校ではSCの配置といじめの認知件数の関係は顕著には見られないが、中学校ではSCが配置されているほど、いじめの認知件数が低くなっている。中学校では、2人以上配置している場合、1人以下の配置と比較して、認知件数低の割合が10ポイント以上高くなっている。ただし中学校については未配置のサンプル数が56校のため、解釈には留意が必要。

図表12-23 小学校



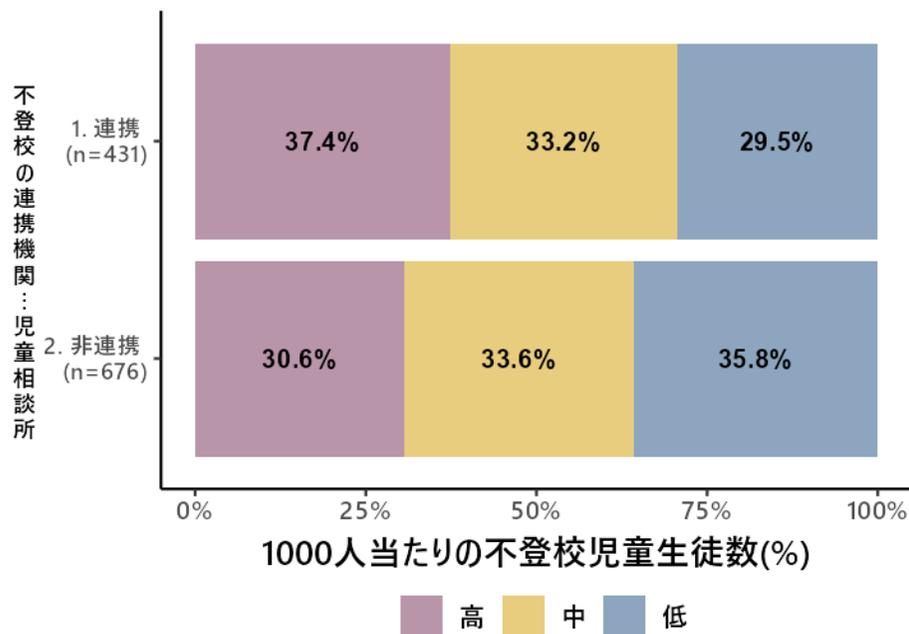
図表12-24 中学校



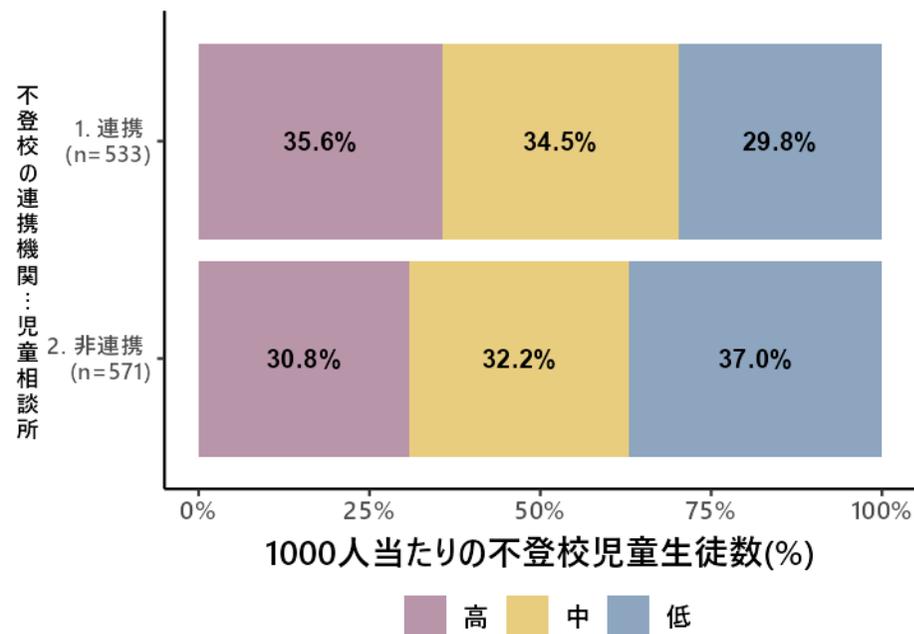
参考：クロス分析の結果⑪ 不登校児童生徒数×不登校の連携機関：児童相談所（小学校・中学校）

- 小学校・中学校どちらも、児童相談所と連携しているほど、不登校児童生徒数が多い。これは不登校児童生徒数の高い状況に対応すべく、児童相談所と連携しているとも考えられるか。

図表12-25 小学校



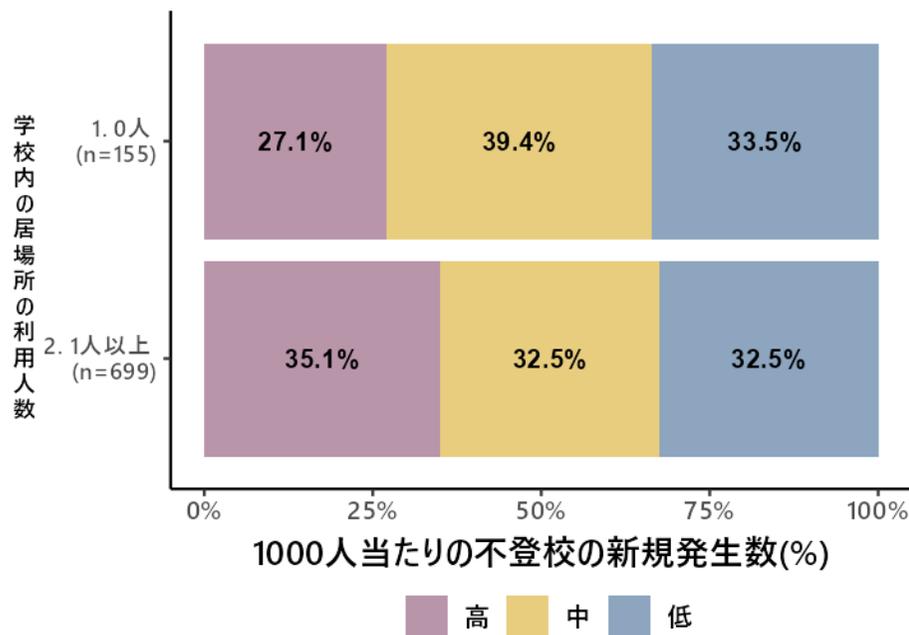
図表12-26 中学校



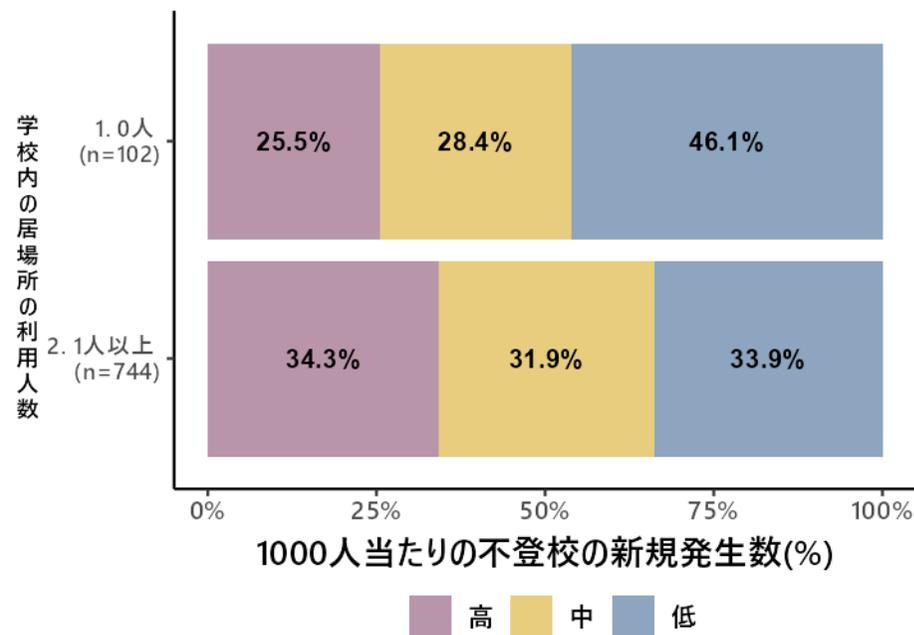
参考：クロス分析の結果⑫ 不登校の新規発生数×学校内の居場所の利用人数（小学校・中学校）

- 学校内の居場所がある学校（未設置は除いている）に関して、小学校・中学校どちらも、学校内の居場所が1人以上の場合、0人の場合と比較して不登校新規発生数が高い。不登校新規発生数が高い学校では、学校内の居場所が使われやすい関係があると考えられるか。（ただしサンプル数に偏りがある点に留意が必要。）

図表12-27 小学校



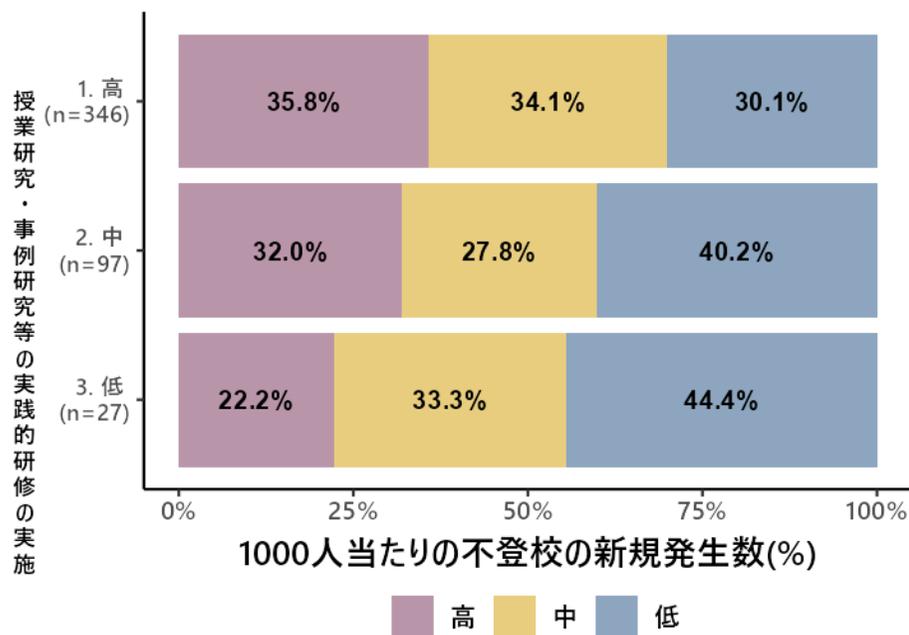
図表12-28 中学校



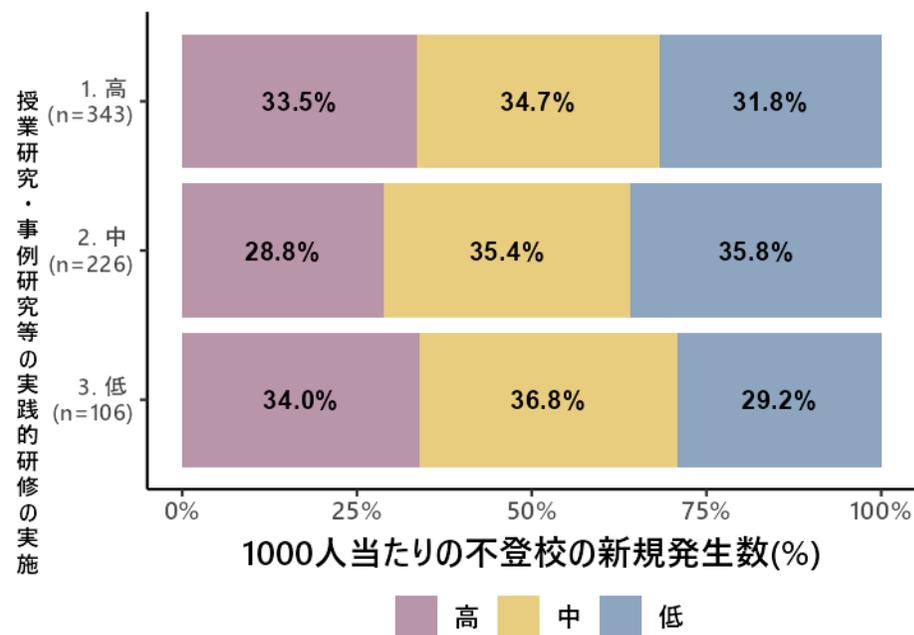
参考：クロス分析の結果⑬ 不登校の新規発生数×実践的研修の実施（小学校・中学校）

- 小学校について、研修の実施頻度が高い場合、実施頻度が低い学校（※校数は少ない点に留意が必要。）と比べて新規発生数が高い関係が見られる。ただし、中学校では研修と不登校の新規発生数に関係が見られない。

図表12-29 小学校

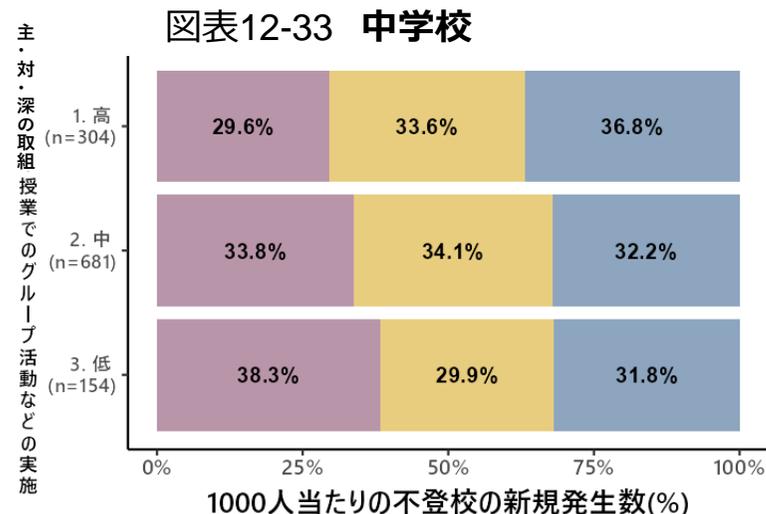
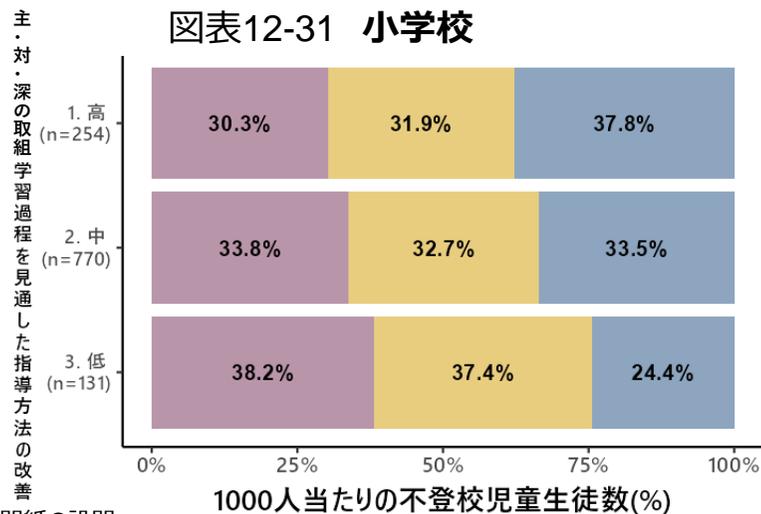


図表12-30 中学校



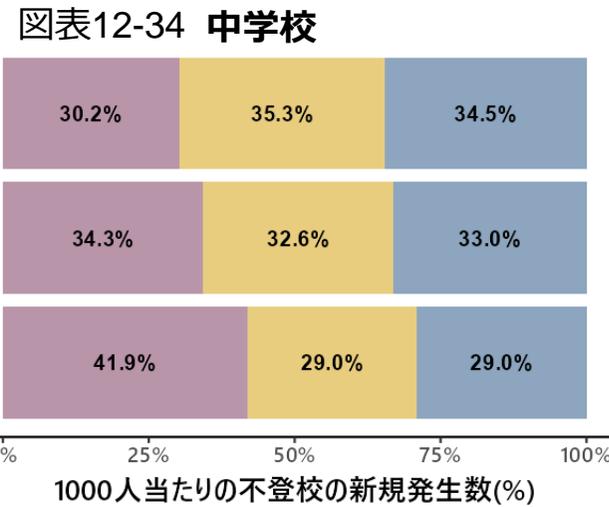
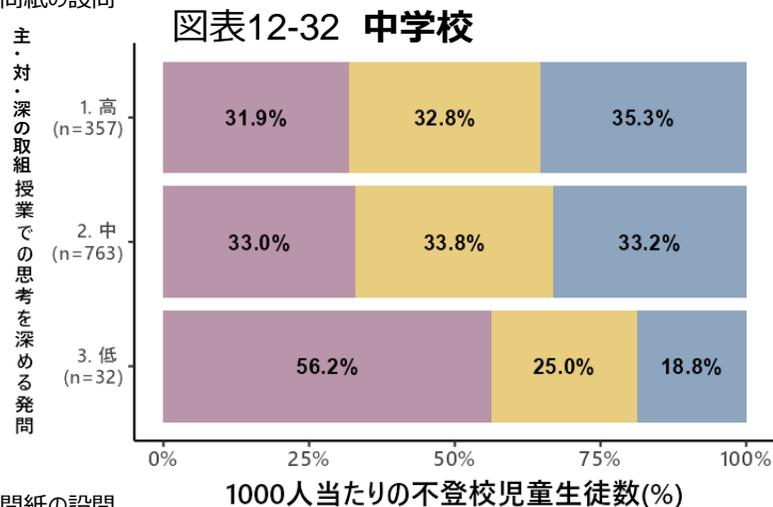
参考：クロス分析の結果⑭ 主体的・対話的で深い学びの取組から見た傾向（不登校）

- 主体的・対話的で深い学びの取組を実施している学校ほど、小学校では不登校児童生徒数がやや低い関係が、中学校では不登校の新規発生数や不登校児童生徒数がやや低い関係が若干見られる。



※学校質問紙の設定

※学校質問紙の設定



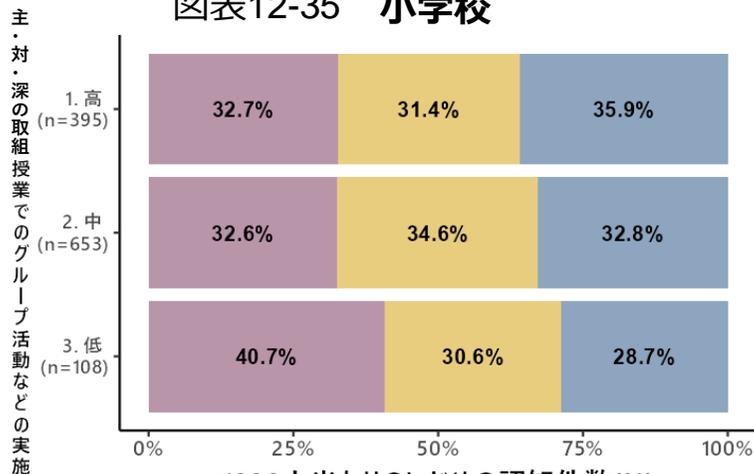
※学校質問紙の設定

※学校質問紙の設定

参考：クロス分析の結果⑮ 主体的・対話的で深い学びの取組から見た傾向（いじめ）

■ 主体的・対話的で深い学びの取組を実施しているほど、いじめの認知件数がやや低い関係が見られる。

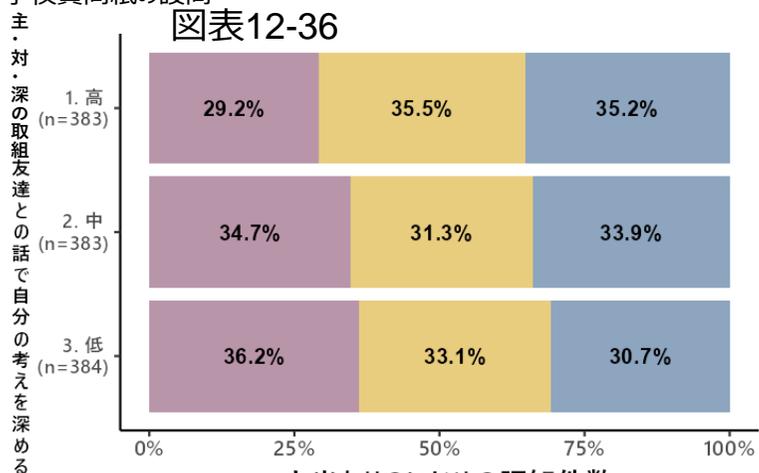
図表12-35 小学校



1000人当たりのいじめの認知件数(%)

※学校質問紙の設問

図表12-36

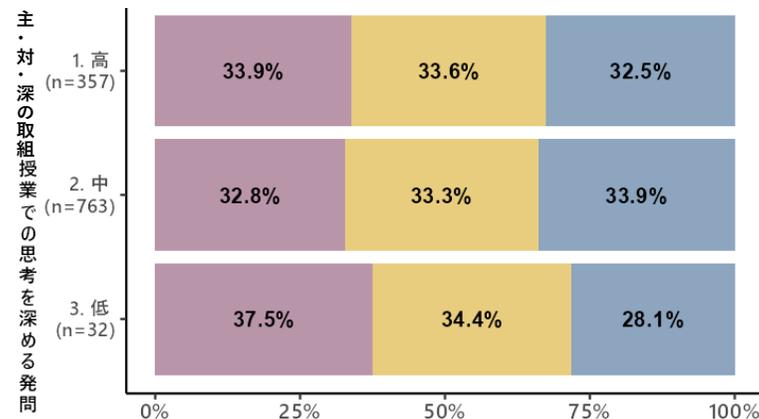


1000人当たりのいじめの認知件数(%)

※児童生徒質問紙の設問

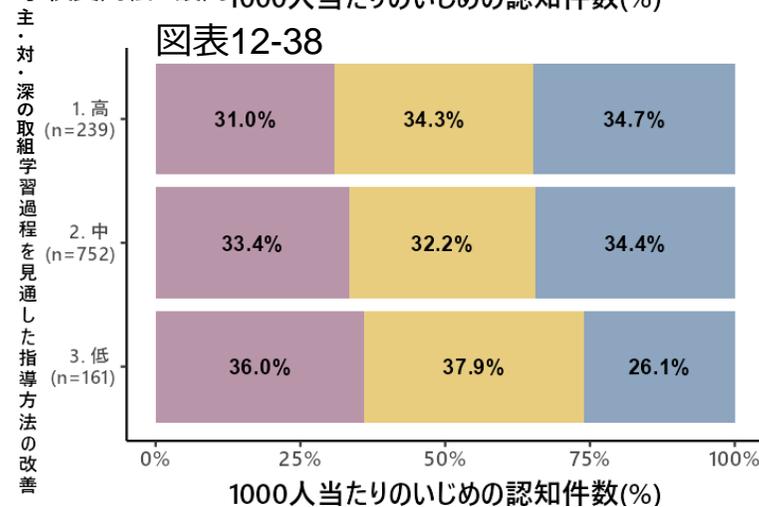
高 中 低

図表12-37 中学校



※学校質問紙の設問1000人当たりのいじめの認知件数(%)

図表12-38



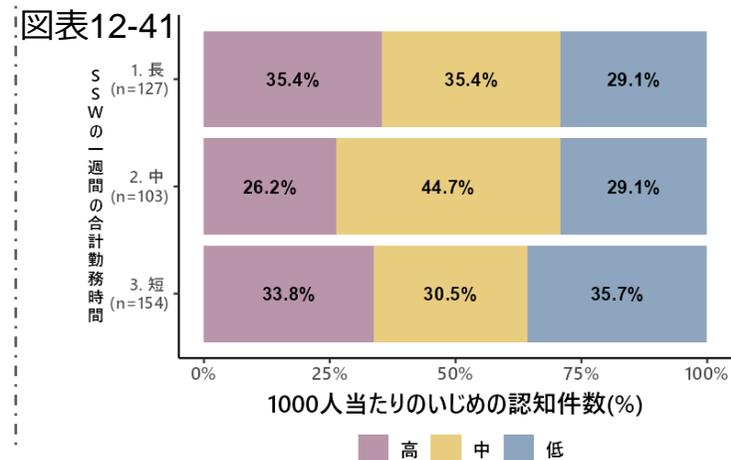
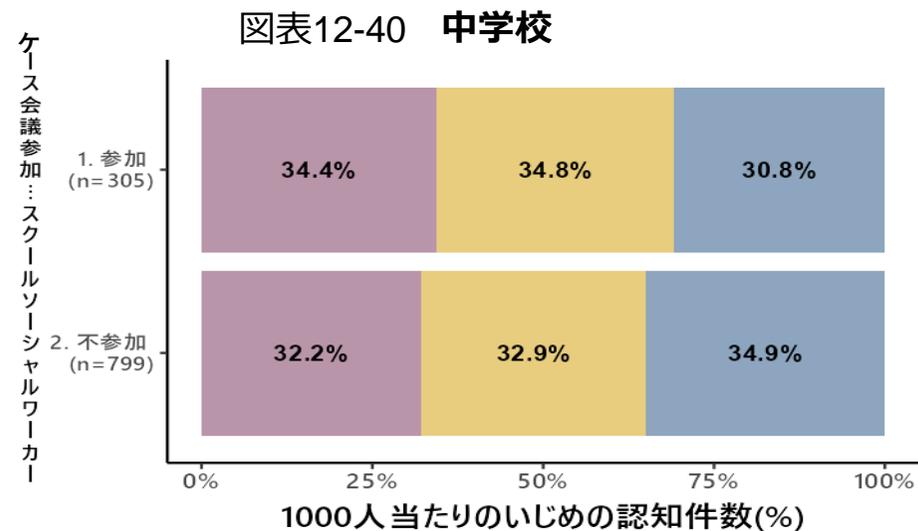
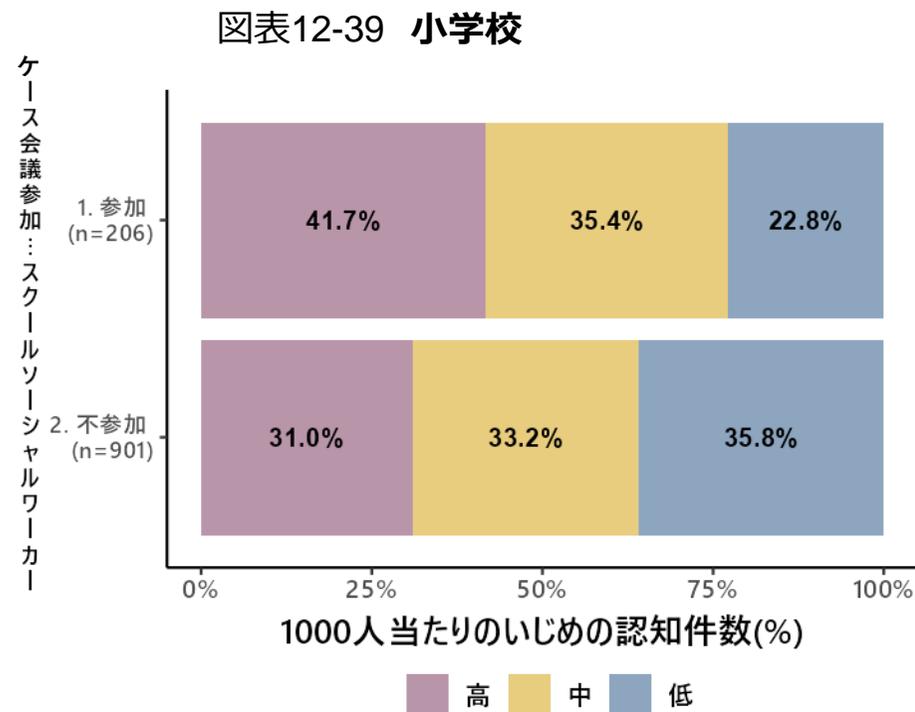
1000人当たりのいじめの認知件数(%)

※学校質問紙の設問

高 中 低

参考：クロス分析の結果⑯ いじめの認知件数×ケース会議へのSSWの参加（小学校・中学校）

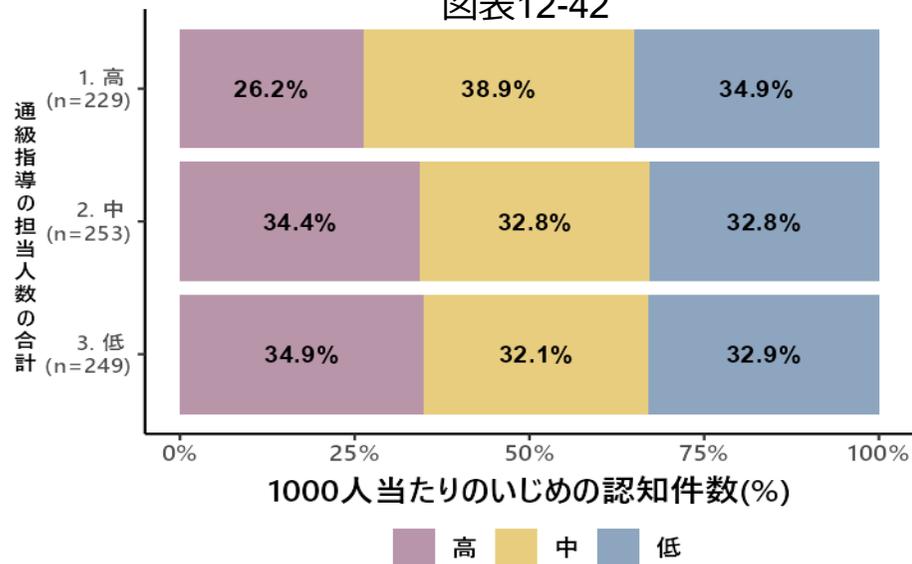
- SSWがケース会議に参加している場合、いじめの認知件数がやや高くなっている。SSWがケース会議に参加するほど、いじめが認知されやすい、あるいは、いじめの認知件数が高い状況に対応すべくSSWのケース会議参加が取り組まれていると解釈できるか。（なお、SSWの配置人数や合計勤務時間と認知件数との間には関係性がないように見える。）



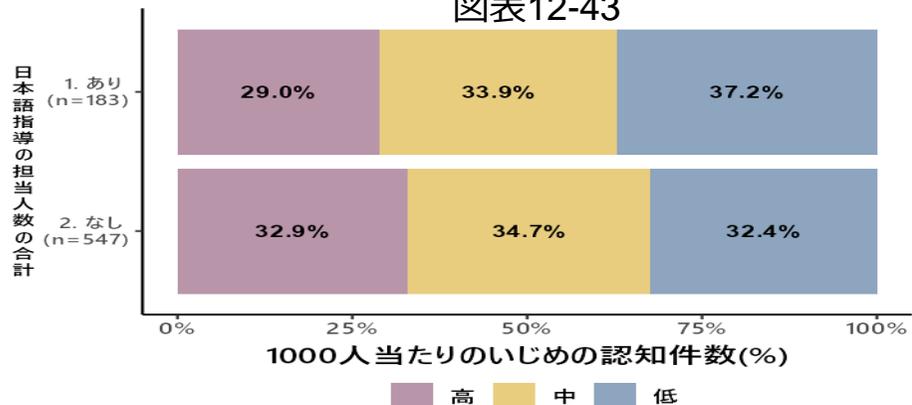
参考：クロス分析の結果⑰ いじめ認知件数×職員配置（中学校）

- 通級指導の担当職員や日本語指導の担当者が配置されている場合、そうでない学校と比較して、いじめの認知件数が低くなっている一方、生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加の教員が配置されている場合、いじめの認知件数は高くなっている。
配置される職員の種別によって、いじめの認知件数への影響が異なっていると解釈でき、一概に効果を断定しにくい。

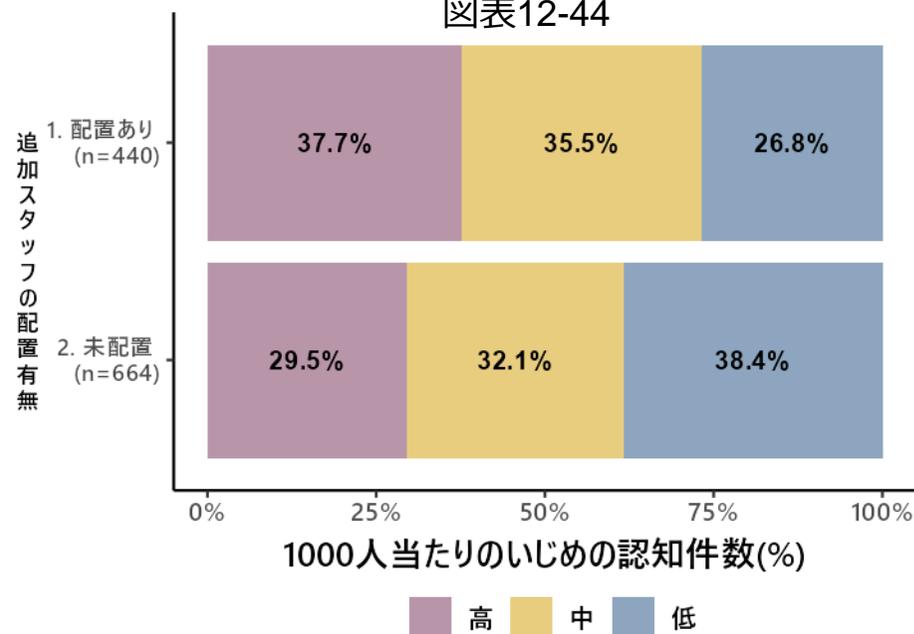
図表12-42



図表12-43

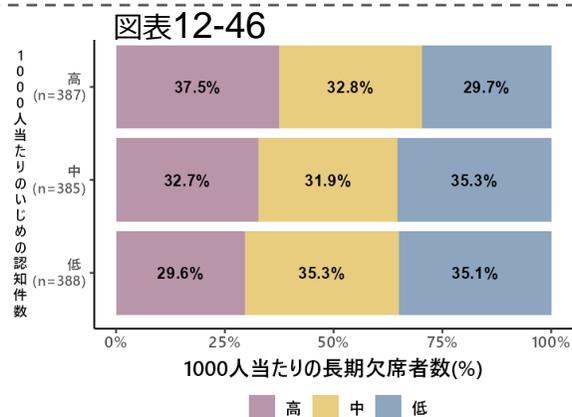
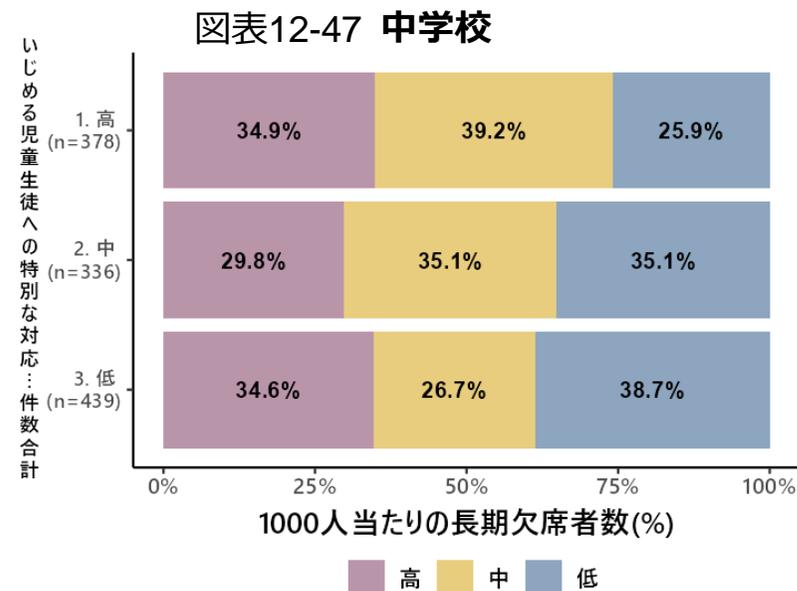
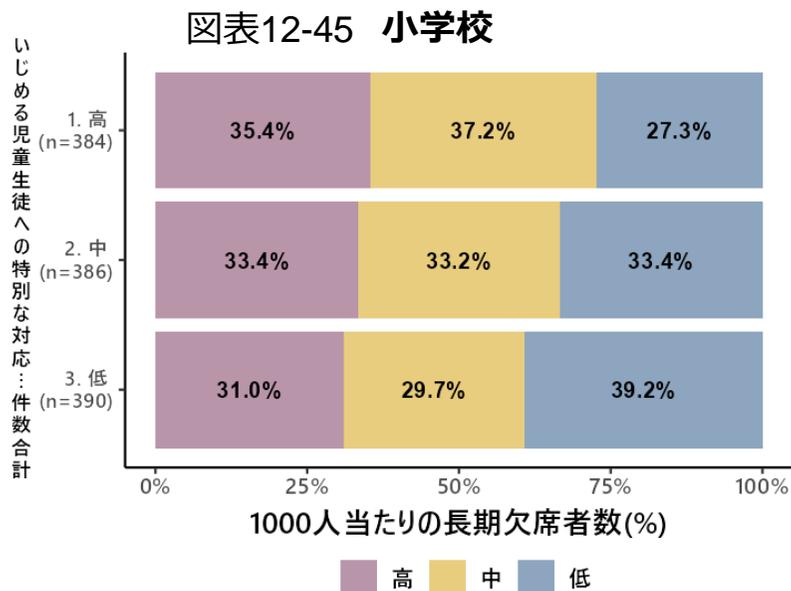


図表12-44

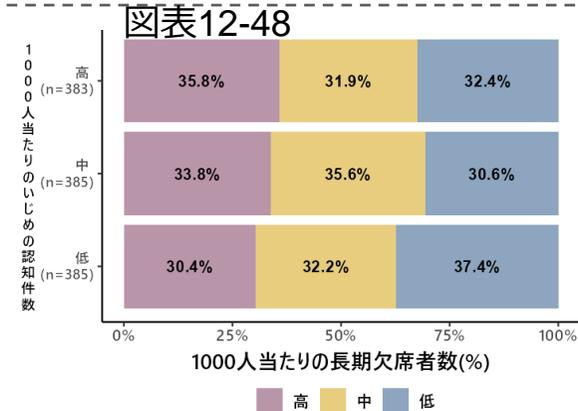


参考：クロス分析の結果⑱ 長期欠席者数×いじめる児童生徒への特別な対応（小学校・中学校）

- 中学校では、いじめる児童生徒への対応と長期欠席者の関係は顕著には見られないが、小学校では、いじめる児童生徒に特別な対応を行っているほど、長期欠席者が多くなる関係が見られる。（この点、小学校ではいじめ認知件数と長期欠席者数の間にも関係が少しかがえるか。）



参考
長期欠席者数×
いじめの認知件数

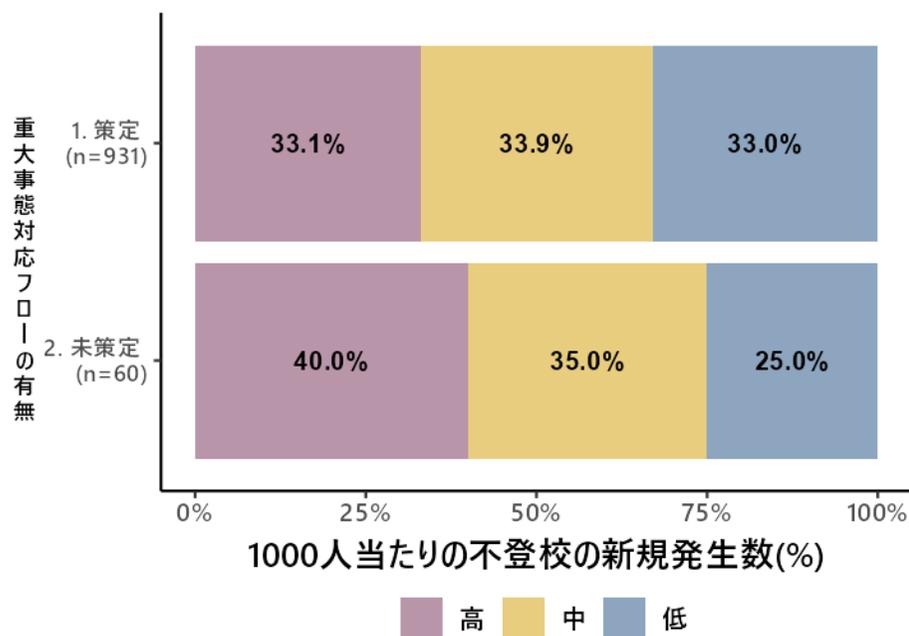


参考：クロス分析の結果⑱ 不登校の新規発生数×いじめの重大事態対応フロー（小学校・中学校）

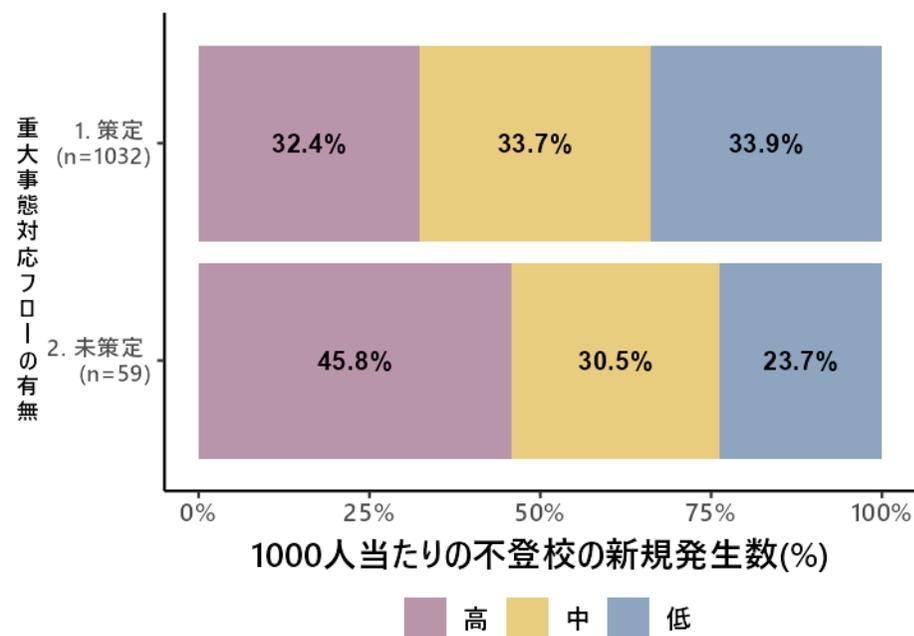
- 未策定校は小学校・中学校いずれにおいても、1割以下のため回答傾向の違いを反映している可能性があるため留意が必要だが、小学校・中学校どちらも、いじめの重大事態対応フローを策定しているほど、不登校新規発生数が低い。

図表12-50

図表12-49 小学校



図表12-50 中学校



13 : R4(2022)取組とR4(2022)アウトカムの関係 (教育委員会)

主要4アウトカムと取組項目との相関の主なまとめ（教育委員会）

■ 1000人当たりの**長期欠席者数**

- SV（スーパーバイザー）の配置との間に弱い正の相関（.10）がある。（このことは長期欠席者数が多い教育委員会では積極的に配置が行われていると解釈することが妥当か。）
- 日本語指導取組の実施との間に弱い正の相関（.10）がある。（このことは長期欠席者数が多い教育委員会では積極的に取組を実施していると解釈することが妥当か。）

■ 1000人当たりの**不登校児童生徒数**

- 教育支援センターの設置数との間に弱い正の相関（.09）がある。このことは不登校児童生徒数が多い教育委員会で積極的に設置していると解釈することが妥当か。）

■ 1000人当たりの**いじめの認知件数**・1000人当たりの**不登校の新規発生数**

- 相関無し

※相関分析・クロス分析は、小学校・中学校データの分析と同様の手順で算出した。

相関分析（教育委員会・アウトカム×取組）

- 相関分析の対象とした取組変数は21あったが、アウトカム変数と相関が見られた変数は、3つのみであった。単年度のアウトカム項目と取組項目の関係を見ることは難しいと考えられる。
- SV（スーパーバイザー）を配置している教育委員会や、日本語指導支援に取り組んでいる教育委員会では、長期欠席者数が多くなっていたり、教育支援センターの配置をしている教育委員会では不登校児童生徒数が多くなっているが、不登校数が多い教育委員会ほど取組が進んでいるという結果の表れだと考えられるか。

図表13-1 アウトカム間の相関表（教育委員会）

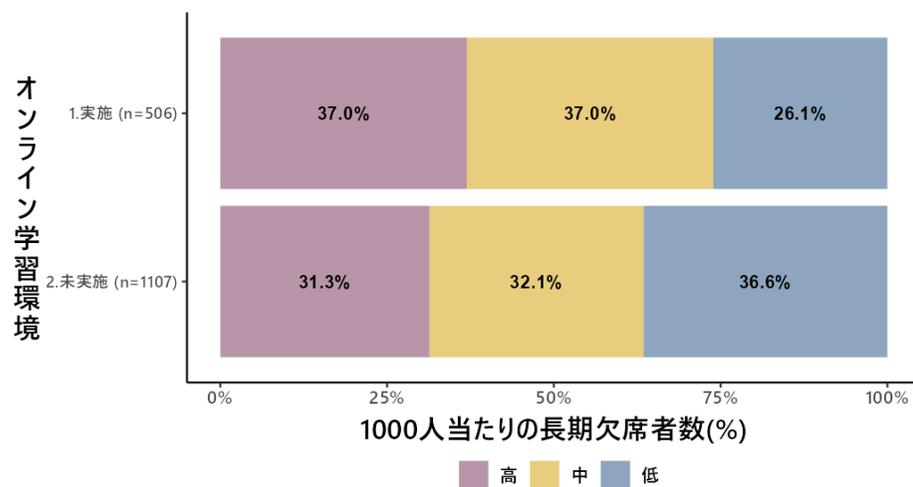
	教育支援センター の設置数	SVの配置	日本語指導
★いじめの認知件数	-0.07	.0	-0.09
★長期欠席者数	.04	.10 *	.10 **
★不登校児童生徒数	.09 *	.09	.09
★不登校の新規発生数	.05	.07	.05

- 次ページから、有意な相関は確認されなかったものの、一定程度特徴のある結果の得られた取組項目について、クロス分析の結果を掲載する。

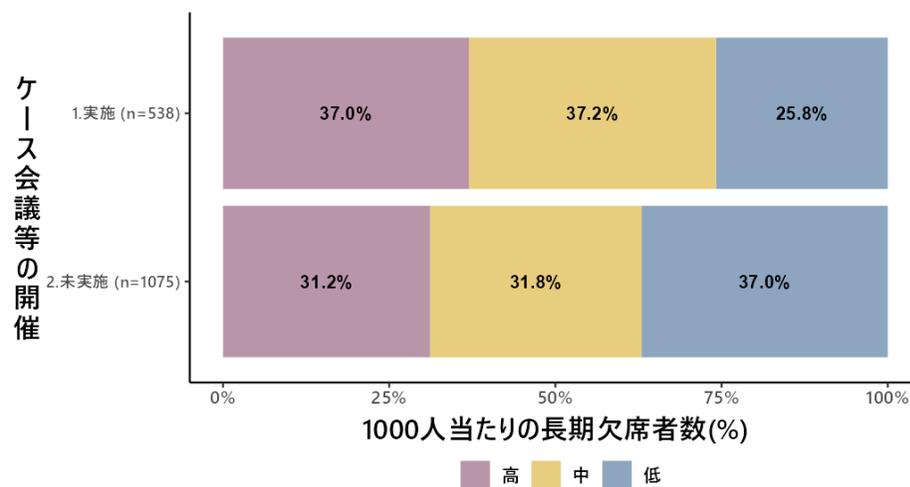
参考：クロス分析の結果①教育支援センターの取組から見た長期欠席者数

- 以降では、有意な相関は確認されなかったものの、一定程度特徴のある結果の得られた取組項目について、クロス分析の結果を掲載する。
- 1000人当たりの長期欠席者数が多い教育委員会ほど、オンライン学習環境を整備していたり、ケース会議等を行っていると考えられる。

図表13-2 長期欠席者数の状況別に見たオンライン学習環境の実施状況



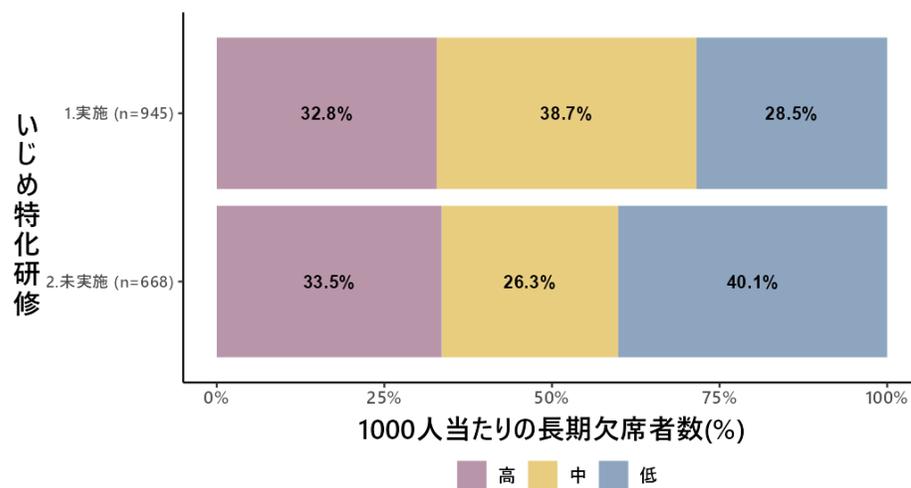
図表13-3 長期欠席者数の状況別に見たケース会議等の開催状況



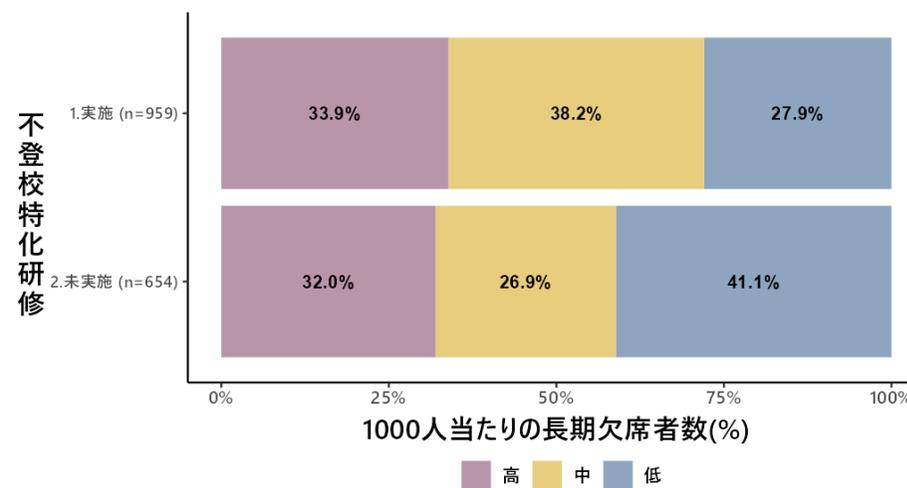
参考：クロス分析の結果②いじめ・不登校の研修実施有無から見た長期欠席者数

- 1000人当たりの長期欠席者数が多いほど、いじめや不登校に特化した研修を実施していると考えられる。

図表13-4 長期欠席者数の状況別に見たいじめに特化した研修の実施状況



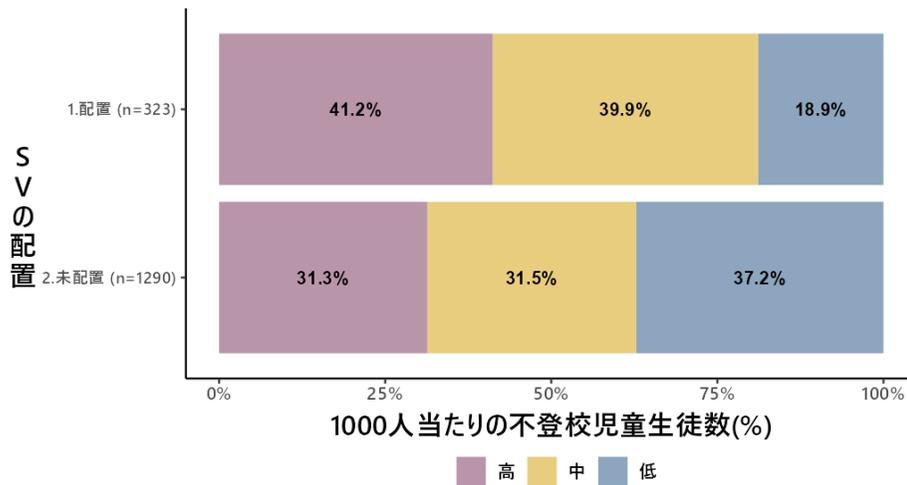
図表13-5 長期欠席者数の状況別に見た不登校に特化した研修の実施状況



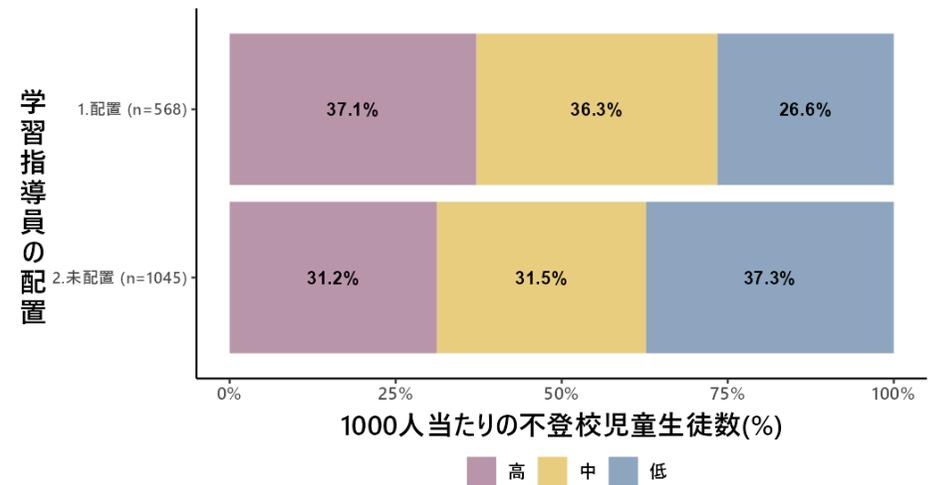
参考：クロス分析の結果③ 職員配置から見た不登校児童生徒数

- 1000人当たりの不登校児童生徒数が多い教育委員会ほど、SVや学習指導員を配置していると考えられる。

図表13-6 不登校児童生徒数の状況別に見たSVの配置状況



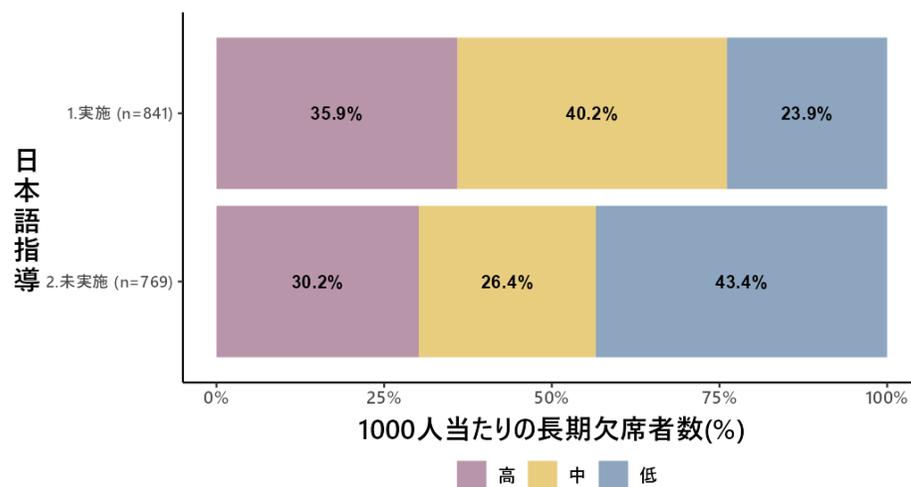
図表13-7 不登校児童生徒数の状況別に見た学習指導員の配置状況



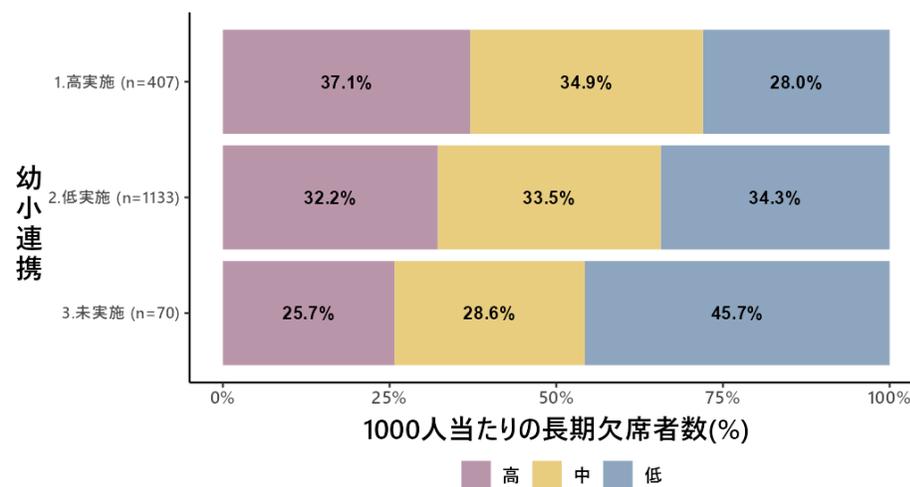
参考：クロス分析の結果④日本語指導や幼小連携の実施有無から見た長期欠席者数

- 1000人当たりの長期欠席者数が多いほど、日本語指導を実施している状況である。幼稚園と小学校の連携についても、長期欠席者数が多いほど、熱心に取り組んでいる教育委員会が多いと考えられる。

図表13-8 長期欠席者数の状況別に見た日本語指導の実施状況



図表13-9 長期欠席者数の状況別に見た幼小連携の実施状況



参考1：分析に用いた変数一覧

(小学校、中学校、教育委員会、パネルデータ)

学校単位分析の使用データ・外れ値の処理

使用データ

- 問題行動等調査（R4）：小学校・中学校データ
 - いじめや不登校に関するアウトカムを抽出
- 学校基本調査（R4）：小学校・中学校データ
 - 外国人児童生徒数を抽出
- 勤務実態調査（R4）：小学校・中学校データ
 - 児童生徒数、特別支援学級数、特別支援学級在籍者数、受験意欲、生活保護を受けている児童生徒数、特別な支援が必要な児童生徒数を抽出
- 学力調査（R4）：小学校・中学校データ
 - 国語学力、算数・数学学力、生活習慣、スクリーンタイム、家庭の蔵書数、学校の雰囲気項目、主・対・深の取組項目等を抽出
- 新規アンケート（R4）：小学校・中学校データ
 - 学校における取組項目を抽出

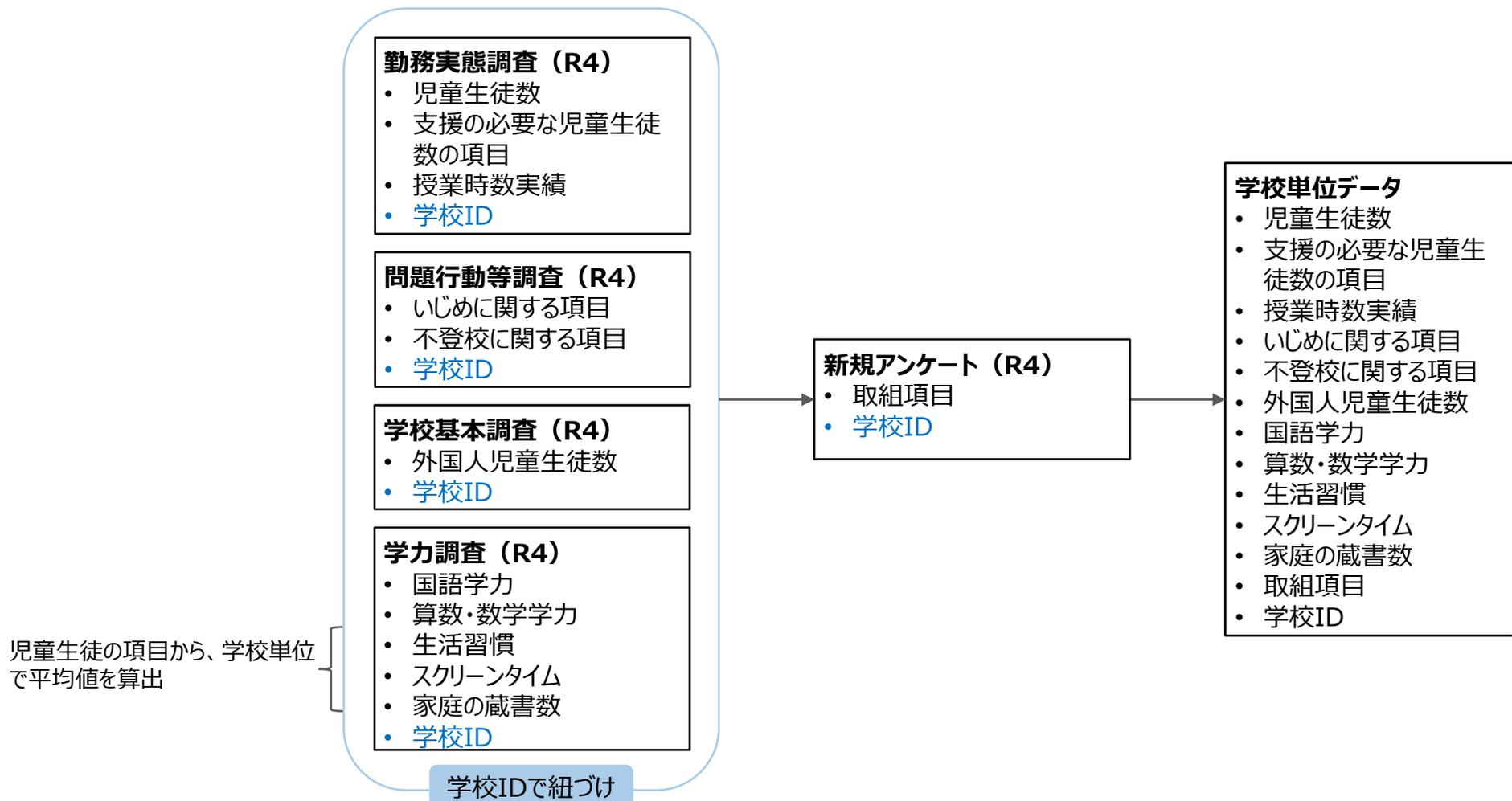
外れ値の処理

- 児童生徒数から1000人当たりの人数を算出している都合上、小規模校ほど、1件の件数が大きく評価されてしまい、分布に偏りが生じる可能性があるため、児童生徒人数の下位2.5%（約30校）を外れ値として除外して統計量を求め、外れ値の有無で分布に違いがあるか確認した。
- 特に、いじめの認知件数、不登校児童生徒数、授業時数実績において小規模校の影響が見られたため、分析の際には外れ値を除外している。

学校単位データの作成方法

■ 学校単位データの作成手順は以下のとおり。

- 勤務実態調査のサンプル（小学校1190校、中学校1183校）を元データとし、問題行動等調査、学校基本調査、学力調査を紐づけ、新規アンケートを統合することで学校単位データを作成した。



学校単位分析において使用した変数①アウトカム項目（小学校・中学校）

No	アウトカム項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
1	★いじめの認知件数	問題行動等調査	いじめ認知件数／児童生徒数×1000
2	★いじめの解消件数	〃	いじめ解消件数／児童生徒数×1000
3	いじめの解消割合	〃	いじめの解消件数／いじめの認知件数
4	★いじめの重大事態発生件数	〃	いじめの重大事態発生件数／児童生徒数×1000
5	★長期欠席者数	〃	長期欠席者数／児童生徒数×1000
6	★不登校児童生徒数	〃	不登校児童生徒数／児童生徒数×1000
7	不登校の新規発生率	〃	(不登校児童生徒数－前年度継続数)／不登校児童生徒数
8	★不登校の新規発生数	〃	(不登校児童生徒数－前年度継続数)／児童生徒数×1000
9	★不登校児童生徒数のうち90日以上欠席	〃	不登校児童生徒数のうち90日以上欠席している児童生徒数／児童生徒数×1000
10	★不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下	〃	不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下の児童生徒数／児童生徒数×1000
11	★不登校児童生徒数のうち出席日数が0日	〃	不登校児童生徒数のうち出席日数が0日の児童生徒数／児童生徒数×1000
12	★指導の結果登校できる生徒数	〃	指導の結果登校できる児童生徒数／児童生徒数×1000

※★は、児童生徒数1,000人当たりの件数・人数に集計

※太字は主要なアウトカム変数

※変数は全てR4年度のものを利用

学校単位分析において使用した変数②属性項目（小学校・中学校）

No	属性項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
13	児童生徒数	勤務実態調査	ローデータを使用
14	★外国人児童生徒数	学校基本調査	外国人児童生徒数／児童生徒数×1000
15	特別支援学級数	〃	ローデータを使用
16	★特別支援学級在籍者数	〃	特別支援学級在籍者数／児童生徒数×1000
17	★生活保護、就学援助を受けている児童生徒数_要保護	学力調査	生活保護、就学援助を受けている児童生徒数_要保護／児童生徒数×1000
18	★生活保護、就学援助を受けている児童生徒数_準要保護	〃	生活保護、就学援助を受けている児童生徒数_準要保護／児童生徒数×1000
19	★通常学級に在籍している児童生徒のうち、特別な教育的支援が必要な児童生徒数（通級を除く）	〃	通常学級在籍の児童生徒のうち、特別な教育的支援が必要な児童生徒数／児童生徒数×1000
20	★日本語指導児童生徒数（特別課程）	新規アンケート	日本語指導児童生徒数／児童生徒数×1000
21	★日本語指導児童生徒数（通常級）	〃	日本語指導児童生徒数／児童生徒数×1000
22	★要対協児童生徒数	〃	要対協の支援対象の児童生徒数／児童生徒数×1000
23	授業時数実績	勤務実態調査	R4年度の計画時数を実績とみなして利用。各学年の授業時数を平均し、学校単位の平均値を算出
24	受験意欲（順序カテゴリ変数：4件法）	勤務実態調査	私立中学校への進学者が多い地域か尋ねる設問を利用。ローデータを使用
25	国語の学力	学力調査	ローデータを使用
26	算数・数学の学力	〃	ローデータを使用
27	家庭の蔵書数	〃	児童生徒ごとの過程の蔵書数を平均し、学校単位の平均値を算出 ※回答カテゴリは以下のとおり再割当てした「5」「18」「63」「150.5」「350.5」「501」
28	生活習慣_朝食習慣（順序カテゴリ変数：4件法）	〃	児童生徒ごとの回答を「1～4」に再割当てして平均し、学校単位の平均値を算出（1～4）
29	生活習慣_就寝リズム（順序カテゴリ変数：4件法）	〃	〃
30	生活習慣_起床リズム（順序カテゴリ変数：4件法）	〃	〃
31	スクリーンタイム	〃	児童生徒ごとの1日平均の①テレビゲーム利用時間、②SNS利用・動画視聴時間を合計したスクリーンタイムを平均し、学校単位の平均値を算出

※★は、児童生徒数1,000人当たりの件数・人数に集計

※変数は全てR4年度のものを利用

学校単位分析において使用した変数③中間項目（小学校・中学校）

No	中間アウトカム項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
32	先生との関係性_先生が良いところを認めてくれる	学力調査	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
33	学級内サポート_人が困っているとき進んで助けている	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
34	いじめの規範意識_いじめはいけないことだと思う	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
35	先生との関係性_先生や学校にいる大人に困りごとなどを相談できる	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
36	社会的態度項目_人の役に立つ人間になりたい	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
37	学校への愛着_学校に行くのは楽しい	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
38	社会的態度項目_自分と違う意見について考えるのは楽しい	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
39	社会的態度項目_友達と協力するのは楽しい	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
40	学級雰囲気項目_学級会での話合い	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
41	教師支援項目_国語の授業の理解	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
42	教師支援項目_算数・数学の授業の理解	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
43	教師支援項目_理科の授業の理解	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
44	学級雰囲気項目_学年の児童の授業中の私語が少ない	〃	4件法：ローデータを逆転して使用（1～4）
45	★暴力行為の件数	問題行動等調査	暴力行為の件数／児童生徒数×1000

※★は、児童生徒数1,000人当たりの件数・人数に集計

※変数は全てR4年度のものを利用

学校単位分析において使用した変数④中間項目（小学校・中学校）

No	中間アウトカム項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
46	教員_人間関係_トラブルがよくある	勤務実態調査	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
47	教員_人間関係_意思疎通がよくいっていない	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
48	教員_人間関係_苦手な人がいる	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
49	教員_人間関係_職場の人が配慮してくれる	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
50	教員_人間関係_気軽に話ができる	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
51	教員_人間関係_援助・助言が得られる	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
52	教員_人間関係_個人的な問題の相談にのってくれる	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
53	教員_人間関係_合計得点	〃	教員_人間関係の7項目の合計得点を算出し、学校単位の平均値を算出
54	教員_仕事の満足度_やりがい	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
55	教員_仕事の満足度_能力発揮	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
56	教員_仕事の満足度_達成感・満足感	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
57	教員_仕事の満足度_合計得点	〃	教員_仕事の満足度の3項目の合計得点を算出し、学校単位の平均値を算出
58	教員_退職意欲	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
59	教員_チームでの課題解決_管理職のリーダーシップによる働き方改革	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
60	教員_チームでの課題解決_削減すべき業務の認識（支援が必要な児童生徒、家庭の対応）	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
61	チームでの課題解決_問題を抱える教員のサポート	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出
62	意欲的学校環境_授業研究・事例研究等の実践的な研修の実施	〃	ローデータを使用し、学校単位の平均値を算出

※変数は全てR4年度のものを利用

学校単位分析において使用した変数⑤取組項目（小学校・中学校）

No	取組項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
63	SCの配置人数	勤務実態調査	□-データを使用
64	SCの1週間の合計勤務時間	〃	□-データを使用
65	SCの勤務年数	新規アンケート	□-データを使用
66	SCの対応実績	〃	□-データを使用
67	SCの職務内容	〃	複数回答のSCの職務内容の合計（0～11）
68	SCの職務内容_児童生徒への心理教育	〃	□-データを使用（二値変数）
69	SCの職務内容_教職員研修	〃	□-データを使用（二値変数）
70	SCの職務内容_ケース会議等の会議への参加	〃	□-データを使用（二値変数）
71	SCの会議参加状況	〃	5件法の回答を0～4（0=不参加、4=毎回参加）に再割当て
72	SSWの配置人数	勤務実態調査	□-データを使用
73	SSWの1週間の合計勤務時間	〃	□-データを使用
74	SSWの勤務年数	新規アンケート	□-データを使用
75	SSWの対応実績	〃	□-データを使用
76	SSWの会議参加状況	〃	5件法の回答を0～4（0=不参加、4=毎回参加）に再割当て
77	警察に相談・通報した件数	問題行動等調査	□-データを使用
78	いじめる児童生徒への特別な対応_件数合計	〃	□-データを使用
79	いじめる児童生徒への特別な対応_警察・刑事司法	〃	□-データを使用
80	いじめる児童生徒への特別な対応_児童相談所	〃	□-データを使用
81	いじめる児童生徒への特別な対応_病院	〃	□-データを使用
82	いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	〃	□-データを使用
83	いじめられた児童生徒への特別な対応_別室の提供	〃	□-データを使用
84	重大事態対応フローの有無	新規アンケート	□-データを使用（二値変数）
85	いじめ防止対策組織の開催頻度	〃	4件法の回答を0～3（0=未開催、3=学期ごとに1回以上）に再割当て
86	いじめ防止対策組織の参加者	〃	いじめ防止対策組織の参加者の合計（0～8）

※変数は全てR4年度のものを利用

学校単位分析において使用した変数⑥取組項目（小学校・中学校）

No	取組項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
87	自宅におけるICT活用学習活動を出席扱いとした児童生徒数	問題行動等調査	□-データを使用
88	自宅におけるICT活用学習活動を出席扱いとした児童生徒数のうち、機関等においても出席扱いを受けた児童生徒数	〃	□-データを使用
89	オンライン配信の有無	新規アンケート	□-データを使用（二値変数）
90	オンライン配信の出席扱い	〃	3件法の回答を0～2（0=欠席扱い、2=要件を満たせば出席扱い）に再割当て
91	オンライン配信の成績評価	〃	3件法の回答を0～2（0=欠席扱い、2=要件を満たせば成績評価）に再割当て
92	フリースクールの出席扱い	〃	3件法の回答を0～2（0=欠席扱い、2=要件を満たせば出席扱い）に再割当て
93	フリースクールの成績評価	〃	3件法の回答を0～2（0=欠席扱い、2=要件を満たせば成績評価）に再割当て
94	不登校の支援シート	新規アンケート	3件法の回答を0～2（0=未作成、2=全員を対象に作成）に再割当て
95	校内教育支援センターの有無	〃	□-データを使用（二値変数）
96	校内教育支援センターの開所頻度	〃	5件法の回答を1～5（1=必要に応じて、5=毎日常時）に再割当て
97	校内教育支援センターの人員体制	〃	1=教員と支援スタッフ（学習指導員等）で対応、0=それ以外
98	校内教育支援センターの利用人数	〃	6件法の回答を0～5（0=0人、5=21人以上）に再割当て
99	学校内の居場所	〃	複数回答の学校内の居場所の合計（0～5）
100	学校内の居場所の利用人数	〃	6件法の回答を0～5（0=0人、5=21人以上）に再割当て
101	生徒指導部会の開催頻度	〃	3件法の回答を0～2（0=実施無し、2=学期ごとに1回以上）に再割当て
102	ケース会議の参加教職員	〃	複数回答のケース会議の参加教職員の合計（0～8）
103	ケース会議の参加教職員_学年の担当教員	〃	□-データを使用（二値変数）
104	ケース会議の参加教職員_養護教諭	〃	□-データを使用（二値変数）
105	ケース会議の参加教職員_スクールカウンセラー	〃	□-データを使用（二値変数）
106	ケース会議の参加教職員_スクールソーシャルワーカー	〃	□-データを使用（二値変数）

※変数は全てR4年度のものを利用

学校単位分析において使用した変数⑦取組項目（小学校・中学校）

No	取組項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
107	いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_個別面談	問題行動等調査	□-データを使用（二値変数）
108	いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_個人ノート	〃	□-データを使用（二値変数）
109	いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_家庭訪問	〃	□-データを使用（二値変数）
110	いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_その他	〃	□-データを使用（二値変数）
111	アンケート実施頻度_年4回以上	〃	□-データを使用（二値変数）
112	いじめアンケートの活用方法	新規アンケート	複数回答のいじめアンケートの活用方法の合計（0～5）
113	心の健康観察の実施の有無	〃	□-データを使用（二値変数）
114	心の健康観察の利用した機能	〃	複数回答の心の健康観察の利用した機能の合計（0～6）
115	心の健康観察_児童生徒の記録を教職員等が振り返った	〃	□-データを使用（二値変数）
116	心の健康観察_児童生徒の心身の状況を担任以外の教職員等が把握した	〃	□-データを使用（二値変数）
117	心の健康観察_児童生徒の心身の状況に急激な変化等があった場合に教職員等が確認した	〃	□-データを使用（二値変数）
118	心の健康観察_児童生徒が悩みや相談したいことがあるときに、端末等を用いて教職員等に知らせた	〃	□-データを使用（二値変数）
119	心の健康観察により個別相談した人数	〃	5件法の回答を0～4（0=0人、4=31人以上）に再割当て
120	学校におけるいじめの問題に対する日常の取組_PTA	問題行動等調査	□-データを使用（二値変数）
121	学校におけるいじめの問題に対する日常の取組_関係機関	〃	□-データを使用（二値変数）
122	教育委員会研修の参加割合	新規アンケート	7件法の回答を0～6（0=不参加、6=6～10割参加）に再割当て
123	（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）	〃	3件法の回答を0～2（0=実施無し、2=学期ごとに1回以上）に再割当て
124	PTA活動の盛んさ	勤務実態調査	□-データを使用（逆転）
125	地域交流の盛んさ	〃	□-データを使用（逆転）

※変数は全てR4年度のものを利用

学校単位分析において使用した変数⑧取組項目（小学校・中学校）

No	取組項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
126	校則見直しの実施	新規アンケート	3件法の回答を0~2（0=非実施、1=R4年度に実施、2=R4年度以前に実施）に再割当て
127	校則見直し検討の取組内容	〃	複数回答の校則見直し検討の取組内容の合計（0~5）
128	学校運営協議会の設置	勤務実態調査	〇データを使用
129	学校運営協議会の開催回数	〃	〇データを使用
130	学校運営協議会の委員人数	〃	〇データを使用
131	学校運営協議会の委員のうち教員人数	〃	〇データを使用
132	学校運営協議会の構成員	新規アンケート	複数回答の学校運営協議会の構成員を合計（0~5）
133	学校運営協議会での不登校・いじめの協議	〃	学校運営協議会での不登校・いじめの協議を合計（0~3）
134	学校運営協議会の協議_学校全体の発生・対応状況の報告	〃	〇データを使用（二値変数）
135	学校運営協議会の協議_個別の事案の報告	〃	〇データを使用（二値変数）
136	学校運営協議会の協議_課題解決に向けた協議	〃	〇データを使用（二値変数）
137	地域学校協働活動の有無	勤務実態調査	〇データを使用
138	地域主導の学校・地域交流行事の実施回数	〃	〇データを使用
139	特別支援学級の担当人数の合計	勤務実態調査	正規教員 + 短時間勤務の教員 + 再任用教員（フルタイム/短時間勤務） + 臨時的任用教員又は任期付採用教員 + 非常勤講師の合計
140	通級指導の担当人数の合計	〃	正規教員 + 短時間勤務の教員 + 再任用教員（フルタイム/短時間勤務） + 臨時的任用教員又は任期付採用教員 + 非常勤講師の合計
141	特別支援教育コーディネーター専任	〃	〇データを使用
142	特別支援教育支援員の人数	〃	〇データを使用
143	特別支援教育支援員の1週間の合計勤務時間	〃	〇データを使用
144	日本語指導の担当人数の合計	〃	正規教員 + 短時間勤務の教員 + 再任用教員（フルタイム/短時間勤務） + 臨時的任用教員又は任期付採用教員 + 非常勤講師の合計
145	日本語支援員・母語支援員の人数	〃	〇データを使用
146	日本語支援員・母語支援員の1週間の合計勤務時間	〃	〇データを使用

※変数は全てR4年度のものを利用

学校単位分析において使用した変数⑨取組項目（小学校・中学校）

No	取組項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
147	幼保小の連携・接続の内容	新規アンケート	複数回答の幼保小の連携・接続の内容の合計（0～8）
148	幼保小の連携・接続の内容（年間複数実施）	〃	複数回答の幼保小の連携・接続の内容（年間複数実施）の合計（0～8）
149	小中一貫教育	学校基本調査	1 = 小中一貫校、0 = 非該当校（二値変数）
150	小中連携・小中一貫教育の内容	新規アンケート	複数回答の小中連携・小中一貫教育の内容の合計（0～8）
151	小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）	〃	複数回答の小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）の合計（0～8）
152	不登校の連携機関	〃	複数回答の不登校の連携機関の合計（0～7）
153	不登校の連携機関_こども家庭センター	〃	ローデータを使用（二値変数）
154	不登校の連携機関_児童相談所	〃	ローデータを使用（二値変数）
155	不登校の連携機関_医療機関や保健所・精神保健福祉センター	〃	ローデータを使用（二値変数）
156	不登校の連携機関_フリースクール	〃	ローデータを使用（二値変数）
157	児童生徒支援専任教員の人数	勤務実態調査	ローデータを使用
158	学習指導員の人数	〃	ローデータを使用
159	学習指導員の1週間の合計勤務時間	〃	ローデータを使用
160	追加スタッフの配置有無	新規アンケート	ローデータを使用（二値変数）
161	追加スタッフへの軽減措置	〃	複数回答の追加スタッフへの軽減措置の合計（0～6）
162	その他スタッフの配置人数（学校）	〃	ローデータを使用
163	学年担任制等の導入	〃	3件法の回答を0～2（0=未導入、2=全ての学年で導入）に再割当て
164	チームティーチングの実施	〃	7件法の回答を0～6（0=非実施、6=全ての学年で複数教科で取組）に再割当て
165	習熟度別指導	〃	7件法の回答を0～6（0=非実施、6=全ての学年で複数教科で取組）に再割当て
166	少人数指導	〃	7件法の回答を0～6（0=非実施、6=全ての学年で複数教科で取組）に再割当て

※変数は全てR4年度のものを利用

学校単位分析において使用した変数⑩取組項目（小学校・中学校）

No	取組項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
168	自由進度学習（授業内）	新規アンケート	7件法の回答を、0～6（0=非実施、6=全ての学年で複数教科で取組）に再割当て
169	自由課題学習（総合）	〃	4件法の回答を0～3（0=非実施、3=全ての学年で取組）に再割当て
170	個に応じた教育	〃	No.163～169の項目について、それぞれ（0=非実施、1=実施）に再割当てし、合計したもの（0～6）
171	人権教育	〃	6件法の回答を0～5（0=非実施、5=全ての学年で複数回取組）に再割当て
172	主権者教育	〃	6件法の回答を0～5（0=非実施、5=全ての学年で複数回取組）に再割当て
173	SEL教育	〃	6件法の回答を0～5（0=非実施、5=全ての学年で複数回取組）に再割当て
174	障害理解のための教育	〃	6件法の回答を0～5（0=非実施、5=全ての学年で複数回取組）に再割当て
175	異文化理解のための教育	〃	6件法の回答を0～5（0=非実施、5=全ての学年で複数回取組）に再割当て
176	体験活動	〃	6件法の回答を0～5（0=非実施、5=全ての学年で複数回取組）に再割当て
177	異学級交流	〃	10件法の回答を0～9（0=非実施、9=全ての学年でほぼ毎日取組）に再割当て
178	異学年交流	〃	10件法の回答を0～9（0=非実施、9=全ての学年でほぼ毎日取組）に再割当て
179	地域交流（学習活動内）	〃	10件法の回答を0～9（0=非実施、9=全ての学年でほぼ毎日取組）に再割当て
180	支持的態度_児童の良い点を評価する	学力調査	4件法：学校回答から各校平均点算出（1～4）
181	主・対・深の取組_発表の工夫	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
182	主・対・深の取組_課題解決に向けて考えて取り組む	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
183	主・対・深の取組_考えをまとめる	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
184	主・対・深の取組_創作活動	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
185	主・対・深の取組_自分に合った学習内容	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
186	主・対・深の取組_社会的態度項目_友達との話で自分の考えを深める	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
187	主・対・深の取組_学習内容の見直し	〃	4件法：児童生徒回答から各校平均点算出（1～4）
188	主・対・深の取組_授業での思考を深める発問	〃	4件法：学校回答からローデータの順序を逆転して使用（1～4）
189	主・対・深の取組_授業でのグループ活動などの実施	〃	4件法：学校回答からローデータの順序を逆転して使用（1～4）
190	主・対・深の取組_学習過程を見通した指導方法改善	〃	4件法：学校回答からローデータの順序を逆転して使用（1～4）

※変数は全てR4年度のものを利用

教育委員会単位分析の使用データ・データの処理

使用データ

- 問題行動等調査（R4）：教育委員会ごとの小学校・中学校データの合計値
 - いじめや不登校に関するアウトカムを抽出
- 学校基本調査（R4）：教育委員会ごとの小学校・中学校データの合計値
 - 児童生徒数、外国人児童生徒数を抽出
- 国勢調査（R2）：教育委員会データ
 - ひとり親家庭の割合を抽出
- 新規アンケート（R4）：教育委員会データ
 - 教育委員会における取組項目を抽出

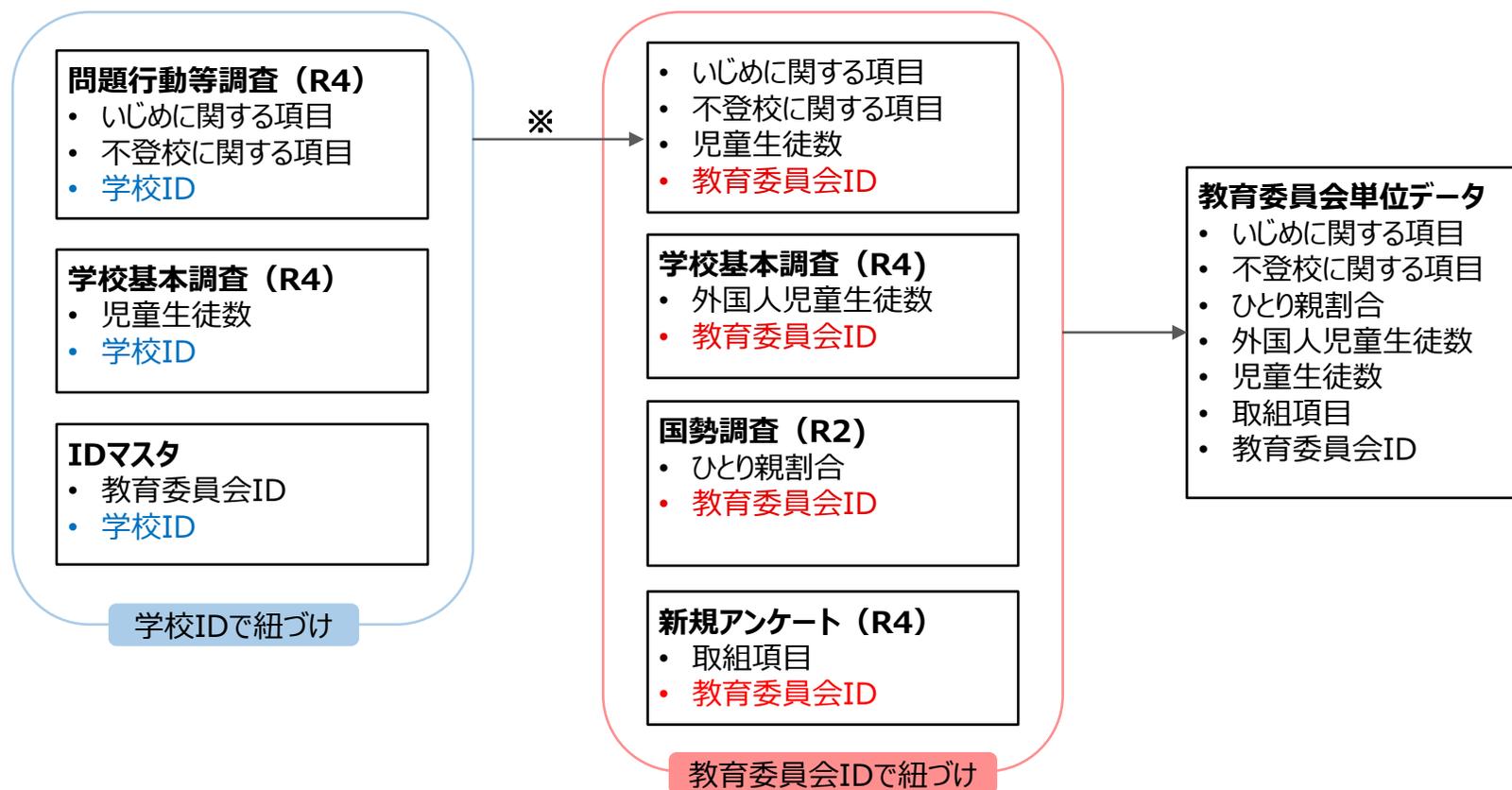
データの処理

- 問題行動等調査は国立・私立・都道府県立学校を除外した。
- 問題行動等調査・学校基本調査の項目は、教育委員会ごとに合計値を算出した。
- 問題行動等調査・学校基本調査に教育委員会IDを紐づける際には、学校基本調査（R4）「学校コードと市町村番号対照表」から都道府県コード（01～47）と総務省市町村コード（3桁）の5桁のコードを取得し、別途作成した「市区町村コード（総務省）と教育委員会コード（文部科学省）マスタ」の市区町村コードと紐づけることで、学校コードと教育委員会コードの対照表を作成した（市区町村コードの改正により、一部の学校が紐づかなかった）。
- 児童生徒数から1000人当たりの人数を算出している都合上、小規模の教育委員会ほど、1件の件数が大きく評価されてしまい、分布に偏りが生じる可能性があるため、児童生徒数（教育委員会の合計値）の下位2.5%（約40教育委員会）を外れ値として除外して統計量を求め、外れ値の有無で分布に違いがあるか確認した。
- 新規アンケートは、複数回回答のデータは除外した。

教育委員会単位データの作成方法

■ 教育委員会単位データの作成手順は以下のとおり。

- 問題行動等調査（小学校・中学校データ）のサンプルを元データとし、学校基本調査、IDマスタを紐づけ、教育委員会ごとに合計値を算出し、国勢調査、新規アンケートを統合することで教育委員会単位データを作成した。



※教育委員会ごとに合計値を算出

教育委員会単位分析において使用した変数①

No	アウトカム項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
1	★いじめの認知件数	問題行動等調査 (R4)	いじめ認知件数／児童生徒数×1000
2	★長期欠席者数	〃	長期欠席者数／児童生徒数×1000
3	★不登校児童生徒数	〃	不登校児童生徒数／児童生徒数×1000
4	★不登校の新規発生数	〃	(不登校児童生徒数－前年度継続数)／児童生徒数×1000
5	★いじめの解消件数	〃	いじめ解消件数／児童生徒数×1000
6	いじめの解消割合	〃	いじめの解消件数／いじめの認知件数
7	★いじめの重大事態の発生件数	〃	いじめの重大事態発生件数／児童生徒数×1000
8	不登校の新規発生率	〃	(不登校児童生徒数－前年度継続数)／不登校児童生徒数
9	★不登校児童生徒数のうち90日以上欠席	〃	不登校児童生徒数のうち90日以上欠席している児童生徒数／児童生徒数×1000
10	★不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下	〃	不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下の児童生徒数／児童生徒数×1000
11	★不登校児童生徒数のうち出席日数が0日	〃	不登校児童生徒数のうち出席日数が0日の児童生徒数／児童生徒数×1000
12	★指導の結果登校できる児童生徒数	〃	指導の結果登校できる児童生徒数／児童生徒数×1000
No	属性項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
13	児童生徒数	学校基本調査 (R4)	ローデータより抽出し、教育委員会ごとに合計値を算出
14	ひとり親家庭の割合	国勢調査 (R2)	ひとり親世帯／夫婦のいる核家族世帯
15	外国人児童生徒の割合	学校基本調査 (R4)	外国人児童生徒数／児童生徒数
No	取組項目とした変数 (問題行動等調査)	変数の出所	変数の作成方法
16	教育支援センターの設置数	問題行動等調査 (R4)	市町村教育委員会が所管している教育支援センターの設置数
17	教育相談を行っている機関数	〃	市町村教育委員会が所管している教育相談を行っている機関数
18	教育相談員数	〃	市町村教育委員会が所管している教育相談員数
19	教育相談件数	〃	市町村教育委員会が所管している教育相談件数

教育委員会単位分析において使用した変数②

No	取組項目とした変数（アンケート調査）	変数の出所	変数の作成方法
20	SC配置の考え方	アンケート調査 (R4)	6件法の回答を0~1（0=未配置、1=配置）に再割当て
21	SSW配置の考え方	〃	6件法の回答を0~1（0=未配置、1=配置）に再割当て
22	学習指導員配置の考え方	〃	6件法の回答を0~1（0=未配置、1=配置）に再割当て
23	児童生徒支援加配の考え方	〃	6件法の回答を0~1（0=未配置、1=配置）に再割当て
24	SVの配置	〃	5件法の回答を0~1（0=未配置、1=配置）に再割当て
25	その他スタッフの配置	〃	回答を0~1（0=未配置、1=配置）に再割当て
26	いじめに特化した研修の実施	〃	6件法の回答を0~1（0=未実施、1=実施）に再割当て
27	不登校に特化した研修の実施	〃	6件法の回答を0~1（0=未実施、1=実施）に再割当て
28	教育支援センターの平均利用人数	〃	回答を1~3（1=0~5名、2=6~10名、3=11名以上）に再割当て
29	教育支援センターに配置している職員の属性	〃	8件法の回答を0~1（0=教職系・退職教職員、1=行政職系・心理系・社会福祉系職員・医療関係者・ボランティア・その他）に再割当て
30	教育支援センターの取組_オンラインの学習環境	〃	回答を0~1（0=未実施、1=実施）に再割当て
31	教育支援センターの取組_不登校児童生徒の状況の把握	〃	回答を0~1（0=未実施、1=実施）に再割当て
32	教育支援センターの取組_相談・指導等につな がっていない児童生徒への訪問支援・相談	〃	回答を0~1（0=未実施、1=実施）に再割当て
33	教育支援センターの取組_福祉部局等とのケース 会議等の開催	〃	回答を0~1（0=未実施、1=実施）に再割当て
34	幼児教育施設や小学校との連携	〃	複数回答の幼小連携の内容の合計（0~8）
35	小学校同士の連携や小学校と中学校との連携	〃	複数回答の小小連携・小中連携の内容の合計（0~8）
36	福祉部門等の関係機関との連携	〃	複数回答の福祉部門等の関係機関連携の内容の合計（0~5）
37	日本語指導が必要な児童生徒への支援	〃	回答を0~1（0=未実施、1=実施）に再割当て

パネルデータ分析において使用した変数①アウトカム等（小学校・中学校・教育委員会）

No	アウトカム項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
1	★いじめの認知件数	問題行動等調査	いじめ認知件数／児童生徒数×1000
2	★長期欠席者数	〃	長期欠席者数／児童生徒数×1000
3	★不登校児童生徒数	〃	不登校児童生徒数／児童生徒数×1000
4	★不登校の新規発生数	〃	(不登校児童生徒数－前年度継続数)／児童生徒数×1000
5	★指導の結果登校できる生徒数	〃	指導の結果登校できる児童生徒数／児童生徒数×1000
6	児童・生徒数	学校基本調査	

※★は、児童生徒数1,000人当たりの件数・人数に集計 ※太字は主要なアウトカム変数

パネルデータ分析において使用した変数②取組項目（小学校・中学校）

No	取組項目とした変数	変数の出所	変数の作成方法
1	SC配置人数（児童・生徒1,000人当たり）	勤務実態調査	SC配置人数／児童生徒数×1000 第1四分位数以下を「低」、第1四分位数より大きく、第3四分位数以下を「中」、第3四分位数より大きいものを「高」として区分。
2	SC勤務時間（児童・生徒1,000人当たり）	〃	SC週当たり合計勤務時間／児童生徒数×1000 第1四分位数以下を「低」、第1四分位数より大きく、第3四分位数以下を「中」、第3四分位数より大きいものを「高」として区分。
3	SSW配置人数（児童・生徒1,000人当たり）	〃	SSW配置人数／児童生徒数×1000 第1四分位数以下を「低」、第1四分位数より大きく、第3四分位数以下を「中」、第3四分位数より大きいものを「高」として区分。
4	SSW勤務時間（児童・生徒1,000人当たり）	〃	SSW週当たり合計勤務時間／児童生徒数×1000 第1四分位数以下を「低」、第1四分位数より大きく、第3四分位数以下を「中」、第3四分位数より大きいものを「高」として区分。
5	SC会議参加状況（頻度）	新規アンケート	5割以上を「高」、5割未満を「低」として分類。
6	SSW会議参加状況（頻度）	〃	5割以上を「高」、5割未満を「低」として分類。
7	校内教育支援センターの開設状況	〃	R4年度以前に開設、R4年度に開設を「開設群」、実施無しを「非開設群」として分類。
8	校内教育支援センターの開設頻度	〃	「毎日常時」、「その他群」に分類。
9	心の健康観察実施状況	〃	R4年度以前に実施、R4年度に実施を「実施群」、実施無しを「非実施群」として分類。

※変数は全てR4年度のものを利用

参考2：分析に用いた変数の基本統計量

(小学校、中学校、教育委員会、パネルデータ)

基本統計量①（小学校外れ値除外）

アウトカム項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
★いじめの認知件数	1160	92.09	37.80	118.54	0.00	19.20	88.20	745.40
★いじめの解消件数	1160	72.39	25.90	101.34	0.00	12.33	62.70	689.40
いじめの解消割合	1117	0.74	0.80	0.28	0.00	0.69	0.94	1.00
★いじめの重大事態発生件数	1160	0.06	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	17.70
★長期欠席者数	1160	31.57	27.10	22.39	0.00	20.43	35.60	249.40
★不登校児童生徒数	1160	16.43	14.60	12.17	0.00	10.50	19.27	84.70
不登校の新規発生率	1038	0.60	0.60	0.29	0.00	0.50	0.73	1.00
★不登校の新規発生数	1038	10.96	9.52	8.55	0.00	6.82	12.54	84.75
★不登校児童生徒数のうち90日以上欠席	1160	7.55	6.50	7.19	0.00	3.70	9.30	61.20
★不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下	1160	1.31	0.00	2.70	0.00	0.00	1.10	33.30
★不登校児童生徒数のうち出席日数が0日	1160	0.46	0.00	1.51	0.00	0.00	0.00	20.40
★指導の結果登校できる生徒数	1160	4.73	1.90	6.88	0.00	0.00	5.20	65.60
属性項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
児童生徒数	1160	425.19	396.50	249.37	45.00	291.33	525.67	1267.00
★外国人児童生徒の人数	820	19.11	9.74	28.87	0.00	5.07	16.62	248.23
特別支援学級数	1160	3.46	3.00	2.20	0.00	2.00	4.00	14.00
★特別支援学級在籍者数	1131	47.55	29.00	57.73	0.00	12.00	52.10	491.30
★生活保護、就学援助を受けている児童生徒数_要保護	1159	10.77	3.80	22.60	0.00	0.00	8.04	278.83
★生活保護、就学援助を受けている児童生徒数_準要保護	1159	110.37	98.78	68.51	0.00	73.53	127.61	488.51
★通常学級に在籍し、特別な教育的支援が必要な児童生徒数	1131	47.55	29.01	57.73	0.00	12.03	52.09	491.33
★日本語指導児童生徒数（特別課程）	1107	6.09	0.00	20.32	0.00	0.00	0.00	301.37
★日本語指導児童生徒数（通常級）	1107	2.51	0.00	13.44	0.00	0.00	0.00	234.23
★要対協児童生徒数	1107	12.49	3.14	38.93	0.00	0.00	8.79	1000.00
授業時数実績	1132	1025.10	1020.83	51.67	739.50	996.00	1044.83	1253.83
受験意欲	1155	3.04	3.00	0.73	1.00	3.00	3.00	4.00
国語の学力	1150	65.20	65.67	6.58	37.27	62.79	68.37	82.88
算数・数学の学力	1150	62.82	62.90	6.27	36.96	60.28	65.63	84.66
家庭の蔵書数	1150	115.24	112.89	32.93	19.90	100.83	126.83	248.11
生活習慣_朝食習慣	1150	2.56	2.74	0.93	1.00	2.00	2.94	4.00
生活習慣_就寝リズム	1150	2.51	2.51	0.51	1.14	2.27	2.79	3.77
生活習慣_起床リズム	1150	2.53	2.54	0.63	1.31	2.17	2.80	4.00
スクリーンタイム	1150	3.77	3.76	0.71	1.13	3.48	4.05	6.63
R4の人事異動（R4時在籍管理職）	1107	0.54	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00

基本統計量②（小学校外れ値除外）

中間アウトカム項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
先生との関係性_先生が良いところを認めてくれる	1150	2.51	2.53	0.59	1.00	2.22	2.79	4.00
学級内サポート_人が困っているとき進んで助けている	1150	2.53	2.54	0.56	1.29	2.24	2.80	3.82
いじめの規範意識_いじめはいけないことだと思う	1150	2.56	2.70	0.92	1.00	1.93	2.91	4.00
先生との関係性_先生や学校にいる大人に困りごとなどを相談できる	1150	2.51	2.54	0.46	1.38	2.26	2.78	3.69
社会的態度項目_人の役に立つ人間になりたい	1150	2.55	2.60	0.81	1.00	1.92	2.83	4.00
学校への愛着_学校に行くのは楽しい	1150	2.53	2.53	0.59	1.23	2.22	2.79	3.80
社会的態度項目_自分と違う意見について考えるのは楽しい	1150	2.52	2.50	0.47	1.31	2.30	2.78	3.79
社会的態度項目_友達と協力するのは楽しい	1150	2.55	2.56	0.78	1.05	1.94	2.85	4.00
学級雰囲気項目_学級会での話合い	1150	2.50	2.50	0.47	1.29	2.27	2.74	3.73
教師支援項目_国語の授業の理解	1150	2.52	2.52	0.53	1.31	2.25	2.79	3.86
教師支援項目_算数・数学の授業の理解	1150	2.52	2.53	0.53	1.38	2.25	2.80	3.71
教師支援項目_理科の授業の理解	1150	2.53	2.54	0.62	1.00	2.21	2.80	4.00
学級雰囲気項目_学年の児童の授業中の私語が少ない	1157	3.25	3.00	0.70	1.00	3.00	4.00	4.00
暴力行為の件数	1160	11.33	0.00	32.50	0.00	0.00	3.20	391.30
教員_人間関係_トラブルがよくある	1143	1.66	1.64	0.34	1.00	1.50	1.77	3.50
教員_人間関係_意思疎通がよくいっていない	1143	1.85	1.82	0.34	1.00	1.67	2.00	3.00
教員_人間関係_苦手な人がいる	1143	1.97	2.00	0.37	1.00	1.80	2.13	4.00
教員_人間関係_職場の人が配慮してくれる	1143	2.76	2.76	0.29	1.00	2.67	2.89	3.62
教員_人間関係_気軽に話ができる	1143	3.06	3.07	0.27	1.00	3.00	3.17	4.00
教員_人間関係_援助・助言が得られる	1143	3.04	3.05	0.27	2.00	2.94	3.14	4.00
教員_人間関係_個人的な問題の相談にのってくれる	1143	2.64	2.64	0.31	1.00	2.50	2.76	4.00
教員_人間関係_合計得点	1143	21.02	21.10	1.71	14.00	20.33	21.83	26.00
教員_仕事の満足度_やりがい	1143	3.04	3.05	0.25	1.50	2.95	3.14	4.00
教員_仕事の満足度_能力発揮	1143	2.84	2.85	0.23	1.86	2.76	2.94	4.00
教員_仕事の満足度_達成感・満足感	1143	2.86	2.87	0.25	1.00	2.77	2.96	4.00
教員_仕事の満足度_合計得点	1143	8.74	8.76	0.68	5.00	8.50	9.00	12.00
教員_退職意欲	1143	3.42	3.44	0.49	1.00	3.25	3.63	5.00
教員_チームでの課題解決_管理職のリーダーシップによる働き方改革	1143	2.76	2.80	0.40	1.00	2.62	2.95	4.00
教員_削減すべき業務の認識（支援が必要な児童生徒、家庭の対応）	1135	1.85	1.86	0.14	1.00	1.80	1.92	2.00
チームでの課題解決_問題を抱えている教員のサポート	1144	4.39	5.00	0.77	1.00	4.00	5.00	5.00
意欲的学校環境_授業研究・事例研究等の実践的な研修の実施	1155	3.56	4.00	0.53	2.00	3.00	4.00	4.00

基本統計量③（小学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
SCの配置人数	1153	0.83	1.00	0.55	0.00	1.00	1.00	3.00
SCの1週間の合計勤務時間	1137	3.63	2.00	4.83	0.00	1.00	4.00	59.00
SCの勤務年数	1006	2.87	3.00	1.51	1.00	2.00	4.00	5.00
SCの対応実績	1005	104.57	54.00	135.11	0.00	31.00	94.00	968.00
SCの職務内容	1005	3.88	4.00	1.41	0.00	3.00	4.00	10.00
SCの職務内容_児童生徒への心理教育	1005	0.29	0.00	0.46	0.00	0.00	0.00	1.00
SCの職務内容_教職員研修	1005	0.31	0.00	0.46	0.00	0.00	0.00	1.00
SCの職務内容_ケース会議等の会議への参加	1005	0.39	0.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
SCの会議参加状況	1005	0.86	0.00	1.21	0.00	0.00	1.00	4.00
SSWの配置人数	1153	0.28	0.00	0.48	0.00	0.00	0.00	5.00
SSWの1週間の合計勤務時間	1145	1.17	0.00	3.65	0.00	0.00	0.00	38.00
SSWの勤務年数	597	2.63	2.00	1.44	1.00	2.00	3.00	5.00
SSWの対応実績	597	12.38	4.00	33.17	0.00	2.00	8.00	400.00
SSWの会議参加状況	597	0.97	1.00	1.23	0.00	0.00	1.00	4.00
警察に相談・通報した件数	1160	0.05	0.00	0.26	0.00	0.00	0.00	3.00
いじめる児童生徒への特別な対応_件数合計	1160	39.04	15.00	68.99	0.00	7.00	29.00	994.00
いじめる児童生徒への特別な対応_警察・刑事司法	1160	0.06	0.00	0.35	0.00	0.00	0.00	8.00
いじめる児童生徒への特別な対応_児童相談所	1160	0.05	0.00	0.45	0.00	0.00	0.00	10.00
いじめる児童生徒への特別な対応_病院	1160	0.02	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	5.00
いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	1160	4.01	1.00	10.09	0.00	0.00	3.00	138.00
いじめられた児童生徒への特別な対応_別室の提供	1160	0.56	0.00	1.68	0.00	0.00	0.00	25.00
重大事態対応フローの有無	1107	0.93	1.00	0.25	0.00	1.00	1.00	1.00
いじめ防止対策組織の開催頻度	1107	2.21	3.00	0.95	0.00	2.00	3.00	3.00
いじめ防止対策組織の参加者	1072	0.59	0.00	0.81	0.00	0.00	1.00	6.00
自宅におけるICT活用学習活動を出席扱いとした児童生徒数	1160	0.28	0.00	1.28	0.00	0.00	0.00	24.00
オンライン配信の有無	1160	0.05	0.00	0.32	0.00	0.00	0.00	6.00
オンライン配信の出席扱い	1107	0.46	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
オンライン配信の成績評価	506	1.17	2.00	0.93	0.00	0.00	2.00	2.00
フリースクールの出席扱い	506	1.20	1.00	0.87	0.00	1.00	2.00	2.00
フリースクールの成績評価	1107	1.17	2.00	0.97	0.00	0.00	2.00	2.00

基本統計量④（小学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
不登校の支援シート	1107	1.51	2.00	0.70	0.00	1.00	2.00	2.00
校内教育支援センターの有無	1107	0.27	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	2.00
校内教育支援センターの開所頻度	163	2.99	3.00	1.78	1.00	1.00	5.00	5.00
校内教育支援センターの人員体制	167	0.37	0.00	0.48	0.00	0.00	1.00	1.00
校内教育支援センターの利用人数	167	0.97	1.00	0.50	0.00	1.00	1.00	3.00
学校内の居場所	1107	1.52	1.00	1.06	0.00	1.00	2.00	5.00
学校内の居場所の利用人数	929	0.82	1.00	0.46	0.00	1.00	1.00	5.00
生徒指導部会の開催頻度	1107	2.84	3.00	0.76	0.00	3.00	3.00	4.00
ケース会議の参加教職員	1107	4.86	5.00	1.42	0.00	5.00	5.00	8.00
ケース会議の参加教職員_学年の担当教員	1107	0.72	1.00	0.45	0.00	1.00	1.00	1.00
ケース会議の参加教職員_養護教諭	1107	0.77	1.00	0.42	0.00	1.00	1.00	1.00
ケース会議の参加教職員_スクールカウンセラー	1107	0.26	0.00	0.44	0.00	0.00	0.00	1.00
ケース会議の参加教職員_スクールソーシャルワーカー	1107	0.19	0.00	0.39	0.00	0.00	0.00	1.00
いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_個別面談	1160	0.83	1.00	0.37	0.00	1.00	1.00	1.00
いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_個人ノート	1160	0.38	0.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_家庭訪問	1160	0.39	0.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_その他	1160	0.05	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	1.00
アンケート実施頻度_年4回以上	1160	0.44	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
学校におけるいじめの問題に対する日常の取組_PTA	1160	0.49	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
学校におけるいじめの問題に対する日常の取組_関係機関	1160	0.43	0.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
いじめアンケートの活用方法	1107	3.09	3.00	0.88	0.00	3.00	4.00	5.00
いじめアンケートの活用_児童生徒へのフィードバック	1107	0.77	1.00	0.42	0.00	1.00	1.00	1.00
いじめアンケートの活用_関係機関との連携	1107	0.47	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
心の健康観察の実施の有無	1107	0.62	0.00	0.88	0.00	0.00	1.00	2.00
心の健康観察の利用した機能	389	2.65	2.00	1.42	1.00	2.00	3.00	6.00
心の健康観察_児童生徒の記録を教職員等が振り返った	389	0.59	1.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
心の健康観察_児童生徒の心身の状況を担任以外の教職員等が把握した	389	0.53	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
心の健康観察_児童生徒の心身の急激な変化を教職員等が確認した	389	0.52	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
心の健康観察_児童生徒が悩みを端末等を用いて教職員等に知らせた	389	0.31	0.00	0.46	0.00	0.00	0.00	1.00
教育委員会研修の参加割合	1107	1.99	1.00	1.53	0.00	1.00	2.00	5.00
（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）	1107	1.43	1.00	0.60	0.00	1.00	2.00	2.00
心の健康観察を用いた生徒相談の実施人数	389	2.21	2.00	1.55	0.00	1.00	4.00	4.00

基本統計量⑤（小学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
PTA活動の盛んさ	1156	2.78	3.00	0.69	1.00	3.00	3.00	4.00
地域交流の盛んさ	1154	3.02	3.00	0.66	1.00	3.00	3.00	4.00
校則見直しの実施	1107	1.01	1.00	0.65	0.00	1.00	1.00	2.00
校則見直し検討の取組内容	1107	0.88	1.00	1.02	0.00	0.00	1.00	5.00
学校運営協議会の設置	1153	0.68	1.00	0.47	0.00	1.00	1.00	1.00
学校運営協議会の開催回数	734	3.43	3.00	1.60	1.00	3.00	3.00	14.00
学校運営協議会の委員人数	735	11.57	11.00	5.56	3.00	9.00	13.00	75.00
学校運営協議会の委員のうち教員人数	734	2.56	2.00	2.26	0.00	2.00	3.00	24.00
学校運営協議会の構成員	1107	1.67	2.00	1.44	0.00	0.00	3.00	5.00
学校運営協議会での不登校・いじめの協議	737	1.57	1.00	1.03	0.00	1.00	2.00	3.00
学校運営協議会の協議_学校全体の発生・対応状況等の報告	737	1.20	1.00	0.40	1.00	1.00	1.00	2.00
学校運営協議会の協議_個別の事案の報告	737	1.70	2.00	0.46	1.00	2.00	2.00	2.00
学校運営協議会の協議_課題解決に向けた協議	737	1.53	2.00	0.50	1.00	1.00	2.00	2.00
地域学校協働活動の有無	1149	0.70	1.00	0.46	0.00	1.00	1.00	1.00
地域主導の学校・地域交流行事の実施回数	1153	0.34	0.00	0.84	0.00	0.00	0.00	11.00
特別支援学級の担当人数の合計	817	3.95	3.00	2.56	0.00	3.00	5.00	16.00
通級指導の担当人数の合計	817	15.45	15.00	7.62	0.00	12.00	18.00	44.00
特別支援教育コーディネーター専任	1155	0.14	0.00	0.43	0.00	0.00	0.00	5.00
特別支援教育支援員の人数	1152	2.07	2.00	2.13	0.00	1.00	3.00	13.00
特別支援教育支援員の1週間の合計勤務時間	1139	37.79	28.00	48.55	0.00	12.00	35.00	374.00
日本語指導の担当人数の合計	817	0.86	0.00	1.48	0.00	0.00	1.00	10.00
日本語支援員・母語支援員の人数	1151	0.43	0.00	1.46	0.00	0.00	0.00	39.00
日本語支援員・母語支援員の1週間の合計勤務時間	1147	2.47	0.00	9.37	0.00	0.00	0.00	195.00
幼保小の連携・接続の内容	1107	2.83	3.00	1.64	0.00	2.00	3.00	8.00
幼保小の連携・接続の内容（年間複数実施）	1048	0.80	0.00	1.24	0.00	0.00	1.00	7.00
幼保小の連携・接続の取組の実施状況	1100	1.43	1.00	0.73	0.00	1.00	2.00	3.00
小中一貫教育校	1160	0.04	0.00	0.19	0.00	0.00	0.00	1.00
小中連携・小中一貫教育の内容	1107	2.28	2.00	1.38	0.00	2.00	3.00	7.00
小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）	1011	0.78	0.00	1.07	0.00	0.00	1.00	7.00
小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況	1084	1.39	1.00	0.73	0.00	1.00	2.00	3.00

基本統計量⑥（小学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
不登校の連携機関	1107	1.65	1.00	1.26	0.00	1.00	2.00	6.00
不登校の連携機関_こども家庭センター	1107	0.37	0.00	0.48	0.00	0.00	1.00	1.00
不登校の連携機関_児童相談所	1107	0.39	0.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
不登校の連携機関_医療機関や保健所・精神保健福祉センター	1107	0.28	0.00	0.45	0.00	0.00	0.00	1.00
不登校の連携機関_フリースクール	1107	0.16	0.00	0.36	0.00	0.00	0.00	1.00
児童生徒支援専任教員の人数	1155	0.21	0.00	0.59	0.00	0.00	0.00	9.00
学習指導員の人数	1150	0.77	0.00	1.34	0.00	0.00	1.00	9.00
学習指導員の1週間の合計勤務時間	1146	11.91	0.00	24.61	0.00	0.00	8.00	270.00
追加スタッフの配置有無	1107	0.10	0.00	0.30	0.00	0.00	0.00	1.00
追加スタッフへの軽減措置	112	1.59	2.00	0.89	0.00	1.00	2.00	3.00
その他スタッフの配置人数（学校）	1107	5.48	6.00	1.44	1.00	6.00	6.00	6.00
学年担任制等の導入	1097	0.17	0.00	0.41	0.00	0.00	0.00	2.00
チームティーチングの実施	1081	2.67	3.00	1.94	0.00	2.00	3.00	6.00
習熟度別指導	1070	1.45	0.00	1.75	0.00	0.00	3.00	6.00
少人数指導	1081	1.62	1.00	1.75	0.00	0.00	3.00	6.00
自由進度学習（授業内）	1023	0.39	0.00	1.12	0.00	0.00	0.00	6.00
自由課題学習（総合）	1040	0.69	0.00	0.97	0.00	0.00	1.00	3.00
個に応じた教育	967	2.69	3.00	1.57	0.00	2.00	3.00	7.00
人権教育	1082	3.08	3.00	1.04	0.00	3.00	4.00	4.00
主権者教育	932	1.76	1.00	1.53	0.00	1.00	3.00	4.00
SEL教育	868	1.41	1.00	1.41	0.00	0.00	2.00	4.00
障害理解のための教育	1026	2.05	2.00	1.16	0.00	1.00	3.00	4.00
異文化理解のための教育	1034	1.99	2.00	1.24	0.00	1.00	3.00	4.00
体験活動	1078	2.52	3.00	1.26	0.00	2.00	3.00	4.00
異学級交流	1048	3.41	5.00	2.63	0.00	1.00	5.00	8.00
異学年交流	1080	4.31	5.00	2.35	0.00	5.00	6.00	8.00
地域交流（学習活動内）	1083	2.55	1.00	2.16	0.00	1.00	5.00	8.00

基本統計量⑦（小学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
支持的態度_児童の良い点を評価する	1157	3.56	4.00	0.52	2.00	3.00	4.00	4.00
主・対・深の取組_発表の工夫	1150	2.46	2.45	0.43	1.33	2.23	2.70	3.55
主・対・深の取組_課題解決に向けて考えて取り組む	1150	2.50	2.53	0.48	1.36	2.23	2.75	3.67
主・対・深の取組_考えをまとめる	1150	2.50	2.52	0.46	1.14	2.27	2.75	3.47
主・対・深の取組_創作活動	1150	2.50	2.50	0.44	1.17	2.26	2.76	3.60
主・対・深の取組_自分に合った学習内容	1150	2.51	2.51	0.50	1.17	2.26	2.78	3.78
主・対・深の取組_社会的態度項目_友達との話で自分の考えを深める	1150	2.50	2.50	0.50	1.00	2.26	2.76	3.73
主・対・深の取組_学習内容の見直し	1150	2.50	2.51	0.49	1.13	2.25	2.75	3.67
主・対・深の取組_授業での思考を深める発問	1156	3.33	3.00	0.52	2.00	3.00	4.00	4.00
主・対・深の取組_授業でのグループ活動などの実施	1156	3.25	3.00	0.62	1.00	3.00	4.00	4.00
主・対・深の取組_学習過程を見通した指導方法の改善	1155	3.11	3.00	0.57	2.00	3.00	3.00	4.00

基本統計量①（中学校外れ値除外）

アウトカム項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
★いじめの認知件数	1153	40.07	25.70	48.60	0.00	15.50	41.50	571.40
★いじめの解消件数	1153	29.74	17.90	38.01	0.00	9.60	30.30	414.30
いじめの解消割合	1099	0.74	0.83	0.29	0.00	0.70	0.93	1.00
★いじめの重大事態発生件数	1153	0.14	0.00	0.99	0.00	0.00	0.00	19.60
★長期欠席者数	1153	84.43	80.30	35.82	0.00	69.00	93.40	493.60
★不登校児童生徒数	1153	61.92	60.60	27.32	0.00	49.80	69.70	176.50
不登校の新規発生率	1140	0.47	0.47	0.22	0.00	0.39	0.55	1.00
★不登校の新規発生数	1140	29.13	26.79	17.99	0.00	20.69	33.98	115.94
★不登校児童生徒数のうち90日以上欠席	1153	38.33	37.20	20.07	0.00	29.90	44.50	147.10
★不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下	1153	7.44	6.10	7.40	0.00	3.40	9.10	62.10
★不登校児童生徒数のうち出席日数が0日	1153	2.06	0.00	3.37	0.00	0.00	2.30	38.50
★指導の結果登校できる生徒数	1153	17.10	11.60	18.65	0.00	5.50	19.80	115.00
属性項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
児童生徒数	1153	399.03	387.00	224.79	28.00	284.00	488.00	1270.00
★外国人児童生徒の人数	723	14.45	7.61	25.74	0.00	4.49	12.56	379.94
特別支援学級数	1153	2.85	2.00	1.75	0.00	2.00	3.00	15.00
★特別支援学級在籍者数	1119	33.12	12.90	49.75	0.00	0.00	32.73	458.50
★生活保護、就学援助を受けている児童生徒数_要保護	1151	13.16	6.19	24.42	0.00	2.39	10.92	312.50
★生活保護、就学援助を受けている児童生徒数_準要保護	1151	136.09	128.03	74.23	0.00	98.21	159.79	545.45
★通常学級に在籍し、特別な教育的支援が必要な児童生徒数	1119	33.12	12.85	49.75	0.00	0.00	32.72	458.51
★日本語指導児童生徒数（特別課程）	1104	2.86	0.00	13.26	0.00	0.00	0.00	263.80
★日本語指導児童生徒数（通常級）	1104	1.17	0.00	10.36	0.00	0.00	0.00	328.90
★要対協児童生徒数	1104	12.59	3.65	31.97	0.00	0.00	8.74	402.91
授業時数実績	1104	1060.92	1050.33	50.36	792.00	1028.33	1071.00	1373.33
受験意欲	1122	2.91	3.00	0.79	1.00	3.00	3.00	4.00
国語の学力	1148	68.84	68.94	5.13	36.90	66.99	70.93	90.50
算数・数学の学力	1143	50.69	50.68	7.45	23.77	47.54	53.59	88.62
家庭の蔵書数	1143	112.36	111.27	26.28	24.70	101.76	121.25	256.95
生活習慣_朝食習慣	1143	2.51	2.64	0.86	1.00	2.13	3.05	3.91
生活習慣_就寝リズム	1143	2.49	2.48	0.49	1.40	2.24	2.74	3.71
生活習慣_起床リズム	1143	2.49	2.52	0.62	1.14	2.25	2.85	3.62
スクリーンタイム	1143	4.28	4.29	0.67	1.75	4.02	4.57	6.58
R4の人事異動（R4時在籍管理職）	1104	1060.92	1050.33	50.36	792.00	1028.33	1071.00	1373.33

基本統計量②（中学校外れ値除外）

中間アウトカム項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
先生との関係性_先生が良いところを認めてくれる	1143	2.48	2.46	0.56	1.00	2.23	2.74	3.67
学級内サポート_人が困っているとき進んで助けている	1143	2.48	2.47	0.55	1.32	2.24	2.73	3.75
いじめの規範意識_いじめはいけないことだと思う	1143	2.50	2.61	0.89	1.00	2.12	3.09	4.00
先生との関係性_先生や学校にいる大人に困りごとなどを相談できる	1143	2.50	2.53	0.45	1.47	2.22	2.76	3.63
社会的態度項目_人の役に立つ人間になりたい	1143	2.50	2.47	0.79	1.00	2.22	3.13	3.92
学校への愛着_学校に行くのは楽しい	1143	2.50	2.54	0.53	1.14	2.24	2.75	3.60
社会的態度項目_自分と違う意見について考えるのは楽しい	1143	2.49	2.45	0.47	1.47	2.22	2.76	3.63
社会的態度項目_友達と協力するのは楽しい	1143	2.49	2.48	0.70	1.10	2.26	3.06	3.70
学級雰囲気項目_学級会での話し合い	1143	2.48	2.43	0.50	1.30	2.19	2.76	3.55
教師支援項目_国語の授業の理解	1143	2.47	2.43	0.54	1.00	2.17	2.77	3.63
教師支援項目_算数・数学の授業の理解	1143	2.49	2.51	0.47	1.00	2.23	2.73	3.50
教師支援項目_理科の授業の理解	1143	2.48	2.47	0.47	1.22	2.22	2.75	3.83
学級雰囲気項目_学年の児童の授業中の私語が少ない	1151	3.59	4.00	0.59	1.00	3.00	4.00	4.00
暴力行為の件数	1153	9.42	2.80	16.15	0.00	0.00	8.70	170.70
教員_人間関係_トラブルがよくある	1137	1.74	1.69	0.36	1.00	1.56	1.86	4.00
教員_人間関係_意思疎通がよくいっていない	1137	1.96	1.94	0.36	1.00	1.80	2.09	3.50
教員_人間関係_苦手な人がいる	1137	2.04	2.00	0.37	1.00	1.88	2.19	4.00
教員_人間関係_職場の人が配慮してくれる	1137	2.70	2.70	0.27	1.00	2.60	2.82	3.80
教員_人間関係_気軽に話ができる	1137	3.03	3.00	0.28	1.00	2.93	3.14	4.00
教員_人間関係_援助・助言が得られる	1136	2.98	3.00	0.27	1.00	2.88	3.10	4.00
教員_人間関係_個人的な問題の相談にのってくれる	1137	2.55	2.55	0.30	1.00	2.43	2.67	4.00
教員_人間関係_合計得点	1136	20.53	20.60	1.68	14.50	19.92	21.21	26.00
教員_仕事の満足度_やりがい	1137	3.02	3.04	0.28	1.00	2.94	3.12	4.00
教員_仕事の満足度_能力発揮	1137	2.85	2.86	0.26	1.00	2.77	2.95	4.00
教員_仕事の満足度_達成感・満足感	1136	2.86	2.87	0.27	1.00	2.76	3.00	4.00
教員_仕事の満足度_合計得点	1136	8.73	8.76	0.74	3.00	8.50	9.00	12.00
教員_退職意欲	1137	3.33	3.32	0.48	1.29	3.13	3.52	5.00
教員_チームでの課題解決_管理職のリーダーシップによる働き方改革	1137	2.66	2.67	0.39	1.45	2.50	2.83	4.00
教員_削減すべき業務の認識（支援が必要な児童生徒、家庭の対応）	1132	1.81	1.81	0.15	1.00	1.75	1.88	2.00
チームでの課題解決_問題を抱えている教員のサポート	1113	3.99	4.00	0.99	2.00	4.00	5.00	5.00
意欲的学校環境_授業研究・事例研究等の実践的な研修の実施	1152	3.32	3.00	0.61	1.00	3.00	4.00	4.00

基本統計量③（中学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
SCの配置人数	1141	1.10	1.00	0.47	0.00	1.00	1.00	5.00
SCの1週間の合計勤務時間	1122	7.34	6.00	10.76	0.00	4.00	7.00	292.00
SCの勤務年数	1090	3.08	3.00	1.54	1.00	2.00	4.00	5.00
SCの対応実績	1090	164.33	113.00	169.06	0.00	69.00	180.00	2024.00
SCの職務内容	1090	4.55	4.00	1.45	1.00	4.00	5.00	9.00
SCの職務内容_児童生徒への心理教育	1090	0.45	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
SCの職務内容_教職員研修	1090	0.41	0.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
SCの職務内容_ケース会議等の会議への参加	1090	0.64	1.00	0.48	0.00	0.00	1.00	1.00
SCの会議参加状況	1090	1.98	1.00	1.62	0.00	1.00	3.00	4.00
SSWの配置人数	1139	0.36	0.00	0.52	0.00	0.00	1.00	2.00
SSWの1週間の合計勤務時間	1132	2.24	0.00	5.63	0.00	0.00	0.00	78.00
SSWの勤務年数	619	2.84	3.00	1.47	1.00	2.00	3.00	5.00
SSWの対応実績	619	17.35	6.00	45.69	0.00	3.00	11.00	562.00
SSWの会議参加状況	619	1.63	1.00	1.56	0.00	1.00	2.00	4.00
警察に相談・通報した件数	1153	0.14	0.00	0.63	0.00	0.00	0.00	14.00
いじめる児童生徒への特別な対応_件数合計	1153	18.41	10.00	23.88	0.00	6.00	19.00	270.00
いじめる児童生徒への特別な対応_警察・刑事司法	1153	0.15	0.00	0.80	0.00	0.00	0.00	18.00
いじめる児童生徒への特別な対応_児童相談所	1153	0.04	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	5.00
いじめる児童生徒への特別な対応_病院	1153	0.03	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	3.00
いじめられた児童生徒への特別な対応_件数合計	1153	5.19	2.00	8.81	0.00	1.00	4.00	130.00
いじめられた児童生徒への特別な対応_別室の提供	1153	0.93	0.00	2.69	0.00	0.00	1.00	36.00
重大事態対応フローの有無	1104	0.94	1.00	0.23	0.00	1.00	1.00	1.00
いじめ防止対策組織の開催頻度	1104	2.30	3.00	0.92	0.00	2.00	3.00	3.00
いじめ防止対策組織の参加者	1075	0.87	1.00	0.88	0.00	0.00	1.00	7.00
自宅におけるICT活用学習活動を出席扱いとした児童生徒数	1153	0.80	0.00	3.23	0.00	0.00	0.00	45.00
オンライン配信の有無	1153	0.22	0.00	1.12	0.00	0.00	0.00	16.00
オンライン配信の出席扱い	1104	0.46	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
オンライン配信の成績評価	510	1.24	2.00	0.93	0.00	0.00	2.00	2.00
フリースクールの出席扱い	510	1.44	2.00	0.80	0.00	1.00	2.00	2.00
フリースクールの成績評価	1104	1.48	2.00	0.86	0.00	2.00	2.00	2.00

基本統計量④（中学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
不登校の支援シート	1104	1.71	2.00	0.53	0.00	2.00	2.00	2.00
校内教育支援センターの有無	1104	0.77	0.00	0.94	0.00	0.00	2.00	2.00
校内教育支援センターの開所頻度	459	4.17	5.00	1.32	1.00	4.00	5.00	5.00
校内教育支援センターの人員体制	462	0.56	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
校内教育支援センターの利用人数	462	1.26	1.00	0.61	0.00	1.00	1.00	5.00
学校内の居場所	1104	1.11	1.00	0.82	0.00	1.00	1.00	4.00
学校内の居場所の利用人数	856	0.97	1.00	0.51	0.00	1.00	1.00	5.00
生徒指導部会の開催頻度	1104	3.65	4.00	0.61	1.00	4.00	4.00	4.00
ケース会議の参加教職員	1104	5.11	5.00	1.59	0.00	5.00	6.00	8.00
ケース会議の参加教職員_学年の担当教員	1104	0.83	1.00	0.38	0.00	1.00	1.00	1.00
ケース会議の参加教職員_養護教諭	1104	0.72	1.00	0.45	0.00	1.00	1.00	1.00
ケース会議の参加教職員_スクールカウンセラー	1104	0.47	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
ケース会議の参加教職員_スクールソーシャルワーカー	1104	0.28	0.00	0.45	0.00	0.00	0.00	1.00
いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_個別面談	1153	0.92	1.00	0.27	0.00	1.00	1.00	1.00
いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_個人ノート	1153	0.78	1.00	0.41	0.00	1.00	1.00	1.00
いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_家庭訪問	1153	0.58	1.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
いじめの日常的な実態把握のための具体的な方法_その他	1153	0.05	0.00	0.23	0.00	0.00	0.00	1.00
アンケート実施頻度_年4回以上	1153	0.54	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
学校におけるいじめの問題に対する日常の取組_PTA	1153	0.48	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
学校におけるいじめの問題に対する日常の取組_関係機関	1153	0.49	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
いじめアンケートの活用方法	1104	3.09	3.00	0.91	0.00	3.00	4.00	5.00
いじめアンケートの活用_児童生徒へのフィードバック	1104	0.72	1.00	0.45	0.00	1.00	1.00	1.00
いじめアンケートの活用_関係機関との連携	1104	0.55	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
心の健康観察の実施の有無	1104	0.87	0.00	0.94	0.00	0.00	2.00	2.00
心の健康観察の利用した機能	533	2.76	3.00	1.50	1.00	2.00	4.00	5.00
心の健康観察_児童生徒の記録を教職員等が振り返った	533	0.57	1.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
心の健康観察_児童生徒の心身の状況を担任以外の教職員等が把握した	533	0.54	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
心の健康観察_児童生徒の心身の急激な変化を教職員等が確認した	533	0.54	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
心の健康観察_児童生徒が悩みを端末等を用いて教職員等に知らせた	533	0.34	0.00	0.47	0.00	0.00	1.00	1.00
教育委員会研修の参加割合	1104	2.07	1.00	1.54	0.00	1.00	2.00	5.00
（全教職員を対象とした）生徒指導研修の実施頻度（学校）	1104	1.41	1.00	0.57	0.00	1.00	2.00	2.00
心の健康観察を用いた生徒相談の実施人数	533	2.38	2.00	1.53	0.00	1.00	4.00	4.00

基本統計量⑤（中学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
PTA活動の盛んさ	1150	2.70	3.00	0.62	1.00	2.00	3.00	4.00
地域交流の盛んさ	1147	2.87	3.00	0.67	1.00	3.00	3.00	4.00
校則見直しの実施	1104	1.07	1.00	0.63	0.00	1.00	1.00	2.00
校則見直し検討の取組内容	1104	1.83	2.00	1.26	0.00	1.00	2.00	5.00
学校運営協議会の設置	1140	0.65	1.00	0.48	0.00	0.00	1.00	1.00
学校運営協議会の開催回数	682	3.38	3.00	1.51	0.00	3.00	3.00	14.00
学校運営協議会の委員人数	682	12.06	11.00	5.41	2.00	10.00	13.00	50.00
学校運営協議会の委員のうち教員人数	680	2.94	3.00	2.10	0.00	2.00	3.00	14.00
学校運営協議会の構成員	1104	1.57	2.00	1.39	0.00	0.00	2.00	5.00
学校運営協議会での不登校・いじめの協議	731	1.77	2.00	0.97	0.00	1.00	2.00	3.00
学校運営協議会の協議_学校全体の発生・対応状況等の報告	731	1.13	1.00	0.33	1.00	1.00	1.00	2.00
学校運営協議会の協議_個別の事案の報告	731	1.67	2.00	0.47	1.00	2.00	2.00	2.00
学校運営協議会の協議_課題解決に向けた協議	731	1.43	1.00	0.50	1.00	1.00	2.00	2.00
地域学校協働活動の有無	1141	0.62	1.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
地域主導の学校・地域交流行事の実施回数	1134	0.28	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00	10.00
特別支援学級の担当人数の合計	731	3.61	3.00	2.54	0.00	2.00	4.00	19.00
通級指導の担当人数の合計	731	20.68	20.00	10.58	0.00	15.00	25.00	55.00
特別支援教育コーディネーター専任	1144	0.17	0.00	0.44	0.00	0.00	0.00	4.00
特別支援教育支援員の人数	1140	1.20	1.00	1.38	0.00	0.00	1.00	13.00
特別支援教育支援員の1週間の合計勤務時間	1132	24.85	20.00	38.57	0.00	0.00	30.00	630.00
日本語指導の担当人数の合計	730	0.42	0.00	1.08	0.00	0.00	0.00	14.00
日本語支援員・母語支援員の人数	1142	0.25	0.00	0.66	0.00	0.00	0.00	6.00
日本語支援員・母語支援員の1週間の合計勤務時間	1139	1.44	0.00	6.50	0.00	0.00	0.00	120.00
小中一貫教育校	1153	0.04	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	1.00
小中連携・小中一貫教育の内容	1104	2.50	2.00	1.41	0.00	2.00	3.00	8.00
小中連携・小中一貫教育の内容（年間複数実施）	1020	0.99	1.00	1.22	0.00	0.00	1.00	7.00
小中連携・小中一貫教育の取組の実施状況	1077	1.51	1.00	0.78	0.00	1.00	2.00	3.00

基本統計量⑥（中学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
不登校の連携機関	1104	2.12	2.00	1.40	0.00	1.00	3.00	6.00
不登校の連携機関_こども家庭センター	1104	0.42	0.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
不登校の連携機関_児童相談所	1104	0.48	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
不登校の連携機関_医療機関や保健所・精神保健福祉センター	1104	0.34	0.00	0.47	0.00	0.00	1.00	1.00
不登校の連携機関_フリースクール	1104	0.33	0.00	0.47	0.00	0.00	0.00	1.00
児童生徒支援専任教員の人数	1144	0.33	0.00	0.62	0.00	0.00	0.00	5.00
学習指導員の人数	1141	0.59	0.00	1.12	0.00	0.00	0.00	10.00
学習指導員の1週間の合計勤務時間	1133	8.44	0.00	18.88	0.00	0.00	0.00	184.00
追加スタッフの配置有無	1104	0.40	0.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
追加スタッフへの軽減措置	440	1.96	2.00	1.20	0.00	1.00	3.00	5.00
その他スタッフの配置人数（学校）	1104	5.06	6.00	1.82	1.00	6.00	6.00	6.00
学年担任制等の導入	1098	0.12	0.00	0.45	0.00	0.00	0.00	2.00
チームティーチングの実施	1092	3.61	4.00	2.17	0.00	3.00	5.00	6.00
習熟度別指導	1078	1.65	0.00	2.17	0.00	0.00	3.00	6.00
少人数指導	1081	2.12	2.00	2.23	0.00	0.00	3.00	6.00
自由進度学習（授業内）	1038	0.42	0.00	1.26	0.00	0.00	0.00	6.00
自由課題学習（総合）	1042	0.86	0.00	1.23	0.00	0.00	1.00	3.00
個に応じた教育	986	2.77	3.00	1.47	0.00	2.00	3.00	7.00
人権教育	1069	3.17	3.00	1.04	0.00	3.00	4.00	4.00
主権者教育	949	2.23	3.00	1.51	0.00	1.00	3.00	4.00
SEL教育	892	1.73	1.50	1.52	0.00	0.00	3.00	4.00
障害理解のための教育	997	2.09	3.00	1.33	0.00	1.00	3.00	4.00
異文化理解のための教育	986	2.01	2.00	1.39	0.00	1.00	3.00	4.00
体験活動	1067	2.42	3.00	1.34	0.00	2.00	3.00	4.00
異学級交流	1063	3.56	5.00	2.54	0.00	1.00	5.00	8.00
異学年交流	1068	3.15	5.00	2.57	0.00	0.00	5.00	8.00
地域交流（学習活動内）	1072	2.42	1.00	2.28	0.00	1.00	5.00	8.00

基本統計量⑦（中学校外れ値除外）

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
支持的態度_児童の良い点を評価する	1151	3.49	4.00	0.54	2.00	3.00	4.00	4.00
主・対・深の取組_発表の工夫	1143	2.43	2.44	0.44	1.25	2.17	2.68	3.56
主・対・深の取組_課題解決に向けて考えて取り組む	1143	2.48	2.45	0.50	1.45	2.18	2.77	3.69
主・対・深の取組_考えをまとめる	1143	2.48	2.48	0.46	1.40	2.21	2.78	3.53
主・対・深の取組_創作活動	1143	2.49	2.48	0.45	1.57	2.22	2.78	3.53
主・対・深の取組_自分に合った学習内容	1143	2.48	2.44	0.52	1.40	2.15	2.79	3.69
主・対・深の取組_社会的態度項目_友達との話で自分の考えを深める	1143	2.45	2.43	0.50	1.00	2.18	2.70	3.50
主・対・深の取組_学習内容の見直し	1143	2.48	2.42	0.49	1.55	2.18	2.79	3.63
主・対・深の取組_授業での思考を深める発問	1152	3.28	3.00	0.51	2.00	3.00	3.00	4.00
主・対・深の取組_授業でのグループ活動などの実施	1152	3.13	3.00	0.63	1.00	3.00	3.00	4.00
主・対・深の取組_学習過程を見通した指導方法の改善	1152	3.07	3.00	0.59	2.00	3.00	3.00	4.00

基本統計量①（教育委員会外れ値除外）

アウトカム項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
★いじめの認知件数	1666	81.26	51.40	77.97	0.00	30.40	94.50	505.90
★長期欠席者数	1666	48.11	44.90	20.66	0.00	39.00	51.70	198.00
★不登校児童生徒数	1666	30.67	30.00	12.54	0.00	25.90	34.10	127.40
★不登校の新規発生件数	1666	15.80	15.20	7.82	0.00	12.80	17.60	92.30
★いじめの解消件数	1666	66.25	39.20	68.67	0.00	22.70	73.90	498.00
いじめの解消割合	1648	0.79	0.80	0.16	0.00	0.70	0.90	1.00
★いじめの重大事態の発生件数	1666	0.09	0.00	0.44	0.00	0.00	0.00	9.20
不登校の新規発生率	1643	0.52	0.51	0.16	0.00	0.47	0.56	1.00
★不登校児童生徒数のうち90日以上欠席	1666	16.40	16.10	7.86	0.00	13.60	18.70	109.20
★不登校児童生徒数のうち出席日数が10日以下	1666	2.80	2.65	2.32	0.00	1.70	3.50	22.50
★不登校児童生徒数のうち出席日数が0日	1666	0.84	0.60	1.07	0.00	0.00	1.00	10.00
★指導の結果登校できる児童生徒数	1666	9.06	7.90	6.80	0.00	5.70	10.40	59.50
属性項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
児童生徒数	1666	5369	1769	13218	61	852	3512	251484
ひとり親家庭の割合	1666	0.12	0.11	0.05	0.02	0.09	0.13	0.61
外国人児童生徒の割合	1666	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01	0.21
取組項目とした変数（問題行動等調査）	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
教育支援センターの設置数	1666	0.97	1.00	1.12	0.00	1.00	1.00	14.00
教育相談を行っている機関数	1666	1.00	1.00	1.67	0.00	1.00	1.00	60.00
教育相談員数	1666	3.35	2.00	5.06	0.00	1.00	3.00	48.00
教育相談件数	1666	541.64	57.00	1583.41	0.00	6.00	220.00	20743.0

※★は、児童生徒数1,000人当たりの件数・人数に集計

基本統計量②（教育委員会外れ値除外）

取組項目とした変数（教育委員会アンケート調査）	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
SC配置の考え方	39	0.92	1.00	0.27	0.00	1.00	1.00	1.00
SSW配置の考え方	39	0.90	1.00	0.31	0.00	1.00	1.00	1.00
学習指導員配置の考え方	1613	0.35	0.00	0.48	0.00	0.00	1.00	1.00
児童生徒支援加配の考え方	39	0.74	1.00	0.44	0.00	1.00	1.00	1.00
SVの配置	1613	0.20	0.00	0.40	0.00	0.00	0.00	1.00
その他スタッフの配置	1613	0.36	0.00	0.48	0.00	0.00	1.00	1.00
いじめに特化した研修の実施	1613	0.59	1.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
不登校に特化した研修の実施	1613	0.59	1.00	0.49	0.00	0.00	1.00	1.00
教育支援センターの平均利用人数	1613	1.43	1.00	0.69	1.00	1.00	1.00	3.00
教育支援センターに配置している職員の属性	1613	0.25	0.00	0.43	0.00	0.00	0.00	1.00
教育支援センターの取組_オンラインの学習環境	1613	0.31	0.00	0.46	0.00	0.00	0.00	1.00
教育支援センターの取組_不登校児童生徒の状況の把握	1613	0.57	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00
教育支援センターの取組_相談・指導等につながない児童生徒への訪問支援・相談	1613	0.24	0.00	0.43	0.00	0.00	0.00	1.00
教育支援センターの取組_福祉部局等とのケース会議等の開催	1613	0.33	0.00	0.47	0.00	0.00	0.67	1.00
幼児教育施設や小学校との連携	1610	3.24	3.00	1.71	0.00	2.00	4.00	8.00
小学校同士の連携や小学校と中学校との連携	1610	3.68	3.00	1.94	0.00	3.00	5.00	8.00
福祉部門等の関係機関との連携	1610	3.28	4.00	0.93	0.00	3.00	4.00	5.00
日本語指導が必要な児童生徒への支援	1610	0.52	1.00	0.50	0.00	0.00	1.00	1.00

基本統計量：「小学校パネルデータ」の変数一覧①アウトカム等

※各アウトカムは、児童1,000人当たりの数値で表示

※児童数については、下位2.5%除外後の数値

いじめ認知件数									
年度	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値	
2018	1,138	66.1	18.4	131.0	0.0	6.5	64.5	2027.1	
2019	1,138	78.8	23.8	127.1	0.0	9.1	90.6	1085.7	
2020	1,138	67.7	19.8	110.7	0.0	7.6	80.5	1000.0	
2021	1,138	83.5	28.4	123.8	0.0	9.3	100.8	852.6	
2022	1,138	91.3	36.8	117.9	0.0	13.2	123.8	745.4	
長期欠席者数									
年度	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値	
2018	1,138	12.8	11.0	10.3	0.0	5.7	17.4	82.4	
2019	1,138	14.5	12.8	10.9	0.0	7.1	19.3	67.3	
2020	1,138	18.6	15.7	13.5	0.0	9.7	24.2	113.6	
2021	1,138	28.5	23.4	23.0	0.0	13.9	36.1	259.5	
2022	1,138	31.6	27.1	22.2	0.0	16.7	41.2	251.7	
不登校児童・生徒数									
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値	
2018	1,138	6.8	5.3	7.2	0.0	1.6	9.7	82.4	
2019	1,138	8.4	6.9	8.0	0.0	2.9	12.3	64.5	
2020	1,138	10.2	8.8	8.7	0.0	4.4	14.4	76.9	
2021	1,138	13.0	11.5	9.9	0.0	6.1	18.0	69.6	
2022	1,138	16.5	14.7	12.1	0.0	8.4	22.4	84.7	
不登校新規発生数									
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値	
2018	1,138	3.9	2.6	5.3	0.0	0.0	5.8	82.4	
2019	1,138	5.0	3.8	5.6	0.0	0.0	7.4	54.9	
2020	1,138	5.9	4.5	6.4	0.0	0.0	8.7	49.1	
2021	1,138	7.8	6.8	7.1	0.0	2.7	11.1	52.2	
2022	1,138	9.9	8.7	8.8	0.0	3.6	13.7	84.7	
児童数									
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値	
2018	1,138	442.4	423.5	247.6	53.0	246.3	601.0	1,443.0	
2019	1,138	439.5	416.0	247.1	52.0	241.3	600.5	1,236.0	
2020	1,138	435.9	412.0	247.1	51.0	235.3	599.8	1,236.0	
2021	1,138	431.5	404.5	247.0	51.0	232.0	593.0	1,233.0	
2022	1,138	427.5	397.0	246.8	49.0	226.3	593.0	1,267.0	

基本統計量：「小学校パネルデータ」の変数一覧②取組項目

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
SC配置人数（児童・生徒1,000人当たり）	1127	2.9	2.0	3.4	0.0	0.9	3.4	20.4
SC勤務時間（児童・生徒1,000人当たり）	1111	10.4	6.1	14.0	0.0	0.0	13.9	107.1
SSW配置人数（児童・生徒1,000人当たり）	1127	1.0	0.0	2.4	0.0	0.0	1.1	18.5
SSW勤務時間（児童・生徒1,000人当たり）	1119	3.3	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	202.5
SC会議参加状況（頻度）	984	0.9	0.0	1.2	0.0	0.0	1.0	4.0
SSW会議参加状況（頻度）	586	1.0	1.0	1.2	0.0	0.0	1.0	4.0
校内教育支援センターの開設状況	1086	0.3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	2.0
校内教育支援センターの開設頻度	162	3.0	3.0	1.8	1.0	1.0	5.0	5.0
心の健康観察実施状況	1086	0.6	0.0	0.9	0.0	0.0	2.0	2.0

基本統計量：「中学校パネルデータ」の変数一覧①アウトカム等

※各アウトカムは、生徒1,000人当たりの数値で表示

※生徒数については、下位2.5%除外後の数値

いじめ認知件数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,137	33.6	19.8	42.5	0.0	7.9	42.4	426.4
2019	1,137	37.1	23.1	44.8	0.0	10.2	46.5	355.0
2020	1,137	27.9	16.6	35.3	0.0	6.6	36.5	349.0
2021	1,137	36.0	20.4	49.7	0.0	8.5	46.9	546.7
2022	1,137	40.4	25.9	48.8	0.0	10.9	52.7	571.4
長期欠席者数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,137	48.5	46.3	22.9	0.0	33.7	60.0	189.5
2019	1,137	51.7	49.1	23.2	0.0	36.9	64.4	264.2
2020	1,137	55.1	53.3	23.1	0.0	40.5	68.4	185.6
2021	1,137	72.4	67.2	32.4	0.0	52.0	87.9	302.2
2022	1,137	84.1	80.3	34.4	0.0	62.2	101.9	495.7
不登校児童・生徒数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,137	37.5	35.1	20.1	0.0	24.4	49.0	181.8
2019	1,137	40.6	38.4	20.3	0.0	27.3	52.0	133.3
2020	1,137	42.3	40.9	21.0	0.0	28.8	53.6	152.0
2021	1,137	51.9	50.0	23.9	0.0	36.4	65.4	162.8
2022	1,137	62.0	60.7	26.9	0.0	44.6	76.6	198.7
不登校新規発生数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,137	17.1	14.8	13.7	0.0	7.7	24.0	80.3
2019	1,137	18.4	16.4	12.7	0.0	10.1	24.7	125.0
2020	1,137	19.1	17.1	13.0	0.0	10.5	25.7	86.0
2021	1,137	25.3	23.3	16.0	0.0	14.4	33.5	113.0
2022	1,137	28.9	26.8	18.0	0.0	17.5	38.0	115.9
生徒数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,137	402.9	394.0	215.8	32.0	241.0	544.0	1,067.0
2019	1,137	399.1	388.0	215.7	33.0	237.0	537.0	1,077.0
2020	1,137	399.9	387.0	218.5	31.0	230.0	541.0	1,157.0
2021	1,137	403.5	386.0	223.1	29.0	222.0	551.0	1,252.0
2022	1,137	402.0	388.0	223.9	30.0	228.0	548.0	1,270.0

基本統計量：「中学校パネルデータ」の変数一覧②取組項目

取組項目とした変数	有効サンプル数	平均	中央値	標準偏差	0%	33.33%	66.67%	100%
SC配置人数（児童・生徒1,000人当たり）	1115	4.2	2.7	4.7	0.0	1.8	4.8	33.3
SC勤務時間（児童・生徒1,000人当たり）	1096	24.7	15.3	33.9	0.0	9.7	26.7	370.1
SSW配置人数（児童・生徒1,000人当たり）	1114	1.4	0.0	3.7	0.0	0.0	1.8	64.5
SSW勤務時間（児童・生徒1,000人当たり）	1106	7.5	0.0	25.0	0.0	0.0	5.6	413.8
SC会議参加状況（頻度）	1073	2.0	1.0	1.6	0.0	1.0	4.0	4.0
SSW会議参加状況（頻度）	611	1.6	1.0	1.6	0.0	0.0	3.0	4.0
校内教育支援センターの開設状況	1085	0.8	0.0	0.9	0.0	0.0	2.0	2.0
校内教育支援センターの開設頻度	457	4.2	5.0	1.3	1.0	4.0	5.0	5.0
心の健康観察実施状況	1085	0.9	0.0	0.9	0.0	0.0	2.0	2.0

基本統計量：「教育委員会パネルデータ」の変数一覧：アウトカム等

※児童・生徒数については、下位2.5%除外後の数値

いじめ認知件数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,648	66.1	33.8	80.4	0.0	15.0	85.2	753.2
2019	1,648	75.2	39.7	86.9	0.0	17.4	102.3	665.9
2020	1,648	67.1	36.4	78.9	0.0	15.0	93.1	758.9
2021	1,648	74.6	44.0	81.8	0.0	17.9	103.1	584.7
2022	1,648	81.3	51.4	78.0	0.0	23.1	121.7	505.9
長期欠席者数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,648	22.3	21.7	10.4	0.0	16.0	27.5	151.8
2019	1,648	24.3	23.4	10.4	0.0	17.9	29.5	83.3
2020	1,648	28.1	27.2	12.2	0.0	20.5	33.5	112.8
2021	1,648	38.3	36.4	16.2	0.0	28.1	45.9	129.1
2022	1,648	48.0	44.9	20.3	0.0	35.7	56.2	198.0
不登校児童・生徒数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,648	15.7	15.5	7.5	0.0	11.2	19.9	63.5
2019	1,648	17.7	17.3	8.3	0.0	12.7	21.8	75.3
2020	1,648	19.8	19.3	9.1	0.0	14.4	24.1	87.3
2021	1,648	25.1	24.8	10.4	0.0	19.1	30.3	113.9
2022	1,648	30.7	30.0	12.3	0.0	23.6	36.6	127.4
不登校新規発生数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,648	8.0	7.5	5.0	0.0	5.1	10.1	44.4
2019	1,648	8.9	8.4	5.3	0.0	5.9	11.1	61.6
2020	1,648	10.2	9.7	5.6	0.0	7.0	12.6	54.9
2021	1,648	13.2	13.0	6.2	0.0	9.8	16.1	57.4
2022	1,648	15.8	15.2	7.6	0.0	11.5	19.2	69.3
児童・生徒数								
年度	サンプル数	平均	中央値	標準偏差	最小値	第1四分位	第3四分位	最大値
2018	1,648	5,489.8	1,852.0	13,367.7	63.0	618.0	5,108.0	254,941.0
2019	1,648	5,447.3	1,832.0	13,328.7	69.0	611.8	5,046.5	253,652.0
2020	1,648	5,421.9	1,830.5	13,327.8	63.0	609.0	4,989.8	253,986.0
2021	1,648	5,398.8	1,793.0	13,335.1	69.0	593.0	4,966.3	254,272.0
2022	1,648	5,342.0	1,760.0	13,245.2	64.0	583.5	4,904.8	251,484.0